

日本の家庭を 明るくするために

第4回全国婦人会議記録



労働省婦人少年局

はじめに

労働省では第八回婦人週間の中央行事として第四回目の全国婦人会議を四月十四日から三日間、日本放送協会と共催で東京で行いました。

全国から応募した三、二五八名のうちより書類選考によつて六〇名が会議員に選ばれ、四部会に分れてアドヴァイザーの助言のもとに、第一日は「近代社会における家庭の意識」、第二日は「いかにして日本の家庭をよくなるか」という四部会共通の議題で討論を行いました。

部会は同日とも、一人三分間の意見発表があつた後自由討論で進められ、部会終了後合同部会で各部会の報告がなされ、さらに第三日目は、専門家会議を中心とする総会が開かれました。

部会、合同部会において傍聴人との質疑の時間が設けられたことは今年の新しい試みでした。また昨年と同様二〇名の男性が特別傍聴人としてこの会議に参加しました。

婦人問題に関心をもたれる方々の御参考に会議の速記録をまとめて刊行することになりましたが、紙数の都合で、合同部会、その他を割愛いたしましたことをおこわりたいします。

昭和三十一年八月

労働省婦人少年局

全国婦人会議の構成

名称 全国婦人会議

「日本の家庭を明るくするために」

主催 労働省・日本放送協会

期日 昭和三十一年四月十四日・十五日・十六日

場所 東京産経会館・NHKホール

部会 (四部会に編成)

議題

第一日 近代社会における家庭の意義について
第二日 いかにして日本の家庭を明るくするか

出席者 六〇名(全国の応募者より中央選考委員会
が決定)

特別傍聴人 二〇名(組織推進及びNHK聴取者名
簿よりの抽出)

選考委員

(委員長)

法政大学教授

谷川徹三

評論家

伊藤昇

家事調停委員

大浜英子

東京教育大学教授

岡田謙

全国地域婦人団体連絡協議会理事長

山崎しげり

日本放送協会ラジオ局長

春日由三

日本放送協会ラジオ局長

江上フジ

労働省大臣官房総務課長

村上茂利

労働省婦人少年局長

谷野せつ

部会アドバイザー

第一部会 評論家

伊藤昇

第二部会 家事調停委員

大浜英子

第三部会 東京教育大学教授

岡田謙

第四部会 全国地域婦人団体
連絡協議会理事長

山崎しげり

司会 労働省婦人少年局婦人課職員

全国婦人会議次第

四月十四日(土)

開会式 一〇・三〇—一一・三〇

1 開会挨拶

労働省婦人少年局長 谷野せつ

2 主催者挨拶

労働 大臣 倉石忠雄

日本放送協会々長 古垣鉄郎

3 講演

法政大学教授 谷川徹三

(全国婦人会議出席者選考委員長)

部会 一三・〇〇—一五・五〇

議題 近代社会における家庭の意義について

1 部会討議 2 傍聴人との質疑応答

合同部会 一六・〇〇—一七・〇〇

1 部会報告 2 質疑応答

四月十五日(日)

部会 九・〇〇—一一・三〇

議題 いかにして日本の家庭を明るくするか

合同部会 一一・四〇—一二・四〇

1 部会報告 2 質疑応答

四月十六日(月)

総会 一〇・〇〇—一二・三〇

1 開会挨拶

日本放送協会ラジオ局長 春日由三

2 会議経過報告

労働省婦人少年局婦人課長 高橋展子

3 特別傍聴人感想発表

4 専門家会議

(討論会形式)

伊藤昇 大浜英子 岡田謙 山崎しげり

5 アトラクション——放送劇——

6 閉会挨拶

労働省婦人少年局長 谷野せつ

講演

目次

はじめに

全国婦人会議の構成
全国婦人会議の次第

講演

近代社会における家庭の意識

法政大学教授 谷川 徹 三……二

部会

第一部会

二

第二部会

三

第三部会

四

第四部会

五

総会

六

近代社会における家庭の意義

法政大学教授

谷川 徹三

今年の婦人週間の標語やテーマについて、一部では、従来の婦人週間の標語は、婦人の社会的意識や近代意識を高めることを目指すようなものであったのに、今年の標語は後退ではないかという意味の批評が見受けられました。しかし私は、今年度の標語である「みんな家庭を明かす」ために努力するということは、新民法によつて廃棄された家族制度を復活させようとするところでもないし、また、古い國家観と結びついた家族趣味を復活させようとするところでもないと思うのです。それどころか、そういう古い形の家族制度を實質的に打破するところに、この標語の意味があると考えるのであります。旧民法によつて喧嘩されていた家族制度は、男女の平等やあらゆる人間の人格尊重を認めるという思想の上に立つた新憲法の精神に反するものであり、もし今年度の標語がこのような意味を持つものであるならばそれは望ましくありませんが、私は、決してそうではないということを申し上げたいと思います。

家族制度というのは、夫婦の關係、親子の關係、親族の關係など、家族生活に関する一切の規範——この中には法・慣習・道徳などすべてのものが含まれていますが——を總称した言葉であります。旧民法では、家族成員に対する戸主権、親の子に対する親権、夫の妻に対する夫権というものが規定されていて、妻は夫と平等な法律

的な権利を持っていませんでした。旧民法においては、このような戸主権・親権・夫権を基礎として、上下の道徳という形で家族制度の規範が打ち建てられていました。そしてこれが婦人をして、婦人の地位を低くしていたのであります。このような規範は新民法においては全面的に廃棄せられ、妻は夫の同意がなくても、自分の財産を処分できるようになつたし、従来は妻の不貞だけが罰せられましたが、新民法においては夫の不貞もまた罰せられ、離婚の原因となるようになりました。また、旧民法における長子相続もなくなり、妻が相続権をもつようになり、同時に長子以外の子供たちも平等に相続権を持ち得るようになりました。

従来、日本の家庭を暗くしていた大きな原因は、旧民法における戸主権や親権、夫権などによつて生じた束縛によるものだと私は思っています。したがつて、明るい家庭を作るためにはそういうものを復活させることではできません。のみならず、そういうものの痕跡がまだいろいろな形で残っていますので、そういうものをなくすること——つまり後へかえることではなく、前に進むことによつて、始めて、その目的が達せられるのであります。

そう申しましたも、私は、昔は明るい家庭がなかつたなどとは申しません。明るい家庭というのは、もちろんその家庭を作っている個人々の心掛次第でできる場合もありまして、その点から申せば、いかなる時代にも明るい家庭はあつたと思うのであります。しかし、個人の責任においてはどうしてもならないような部分もあります。たとえば、組織とか制度とかいふものによつて、個人の努力にもかかわらず、家庭を暗くするということが従来の家族制度の中にあつたのであります。そして、それは社会生活の発展に伴つて、ますます深められていきました。というのは、結局、社会生活と家庭の在り方との矛盾という形によるものであり、あるいはまた、従来の古い家族制度が新しい社会に適應できなくなつたということによるものであります。そういうことから日本の家庭の暗さがつくりだしたのであります。そういう暗さをなくすという意味からも、明るい家庭をつくるということは、古い家族制度にかえることではなく、新民法の精神によつて前進することによつて、始めて可能なのであります。

日本の家庭は、都市と農村とによつて、社会層によつて、また、職業の如何によつて、ずいぶん大きな開きが

あります。したがって具体的には——と申しますのは、家庭を明るくするということは、社会一般の問題であると共に、一つ一つの家庭の問題でありますから、個々の家庭の問題を具体的に考える場合には、それぞれ非常に条件がちがつてくるのであります。でありますから、それぞれちがつた条件で問題を解決しなければ、ほんとうの解決はできません。その意味において問題の解決には、社会に責任がある部分と、個人——つまり家庭を構成している——一人一人に責任がある部分とがあるわけでありす。ですから、どの方面にどれだけ社会の責任があり、また、どの方面にどれだけ個人の責任があるか、これを賢明に見わけることが必要になってきます。社会に責任があるべきことを個人の責任において解決しようとする、そこに無理ができます。しかしまた、個人に責任のあることを社会の責任に転嫁することもできません。実際にはそういう人が少なくありません。今後どんなに家庭の近代化が推し進められても、その家庭を作っている一人一人の心掛によらなければ、明るい家庭はできません。そういう意味で、先程私は、昔でも明るい家庭があつたと申したのであります。したがって、第一に必要なことは社会に責任のある部分と、個人に責任のある部分とを、はつきり見分けることです。

第二に必要なことは、都市と農村、社会層、職業による実際のちがいを、個々の家庭を作っている人がよく認識し、また、たがい他条件にある人々の立場を認めあい、それによつて問題を具体的に取あげることです。たがいに話しあうことによつて、たがいに認識しあうとともに、また自分自身をもはつきり認識する、こういうことが、この婦人会議によつて実現できるのであり、私はこの会議の意義は、ここにあると思うのであります。

原始時代における家族は、大體大家族の組織をとつていますが、日本においては最近までこのような形が残つておりました。現在、農村において多くの家庭がついてる形を中家族と申しますが、近代家族というのは夫婦と親子という関係だけの核家族(Nuclear family)——学者はこう申しますが——を中心とする小家族への移行を示しているのであります。

日本も新民法によつて、このような小家族の形を、最も普通の家庭の在り方とするという方向に進んでいるの

であります。これは明らかに現代家族構成への発展を示しているのでありますが、しかし、近代家族というものにもアメリカの家庭の事情などを読んだり聞いたりしたところによりますと、構成上の弱みというやうなものがあると思うのであります。したがって日本においては、歴史も伝統もちがうアメリカの真似をするということは嚴かなことだと思ふのであります。日本においては、やはり日本の社会の実情や歴史や伝統を十分に顧慮して、適当に調節しなければなりません。こういうこともまた、たがいに話しあうことによつて具体的に認識しあい、だんだんできていくことなのであります。そういうことからいって、私は、明るい家庭を作るためには、まず家庭の暗さの分析が必要だと思ひます。家庭を暗くしているものは何か、それを事実に見きわめることだと思ひます。

家庭の機能は昔も今も変わりありません。第一には物的な安定性を与えることによつて社会生活の基礎になることとであり、第二には精神的な安定性を与える場所、つまり休息や慰安を与える場所として、労働力再生産に備えたり、また人間形成の場となります。第三には——ある意味においてはこれが最も大きな役目であるかもしれませんが——人類というものの保存、つまり種の保存ということでもあります。これに関連して子供を生み育てる、さらに子供を教育するという役目です。以上挙げましたやうな家庭の受け持つ機能は昔も今も変わらないのでありますが、同じ機能を営むにもそれぞれの社会の条件によつて、方法がちがつてくるわけで、そこに今日の問題があるのではありません。

今日の家庭の機能を、真に今日にあさわしく営むにはどうしたらよいかということが、私たちの中心問題になるわけであつて、「みんなで家庭を明るく」ということも結局このことの一部なのであります。そこで私は、応募文の選考に当たった者の一人として、今のやうな私の基本的な考え方にもとづいて、応募文を私が拝見した感想の二、三を述べたいと思ひます。

第一に、応募文が千編一律であつたということです。この画一性について申しますと、第一のテーマ「近代社会における家庭の意義」については、私が先程申しあげたことですが、第一に、家庭生活こそ社会生活の基礎を

つくるものである。新しい家庭は新しい社会をつくる準備教育の場である。第二に、家庭は孤立しては存在しない社会に対し責任と義務を持つものである。第三に、近代の家族構成が夫婦という横の結びつきを中心とするものである。こういう基本原則を、大体同じような言葉で書いているのであります。このことはあるいは、正しい認識が広く深く日本の家庭の中に浸透したということであつて、必ずしもこれがいけないことだというのはないのですが、その云い方が少し型に嵌つていたところ、私の心配があるのであります。と言うのは、こういう認識をほんとうに持つのかどうか、もし、ほんとうに持つているのなら、そんな型に嵌つた言ひ方をしないのではないかと、そう考えましたので、私は千編一律な書き方に多少不満を持つたのであります。ですからたまたまその中に、「家庭は家族の心と身体の完全ないこの場所でありたいが、それを望むあまり、自分の家庭だけ幸福ならばという狭い利己的な考えに入り込んでしまいがちである。現在の社会では、自分の家庭だけの幸福ということは許されず、それはむしろ排他的な心を増すばかりで、社会的には何もプラスにならない」というような言葉に出合いますと、かえつて新鮮な感じを受けず。家庭のエゴイズムと結び付くとすれば、考へなければならぬことです。しかし、たとえ千編一律にせよ正しい認識が広く浸透したという意味では、喜ぶべきこととしてもよいのであります。そこで第二のテーマに入る前に、第一のテーマの応募文の中で、私の氣になつた一つの文章を挙げて皆さんの参考に供したいと思ひます。

「家庭の主婦は、今まで女性の美徳とされてきた没我的な生活、また自らを犠牲として喜ぶという生活態度であつてはならないと思ふ」という言葉であります。この「あつてはならない」という言葉に私はこたつたのであります。ここでいわれていることもまちがつてはいないのでありますが、「あつてはならない」というのはおかしいと思ひます。と云うのは、自分を犠牲にするという生活、あるいは生活態度は、いかなる時代にも立派な態度だからであります。ただ、そういう生活や生活態度によつて、今日の問題が解決できるかという点、必ずしも解決できると思はれません。その点においてそういう生活や生活態度を人に押しつけることはできないのです

が、これが美しい生活態度であつて今日においても、そういう生活や生活態度に倣することによつて、他の方法ではうまくゆくはずのないようなことが、うまくいつているという例も乏しくないのであります。しかしそういう少数の例外がうまくいつているからといつて、この原理を美徳として、一般やすべての主婦に押し付けることはまちがつています。それは主婦を人間以上のものにするからだからであります。そこで、この問題も、先程私が申しました個人の責任に關すべき問題と、社会の責任に關すべき問題との見分けがはつきりつかないために、「あつてはならない」という云ひ方が出てきたのだと考へます。

次に第二のテーマ「いかにして家庭を明るくするか」については各自の体験を語るものですから、第一の問題に比べて、もつと体験の切実性が現われてくることを私は期待してゐたのですが、これにも、いくつかの共通した言葉が見られました。たとえば、家庭の民主化ということ、あるいはそれと結び付いて、家族会議というような言葉、また家計簿で家の経済を家中の者に知らせるとか、家庭日記を家中の者が交替でつけるとか、一家で時々音楽会をしたり、ピクニックに行つたりするといふようなことが非常に多く書かれておりました。こういうことによつても今日の日本の家庭を明るくすることができるとはたしかであります。しかし、たとえ正しい言葉であつても、この言葉を羅列的に並べられると、少し閉口するのであります。こういう家庭を、私は模範的な家庭として尊敬いたしますけれども、これだけでうまくいつているかどうか、疑問を抱かざるを得ないのであります。そこで私は、それらの文章の中から多少とも特色のある発言に注意いたしました。

北海道のある娘さんで、今日ここに出席されてると思ひますが、その方の文章に、家では六町歩ばかりの田畑を耕している。八人家族のうち、働き手は兄とあとにふと自分と三人だけなので、暮しはいいとはいへない。苦えもないし、一昨年のように凶作の時には配給米も節約して、ほとんど交ばかりを食料としなければならなかつた。そんな生活をしている家ではあるけれども、――以下その方の文章の一部を読んでみますと――「これが私の家庭を明るくしている全部とは思ひませんが、私の家では家庭の者が別々に食料を飼育して、その収入を銘々に自由に使っているということが、たしかにみんなの心をうるおしていると思ふのです。つまりお小遣いの独

立採算制なのです。鶏の世話は子供でも年寄りでもできますし、野良仕事にだつて影響が少ないので、農家の副業には打つてつけないのですが、私の家では中学一年の兄の長男から、私、あによめ、母と、それぞれ鶏舎を区切り、別々に卵を生ませ、別々に卵を売ります。全部を合わせても三十羽ぐらゐですから、それぞれの収入といつても手持わずかですが、甥は学校の参考書を買ひ、私は雑誌を買つたり、映画を見たり、嫁いでいる姉の家に遊びにゆく費用にします。——中略——このように完全に自由なお小遣いを得る途を持つてゐることは、馬鹿にならない楽しみがあり、毎日朗らかです。それというのも北海道の農家は一年一回しか収入がありませんし、家庭の平和を欠いたり、不満を蓄積して、しまひにはとんでもないことになるのを見たり聞いたりします。ある家庭ではお姑さんががっちり財布を握つてゐるから、そのお嫁さんは、足袋一足買うにも氣兼ねをしなければならぬ。また別の家では、お嫁さんが財布を握つて、その上しまり麻なので小姑（若い妹）にすればがまんがならないことが多く、家出さわざましました。とかく農家では、お金にまつわる争いが深刻です。だから私はよく近所のお年寄りや嫁に、独立した鶏舎を持ちなさいとすすめます。そうしてそんな時に、姑が映画を見に行くといつてお小遣いをやつたり、夕食後のひとときのお菓子にするアマダで大きな笑いして過ごす私の家庭の屈託なきを思い浮べるのです。」

これは非常に事柄が具体的に書いてあつて、私は興味を持ちました。私はこれだけで問題が解決するとは思いませんし、また、こういうやり方を都市生活にすすめることもできないわけで、これを普遍化して問題解決の鍵とするなどということはできないことでもあります。しかし、個人が責任を負うべき問題の解決には、特に農村にあつてはこのようなやり方は、家庭を開くする一つの方法として、極めて興味ある方法であると思うのです。私はこういうふう具体的に書かれたものに興味を持ちました。

最後にもう一つ例をひきたいと思ひます。それはある引揚者の方で、引揚祭で家庭生活を始めた時には、夫は過労から胸を病み、二人の子供は栄養失調のため腹もたないという有様であつた。それを五年の間に、バラツクながら自分の家を建て、事情あつて姑も引取ることになつたが、その姑があによめとの間に争ひの絶えなかつ

た人で、ひがみ根性のがりがりで、話をしようにもこちらの話を聞こうとしないのはとほと困り果てた揚句、夫の協力のもとに姑の十倍ものにとだわることにした、というのであります。「姑の十倍ものにとだわる」という内容については書かれてありませんでしたが、私はこの言葉に興味を持ちました。少しあとの「荒療治」という言葉で、その内容が推察されるのですが、私は今日午後から始まる部会で、具体的に体験談を伺いたいと思ひます。

そういうふうにして、個人の問題として解決すべき問題と、社会の問題として解決すべき問題とはつきり分ける。もちろん、はつきり分けることのできないものもありますが、一応できるところまではその区分をはつきりすること、これが問題を解決する第一歩であると私は考へるのであります。

部 会

第一部会

出席者

北海道 高木沙都子
 宮城 松崎久子
 群馬 大島幸子
 千葉 庄司愛子
 神奈川 佐々木陽子
 福井 瓜生ひさ子
 岐阜 篠田志づ子
 愛知 参木三枝子
 大阪 三谷太美恵
 奈良 森田尚子
 鳥取 吉岡扶些子
 岡山 正木節子
 徳島 稲田洋子
 高知 武政輝子
 福岡 大江みち
 アドヴァイザ
 司会

(農業)
 (主婦)
 (教員)
 (主婦)
 (教員・主婦)
 (農業・主婦)
 (主婦)
 (農業・主婦)
 (教員)
 (主婦)
 (主婦・主婦)
 (地方公務員・主婦)
 (主婦)
 (地方公務員)
 (家事調停委員・主婦)
 評論家
 婦人少年局婦人課
 伊藤
 股
 藤和
 子昇

「近代社会における家庭の意義について」

司会 只今から、「近代社会における家庭の意義について」という議題で討論に入ります。

最初にこの議題について所感文をお寄せ下さった方から意見を伺いますが、羅列的でなく、口頭から強く感じていることを重点的に、そして具体的にお願いします。

では、松崎さんからどうぞ。

松崎 私は、どうして家庭婦人というものが何かミミチイとお粗末なものと取り扱われないのだからかと幾念に思っております。格の贅物にたとえますと、非常に表面的な皆さんの眼にふれる社会生活とか職業生活は贅物の表のようなもので、家庭は裏にかくれて、あまり見えないけれども非常に贅物を立派に引き立たせ、長持ちさせたり保温の役目など、非常に大事な役目をもっている裏地であると思います。私は家庭というのは、このように贅物の裏地、あるいは健康に役に立つ下層のような役目をもっているのではないかと。そして世の中から、ことに男の人方から重要視され、大切にされていいものではないかという考えをもっております。

この頃の松さんは、家庭というものにどうも魅力を感じ

べたりして、社会での磨きあひの機会も多いと思います。こんなことを考えますと、私は、家庭の婦人が生甲斐のある世の中に生れてきているという、たいへん明るい見通しをもっております。

庄司 現在、児童保護施設に収容されている子供達の親探し運動が全国的に展開されて、各所で嬉しい場面が新聞を賑わしております。しかしこの問題を掘り下げて考えた場合、事情は色々複雑だと思えます。現在私共の施設には、行方不明の親を持つ子供が十四名おりますが、迷い子として入ってきた大部分が、生活困難のために捨てられたと思われるもので、その他は戦後の不道徳が生んだ子供等いろいろあります。子供が親に対してなつかしいという感情を持つのは、長い間見てくれたことに對して持つのであって、生みの親より育ての親でも申しますか、施設の子供などは、長く面倒を見られた祖母に對して、母親以上に愛情をもつ場合が多い。切角親がわかって、子供が家に帰りがたないのが現状で、すぐにけ出すような家庭にひきとられても、子供は幸福ではありません。

私共のところでは、親が見付かりますと、親の生活程度、強い愛情をもち得るかどうか、夫婦一致した考をもち得るかどうか、今後万難を排し育成する決心があるかどうか、その家庭が子供の教育の場として適格であるかどうか

ない。家庭婦人というものは何かつまらないものと思うとよくおっしゃる。どうしてかという点、僅かな家事に埋もれて、人間としての成長がとまりがちで、才能も生かすず、するするべつたり家庭の中に追いつまされてしまつて、人間としての魅力が失いがちなためです。けれども、十年二十年前の家庭の婦人だったらそれで諦めなくてはならないが、近代社会における私共家庭婦人というのは、そうであつてはいけないと思ひますし、非常に恵まれていて思ふのです。たとえば、家族の繫りが非常に民主的になつてくるのですから、自分の地位を若干前進させるために創意工夫をこらし、いくらかでも時間に余裕を見付けて、家庭の中で勉強とか修養とかもできる世の中になつてくるのではないかと。ラジオとか新聞、また都合に安く手に入り易い読物などによつて、家庭の中でも人間としての成長を止めることなく、何か趣味としても採用できるし、近代社会では、私共家庭の婦人というのは、非常にありがたい立場ではないかというところを感じております。

また近代社会においては、家庭は生きた社会と一緒に前進しているものだから、とかく非の中の嫌と言われがちな私共家庭の婦人達も、子供を通してのPTAとか婦人会とか、趣味のグループとか、公民館の集りとか、そういうところから手を差伸べられ、また私共が自分から手を差伸

など、背景を考えてから贈すことにしております。切角親許に帰つても落着けなくてすぐ出てしまふようでは、かえつて、帰つたために不幸な結果を見るからです。

生活問題、責任の喪失ということとは、ひとり家庭だけの問題でなく、低賃金の問題、社会保障の問題にも繋がるものです。私は一人でも多くの子供が早く親許に引き取られることを願うと同時に、これらの子供達がよりよい生活を得られますように、低賃金の問題、社会保障の問題について、皆様のお知恵を拝借したいと願うものであります。

篠田 三、四年ほど前のことになるのですが、大学を卒業したインテリ青年と話したことがあります。その青年は三十歳をちよつと越えているくらいですが、結婚しない。どうしてかという点、家庭なんか持つのはミミチイからいやだということです。でもその青年は決して女好きではないで、次々と恋愛をして楽しんでいる。けれどもその相手の女と結婚しようとしたり、結婚して楽しい家庭を持つとはしない。

私は暗い家庭で育つたものですから、結婚した時に自分の過してきた暗い家庭を覆えた明るい家庭を作ろうと希望に燃えていました。それに主人が理解があつたので、初めから民主的で、率直でしたが、その青年の言葉を聞いて考えさせられたのです。どんな時代でも結婚の生涯は同じ

で男と女と結び付いて子供を育て、小さな屋根の下に笑って過すことができれば、狭いながらも楽しい我が家だと仕合せを感じていましたが、そんなミミツチイことに仕合せを感じてはならないと思つて見ると、その青年がいかに、原子力時代の青年のようなことを言うという感じがして、なるほどと思ひました。そこで本当に明るい家庭はどうあるべきか、現代の家庭はどうあるべきかというところに真剣に疑問をもち始めたのです。

私の主人は警察官ですが、仕事のことについては何にも家と言いません。私はそういうことに眼をつぶって、家の中の仕合せだけで楽しそうにしていることが何かしらつまらないことに思えてきて、自分の家庭と社会の誇りということに気が付いたわけです。

それで、犯罪とか青少年の不良化ということが予ねて気になってはいたが、自分はどうすることもできない。たとえば、かわいそうと思えば、個人々々の手の届くところではそういう人達にやさしい言葉を掛けたり、何か恵んだりというこゝろはしてききましたが、そんなことは結局本心に小さい人間ですから、それは社会の仕合せな人とか、警察官の家庭とか、そういう人間に呼び掛け、そこに家庭の力を及ぼしてみたらと考えております。そしてそういうところに新しい家庭の意義があるのではないかと思つています。

手近い例ですが、こういうことから家庭明るくする、何でも話し合うことが一番大切ではないか。年寄りのでも小さい子供でも、意見は取上げて、それを家庭内において実行してゆく、そういうことが大切だと思います。

森田 私には特に教育の場としての家庭の在り方について申し上げたいと思います。近代社会……と申しましたが、特に戦後の日本の社会における家庭の持つ教育的意義というのは、戦後にふさわしい、いわゆる新しい人間を造る場所であり、新しいものの考え方を培う場所であり、民主主義を育てる場所だと思ひます。

私は終戦の時に満洲国境におりまして、主人は軍人でしたが軍用で先に内地に帰り、私は一人のこされ、赤ん坊を生み、一月も経たない時にソ連軍が攻めてきてすぐさま避難民になりました。私が非常にあてにしていた日本軍隊も国家の力というものも期待を裏切つて私達のためにに一つ役に立つてくれませんでした。私は本当に身寄もない、乞食以下の避難民になつて、お餅を売ったり石けんを売ったりして働きました。当時の満洲と申しますのは、ソ連軍が入つてきたり、国府軍が来たり、中共軍が来たり、非常に権力者が交替しまして、物を売りながら社会の動きというものを黙つて見ていたのです。当時私は二十歳でしたが、つくづく世の中は変わるものだとということ、それから今まで

三谷 皆が打ちとけた、摩擦を合わない明るい家庭の根柢を流れるものは個人の尊重だと思ひます。家庭は年令とか性の異つた人達が構成しているのですから、その人達の主義、思想、あらゆる点で異つた意見が出てきて、時には激しい衝突をすることがあると思うのです。手近な例を挙げてみますと、皆が勤めや学校から帰つた夕食後の和氣あいあいとしたこの時間に、ラジオをかける。ちょうどその時間は私が前から楽しみにしていた放送劇の時間なのでそれをかけようと思つてみると、新聞を見ていた父が立上つて行つて、落語と万歳にスイッチを入れる。そうすると弟はスポーツニュースが聞きたかつたという。弟と私は、その半時間、あれが聞きたいのにといらいらし不満をこらえている。また十分か二十分したら弟がだまつてスイッチを入れかえる。そうすれば父も、聞かしてくれたいと怒るし、三人とも面白くない。ほかの家族もそれを聞いて不愉快になる。よく母が、「本当にラジオのことで頭が痛くなる」とよく言うのですが、その言葉を聞いていた小学校四年の一番小さい弟が「そんなだつたら、早く起きた順番に、放送番組にマルをつけていったらいい」といつたので、これに賛成して実行しているのですけれども、小さい弟も、一個の人間として認められたのが嬉しいのか、いつもニコニコしてマルをつけにゆくのです。

正しいと思つていた忠君愛國的な国が必ずしも唯一つの社会の在り方ではなくて、もつとほかいろいろな社会とか生き方があるということを、体験から知つたわけです。

ですから今まで受けてきたさまざまな教育とか物の考え方は、御破産しなければならなくて、内地に帰つた私はまず意識的には、その時に生れた赤ん坊と同じだと思つて、新しいものの考え方を自分の中に育てるために一所懸命勉強しました。先生も、友達もあるわけがなし、自分が何を勉強したのかもわからなかつたが、無茶無茶に新聞、雑誌を乱読して、いろいろなことから自分の新しい考え方を培つてきました。内地に帰つてきてからは、まず自分のものの考え方を新しく民主的なものにする、それにふさわしい新しい生活態度をもつこと、また連れて帰つた小さな赤ん坊を民主的な社会にふさわしい子供に育てることが私の家庭の教育の方針でした。そのために私自身が新しいものの考え方を身につけるということ、家庭の中に民主的な人間関係を築くということに努めました。私は人間的にも子供の前で母親面をする格でありませんで、あくまでも子供と同格でかあさんはえらい人、という態度はしませんでした。その代りに私は子供の犠牲になることも嫌でした。よくお母さんの中には、自分は食べないで子供に食べさせるとか、夏休の宿題をしているとき

大きなうちわであおいでいる人がありますが、ああいうことはしません。あなたが勉強するが、お母さんも勉強するといつて子供と同列の関係で勉強しました。その次には、私は決して完全な人間ではない。腹も立つし、ねたましくもなるし、さまざま人間らしい悩みを持っている人間であるといふことを子供の前に赤裸々にぶちまけたのです。父の姿もありのままに子供の前に見せましたので、父、母といふものを人間として見るという習慣がついてくれたと思います。男女同權ということとは子供に理解として教えることではなくて、家庭の中で父も母も同權を築きこんでいるという雰囲気をつくりだすのが何よりも大切ではないかと思ひます。

最後に特に申し上げたいのは、昨今の政治の在り方というものが、折角敗戦で得たさまざまな取益を逆に流す方向に動いているのではないかとことです。婦人公会の活動や選挙運動では手に負えない段階まできていると思う。制度とか法律とかいふものは、時の権力者の力で好きなようにまげられるきらいがありますので、民主主義といふものは本当に人間の質を変えるということからしていかなければならないと思ひます。

私は特に社会教育が危機に傾いている時は民主主義を守る一非常に大げさですが、最後のとりでとして、家庭を考

えたいと思ひます。私はそこに家庭の教育的な意義を見出してあります。

稲田 ある農家の嫁が、去年の豊作を喜ばないで、豊作でない方がよかった、身体が疲れるから、というのを聞きましたが、このことは嫁が家の道具であることを物語っていると思ひます。この家の嫁だといふ考を、何とかして息子がこれからはもう家庭作りの大事な協力者だといふように改め考えてもらいたいと思ひます。そうすれば嫁自身も今までのように嫁だからといふので遠慮して言いたいことも言えなかつたのが、反対に家庭作りの大事な責任があると思ひば、進んで厨房の中に入つて行かざるを得なくなるだらうと思ひます。

家庭とは一口にいへば人間の愛の巣で、配偶者の要求を満足せしめるところだといふふうに考えます。ですから親兄弟は、結婚している時相手の二人を温い心で見守り育ててやつてほしい。非難や干渉はしないで、結婚前に息子や娘が幼い中から、子供の年令に応じてよりよき配偶者といふものはどんなものかという眼を磨いてやるのが必要と思ひます。両親の家庭はそのいい例でありますので、夫との間に流れる愛情は、子供の前でも見せておく。これが子供達にとって正しい性教育にもなり、子供にとつてよい家庭とかよくない家庭という判断の基準にもなるだらうと思ひ

ます。

子供の家庭では、第一に、子供に判断力をつけてやるのが大切だと思ひます。結婚相手を選ぶといふことは成長した子供の今まで身につけてきた知識、教養によつてできた金能力の総合としての判断によつてなされなければならぬと思ひます。それには、自ら選り、判断するといふこと、すなわち最後の決定は自分であるといふことを徹底的に家庭の中でも、習慣づけてやりたいと思つております。私の家は小学校の二年と四年の子供ですが、おやつを分ける時も、私が分けないで、そのどちらかが分けます。お小遣いを月三百円ずつ渡して、その使い方は自由勝手にさせて、自分で合理的だといふ使い方を練習させたり、おもちゃの後片付けは、遊んだ子供が責任を以てするようになさせております。善悪の判断が一番大事ですがともすれば自分の都合のいいようになる時がありますから、なるべく宗教のことを取上げる。こういうと誤解があるかも知れませんが、キリスト教の、隣人を愛せよといふその心持を持たせたいと思つております。そのようにして、子供に自由を持たせざるを得ない、必ず責任があるといふこと、そうすることが子供の個人を尊重することだと思つております。同時に、他人に迷惑をかけない。自分のことは自分でする、ということも習慣付けて、人と協力できる人間にします。

たいと思つております。

また家庭では、子供の教育ばかり考えないで、家庭の關係についても、まだ新しい考え方のできていないおじいさんおばあさんに、今の家庭といふのは配偶者の要求を満足させることであるといふことを知らせたいと思つております。

大江 自分の周囲を見廻してみますと、非常に夫婦間のことで悩んでいるお友達が多いのです。どういふところに原因があるかといふことを考えてみましたら、私共が受けてきた教育は女子の教育ばかりであつて、男子が家庭に責任をもつという教育を受けていなかったことが大きな原因ではないかと思ひました。いろいろな原因の中からも男性側に私共が求めたいものは、やはりもっと家庭を愛してほしいといふ一言に尽きるのですが、これは五十歳六十歳の方に申しても通念が通うわけでもなく、いふやうがないといふ気持をもつております。それで、私の子供にはどうしても男の子を差別的な教育をしないといふこと。具体的に家庭の中でのいろいろな仕事を共同であるといふやうなことはもちろんですけれども、それだけで満足しないやうな、男の子は、成長して一家を営みます場合には、自分達の家庭といふものを本当に愛するやうな子供に仕つける教育をしなければならぬといふことを痛感しています。

またもう一つの原因としましては、私共があまり社会を知らなすぎるということです。社会というのは男の人の喜ぶように、男の人の楽しみ場ばかりでありまして、小さな狭い家庭よりも、外部の快樂の方がどんなに大きいだろうと思います。私共主婦の勤めとしては、自分の家庭というものを、外部のいろいろな快樂よりもっと楽しいものにするように、経済の許す限りは外に使わないで、家の中にそれをもつてゆくようにすることがいいという考をもっております。

それから、夫婦間の悲劇の原因ですが、夫が社会的に成長して経済的にゆとりができますと、とかく家を外にすることががちです。そればかりでなく、今の若い方の中には、妻が夫を捨てて成長してゆくということがある。原因を考えますと、私共の今までの教育が、夫婦の精神的な繋りというものに重点をおかなかつたという欠陥を感じます。家庭生活におきまして、ただ合理的ということではなくて、お互に精神的繋りをもつようにしてゆかなければならないということをこれからの子供の教育に關しまして期待をかけているわけです。

司会 只今御発言のなかつた方で家庭の役割としてこういうものがあるのではないかという御意見がありましたらおっしゃって下さい。

的な考え方というものを基礎にして考えておられることは充分に出ておつたと思います。

その中、満洲から引揚げられた森田さんなどは、本當に自分の体験から、政治権力とか国家権力というものはいつでも変り得るものだということ、それを、小さな赤ちゃんと抱えながら生活の中で体験してこられたということは、むしろ私達が教えられる点ではなかつたかと思う。そのことが、ひいては子供の教育ということにまで及ぼしておられる点、敬服させられました。大体皆さんお話し合いの中から、子供の教育という点が非常に強調されていたように思います。それは、今日私達がどんなところに住んでいるかということを考えれば、どうしても一つの制度から新しい制度へ移り変わる過渡期にある。大江さんと思ひますがハッキリおつしやいしましたが、五十、六十の男には愛想が付き、見切りをつけた。私もそれに近い考えをいたしますが、したがって、子供の教育に皆さんが非常に希望をもつておられるのは当然だと思います。たしかに、日本の家庭を今後明るくしてゆくというためには、教育のことが非常に大きなスペースで考えられなければならない。

それに反しまして、唯今までのお話の中に、経済というものに対する考え方が比較的少なかつたかと思ひます。これは、御発言なかつた方々も一緒にいろいろ考えてはおら

瓜生 家庭で子供に、品物——特に御飯など、とても大事なものだということを教える必要があります。自分が百姓をしておりますから、大根一本でもお米一粒でも、自分が一年中働かなければ作れない。たくさん仕事をしてやつと一つのものができるということを、いつも子供にやかましく言っております。それから、私が田圃で働いていると知っておりますから、働いてこういうものが作れるということとは、経済の許せる許せないでなしに、大きな教育の問題と思っております。

家庭内の不和とかいさかいが社会にも繋りがある。私の場合には主人が高等学校の教員ですので学校ですが——ということを含頭において、どんなに腹が立つとか不満なことも、翌日まで持ちこさないでできるだけ機嫌よく送り出す。そういうことの積み重なりが、主人が生徒を導く上においても社会的に行動してゆく場合においても、必要で家庭と社会との繋りが本當に密接なものだということを私はいつも自覚している積りです。

司会 それではここで、今まで皆さんのおつしやつたことをアドヴァイザーの先生に補足して頂きながらまとめて頂きたいと思ひます。

伊藤 一応問題は出尽したように思ひます。たとえば、近代社会における家庭というものを、ほとんどの方が民主

れると思ひますが、ただそれが、嫁というものはミミツチイものだ、これはお二人の方から同じ言葉で発言があつたのでジャツとしたが、ミミツチイ家庭、ミミツチイ嫁、それから徳島の方から、農村の嫁という言葉で農作を悲しむというか、喜び得ない嫁の嫁というものはやっぱりじめな日本家庭の在り方だと思ひます。そういう点があるう少し話し合われないと、日本の家庭を明るくする、男女同権という立場で生きてゆく、あるいはその立場で営んでゆく家庭ということには少し足りない気がした。

同じような意味で、愛情の場、この点はいろいろな角度から考えられなければならないと思ひます。すけれども、たとえば、宮城の松崎さんのように、着物の裏地みたいなもので、自ら裏地として満足しておられる考え方、それがすべてとはいえないが、そういう考え方もあるし、裏地であつてはならないという考え方もありじゃないか。その点はこのから一時間近い話し合いから、何か建設的な方向が掴み得る、非常に意味があるのではないかと思ひます。

その中で、私は愛情の問題として最も関心をひかれたのは、千葉の庄司さんの御意見です。庄司さんは自分で施設をやっておられるのですか。

庄司 主人が保田児童学園の園長をやっておりますから公務員です。私も以前ちよつと施設にいたこともあります

けれども、結婚して辞めました。

伊藤 実際自分で扱っておられる立場から新聞で問題になってる親探し運動のことに関連して、親の愛情というものの在り方をハッキリ割り切っておられた。私は、今日民主近代社会における家庭というものにおける愛情の問題というものは、庄司さんの御意見をめぐってもっと皆さんの間で話し合いが進められていいのではないかと。「生みの親より育ての親」という言葉で表現されましたが非常に大切なことで、これは経済の問題とも関連しますが、こういう点でお話しになったらどうか。

司会 今、アドヴァイザーの先生に補足的なまとめをして頂いたのですが、皆さんがおっしゃった家庭の役割を大きく、教育の場としての家庭、経済的な衣食住の充足の場としての家庭、また愛情の場としての家庭、というように分けて、それぞれの意義について考えてゆきたいと思ひます。これらの役割が、今の日本の現状で果して充分果たされておられますでしょうか。果されている面も無い面もあると思ひますが、そういう肯定的な面と同時に、まだ果されていない否定的な面もあると思ひますが――

最初に愛情の場としての家庭について、――愛情の内容という点も問題になるかと思ひますが、いかがでしょうか。

ブな意味で、一人の愛情のある男と女の結び付きという素朴な、無理のない、甘い考えを失つてはいけないのではないかと。そうでないと、腹々がくぐくとした家庭がふえて、これはあまり嬉しいことではないという気がします。

司会 松崎さんから、あまり意識過剰の女が家庭の中にふえることは思わしくないという御意見が出たようです。

稲田 主婦の場合ですと、女姓の方が文化的教養を身につける時間が多いと思ひます。なぜなら主人は生活のために働き、外に出ますが、主婦はその間に衣食住の生活を合理的に経営することによって暇を見出すことができます。その暇をいかに使うかということをよく自覚すれば、向上がいくらでもできると思ひます。私は図書館の貸出しの本を読んでいろいろ書きとめておき、私の感想などを加えて主人に話したりすると、主人はそれをもつと読むようにとすすめる態度であります。

一緒に映画を見ますけれども、そういうことによつて夫といつまでも驚くなどと思ひ、同じ話題をもつてゆくことが両方が向上することだと思ひます。

松崎 私と家庭婦人は向上しないではないというのでは無いのです。ただ意識過剰というか、あんまり一人りきみとか一人よがりとかいうことを、私は、女がもう少し聡明に

◎愛情を中心としての問題

松崎 先程大江さんが、最近は大と妻の不和、家庭の不調というものが一番前と變つて、妻の方が非常に人間として成長した場合、民主主義ということは何としても自分のものにできない五十、六十のコチコチになっている男の一方に奥さんが愛情をつかしていることが最近の現象の一つだとおっしゃいましたが、こういうことについては反省しなければならぬと思ひます。男女同権といわれ、教育も男女機会均等になったので、今後ますます女の人が現代女性として教養を身につけているということを意識し過ぎるというところが、いえるのではないかと思ひます。

それで私はいつも思ふのですが、ウツカリすると頭でっかちな女になりがちで、女が社会に立つて、職業人、社会人としてやつてゆく場合には、男にひけ目を感じないで、堂々と才能を生かすということも結構ですが、ひるがえつて家庭というものを考える時、家庭の中だけにいてはあまり男女同権をふりかざしたり、自分は女であるより妻であるより、一個の人間であるといったような人形の家を飛び出したノラのような意識をもち過ぎては家庭をぶちこわす人間になりがちと思ひます。家庭の中だけにあっては、二人の人間の結び付きというのでなく、非常にプリミティ

なつて理屈一点張りや理想論をふりかざすことをほとんどにされた方が、家庭円満は成立つのではないかとということで申し上げたのです。

榎本 理想とか教養はうんと高くもつべきで高ければ高いほどよいと思ひます。そのために家庭がやわらみをもたないということにはならないと思ひます。

庄司 女の方が知識的になるというのは大いに結構で、知識過剰であればあるほどたいへん結構だと思ひます。ただ生活態度が問題で、その人が謙譲に振舞えば、知識が豊富なのはいいと思ひます。

もう一つは、女子の教育に力を注ぐこと。女の子は結婚してしまふと妊娠だとか分娩、育児などがありますし毎月の生理条件も男の方よりは悪くて、月の四分の一は、気持のすくれない日が続くのでそうすると一年にして十二倍ですか……とても損をします。男の子というのは結局社会へ出て社会的な驚りをもつてやつてゆきますけれども、女の子はたいへん家庭に入ります。そこで、学校を出るまではあまり開きがないでしようが、出てしまつてからの開きが多くて、家庭の不和の原因にもなつたりします。息子と娘といて、どっちに教育を高く受けさせた方がいいかという場合、たいへん男の子を大学にやつて、女の子は女学校で辞めさせてしまふという傾向が強いが、私

はむしろ、男の子は高等学校を出てはつぱり出してもやつてゆけるが、女の子こそ大学まで出してやつて、いい結婚をさせてやった方が、あとからバランスがとれてよくゆくと思います。それで、女子の教育に力を入れて頂きたいということです。それをお父さんお母さん方にお願ひしたいと思ひます。

大江 夫婦関係の話で、お二人の話は理想的なものを描いていらつしやいますが、妻としての弾力をもたせてほしいと思います。ある時は硬い話をしてそっくり返つて威張つたり、ある時は愛情をもつて……テクニクといひますか、いろいろな面をもちあはすということがあつていいと思つておられます。

もう一つ夫の職業について、自分は何もいわれないから知らないとおつしやいましたが、その仕事は何も妻に関係ないから知らない、ということではなしに、できるならば夫の仕事もよく知りたいと思う。外で何をしているか、閑々のことはもちろんわかりませんが、表立つた仕事だけは理解して、どこに行つて何をしていたかということ、妻と解して知つておきたい。それを喋るか喋らないかは、妻の判断に任せて頂きたい。

篠田 私の場合は、特に警察という特殊な職業で、五、六年前までは私も、主人が仕事のことを話してく

れなくていいし、私もそういうことにタッチしないのが当り前だと満足していたのですが、今大江さんのおつしやるように私も理性で判断してみても理解しなければならぬということには目覚めてきました。それまでは、家庭を温いところとし、新しいエネルギーを造ることだけが協力のよりに思つておりましたが、主人の職業に関連することを私の力でできたらと思ひ、青少年の不良化防止に努めて協力しております。ますまわりの十五、六軒並んでいる官舎に呼び掛けてみましたが、初めの中は半分反対がありましたが、この頃大分いい傾向になつたと思ひます。

今、主人の職業を理解するという話を伺つて、そういうことはいいことだと思ひます。

篠田 私は近代社会における親と子の愛情のあり方について申したいと思ひます。

親が子を愛するということは、おそらく昔から今まで連続と続いているが、いやくも近代社会においては親子の愛情の在り方について変化がなければならぬと思ひます。最近自分の子供をいい学校に入れたと思つて、十万円持つて行つて入学させている例があります。それを愛情のあるお母さんというふうにいわれていますし、たしかに愛情には違ひないが、そういう人はえてしてかわいそうな子浪児とか家庭が貧しくてろくに学校にも行けないような子

供が通ると「シラミがうつりますよ」と自分の子供を遠ざける。教育費が減らされて何とも思わない。こうして愛情を非常に個人的なものに考へている。自分の子供が可愛ければよその子供も可愛く思ふという要素を多分にもつた愛情に変わらなければならない。

現状を見ますと、たしかに愛情のあるお母さん方はたくさんありますが、社会的な愛情をもっている人はまだまだ少ないと思ひます。

司会 学校を出てからの男女の開きが大きくなつて、それが家庭不和の原因の一つにもなつていふようだから、男の子よりもむしろ女にこそ大学教育が必要だといふようなお話が出ましたし教養がこなれていないといふお話も出ていたようですから女子の教育について少しお話しいておすめていただかいかでしようか。

◎教育を中心としての問題

夢木 私は戦後朝鮮から引揚げて開拓団に入り、十年も都会を遠ざかつていますので的を外れるかもしれませんが田舎では女子にハンディがあります。伸びようとするものを射すくめてしまふ。男の子と女の子と一緒にしますと、ある意味では女の子が真似ていながら、何か教養の面で、古い、逆戻りのような思想で、妥協性が強い。かつ然と眼

を開くということに欠けているのは、女子のどういふところからくるのでしょうか……

瓜生 今までの女の人はあまりにも経験が浅いのです。自分のことになりましたが、学校を終えてから五年間税務の仕事をやつて、男の人に伍して一人だけ、村の税務主任をしておりました。また一方には、青年団の活動もしておりましたが女の人もいろいろなところに出て行つて、社会的な面においてもつと経験を高めていってほしいと思ひます。

地方会議でも、女の人はあまりにも他人みだいに夢を食つて生きている人がいるが、家の仕事でも、事務的に片付けるようにしてほしいという意見も出ていましたが、最高学府を出ているからそれで教養が高いといふのでなしに、いろいろな面に経験を多くもつていふといふこと、夫婦生活の場においても、家族構成の中においても、どれもいい教育の場ではないかと思ひます。

佐々木 学校に在る間は男女同じかもしれませんが、職場に出ますと、女の人ばかりに尻込みをすることが多い。私は小学校の教員をしています。職員会議で、発言するのはほとんど男で、女が発言すると、女の人自身が、あれ、あの人は、という顔をするし、男の先生も、あいつ少し……というように見ますし、そういう雰囲気があるわけ

です。また私の学校は事務職員がいないので学校の事務を先生方が分担することになっていました。すると四人の女の先生は落し物係とか履物回収係とかいうような責任のない仕事だけしか与えられなかった。私なんか大いに不満で、経験はないがやらしてほしいという気持ちがあつても、経験のある人が、それが当り前だ、という雰囲気を作っている。おりに男女の差がないといわれている教員でもこうですから官庁とか会社はもっとひどいと思います。女の人が男と同じに地位を高くするためには、アメリカでさえ五倍位も力を出さないと認められないと言われていたそうです。女のもっている力をフルに常態するようにならなければ女の人は救われない。

武政 佐々木さんの御意見に大いに賛成です。私の勤めていた県庁のことで、今のお話と似た例になる例があります。私は生活改善係の仕事をしておりますが係員五人の四人が女です。その生活改善係で提唱し、朝と退社時のお掃除を、係員の人全員（課員四十人）の当番で男の方も係長さんをしております。お茶汲みだけは男の人にあまりだといふので、十人近くの女子が当番でやるわけですが、何も、お掃除を男の方にさせることが、女がえらくなつたことでも何でもありませんが、女の人も一つの仕事を受持つてゐるわけですから当然のことと思います。時には、自分

の仕事が忙しくてお掃除のできないこともありましたが、お互に代りあい助けあつて自分の仕事の能率をあげてゆくようにもつてゆきたいと思っています。

司会 群馬の大島さんは小学校の先生をしていらつしやるのですが、基礎教育の場として充分に子供が家庭の中で育つておりますでしょうか。

大島 私の村はとても貧しくて、毎月毎月二百円の給食費さえも持つてこれないような子供がたくさんあります。その家庭の父兄を集めて、お母さんの会というのを開いておりますが、こういう人達こそ自分の子供だけ任せ置かなければいいという考えは非常に薄く、自分の子供の教育なんか考えないで、隣りの、もっと貧しい子供のために、お母さん方が集つてくるのです。初めは「先生、うちの子の成績はどうですか」と聞きたがつたのですが、お母さんの会の運営の仕方に苦心して、一つの問題をみんなで話し合つて申かなければならないということを知得してそれから、そういう方向に向けていったのです。一つこんな例があります。運動会には白いパンツと白い上着を着るのですけれど、どうしても買えなくて黒いのを着ている子がいた。六年生で、女の子ですからとても気にして、学校を休んでしまふ。その子のお母さんは一生懸命やつてゐるが、お父さんが酒癖が悪くて、働いたお金はみんな飲んで

しまふ。お金は金銭家には入れないので、ボロを子供に着せてよこす始末なんです。とうとう仕事にもアブレてしまつたので、近所のお母さん方が心配して職を見付けてあげ、上着とズボンを買つてやつて、その職場に送らせてやりました。ところが行つてきまもなくお金がなくなつたといつて帰つてきた。こういう悪循環が続いているのです。けれどもお母さん方は、どうしたらよいのかと自分の子のこのようにいろいろな手をつくしています。

私はお母さんたちのこの姿をみて下積みになつてゐる、何も言えない人達の子供さんこそ関心をもちて見てやらなければならぬといつづく思つてゐるのです。

司会 北海道の高木さんどうぞ。

高木 大学、高校というお話が出ていましたが農村の場合ですと、中学だけで精いっぱい、中学が終るのをみんな待っている状態です。女であれ男であれ、教育などということは皆さんのお考えになつてゐる以前です。夫婦が豊で働きますと、子供をしてくれる人がないので、木の蔭に子供を寝かせておく。陽が傾くにしがたつて少しずつずらして置いてゆきます。母親も父親も、教育は学校に任せつつ放しです。そういうことからいろいろな問題があるのです。最近こういうことがありました。託児所を作ろうという話が出て、北見市の婦人会長に御相談に行つたら、

市役所から補助をもらつて建ててあげましよう、運動してあげましよう、具体的に話が通ひました。ところが最後に預ける人達の負担金が三百五十円かかるということになつた。みんな尻込みしたんです。三百五十円も出して子供を託してもらうのじや誰でもできない。こんなことで託児所設置のことは立消えになつてしまひました。私も親代々の生粋の農家ですが、そういう人達の教育というものが、私達の力の限界では及ばない何かがあると思ひます。こういうことを一つ訴えてみたいと思います。

庄司 お二人の方から生活に困つて教育できないという問題が出ましたが、千葉県の千倉という漁港では、協同組合の婦人部で日用品―炭とかお醤油の共同購入を始め、市価の七割ぐらいで商品を仕入れ、八割で売り、その差額の一割を漁師の子供の育英資金に積み立ててゐる。こうして一人でも二人でも、何年か後には大学を出られるのです。

参木 私は引揚者で、何もない農家ですが、教育の問題では決して諦めていない。今鶏鶏で生活していますが、子供の教育費にする積りで柿を四反、お茶を二反値えましたが、これが五年後にはある程度の取入になり、そのためにベストを尽すという希望を持っています。

朝鮮から隔つて、開拓団に入つた時は山野で、鹿が飛出

したこともあるが、決して弱音を吐かない。皆さんよくお泣きになるが、そんなことを言っている暇に、察し出す方法を考えていいではないかと思ひます。親の代から三十年三十年代やっつけいらつしやる方が、島を諦めることはないと思う。もつと考えていい。

ちよつと飛躍するようですが、社会福祉のことも育英資金のことも、社会の善意に頼り過ぎてゐる。人の善意に頼り過ぎてゐるということではない。もつとそういうことは強く打出していいと思う。日本人の責任だと思つてゐる。

大江 今の力達のお話、建設的なのですが、私のいる側に炭鉱がある。そこは、生活はある程度安んじられてゐるが、集団的に家がある。そうしますと、たとえばある家の子供が、給食費が出せない場合に、よそから来た者が同情して十円づつ出そうじやないかというのを提案してもその周囲の同じ生活をしてゐる人々がそれを拒むわけです。あの人の尖は一週間に一度映画を見に行つてゐるじやないか。給食費を出してゐないのにおやつを食べてゐるじやないかということを書き。そういう周囲の情勢の中で、出る釘を打ちたがる気持がある。それは炭鉱の人間だけでなく、婦人会などに行きましても女性が進歩しようとするのに釘を打つのは婦人自身の中にある。

ませんが、また個人の努力が足りないということも充分考えなければならぬ。そういう問題に皆さんが仲間と一緒に眼を向けてゆく、そういうことが非常に大切だということを感じたわけです。

それからその問題に関連して当然出てきたのは、やはり群馬の大島さんからの発言で、極度の貧困にある母親が、自分の子供ということより、より貧しい子供のことを考え合う。わかり易い言葉でいえば、中流以上の家庭は、えてして自分の子供のことを考える。先程、高木さんから巧い言葉、「教育以前の問題がある」とおっしゃいましたがこの教育以前の問題に苦しんでゐる人達は非常によく手を繋ごうとしてゐる。それが私は近代社会における家庭人、社会人の在り方ではないか。

これはちよつと話が横にそれるかもしれませんが、親孝行ということが非常に今問題になつてきております。それは先程森田さんでしたから指摘された、ある支配層が考へてゐる親孝行という道徳律を作り出そうとする動きと、今私達の眼の前でぶつかつてゐると思う。「この頃の子供は生意氣で親孝行をしない」ということが問題になるが、中流以上の家庭にその問題が起きて、それ以下の最も弱い、貧しい家庭の子供は非常に親孝行の気持をもつてゐる。これは春の就職試験なんかに現われてゐますが、中学を出た

司会 衣食住の問題に入つてきましたのでこのへんで教育の問題についてそのまゝとめをして頂いて衣食住の問題に移りたいと思ひます。

伊藤 何つておりまして心配になりましたのは、女性が尻込みをするということをや言われる方がゐるのに、尻込みをさせるものは何だということが出てこないかと思つてゐました。それだけではないと思ひますが、今大江さんからハッキリ出てきました。参木さんからも、建設的な御意見があつたわけで、これは種々経済的な生活問題、社会の民主化という問題に繋つてゐるかもしれせんけれども、今朝ほど谷川さんからお話があつた、個人でできる領域と、個人の力ではできない領域がある、ということ、これが、家庭における教育、学校における教育という問題で一番大きな問題ではないかと思ふ。

群馬の大島さん、北海道の高木さんから、当然こういうお集りで出なければならぬ問題が出たと思ふのですけれども、もちろん個人として、親が子供を学校に出したいということは全力を挙げてやつてゐると思ふのです。それで義務教育も出せない。憲法には、義務教育の無償ということが謳つてありながら、どうして子供を学校に出せないかということは、母親ならば誰でも疑問をもつと思ふ。それは個人のできる範囲をすでに越えた問題であるかもしれ

ばかりで就職した子供に——これは豊かな家庭とは言えないと思ふが——第一回のお給料をもらつたらどうするか、と言つたら「みんな、今まで苦しんで頂いたお父さんお母さんに上げます」と言つてゐる。そうした問題で、私達も新しい親子の愛情を考えなければいけない。子供をほり出して置いてパチンコ屋で酒を飲んでいる親が、親孝行を強いることができるかどうか。親が力いっぱい育ててゐる親には、子供の方がしてくる。これは現代社会における社会的、政治的、教育的問題として考えなければならぬ。そうして母親が切り抜けてゆくかということに問題がある。

それをもう一つ大きくまとめて考えてみますと、——これが近代社会における家庭の意義ということに一番関連するのだけれども——実際においては日本の今日の家庭は、まだまだ民主主義以前のものであるということです。先程からお伺ひした限りにおいて、皆様の家庭は模範家庭が多いようですけれども、実際にはやはり民主主義以前で、一番大切なことは、やっぱり森田さんのいわれる国家権力とか、家庭においては父親の権力、夫婦間においては夫の権力、親の権力というものが古くさいままであるということです。政治、社会、経済、家庭という問題の中で、そういうことを、話し合い、みんなで考え合うことが大切ではな

とかと感じたわけでは。

司会 では次に経済の問題を中心として、衣食住の充足の場としての家庭がどうあるべきか。現在どのようなか。また家庭の意義がそれで十分果されているかどうかについて話し合いたいと思います。

◎衣食住を中心としての問題

瓜生 嫁姑の問題が今私が悩んでいる問題です。主人が外に出ておりますし両親は今家の仕事を全然やっておりますので、私が一応家の仕事をやっております。来てから五年にかなりまじりながら、農耕など親に相談しているが親としては、まだ来たての嫁が……ということが頭から抜けてない。仕事をしても、農業収入は全然私に与えられていません。私はお金がほしいわけでもないが仕事をしたいことをもつと認めてほしいと思っています。私の周囲にもこのような農家の嫁という立場の弱さがまだまだ多くあります。

正木 農村で一番問題になるのが住居の問題で、狭いところに姑とお嫁さんが一緒にいるというところに問題が起り易い。

それから、たとえば食の場合は、お魚が一匹しかない

ヤップ。姑は昔ながらの着物を縫って洗濯して、アイロンを掛け、お料理は奥さんが一から十までして差上げるといふのが女の仕事とし、それが女の愛情だと考えている。それに對して私の考え方が大分母とズレておりますので、そのヤップに苦しい場合があるのです。

柳奈川県の婦人週間大会の時に、農家の主婦の方から、豊作景気、洗濯や耕作機械などを購入し機械化の願いは実現されつつあるが、農家の嫁は必ずしもそれを歓迎してはいない。それはなぜかというところ、結局洗濯機で洗濯して余る時間を、リクリエーションとか休養の方に向けられるのではなく、さらに仕事の能率を上げるために、収入を多くするために使わせるように年寄は考える。そうするとかえって労働強化になるということです。だから私達若い者は必ずしも歓迎しない、という声が出ました。

武政 農村の嫁の座について、福井の方から御意見が出ておりましたけれども、またそういった悩みを持って、何とかしたいという意欲はもたないが、下積になって、泣きながらがまんしている人がたくさんあります。そういう人達を、何とかして立ち上げたい。救いたいというのが私の仕事です。周辺にある数々の問題は一人で悩んでおつては解決出来ない。問題をもつた方々が五人でも十人でも寄り集って、何人かの力で解決してゆくというふうな工夫

いう時に、主婦の一般的な考えとしては、年寄に上げる。

これで秩序は保てるが、カローリーの摂取とか栄養上から考えた時に、要当な解決策であるかどうかは考えなければならぬ問題と思う。おやつにしても、平等に分けるということが本当の平等かどうかをもう一遍考えたい。子供が三人あれば、たいいてい家庭では同じように分けるということとを主張なさる人が多いが、それが本当に正しい平等であるかというところに疑問をもちます。小さい時から本当の平等という意識というものが、平等の教育を与えるということ、衣食住の一つ一つの問題を本当に正しく解決してゆくということ、これが一番教育の場としての、また衣食住を充足する場としての家庭の在り方ではないかと思ひます。

佐々木 私の姑はとも苦しい。(五十五歳) 私から見れば、姑の中で優等生だと思います。私は勤めておりますので、洗濯は夜十一頃になってしまふ。それで結婚してから、私は是非月賦で洗濯機を買いたいということであつた。たまたま友達に世話をしてもらい洗濯機を買ふことになつたが、母に言わせると、洗濯は手でやる方がきれいになるし、それが夫や子供に対する愛情であり、洗濯機を使つて木を綿んだり暇を作つたりするのは女の仕事を怠けるといふふうに見えるのです。これについては一応解決して、現在使っているのですが、そういう嫁と姑との考え方の平

なさつたらよろしいのではないかと思つております。

私達が育てておりました生活改善グループに「さざ波会」というのがありますが、これは農家に嫁に来て、二十年三十年と農業をしながらも、主人のいふなりで田圃の経営といふことは全然知らない。これではいけない、ということで婦人が立上り、「愛妻団」を作ることにしたのであります。その結果、たくさんのお嫁さんが上り、男の方達も、女の方達の意欲に感動させられ、収入の全部を貯金、生活改善のためなど女の自由意思に任せるところまで男の人の理解を深めた。

そこでそのグループの方達は、身をもって体験した愛妻団の経営によつて、自分達は権利を主張するならば責任と希望をもつて自分の任務を遂行しなければいけない。そうしたらどんな頑固な人達も、自分達を理解してくるようになる、というある一つの問題を解決し得たわけです。

司会 もう時間がなくて残念ですが、最後に伊藤先生、何か……。

伊藤 唯今の、衣食住を中心としての問題は、時間の関係で充分でなかつたと思います。その中で非常に大切な問題だと思つたのは、高知の武政さんからもお話があり、先程木さんの話の中にも充分出たと思いますが、農村で働く女性が自ら技術を身につけるということですね。技術を

身につけるといふことは、農業だけでなく、生活技術といふこともあるわけですが——自分の主婦達が今まで——福井の方も言っていました——自分でもそれだけのものを作るという事は、蘇々知っているけれども、経済は任せられない。それで本當に力を見せたら、男もわかって、それが愛妻田になったといふことでしたが、愛妻田の話を聞きますと、本當に技術を覚えて、自分達が世の中が広くなった。福井を作ることだけでなく、すべて技術的に考えるようにしたといふことです。これが、家庭を運営してゆく上に非常に合理的な考えを生み出す一つの道になるので、今までの主婦の在り方のように、夫の言うままに農業をやっているという形ですと、合理的な考えといふものはもつともでない。御承知のように、合理的な考え方といふものは、近代的な考え方あるいは近代生活をする人間に最も必要な条件になるといふことではないか。その面から言へば、今日の日本の家庭も進みつつある。主婦も進みつつある、といふこともこのお話し合いである程度出たと思います。

全体を振り返ってみますと、家庭といふものをいかにの角度から見ても、一つは愛情をめぐる場として考えてゆく、それから主として教育の場として子供をどういうふう育てるか、またそれが社会人として適当な素養を育てるという方向のお話もあったようですが、その教育は子供の思います。

特別傍聴人 松崎さんが、先程、家族の誇りというのをおっしゃいました。家族は縦横の線がなっているといふ一般に申しますが、単に家族が縦横の線がなっているのではなくお互に友愛的精神をもって繋いで、子供の教育の向上、社会との繋りもすべてそういうふうにいっただけかかと思ふのですが、また昔から主人がいれば親船に乗ったような氣で家族はいましたが、現代は船は主人で、その船に乗るのは家族であり、その船を操るのは主婦です。主婦が船長になる。船長の操縦の如何によつては浅瀬にも乗り上げると、転覆もすると思ふと思います。

松崎 我、上下の繋りというよりも、民主的な近代の社会においては、みんな横に手を繋ぎ合うといふような表現をいたしましたのは、民法で、とにかく親だけがもつていた親権、夫だけがもつていた夫権、それから戸主だけがもつていた戸主権、こういうものが一応なくなりまして、私共女でも、法律の上で、夫と平等、同格です。けれども、実際はそういうことを非常にしやつちよこ張って、主張し

教育だけでなく、皆さんが主婦として、母として、女性として自らをどう育ててゆくかという側面からのお話も一応は不十分ながら出たと思います。

それが当然嫁の座といふものになってきまして、生活経済……特に経済生活における家庭といふものをみまして、その一部として今、衣食住の問題を出されたわけですが、これを總まとめにして、やはり近代社会における家庭の意識というテーマそのものはいくらか抽象的に過ぎるために皆さんも本當の生活体験とか、あるいは自分の眼で見てあるいは人に聞いた話とか……なまのものが出なかったが、明日は、どうして明るくして来たかという具体的な問題になるわけですから、期待したいと思っております。

(休憩)

◎傍聴人との質疑

特別傍聴人 婦人の進歩に釘を打つものが婦人の中にあるといふことと、食いのお母さん達が手を繋ぎ始めているといふこととの傾向をどうお考えになるか。その背景は何か。

大崎 手を繋いでゆく潮とそうでない潮というわけですね。私の方の場合をみれば、いわゆる教育に熱心というのではなくて、先生と仲好しになりたいという気持ちからだと

ていては、家庭も巧くゆきませんけれども、みんなが民主的な家庭といふものをわかっていれば、私共妻君としまして、昔の考え方よりも伸び伸びとして、生甲斐を感じますし、女の子も母親になることを嫌がらないでしょう。

傍聴人 船頭の役目を家庭の主婦がされているというお話がございましたけれども、だんだん女の地位が高まるにつれて、事の是非はともかくとして、共稼ぎの家庭が多くなつてくると思ふます。その場合に、親子の愛情というものが、どんな形でゆくのかわ。今までの普通の家庭で行われていた愛情が当分ゆくかどうか、佐々木さんなどにお伺いしたいと思います。

佐々木 私の子供は、一年十ヶ月経ったのですが私自身とても考えさせられることが多いのです。私が働いていますから姑に育てられるので、何かというとおばあちゃんと言つてゆく。母でありながら「母ちゃん」と言つてこないから淋しいとも思う。私が一人淋しいと思うなら克服してゆかなければならないが、それが子供の精神的発達に影響があるから考えなければならぬ。姑をほめるわけではないが、姑は、新しい育児に遅れてはいけないうと、ラジオを聞いたり、本を見たりして新しい娘などについて、私よりも一生懸命に心をくだいています。だからといって、手放して姑に子供をオンプさせて、自分は独身のような顔を

しているのではないのですが、問題は、これからの毎日々々の中で解決してゆかなければならないと思っています。

私、教師をしていますから、自分の教えている子供達の家庭のことで気付くのですが、溺愛するといふか、一から十まで何でもして上げるという母親が非常に多いのですが、これからの子供のしつけ方は精神的にふれ合うというより、父親の厳しさに引張り張ってゆきたいと思っています。

傍聴人 大きいお子さんのいらっしゃる方にこの問題をお伺いしたいと思います。

参事 長男が十四才、下の子供が十一才です。

先程から愛情の問題がずいぶん出ましたが、愛情は溢れるほどあつてもよいが、理性の裏付けがなかったらかえって大きな害になると思います。

大江 私よく家を留守にするので、子供と接する機会が少いものですから、せめて子供と一緒にいる時間だけでも遊んだりしておきます。自分が見られなかつた子供の生活のことは他の子供から聞いたり、先生の話を聞いて、大きい眼で見てゆきたいと思っています。

子供との接触は、一日中ズラ／＼離れているのではなく、短い時間に愛情のメッセージを通わせるようにするのが、始終家をあけている主婦にとっては一つの道ではないかと思っています。

人間教育の根本原則として、道徳教育が必要だと思います。古くさい言葉ですが、内容的には新しい時代にふさわしいものでなければなりません。それで道徳性を高めるといふことが、いろいろ出た問題の解決の鍵のようにも思いますが、この点について皆様に伺いたいと思います。

大江 私はあんまり困って苦しいことは言えませんが、ただ、子供達が大きくなってから、今のような社会でない社会を造ってほしいと思うわけです。

それには、やはり子供の時からちゃんとした道徳教育というものが、根本的なものはちゃんとしつけておかなければならないと思うわけです。個々の問題は家庭によつて違ふと思いますが、たとえば、女の子に対する気持とか男の子に対する気持とか、或は結婚観というようなのはやはり親の時代のものでなくて、親が勉強して、その結果学んだものを子供に伝えるべきではないか。家庭をもつたならば、自分の家庭に本当に責任をもつということ、男女関係の問題にしても、自分のしたことは責任をもつという根本的なことを、子供の時代から親が心掛けていっていると自然にできると思うが、それは自分の家庭の問題だけであつて、世の中というものは、道徳教育というものに全然無関心な家庭もあるわけですから、そういう社会というものを明るくしてゆくには、私共が遅々としてでも歩み始める以

傍聴人 今までの日本の家庭婦人は自分の家庭を非常に大事にして子供を育てて、安らかに仕合せに暮らすようにしておりましたけれども、それ以外に、自分自身の進み方も考えなければならぬと思うのですが、どういふふうにしてライフワークとして育てていったらいいかということについて御感想がありましたら私も、母であり、仕事をもっている者としては是非伺いたいと思います。

篠田 私、五年間教職にありまして、それから家庭婦人になってしまいました。先程申しましたように、家庭の中の仕合せに歸着した形から飛び出そうという感じからやつたりそういうことを思い、もう一遍動機に出ようかと思つておりましたが、主人の職業柄でできませんでしたが、將來に備えて五年程前から、家でできることで、全く自分では出来なかつたことだと思つて、金庫コップと一所懸命勉強しています。主人だけでは話していますが、主人は、そんな夢のようなことができるものかと笑つていますが、先程参事さんがおっしゃいましたように、氣持をもつて、一所懸命やっているのです。現在ではそれが一文にもならないことですが、いわゆる家庭婦人であつても、自分のプライドをもつて、打返すということがとても生甲斐があることだと思っています。

傍聴人 理想論のようにになると怖いと思いますが――

外にないと思います。本当に人間として、誠実なものをもつてゆける程度の、小さな自分の道徳観というものを作つてゆきたいと思っています。それ以上はわかりません。

篠田 むずかしいことを考えなくても、家庭全体が、素直な、正直な人になりたい、そのために努力している。親が非常にまじめな暮らしをしているような家庭の雰囲気になりますと、正直は一生の宝とか、徳目を一々教えずとも道徳教育は自然にできると思ふのです。そして、みんなが幸福になれるような世の中にしたい、ということ、口で言うのではないしに、お母さんが、それこそ可愛そうな人があつたらそれは私達の力が至らないからだ、という社会人としての誠実な態度で、毎日の日常の在り方について、誠心誠意をもつて処理していれば、その子供は社会のために役立つ人になり、一々教育しないでも、自然に育つてゆくのではないかと思っています。

だから、道徳教育というものは、その家庭の自然の生活から生れてくるのだと思います。

庄司 学校の成績ばかりよくするのではなく、他人に協力できるような人を造り上げること。『子は親の鏡』といいますように、日常の親の生活自身が教育だと思ふのです。

司会 まだ御質問が残っておりますが予定の時間が参り

ましたので、これで閉じたいと思います。

(第一回閉会)

「いかにして日本の家庭を明るくするか」

司会 昨日の話し合いによりますと、日本では、まだまだ家庭の役割は明確されていないということでありましたが、日本の家庭を明るくするにはどうしたらよいのか、その方法について今日は討議したいと思います。

最初に所感文をお寄せ下さった方から意見の發表をして頂きます。

北海道の高木さんからどうぞ。

高木 秋、農家ですから、農家の経済状態について、おることにしてお話をしたいと思います。農家では今、換算に「今日は」ではなくて「ま、たか」と新しい言葉が使われています。それは、雑穀の上り下りのことを言うのです。農家の経済状態を左右しているのは、雑穀相場で、この相場は農協のメンバーによって各戸に各戸に伝達されています。でも農家の人は、世界市場に繋がる経済状態なんかわかりませんから、カンと経験で、今日は日本だから上るだろう、下るだろう、こんな具合で、自分が一年かかってとったものを売っているわけですから、それで、下手といえは下手なんです、一番下で売るときもあるわけなんです。

「私の家のような複雑な家庭では、子供達が素直に育っていかない。たとえば子供の意見がよいと思つてやっても、周りの関係で、親としてよいということができない。そういうところをお互によく考へて、よい時にはよい、悪い時には悪いと、子供の意見も通してやり、そうして明るい明らかな家庭を作つてゆきたい。」

「子供の育て方について困るのは、母の思うようにゆかない場合が度々起ることです。たとえば子供を叱つた場合に祖父母がその理由を知らずに子供を庇つたり、親に文句を言つたりして、子供に、親の言つたことが無理なような感じを与えて困ることがあります。親に任せてもらいたい——これはおじいさん、おばあさんに対するお願いなんです。

それからこれはとても明るい家庭です。私の出てくるのを、自分の娘が出てくるようにソワソワして仕方がない、と書いてある。

「ある程度の経済的余裕があれば、みにくい争ひがあつてはいけなない。お金は、あり過ぎててもなすすぎても争ひのものとす。

視野が狭いから、できるだけ時間を生み出して、話合の集いをもつことです。お互が笑うも泣くも、その意味をのみしめて自分を反省できればいいのです。自分も大いにモ

昨年は、小豆が一反から一俵とれたかそれないかという時でしたから、一俵一万円くらいでしたが、今年は私が来る時、三千円を上下していました。

そういうふうに、同じ物でも世界市場に繋がる経済状態によつて、私達の生活が左右されているということ、これは個人の力ではどうにもならないものだと思います。それが原因でよく夫婦喧嘩が起る。わたしは宛らうという時に宛らなかつたから喧嘩が下つたではないか、今宛らなければ上るとか下るとか、そういうような喧嘩が多いのです。そういうものに夜醒されています。

大島 家庭を明るくするには主婦に責任があるということといわれていますが、教師である私達にも責任があると思うのです。私がお母さんたちと積極的に語り合つていのは、結局受持つている子供の一番一軒の家庭をよく知つて、お母さん達の話相手をしてしながら子供も明るくしてやらなければ、ということからです。やはり責任が大きいことが原因で夫婦喧嘩が起る。それを子供達は正直に作文に書いて見せてくれるのです。それをお母さんは、初めは「君くんにはやない」と言いますが、わたしに、「先生、子供の前ではやめた方がいいですね」というようになってきます。出てくる時にそのお母さん達が手紙を下さつたのでそれをちよつと読んでみます。

ダンばあさんの積りでありますが、子供からは頭が悪いといわれます。一所懸命勉強しようと思ひます。」

また、私はこういうことをやっていて、家に帰るのがとても遅くなるのですが、一人娘なので、家で文句がです。今度は私の家庭を明るくすることに努めなければならぬと思つています。

佐々木 私は個人的なことを申し上げます。私の家族は夫、姑、子供一人の四人家族で、夫はサラリーマン、私は小学校の教師をしております。私は結婚してから子供が生まれるまで勤めていなかったのですが、どうして私が二無二職業に就きたかつたかということをお願いしたいと思います。

いろいろな夢をもつて結婚してみましたが、私は「妻にはなつたけれども主婦にはならない」という多くの嫁さんがもつ立場に立たされたわけです。それは、家庭では、姑の指図に従つて、あれこれをする人形的な存在で、結局私も弱い嫁の立場だったのです。なほ弱いかと考えると、当時夫一人の収入の中から一万二千円の家の月賦払いをし、その残りで暮らしていたので生活はとても苦しかった。家計は一切母がやっておき、私は苦しい経済状態にプラスになるものを何も持っていない。そこに私の嫁としての立場の弱さがあるのではないか。だから、この家の経済状態から

考えても私が経済的にプラスになる仕事を持たなければならぬ。そういうことによつて、ある意味では強い立場になれると考えた。それで、お腹が大きいのを、恥しいとも思わずに奔走し、子供が生れて二カ月してようやく小学校の先生になることができた。その間にはいろいろ問題があるわけですが、自分が経済的な力を持つことによつて、嫁という、経済的に弱い立場から、ある意味では脱却できたのではないかと思っています。

もちろん、就職してお金を持つてくるから明るくなつて強くなったということはあるんですが、母の心の中にも私の心の中にも、何か片付いたという気がします。主婦の役目は夫としてないが、妻という意味の主婦の立場と、それから職場——インワークとしての職場をどういうふうに兼ね合はしてゆくかということが今後の問題で、子供が大きくなるにしたがつて、愛情の繋りとかがいよいよ考えなければならぬ問題があると思います。母に今は経済を任せられるし、子供はぼちぼち、ぼちぼちとなつていっている。満足感があるようですが、二十五年も未亡人であり、子供をまた押し付けられるのは気の毒な気がしますし、年寄には年寄の世界があるのではないかと、そこをどう解決してゆくかということが、今後には課せられた大きな問題だと思います。

に淋しい思いをさせないことに心をくだきました。

家を明るくする問題とちよつと違ひますが——経済的にはたいへん苦しいので、子供達に消費的な楽しみは与えられませんが、自分に与えられた環境の中で、できるだけのことをしようと思ひ、学校が休暇になりますと、親戚の子供を全部預ります。大部分が都会育ちなので、来る子供達も「田舎はいいなあ」と再認識していますし、うちの子供も多動共同生活するといふのでとても喜ぶのです。私達の庭には、入植と同時に蒔いたセングンの木が大きくなつていますので、それに小屋掛けして、緑の家で勉強したり、時にはタイズ大会だの、アフリカ土人の猛獣狩りの真似をしたりしておられます。食生活の方でも、野草の多いところですからそれを生かし、タンボラのサラダを作ったり、グスパリとかブドーを植えて、それからジュースとか軽いお酒を造り、煙草なども自分で作っています。お客様も、生活に誇があるといふので喜んで下さいます。またそういう時に、田舎の子供に欠けていると思はれるテーブルマナーを教えたりしています。

キツネやモモンガーがなくて、毎日聞いていれば不思議でないことを、都会の子供は驚きするのです。すると家の子供は「田舎はいいな」と再認識します。狙いが当たたと喜んでいきます。

瓜生 稲井の近郷の農家では、四十になつても五十になつても、姑があつたら、やつぱり嫁さんと呼ばれる。そういう人も含めてですが、去年の暮でしたか、「あなたの一番嬉しいことは」というアンケートをとってみました。それによると「一番嬉しいのは、誰もいない時にお米を買いに来てくれることだ」「一日でもいいからゆつくり眠りたい」ということでした。

私の別は中気で四反ほどの水田と畠の耕作は三年前から私一人でやつておられます。その頃姑は舅のことが氣になるもので、家からは一つもしてくれず、五時頃帰つてきて、晩飯の用意が全然してなかった。子供はまだ数え年の二つでしたからそれにもとても手がかり、こゝろして家のこと全部が私の肩にかかつてきて、とても苦しかった。その年一年だけは黙っていましたが、がまんしきれず、そのことを姑に言つた。私が言つたことに對して、一時問題にもなつたが、夫年から今年にかけては、食事の用意だけはしてくるようになった。言つたことがよかつたか、腹がたかかわらないが、私としてみれば、仕事をすなわける、帰つて子供の世話を見るなら見る、という時間があるようになっただけいいと思います。

参木 私は終戦の秋朝鮮から引揚げ、今一の宮の開拓地にいます。開拓地は僻地の地にありますが、二人の子供

悪いことは貧乏だけですが、病氣さえしなければそれは時が解決すると思つています。

吉岡 私の家庭は明るいと信じておりますが、暗い面もありました。子供が大きくなつた時、学資の密蔵にもなり、母の独立にも役立つと思つて試験を受け、保母になりました。四十才を過ぎて記憶力が乏しく、児童憲章を子供が先に覚えてしまふくらいなので、当時商校二年の長男は心配して、ピタミン分析表はこうだとか、心理学の方の忘却曲線と学習曲線はこうだからなどと勉強のしかたをいろいろ教えてくれたものです。それで二ヶ月後、試験に通つた時はとても喜んでくれました。

私は、意欲を持たないなら死んだ方がいいと思います。今は連日の勉強をしています。今年中には〇クラスを受けようと思つています。その次にすることもあります。次々に実績を挙げてゆくが、夫も別に損はしないだろう。夫が停年になる頃までには、お小遣でも上げられるようになります。悪妻は六十年の不作とは言つた。六十一年、ぐらゐから平年作になると夫に思われるくらいに過ぎつたと思います。思春期にある三人の子供達は、この父と母を慕ふしい顔をして眺めている。おやじは心の真直ぐな人間だが母ちゃんとは合はなうと言っている。「こめんよ。でも案じてくれるな、母ちゃんでも結構楽しいから」と説

ている。「まあいいさ、いまに孝行するから」というが、
とんでもない、自分のことだけ考えればいい、自分は生ん
だだけの責任をとっているから、とアケスケに行つて、明
るく暮らしています。

正木 私の家も、七年か八年前までは木当に暗い家庭だ
つた。その原因がどこにあるかいろいろ研究してみたが、
年寄が纏われているということ、卑屈感とか劣等感と
いうか、それを持っていることが、家の中を暗くしている
一番大きな原因であるということに気が付いたので、こ
れの解決策は、やはり年寄も何かの役割を持つて、家の中
の生活に貢献しているのだという自尊心を持たすことだと
思い、まず、仕事を分担してもらいました。それから、
そうした仕事に対する報酬を与えることを考え付いたの
で、最初は月三百円をあげ、益々正月にはボーナスを出し
ます。そうしたことによつてだんだん卑屈さから解放され
て、姑が何となく生き生きと、自分の生活の中で満ちし
てくるという態度が出てきたように思います。今では、月
千円を与えており、それにボーナスを加えますから、一年
間のおばあさんの収入が一万五千円くらいになる。これは
別に自分で使おうともしないで貯蓄しているようです。
そうした経済的の面と、仕事を与えるという二つのこと
の他に姑とつとめて話し合ふようにしております。この考

た。それから四、五年——いつまでも人の情に頼っていて
はいけない、自分で自分の道を切り開いてゆかなければい
けないということを感じ、心の持ち方も、悲しみだけに捉
われないで、明るい考えを持つように努力したわけです。
それからいろいろと苦勞もしましたけれども、二十八年
の四月に保母試験を受け、保母の免状をとり、母子相談員
として県庁に就職しました。それからやつと私の道が開け
出し、その私には生活改良普及員の試験に合格し、今は農
業改良課に勤務しております。こうして私の身分は一応保
障され、家の生活がだんだんと安定し始め、夫のない、不
完全な家庭ではありますが、物質的な面、あるいは精神的
な面の安らぎの上に立つて私の家に光がさし始めておりま
す。

家庭を明るくする方法として、子供達と申し合せをして
おります。その後つかを市し上げますと、人に迷惑をかけ
ないようにしよう。早起早寝を実行して健康であるように
心掛けよう。母である私は子供の人格を尊重して、どの子
供も公平に認めてやるようにしよう。人のアラ探しをしな
いで、人のよいところを認めてゆくようにお互に気を付け
る。それから、人にも物にも深い思いやりをかけよう。仕
事の分担を決められたらそれに対する責任をます果そう。
家族の者にもその他の人にも秘密を持たないようにしよ

等感を持つということが、家族の誰にあつてもいけないと
思う。子供に劣等感があつても、主人に劣等感があつても
いけない。私は自分の家庭を明るくするのに、家族がみな
劣等感を持たないこと、自信をもつて生活してゆくこと、
これが暗い私の家庭が現在のような、皆さんから愛され
るような家庭に育つてきた大きな原因だと思います。

しかし、私の周囲にはまだまだ暗い家庭を持つている方
がたぐさんありますが、そういう家庭を救う道は、隣り近
所が話し合い、悩みを取り上げて、一緒に改善してゆくこ
とだと思ふが、今大きな壁にぶち当たっているわけです。そ
れはお話し合いをしように思つても、みんなカラに閉じこ
もつてしまつて、自分の生活を人の前に出さない。これは
家庭の主婦の一番大きな欠点だと思ひますが、これができ
ない以上は地域社会の家庭を明るくするということがおそ
らく不可能だろふと思つています。私は一所懸命隣り近所
の方のお話し相手になつて、世の中にお話ししたいと思つ
ております。

武政 私の家は子供三人の母子家庭です。主人の職死後
間もなく爆撃を受け、二ヶ月ぐらゐの間に二重の痛手を受
けたわけでした。その当時は私も、考える力も生かす力も
ほとんど尽き果てたという悲しみと苦しみにも打ちひしがれ
て、泣くよりほかになす術を知らなかつたような状態でし
て、大らかな気持であること。こういったことが主なもの
です。よその母子家庭と比べて私の家が爽やかと思わ
れることは、みんなが自由であるかわりに、それぞれ責任
を果します。今年十一才になります一番下の子供ですが、
自分がいないと家はたいへん困るのだという自覚と誇りを
もつて生活しているわけです。

司会 家庭を明るくするためにそれぞれ努力していらっ
しやることを伺わせて頂いたのですが、今のお話で御質問
なり、あるいはもっと具体的な方法を聞きたいとかいうこ
とがありましたらどうぞ……。

庄司 私は勤めてはおりませんが、つい最近講習会の役
員を引き受け、その会議のため一日おきに十日間位家を留
守にしたことがあります。今まで私からちつとも離れたこ
とのない二人の幼児が、母親に離れつかれては出られて、
十日間離れられ続けたのです。ところが、その中に、だ
んだん子供が荒れてきた。自分が少し勉強したいと思つて
出たのに、こんなに子供を荒すようだったから自分の知識が
高まるためにかえつてこれだけの犠牲を払わなければなら
ないかと思つて一回はやめようかと思つたが、何か方法が
ないかというのを考えました。

今までよく面倒をみて、一緒にいたのが離れたために荒れ
てきたのだから、なるべく抱き上げるとか、買物に行く時

はいつも手を引いてやるのか、偶にはお風呂に入れて長く水遊びでもして遊んでやるというように一緒にいることに氣を使った。そうしたら割合に早く元通りになりました。その間に多少、私が出ることに對しても子供の方でも納得してゆく状態になつてきて、この頃は割合にうまく出ております。私は義親施設におりますが、その高校生中学生になると、態度が變つてきます。一番初めグレてくる。すたような場合などは、最初つとめて話し合をするようにすると、悪くなりかかった子は口を割らない。それで野球の好きな子はヤッチボールをして遊んでやつたり、子供の好きなことは下手でも相手になつてやる。お風呂なんかも女の子と一緒に入って、向うが何もやらない中に背中なんか一所懸命流してやると、子供の方でかえつて悪くなつて、以前よりかえつてよくなつたりします。

このように幼児の場合は、接觸感を満足させてやるということ、大きな子の場合は一緒に話し合つてやるということがとでも大切ではないかと思つております。

大江 今の御意見で、幼児には接觸によつて愛情をお互に繋ぎ合わせるということは賛成ですが、小さいから觸かすということは根本的に反對です。

庄司 觸かしたことは、私がただ講習会に出たいという欲望を満足させる手段だから、とてもそれに情みました。入れが話題になつていた頃だったのでその話になり、私は受入れない方がいいという意見を申しました。またそのことから戦争の是非についても絶対反對という意見を吐いたわけです。そうして、皆さんで立上るうじやありませんか。と呼び掛けたのですが、その時グループの一人が「誰でも賛成しそくない意見だけれども、わたし達は警察官の妻である。砂川の問題にしても、基地を作るのに反對しようとする地元民は警察官はやり合つて、まず坑を打たせようとする側ではないか。そのような場合に、その家族が別な方向に立上るのはいけないではないか」ということをいった。そうしたらみんな、ほんとうにそうだ、という顔になつて、私だけ取残されたようになつたのです。その時はシェンとしたが、いくら警察官の妻でも、戦争反對には立上りたいと切実に思つてゐるのです。

いつかの新聞にもありましたが、弾丸を造る工場に働く人が、戦争に反對でも弾丸を造らなければ生活できないという氣持と一語だと思ひます。砂川の問題でも、警察官自身も、どんな氣持でやつたかということになると、割切れないものを持つてゐる。それをいわれた奥さんは、切実に言いたいならあなたの御主人に警察官を辭めてもらつて、一百姓として立上るべきだ、と言つた。しかしうちでは辭めてもお百姓にはなれないし、食わんがためには続けなけ

これは私の失敗です。

大江 そこに、今の時代に生きてゆく人と私共の時代の年令のズレがある。私共は昔の考え方で騙すということがあつたのです。ところがこれからの行き方は、子供は自分のものではない。一人の人間であるという考えで、買物に手を懸いでいらつしやるのめいと思ひますが、多勢の人は込みの中に赤ちゃんを連れてゆくのは悪い。一人で留守番させるのはいろいろな条件が揃わなければできないが、子供はいつもお母さんと一緒にいられるものではないということを小さい時から習慣にするのが一番大事ではないでしょうか。

①主婦の向上と家族の理解

司会 私達が自分の知性を高めるために行うことが家庭にとつて、何らかを犠牲にするのではないか、ということについて皆さん氣をもつていらつしやると思ひますから、子供のこののみでなく家族の問題もあわせてお話し下さいませんか。

篠田 みんなと一語に向上してゆきたいということから近所の警察官の家庭の婦人に呼びかけて、讀書グループをもつたのです。讀書グループといつても講習会だけではなくいろいろな話し合もするのですが、ちやうど讀書クラブの受けばならない。警察官は民主主義を守るためにあるのではないだろうか。

松崎 青岡さんに伺いたいが、私と年令的に近いのでその總明な生き方に感心したのですが、ただお見受するとあまりお丈夫でもなさそうだし、私も社会に引つ張り出される度数が多くなつて、主人とか、子供のことを考える氣持だけはあつても、非常に身体的に疲れて参ります、思ひやりなんかでもなめらかに出てこないで、非常に妻としてのやさしみも欠けてくるし、母親としての温かみも感じないことになつてくる。肉体的な疲れということをどんなように解決していraftしやるかお聞きしたいと思う。

吉岡 私は物事を後向に考えないのです。済んでしまつたことは何も忘れて、暗い前は見えて見えないことはなすが心にとめないで明るい方ばかり見て歩きます。わりに身体が疲弊しませんが、よく眠るということを一歩の条件にしています。

もう一つ、勉強時間を作るため、家事労働の方には、いくぶん給料をさき、氣持よく働いてくれる女の人がありますので、時間的に洗濯を頼むとかして、勉強時間を買ひ取ることにしております。

司会 ではこの辺で、先生の御意見を伺わせて頂きまし

よう。

伊藤 まず、いろいろな問題があった時御主人がいった何をしたか、その発表が少なかつたように思うので、皆さんよく苦勞をされて、努力しておられて、立派な成績を挙げておられることはわかつたのですが、何か母として、未亡人として、嫁としての苦しみが出ただけで、その中にあるべき夫が全く無視されている。御主人の理解とか御主人の職業という問題——御主人の職業ということは藤田さんから出たが——そういう点で、お互にお話しを少し進めて頂きたいのですが。

鈴木 引揚げて参りまして、まごまごしていると死んでしまふというので、いつも一身同体でやってきました。

大江 私は一身同体でなく、何もかも違う生活で、両方とも家をあげる機会が多い。主人は医者で帰りが遅いから子供と接する機会が少ない。また私が出ている時に子供と遊んでいる時もある。主人が留守が多い時は主人の生活状態を子供達に話してやります。たとえば、子供の寝ている時に往診があれば、「夜は手術があつてたいへんだつたから刺させよ」といふふうにして、お母様はこういふところがなかなかえらいんだな」といふことを言つてくれる。欠点も長所も人間らしい面を子供

木当に私が誠実な人間だつたらたまらないという気持ちをぶつけて相手のおなかを潤いて、自分の気持ちを投げ入れたでしようが、もちろん風波を立てるのは嫌だから喧嘩したこともなく、外から見たら理想的な明るい家庭になっているが、本当の意味で夫と話したことがない。というところから、非常には仲がいいのですけれども、真実のふれ合というものはない。毎日一緒に御飯を食べて暮しているのですから、私の生活に夫の良さが入るのが当たり前ですが、何か夫を他のところに置いて、私は一人で歩んでいるという状態です。しかし終戦後十年経つたこの頃、真実がふれ合えないような夫婦生活の下で営まれる明るい家庭は本当はあり得ないで、夫と真実がふれ合うような夫婦仲になつて始めて営まれるのじゃないかと思うようになりました。

瓜生 主人はいつも家にいないのですから、家のことにはあまり口を入れないのですが、例えば脱税機の購入の時など主人に相談したところの方がいいだろうといふてくれたため自分も勇も賛成し購入しました。このように一応主人が中に入つていいようにしてくれませんが、あとでは主人が私の言う通りにするといつて、両親に不満があるのです。

佐々木 私の場合は年も若いのですし、それはどの断層はないが、たとえばわたしがこういふところに出たというこ

にお互が話してやります。

森田 さつき参本さんは、夫と二人で共同戦線で、否応なしに生活の苦しみと斗つたとおっしゃいましたが、私の場合は主人が先に内地に帰り、私が一人満州に残され赤ん坊を生むとすぐさま終戦となり、避難民になりました。乞食と紙一重のような暮らしをしながら、街頭で物売をしたり、皆様には御想像のできないような苦勞をなめて、子供も死なさず、一年経つて内地に帰つて参りました。私は敗戦ということに際して、人間が変るほどの試練を受けたが、内地で待つてくれた夫は、受刑の許でぬくぬくと敗戦という事実を迎えたので、価値をたくさんもたらえてよかつたという程度にしか終戦を感じなかつた。

私はとにかく女一人大膽を言ふような、ソ連人、満州人中国人を相手にそれこそ血で血を流すような場を運つて参りましたのに、主人はそういうふうな親の下で坊ちゃんみたいで顔で暮してしまつたので、一緒にいた時は不足のない人でしたが、二人の通つた生活経験で、もの考え方が變つてしまひ、それが未だに夫婦生活の根本的な溝になつていふように思えます。

私はその主人を見て、何といふか……嫌悪したのですが向うは私を、非常に慕恩の強い、ものすごい女になつて歸つてきたと思ひ、何ともならないようになってしまつた。

とも、主人にとつては有難くないように受取られる。女が書いたり、ものを言うということに対して、とても背風な考え方の要素を多分に持つていて、それが埋めることのできないほどの断層ではないが、多分に私が努力をしている。そういうことを考へると、結婚の前に、よく話し合つておくということが大事で、結婚ということは家庭を明るくする大事な要素ではないかと思ひます。

司会 それでは伊藤先生に今までのお話のまとめのようなことでお話し頂きたいと思ひます。

伊藤 皆さんはどうして明るい家庭を作つたかという体験をお書きになつたと思ひますが、今お伺ひしてしまつたらその明るいというものは、あんまり明るいというところ。結局日本の家庭というものはまだまだ明るいところ。よすが、今日ここにお集りの方のお話をお伺ひして感ぜられ、また考へなければならぬのは、やっぱり戦争の痛手ということですね。高知の武政さんの場合、未亡人になられた。それから引揚の方がお二人おられます。それぞれ立場で、非常に大きな経験をされてきている中から勇氣も出、思想的にも深まるどころが出てくるわけでしょう。それから夫の職業とか、夫のものの考え方と妻のそれとの対立と申しますか。矛盾、どうしてもお互にソツポを向いて

いるという考え方というのは、森田さんの場合にも、篠田さんの場合にもある。篠田さんの場合には警察官の妻としての非常に深刻な悩みがあると思います。職業と政治とか職業と戦争とかいったような、非常に大きな問題も含んでいると思います。そういう場合を考えますと、戦争の痛手というものを、したがつて、国家の政治というものを、主婦として、妻としてどう考えてゆかなければならないかという問題に直面していると思います。

もう一つの問題は、明るい家庭といっても、戦争だけが暗くしているのではなく、御夫婦をろっておられても、主人の理解とか、あるいは家庭をさすいてゆくために、男子が亭主族がどれだけ協力しているか、という問題もでたと思えます。みんなが一歩しりぞいて、遠慮して、がまんしてそうして苦勞して、五福のラング位のもので明るくなつた。それも勿論光がないよりはいいが、やはりそこに男性の協力という問題が起つてこなければならぬ。

それから皆さんのお話を聞いておりました、非常に勉強しておられる点、肉体的苦勞、努力、生活技術は勿論ですが、その他に自己をみがき、自己を深める方向への努力がお伺いできたわけです。それは鳥取の吉岡さんの場合なども、問題はどれも、複雑だと思えますが、御主人との理解の度合ということもあるが、なんとかしてその中で自分が

本さんなんかは、やっぱり、国際市場というもので考えて、少なくとも高木さんの世代の人達がそれだけ考えている。これは日本の女性として大変な前進だと思えます。家庭の問題を考えるにも、家庭の中に経済の問題、愛情の問題など、いろいろありますが、どうしても視野が、もう一つ広くなければならない。しかも自分だけ苦勞する。明るくなるのではなく、個人という限界があるならば、それを突き破るにどうしたらいいか、篠田さんからも読書会をやられる苦しさがましたし、大島さんからは別の立場から、母親としてよりも農村のあまりに遅れている母親を、子供をつなぎとして、一生懸命高めてゆくという努力、そういう意味のお話し合いをもう少しどうでしょうか。

◎日本の家庭は明るい

―社会保障の問題―

司会 では、今度は、私達の周りを見過してみまして、日本全体の家庭はどうかを考えてみたいと思えます。今まで皆さんがお話しやつたような個人的な努力も大切ですがそれには限度があります。そこで「日本全体の家庭を明るくするにはどうしたらよいか」ということについてお話ししあってみたいと思えます。今まで御発言なさらない方もどうぞ……。

生きてゆく、しかも子供をほらかに育てている。ということがお伺いできて、参考になったと思えます。この点についてもやはり夫との協力とか、主婦のありかたとしての大きな問題があると思えます。皆さんのお話と、神楽川の佐々木さんから、なかなかおもしろい、共感の家庭における夫婦理解の問題と、姑の問題もでていたと思いますが余体を通じますと、やはり自分の家庭が中心の問題が出てきたと思います。自分の家庭における姑と自分、嫁、それから嫁と夫の問題など……。子供の教育に関しては、はっきりした目標を持って、はっきりした人格の尊重された、人間の育成につとめておられる。そこには問題がなかったと思えますが、ただ自分の家だけでは解決しないという問題がある。それは非常に素朴な姿ではありますが、北海道の高木さんから出たと思えます。

私達をういた方面の知識がないのですが、農業をやっている人達、水田ばかりをやっている人達、稲の値段は国が決めてくれる。おれ達がなにを言っても職員だといつて景気とか、時の動きに鈍感……といつては悪いかもしれませんが、他に難装を作っている人とか、それから果実を作っている人は、非常に敏感なんです。それで果実などを作っている人、科学的知識が要るので、科学的な合理的な考を方。それで北海道の大変なところの農家でおられる高

瓜生 さき程私が申しましたアンケートの「お米を誰もいない時に買いに来てくれるのが一番うれしい」というのは家にいる女の人がお金がないということ。年寄りがお寺参りをしたり、主婦が子供にあめを買ってやりたくても金がない。若い者は自分の買いたいものも買えない。それで誰もいない時に一升、二升の米の売れるのが非常にうれしいのです。これについて部落の実行組合を通じて、一年の収入のうちお嬢さんにはどのくらい小遣をやるうとかおばあさんにはお寺参りのお金をどのくらいやるうとか、収入に応じて話し合いをしようという動きがでつつあります。私の友達で、一昨年から一俵分だけおばあさんにやると決めた人があります。

松崎 一応ここにおられる方には明るい方の家庭ではないかと思いますが、精神薄弱児とか、耳が聞えないとか口がきけない特殊児童、それから小児麻痺をわづらっている、そういう人をお子さんに持った家庭の人々は本当に暗い考えを持っておられる。とかく暗く沈みがちな家庭を私たちがもう少し温くみてやらなければならぬと思います。

三谷 今の問題につながると思いますが、社会保険制度の充実ということ強く感じます。私は教育庁に勤めております関係上、資料やデータでそれを身近に感じておりま

すが、たとえば長父兄の調査によると、欠陥理由別の中に家庭の無理難題が一番多い。次には家計の全部又は一部を負担させなければならないということ。三番目には本人の疾病異常。それから勉強嫌いという理由も出ているが、生活保護法により生活扶助を充実させたら、その子供が学校に就学することができると考えられる数字が大きく出ています。その点からも社会保険制度の充実ということを一番強く感じます。義務教育はすべての子供が受けられるという権利がせつ々しくあるのですから、それが実際面にも不幸な子供達に与えられるようにしてほしいと痛感します。

それからもう一つ、子供に家計簿を知らせるということも大切ですが、うちは言えだすと子供に常々言っていたら、子供が羨望してしまふ。義務教育の無償が大きいわれながら、教育費はすくなくかかる。たとえば学校で先生から明日「工作材料を買い替えていらいしやい」といわれて家に帰ると家計簿をのらんでみて、子供がこれを買って欲しいといえない。そのために学校に出てこれない生徒の数がずいぶんあるのです。

松崎 精神薄弱児とか特殊児童対策としてなにか……

三谷 近江学園のような収容施設があるが、空の体面とか、恥になるとか、世間体ばかり考えていて、裸になり得ないという面が女の人に特に多いと思います。やはり裸に

なりあつて、もっとみんなが幸福になるように隣の人も含めて考えてあげるといふ態度が必要だと思います。

大江 福岡にしいのみ学園がありますが、私立ですのでも経費の關係で本当に困っているお子さんは入れない。ですからそれはどうしても国家でしてもらわなければならないことです。

大島 私の小学校には特殊学校はないので普通学校で七、八カ月のそうした子供を持ったことがある。お父さんはアルコール中毒、お母さんがその子を妊娠中に何か強い注射をしたとかで先天性ですがひどい狂暴性で、物を投げたり、バケツの水をこぼしたりしてI・Qがうんと足らない。正常な他の子供の中に、このワロチャロしているネズミのような子供を並べてどうして勉強を教えようかと思つた。そこで抱いて養育を半年やり、それから施設に入れたといふお母さんの要望もあつて、あちこち探しましたがなかなか見つからず、やっと次の年の四月に入れるようになりました。先生達が大きな自動車をとか、積木だとか、輪投げだとかうんと沢山おみやげを持たせてくれて連れて行つて入れた時には涙が出た。当分面会に来ないでくれといふが、ソツト行つてみたら「先生」といって、ボクなんかにさわりに来る。「お母ちゃんどこにいる」ということぐらゐで、自分がどこによこされたかわからない。それでも落着

いてよかつたと思つています。

参木 そういった自己犠牲とか奉仕とかは立派だとは思いますが、お情にすぎるようなことをしないでこれはずべき責任だといふ世論をもっと大きくして社会保険をもたなければいけないと思います。

大江 今のお話は小さいからいいが、地方の会議で出たのは、もう思春期になつていて子供のことでは知能年齢は低いけど身体だけが發育しているの、母親としてどんなようにしていいかと悩んでいる。自分だけの問題ではないので成長した精神薄弱の施設が必要だと訴えている。

森田 社会保障制度に關連してのことですが、日本の家庭の暗さというものは経済的な問題がからんでいる。幼稚園で姑のいる家庭を調査した時、ハッキリ出たのは、上流の暮しをしている時は頭の古いおばあさんがいても一向嫁と姑のあつれきがない。また、ニコソンをやっている家庭もやつぱりいさごさがない、というのは、おばあさんの労働力でお金儲けをしているからです。一番問題があるのは中流以下だ。

それで、私の家は次男ですから、そっくり老人を預かる必要はないが、一月の中十日やってくる。これで一番困るのは経済的なことです。十日預かるから十日分だけ扶養手当をもらうのでなく、おばあさんの十日間の生活費は私達

の生活費から無理に出している。もしもおばあさんに財産が付いていたら子供はおばあさんを利用するのをあんなに嫌がらないと思う。

せめて外国のように、養老年金でもあつたら預かる子供だつてもう少し気安に預かれると思う。お金がないので孝行ができないということもある。また、おばあさんが頭が悪いということの中には、経済的な能力はもたないしお金はもたない。だから誰々にくっついて暮さなければならぬという非常な卑屈感に、よけい心がゆがんでいる。もし三千円の年金がもらえたら、卑屈感もなくなつておばあさんとしても気分が明るくなるのではないか。嫁と姑の問題は、お互が傾し合つてというようにできなく、国家がもう少し本気で取り上げて、予算があれば年金のようなものを老人に上げてほしいと思う。

◎私達は何ができるか

司会 時間がないので次の問題に移りたいと思います。社会保障が完備すれば家庭を暗くしている問題が片付くとおっしゃいますが、直ちに完備させるわけにはいかない。私達が与えられた自分自分の立場で日本全体の家庭を明るくするためにどのようなことができるか、さつき女の人の見解とか、いろいろ精神的な問題も出ていたやうで

したが、今私達は何に出来るかという問題をあと十五分
間討議したいと思ひます。

大島 ここで話すだけでなく、こういう問題を考える仲
間をたくさんふやすことだと思ひます。私達は学校に勤め
ているので一番やり易い。自分一人の胸の中で考えるだけ
でなく、やさしい言葉で隣りに話してやることだと思ひま
す。

藤田 私たちのことを一所懸命にやってくれる議員を違
ぶのが一番大事だと思ひますが、そのためには勉強しなけ
ればなりませんし、それと同時に今の御発言にもありまし
たように、自分の周囲の人達の世論を少しづつでも大きく
格上げることが必要と思ひます。

森本 広い知識を身につけて、よい悪いの価値判断をハ
ツヤリ自分ですることだと思ひます。

三谷 樹木だけを主張せずに、義務も合せて履行してゆ
くことだと思ひます。たとえは職場の問題で、この頃女は
厭厭的な気分があるから採用しないといわれていますが
女の人も甘い気分でないし、男の人と同じように……と言
うと語弊がありますが、与えられたところに対して、最善
の努力をするという心構えが大切です。

大江 また、周囲の眼も問題だと思ひます。地方に行け
ば行くほど、近所囂といわれるほどやかましい。ですから

周囲の問題にしないようにすることが大事ですし、本人も
気にしないことが大事です。そして結局よい人間関係を作
ることだと思ひます。

森田 女の人ばかりと政治知識を身につけなければなら
ないと思ひます。

社会保障制度を確立してほしい。といつても、それはど
ういう政党が現実をやってくれるかということに正しく返
答できる女の人はいないと思ふ。予算が出されても、今年
と去年と較べてどうか、社会保障費はどうなっているか
ということ、嫁と姑のことで苦しむ人ならなおさらの目
タカ目で、不足を言えばいいと思ふ。しかしそれは理想
的な話で私の周囲の婦人を見ますと、予算どこでなく、
それこそ、私は戦争に反対ですから自由党に入れます、な
どということは朝飯前のごときで、何も知らない。そういう
人に知らせるにはどういう手段をとるべきかということ
を考えなければならぬと思ふ。

家並に入っている地婦人団体はあまりこういうことは
やらない。えらい会長がいてお茶を濁しているのが多いが
止めてこういう會議に御出席になったような進取の女が
勇氣を出して、最寄りの婦人会に飛び込んで、そういう人
を啓蒙して、日本の婦人団体に知識をつけることだと思ふ。

高木 森田さんのおっしゃったことと全く一致するので

すが、あらゆるものが政治です。極端な言い方かもしれま
せんが、鳩山さんなんか、世の中が面白くて仕方がないと
思ふ。思ふことみんなやってけるから——私達のよう
なものがいくらジタバタしてもやっぱり権力を持たなけれ
ばならない。だからわたしたちのことをやってくれる政党
を選ぶ知識を持って一票を投ずること。

佐々木 皆さんと全く一致するのですが、私の仕事であ
る教育に関連して、教育予算が防衛費に比べいかに微々た
るものかということ職場の方達と話合せて、そのあと
には何をすべきかということをも本当に話し合いたいと思
ふ。

男の連中は、僕達が五、六人話して何になるかという
が、五、六人じゃなくて五、六十方から先生方がいらっし
やるのではないかと思ふ。だから職場の問題として、教育予
算のことなどを考えたいと思ふ。

瓜生 私は、もと勤めていた時に税務関係をやっており
ました。申告の時には女の人に来ない。土地台帳のことな
ども、女の人には自分のところの図面さえわからないとおっ
しやった方がありますが、税金の問題にしても、女の人
がもっと関心をもってよいと思ふ。

伊藤 この二日間の會議で、非常に抜けているものが二

つある。たいへんな忘れものがあると思ひます。それは、
姑の言い分を聞かなかつたということですね。姑がここ
に二、三人おられたらどういう気炎になったか聞きたか
つた。

もう一つ、夫とか、男性の意見は何もなかったとい
うことですね。

教育の点では、自分の子供を考えるとということだけでな
く、身体障害児童なども考え、それを施設にやらなければ
ならない。その施設がどんなみじめな姿ではうり出されて
いるかということまで考えたのはさすが立派だと思ふ。そ
れを實際にやっておられるかどうか、御意見としてお伺い
しましたが、これからの皆さんの御努力だろうと、考えさ
せられました。その他社会保障という問題、それが国家予
算に繋がるという問題、つまり、経済政策と政治というも
のが、今日満足すべきものであるかどうかということまで
当然ゆきつ問題が出たと思ひます。

さらにそういうことを、すべて経済の組織が悪い、政
治が悪いと言っているだけではなくして、ちやうど参政院
を得られて十年経った今度の記念すべき會議に、その自分
達の持っている一票を具体的に正しく使うということが日
本全体の家庭を明るくするという意味では、その一票とい
うものの使い方ということまでお話し合いが進んだとい

うことは非常に私は敬意を表し、こちらが勉強をさせられた、というような気持ちです。

ただ、皆さんの中からも反省があったのは、一人一人がそういうことをやるというだけではどうしてもためなもので仲間を——あるいは近所隣りの人、近所姑、逆にこちらに味方するという努力がなされなければならぬ。それには、この会議にあまり出なかったと思うが、家族会議といったようなこと、それが讀書会の形であり、話し合いの場であり、親子だけでなく近所、グループ、職場において、そういうことを進展しなければならぬというお考えが、大体話し合われたのではないかと思うが、ここでは結婚論を出すのではなく、自分達の悩みやら、やろうとすることを話し合う、そういう意味で、皆さん方もそれぞれのお立場でいろいろの体験を交換されて、今後の御活動、あるいは今後の家庭の在り方というものを考えになったのではないでしようか。

日本の政治とか経済とか教育とか、すべての仕組、家庭の家庭が置かれていく仕組を考えるためには、どうしても特には親の立場としては、子供の将来ということを考える場合には、どうしても、私達がどんな時代に生きているのか私共の家庭がどんな政治の中に置かれているのかということとを、やはり主軸として、妻としては考えざるを得ないの

んある。そうした悩みなどを、皆さんどうお考えになられているか。

武政 不完全な家庭が救われてこそ始めて日本の家庭は明るくなると思います。夫婦揃って貧しいながらも仕合せな家庭生活をしている方は、何とかやってゆけると思いますが、そこまでゆかない、その線より下の家庭が引上げられてこそ日本の家庭すべてが明るくなると思います。

特別傍聴人 俊達はこのから薬師しき結婚をするので伺っておきたいが、たとえば僕達の世界では、結婚というところも、妻は妻としての生活、夫は夫として、人間を高めあっていることを理想としているのです。その場合に、妻だけが夫より先に出てしまふということも考えられる。森田さんのような薬師しき方と結婚した場合には、心配になりまされたので、その点を一つ。

森田 非常に困った質問だと思うのですが、それはい人格そのものの問題だと思えます。もし私が本当に薬師しき人間だったら、私と考えの違つた主人を、もっと愛情をもって、私の心を共通するように努力したと思います。しかし私は今の日本によくありがちな、女のタイプで、育てるといふ態度を持ち合わない人間ではないかと思えます。

満洲から引揚げて、非常に封建的な家庭に帰りました

ではないか。そういう意味で、この会議だけで終ることなくして、これから始まるんだ、皆さんのお考が、実際に日本の家庭を明るくするために、一つの力となり得るかどうかは、今後の皆さんの御活動に期待したいと思うわけですから。(休憩)

◎傍聴人との質疑

特別傍聴人 私は労働組合に所属しておりますが、私の周囲にいる御婦人の方は、昨日から聞いている皆さん方が段々迫ります。職場には資金が非常に安いために、夫婦でやうと食っておられるという共働きの方が相当ある。子供が生まれても、養つてしまえば生活がでないし、また近所の託児所に出すには費用がかかる。それで里子に出してしまつたという例があります。こういう問題について、何か皆さんの中で、いい経験がなされていることがあればお聞きしたいと思います。

(回答なし)

特別傍聴人 僕も今の米山さんと同じ感想をもつています。日本の家庭を明るくするために、ということと共通に言いますと、暗い家庭がたくさんあるということです。昔々であつて、そのために暗くなつてしまふということがなくさ

が、その封建的な家庭に負けないで圧迫をはねのけただけで、圧迫した人を、本当に私を理解するように育てなかつたのです。本当に立派な人は、人間の質を変えるだけの誠実な努力をすると思う。私の教養というものは私の人格を質的に向上させる、本当の教養ではなかつたのではないかとと思う。私は圧迫の下で苦勞して周囲の人を明るくした、誠実な人の言葉が聞きたいと思つて、この婦人会議に参りました。

森田 私は、森田さんのおっしゃったことに身につまざれた感じがしております。私はそれを笑ひ返すためには夫を大きな愛情で包むことだと思つたのです。私はあまり率直には育たなかつたから本当は主人から愛されたい。甘えたい。しかし方法を変え、自分が母親のような、大きな気持で、引立てた……という悪いが、それが巧くいったと思ひます。

大江 夫は妻に何か尊敬されるものを一つ持つていれば妻の教養に引きずられなくても、話し合いで解決できると思ふ。だから夫の心得としては、根本的に何か妻と異質のものであつてもいい、尊敬されるものを一つ持つてほしい。尊敬されるものを一つ持つて頂きたい。

森田 私の結婚というのは、見合して結婚するまで一週間くらいしかなかった。いろいろ家庭の事情がありました

ので、相手の人はいい人だな、と腹をしたような結婚をした。これから結婚をなさる方はおそろくこういう目論的な結婚をなさらないと思いたすので、私のようなことはおそろくないと思いたす。

傍聴人 武政さんが子供たちと申し合せをしていると話されたがそれを守らなかった場合、またよく守った場合等どういうようにして子供を養ってやっておりますか。
武政 子供が責任を果してくれた場合、本当によくできたと言葉を尽してはめてやるようであれば実行できな

い。
長女は秋事万端を引受けますので、あなたでなければできない、とはめてやります。長男はまき畑とか水汲とかをするのでこういう力仕事はあなたでなければできない、とはめてやります。最下の子供は掃除の手伝とか、冬の寒い時に湯たんぽを入れたりしますけれども、私が帰るまでに湯たんぽを入れて床の中を温ためて、帰りを待つてくれる、それも、フヤちゃんではなければできない、とはめてやる。何か遊びに夢中になって、しなかつたり、上組の左時、あまり叱らないように、この次は忘れずにしてくれるおねえというようにしておく、あなたはこれをしておこなったからおねえはこういう迷惑をしたから、この次はこういふことのないようにしてちょうだい、人間は

ますか。

大島 親は古いと一言で言わないで、その古さがどういうところから来ているのか、農家ならば口をままとったお母さんの下にかくれている苦勞を温くもみほくしてやる態度をとっていただきたいと思いたす。

司会 次に結婚の立場からの御質問をどうぞ。

傍聴人 私は結婚の三年生で、毎日悲喜交々の生活をしておりますので、皆様が現在の生活——経済的な王座とか住宅問題とか、そういう条件の下に、どういふおねえさんが皆さんの理想であるか、聞かせて頂きたい。

それから、皆さんが年を取りなすつたらどのようになつてお考えになつてゐるか、遅ればせながら勉強したいと思いたすのでお話を頂きたいと思いたす。

瓜生 結婚の立場、というとおかしいのですが、いつも年寄りの方の話を聞いていて思うことがあります。一番先に番館の挨拶があつて、その次に、「嫁さん今なにしているの」と聞く。嫁は、私が主人の箱物や子供の何か作つてゐる場合でも「さあ、何かしら自分のこととしてゐるでしょう」と話す。そしてそれを聞いた近所のおばさんたちはどうだとかどうだとか話している。ここで私は思うのですが、嫁がこうだあだとか、話題に上せて頂きたいと思いたす。

ひとに迷惑をかけることは一番悪いことだから、と叱らないように言つてやります。

庄司 今の意見、大賛成です。言葉をつくしてほめるといふことが一番いいと思いたす。経済力のある方だとお菓子を買つてやったりするが、ああいう食物の支給というものは結局行いのよしあしに拘らずやるべきであつて、よくできたり悪い対しての質としてやらない方がいいと思いたす。

大江 今回の、できなかった場合、私のところはほつたらかしてしまふのです。親がカバーしてやらないということが親の特色です。

徳木 ぶつよりはめると言ひますが、あまり家で甘くしていても、社会はきびしい。社会に出た時にこまるでし

う。

司会 子供の立場からの御質問どうぞ……
傍聴人 私は女子大生ですが、私たちが知らないに、自我意識を持つようになりまふと、親が知らないうちに子供の方は精神的にも成長してしまひ、本音のよき話し相手としての母親がとてふ少いと思いたす。

たとえばメーデーに参加したいと言つと、顔ごなしに、いけないといわれる。また恋愛問題にしても、親に一番話したいが、お母さん達が古いので話せないという友達がたくさんいます。このような問題についてどうお考えになりますか。

佐々木 今回の場合私のためには嫁がある方がいいのではないかと思いたす。ただ考えますことは、嫁に頼つてばかりいて、それでいいとは思えない。嫁に何か五十以上の人らしい生活をさせてあげたいという願ひがあるわけですから、それから私は嫁になりたくないと思いたす。というのは、私は夫と共に共白髪で長生して、子供とは全然別居したいという考えをもつています。ですから、経済的にもなるべく頼りたくない。今は小学校の先生ですが、ともかくライフワークとして盛立てておきたい。

大江 将来の希望としては同じです。別居したいと思いたしております。
お母さんに望みますのは、お母さん自身の生活をもつてほしいということです。あまりおねえさんのことを干渉しないほうがいい。ことに地方などでは、息子に嫁を取られたという感じがするが、そうでなく、お母さんは自分の生活をもつて、淋しさは、自分の中に求めてほしいと希望いたします。

傍聴人 今回のお話ではみなさんが将来結婚の立場になつたら子供のオンブになりたくないというのが大層分と思いたす。経済力のない女の人ほどどんなにしたらいいか。社会保障制度が確立して、養老年金があれば別居ということも可能ですが、今の世の中で私達がどういふ解決方法をした

らしいとお考えになりますか。

森田 それは、経済的には子供に負担がかかるのです。だからせめて精神面だけでも負担をかけないように努力してほしい。それには自分の楽しみを持って下さい。一々お母さんがいるから、と重荷にならないように独立した人間になってほしい。経済力がなくても何かの役に立つ人になってもいい。足腰の立たない人は別ですが、他のことはできないが子供の守りだけできる、便所掃除だけできる、庭の掃除だけはできるというように役に立つようになってもいい。

それから請せる人になって、若い人と同等の友人になれるような、お母さんになってほしいと思います。

司会 まだ御質問もあり、残念ですが時間になりましたのでこれで終了いたします。

どうもありがとうございました。

第二部会

出席者

青森	藤田サワ	(主婦)
秋田	斎藤あや子	(主婦)
栃木	君島千代	(主婦)
神奈川	藤林恭子	(主婦)
新潟	渡辺時子	(主婦)
長野	小平和子	(主婦)
岐阜	野村美智子	(主婦)
三重	梁本みき	(主婦)
滋賀	鶴岡幸	(主婦)
大阪	芝田良	(主婦)
島根	須山清子	(主婦)
広島	大倉和子	(主婦)
香川	真鍋久枝	(主婦)
大分	平川美津枝	(主婦)
鹿児島	白浜真砂子	(主婦)

アドヴァイザ
会

家事調停委員
婦人少年局婦人課

内大
藤浜
つ英
ね子

「近代社会における家庭の意義について」

司会 第二部会の会議に入りたいと存じますが、本日
の議題は「近代社会における家庭の意義について」ということ
で、家庭はどのような役割をもっているかということを中心
に、討論を進めていきたいと存じます。今年は「近代社会
における家庭の意義について」と「私はこうして家庭を
明るくしている」という、二つのテーマで応募していただ
きました。本日は第一テーマで応募してくださった方
から先に意見を発表していただきたいと思います。
それでは北の方からということで青森の藤田さんにお
願いします。

藤田 私は先に例をもってお話したいと思います。私の
知っている方に、こんな家庭があります。家族は老人夫婦
息子夫婦一人、弟、それにお祖父さんと七人の、中以上の
の生活をしている農家ですが、息子さんは高等学校の教員
をしています。その方が結婚なさるとき、お母さんの条件
がこうなんです。自分の言うなりになる女、自分より学
識がなく、女としての仕事もあまり知らない女、農業がや
れ、しかも年齢の若い女というのです。ところが息子さん
は大学を出て相当の教養がある方なのでとうてい不満なん
で、自分で適当な女性を探して両親に相談したところ、お

父さんはわかってくださったが、お母さんは全然反対で、
結局母の氣に合う女性であれば、家庭の中いざこざも少
く、また教養の低さなどは自分の努力で補っていくことが
できると考えて、やや母の条件に近い方と結婚したので
す。それから三年になるのですが、子供はなく、息子さん
との教養のずれから、楽しいはずの新婚時代も味気なく過
ごし、初めの一年間は、農閑期を利用してお花やお裁縫な
どの勉強もさせ、いくらでも教養の高まるよう努めたの
だそうですが、とうていだめだとわかって、このころは教
員をやめて、一緒に百姓をしようかと考えているそうです。
私は奥さんと共に努力してこそよい家庭が生まれるの
だからと、もう少し時間をかけるようにはげましたりして、
頼りにならない相談相手になっておりますが、青森では、
ことに田舎に入りますと、まだまだこんなことが多く自分
一人ではどうにもできない問題がたくさんあります。

青森 私は修給生活者で、全然農事に携わっていません
が、私の町には農業、漁業、商売と、いろいろ家庭環境の
異なった方たちがいますので、農村の生活の実態を御報告し
て、皆さんの御批判や意見をお聞して、農村の生活の民主
化、近代化を促進させるための参考にしたいと思っています。
これは農家数八十の村で、三十五才以下のお嫁さん四十二
人を対象に調査したものです。まず休養日について、これ

を定めている方が三人ぐらい、雨降りに休む人が半数以下、
たまの雨降りも洗濯ほろつくりで終日をおくるというわ
けで、休日にはほとんどみとめられていません。

また小づかいについては、月々もろう人はなく、必要な
度にもろう人が少し、盆暮や休みに二百円、三百円程度も
らうのが最も多く、中には嫁いでから十年になるのに必要
なときは実家からもうという人もありました。衣料につ
いては、財布を握っている人を除いては足袋やおこしをお
正月やお盆に買ってもらう程度で、まとまったものは八年
から十年ぐらいいまで実家から買ってもらっております。会
の出席については、喜んで出してくれるのが半数、一度も
出してくれないのが五名で、協力してくれない人は主に姑
とのことです。出産については、計画産児に対する意識が
低くて、産児制限を望むことはき進みが多く、人口
流産をした人が二十七名に及び、それが五回から六回、た
めに頭痛や腰痛など身体に支障を来しております。

以上のように妻、娘の存在というものが非常に弱く、ま
たすべてを仕事に打ち込んでるので、自分の時間という
ものを作り得ません。いこいの場としての家庭のあり方に
しても、愛情の不足ということが云われますが、これは任
事に追われて気持のゆとりがないことや、経済的貧困にも
よると思います。女性の地位向上が云云されておりますが

農村ではこれが現状です。しかし一人々々が幸福になりた
い、そして現在より明るい生活をもちたいと望んでいるこ
とはうかがわれます。以上暗い面ばかりですが、農村の実
情を申しました。

司会 今お二人に御発表願ったわけですが、今日は家庭
の役割という面から議論を進めますので、実例をお出しに
なるときには、家庭の意義や役割と、どのような関係があ
るか、はっきりわかるようにお話し願います。

青森 私の場合はテーマから少しはずれるのじゃないか
と思うのですが……

私の家庭の問題は徹底して個人の自由を認めるというこ
とと、一家の家庭の幸福ということとをどこで両方に結びつ
けるかということです。ですから主人には主人の考え
方があり、私には私の考え方があり、それをお互いに認め
ているのですけれども、進みます。それをどうやって
折り合っていくかということに悩まされております。

それでより明るくされた家庭というのは、はたしてほかの
社会に対して積極的に働きかけるといふ家庭だろうかとい
う疑問を、私はとても感じるのです。というのは家庭を
尊重するということは、何か聞かれるまで言わない、干渉
しないということになり、孤立してしまうんです。だから
私など一度も婦人会に出たことはないし、PTAも事務的

な必要がある場合しか出ないのです。家庭が私にはすばらしいあたたかいいところに思えて、ほかのところへ出て行きたいという気持ちがもてないのです。ですから、県の方々から職業と家庭との両立とか、子供を産むときの職業婦人はどうすべきかというようなことを言ってくださいと頼まれて来たのですけれども私は主婦が職業をもつということを考えてないで、女の人は家庭の中に社会性を取り入れることを考えるべきではないかと、反対の立場を言ってきたのです。その意見は私一人だったものですから、県の方には大へん落さないように思うのですけれども、私の家では私はクリスチャンなものですから、主人の自我というものを、とても許しがたく思うときでも、単に好き、きらいの問題でなく、愛さなければという——、或はそれを封建的といわれるかもしれないのですが、犠牲的な気持ちをもって折り合っているのです。ただ私は家の中で満足しているものですから、社会との関連というものがほとんどないのです。明るい家庭、相當に教養も高い恵まれた家庭というものは、お互いに尊重し合ひながら結びつくということは、また非常にむずかしい問題ではないかと思つてます。

藤林 私は結婚後ちょうど二十一年になりますが、今までは母親として、一所懸命になりふりかまわずに働いて

うのです。家庭の経済が豊かではなくては、私たちの家庭の繁栄、幸福は望むことはできない、社会生活において、円満な家庭を構成していくには、夫の収入だけでは十分でないというのが現代社会の実態ではないかと思うのです。家庭においても、家庭の主婦は今までの男子に依存して生活していたのを捨て、家庭の経済を豊かにし、家庭の生活向上という面から職場にあることは望ましいのではないかと考え、自分は職についたわけです。ところが女子が職につく場合、男性と比べて困難なことがたくさんあるのです。たとえば職場において女子の賃金が低いということ、職場のみでなく家庭にあつても労働が過重であることです。もう少し男性の方に、女性の立場というものを考えてもらいたいです。能率的な家庭生活をするということ、台所の改善、来客の応待、交際など、すべていわたって、家庭の方々に考えてもらいたい。そうして家庭内において家族というものがお互いの立場、お互の幸福や自由について考えてほしいのです。それによって家庭を明かしくする問題の解決ができるのではないかと思います。

岡金 前の方と反対の御意見も出て多りましたが、いづれ討論の時ということにして、次に島根の須山さん。どうぞ

須山 私は家庭の役割についていろいろ言いたいことが

参りました。子供は大学、高等学校、中学、小学校です。最近家を建てて、気持ち余裕ができたせいかこのままでのけのわからない、若い人たちのじやまになるような年寄りになりたくない。また生活に押しつづかれた、エネルギーを使い果してしまったような母親になりたくないと思ひ、つてを求めてお習字を習ひ始め、また去年からは友の会の会員になりました。そうしてつづくと思うのですけれども、子供が大きくなってしまふと、母親としての今までの生活を振り返ってばかりいて、何かぐちみたいなことばかり言っているようにや困ると思うのです。それでは何か新しいやり方とか空気を家の中にもっていきたいと思ひます。

渡辺 現在家庭の役割はどのように果されているかというところを考えますと、家庭は私たちの家族というもののお互いの覚悟で支え合ひ安定を得、明日への活動力を生み、その週末の役割を果すものであるということはおわかつておりますが、私の家庭ではどうかと考えますと、まだ十分でないということがいえるのです。近代社会においての家庭というものを考えますと、いわゆる家庭人であるといえども、近代産業に参加する労働者であるということも考えたいのです。私たちの目標は働くことによって得る収入によって家庭がささえられているということが先決問題だと思

あるのですが、学校に勤めておりますので、その立場から家庭はこういう大きな役割があるのだということを申したいと思ひます。私たちが学級の子供をながめ、子供たちの教科の好ききらいとか、級風などを考えるときに、このクラスは前にどんな先生に教わっていただろうかとか、小さいときに先生が変らなかつただろうかというふうに、先生のことを問題にすることもありませんが、やはりいろいろな問題にぶつかると、あそここの家庭はどうだろうかということ、私たちはすぐ考えるのです。先生から注意を受けてすねてみるとか、それから授業時間は、わかりにくいのですが、個性の現われる生徒会活動や作業のときの発言や態度のおかしい子、たとえばこそこそと陰でなまけるとか、学校でものを食べないようにしようという約束をする、先生はタバコをのまないがよいとか、そういうおかしき発言をしますと、あそここの家はどうかだったろうかと、すぐ家庭を問題にするんです。私はそういう面から考えまして、家庭には子供を育てるという大きな役割があると思うのです。

大倉 私は特に平和の土台を作る役割を強調したいと思ひます。平和というのは金人類の人間関係が武力や圧力、陰謀闘争によって運ばれていくのではなくって、穏やかな話し合いや穏やかな空気の中で運ばれていくものと思ひます

が、もしそうだとすれば、そのような好ましい人間関係は、まず家庭の中でこそモラル的に作り上げられていかなければならないと思うのです。家庭の人間関係が平和でないときには家の中ばかりでなく、社会の中でも暴力をふるったり、闘争をする人が生み出されていくからです。家庭が平和ならば、家庭と家庭との間の関係も平和になります。そうして家庭と家庭との横のつながりが平和になっていけば善良な社会ができるということになって、それがやがて世界の経済、政治を明朗なものにしていくことになるのではないのでしょうか。私は今の時代と結びつけて考えて、何よりもまず平和の土台を作り上げるのが一番大切な役割ではないかと思うのです。一軒一軒の家庭が善良な人間関係の温床として活動していけば現在最も不安を感じている原水爆戦争から平和を守りぬくことができると思うのです。主婦の携わっている仕事は、平和という観点から見ても大へん大きな意味をもっていることになると思うのです。料理、裁縫、子供を育てる等は目立たないごく小さな仕事のように思われますが、よく考えてみると、この目立たない仕事を通じて平和な人間関係を作り上げることができる。ごく身近なところから平和への道が自然に開けていくように心がけることも、意外忘れられているけれども、大切なことではないかと思うのです。

ども婦人の力というものをもう少し社会を通じて、働きかけなければならぬと感じております。抽象的になりましてけれども、また後ほど具体的に申し上げたいと思います。司会 今八人の方が御発表になりましたが、三分間というところで省略なさったところもあると思いますので、いままでに出ていない面がありましたら、あとの七人の方から補っていただきたいと思ひます。鶴岡 新潟の波辺さんから、家庭と職場関係の両立というところについてお話がありました。この七日の滋賀県大会でも職場の方から、その問題についての御意見が出ておりましたので、御報告がたがた、主婦が職業についている場合、その仕事を家庭の人全体がよく理解してほしいというところ。それから、主婦は昔のように夫にサービスをする人というのではなく、もつと家庭内での主婦の仕事といいますが、存在といいますが、それを十分理解してもらって奥さんは夫に対してサービスする人だという考えを切りかえて、新しい生活形を築いていきたいということ、それからもう一つ男子も家庭の仕事を手伝うこと、婦人の負担を軽くしたいということ。この三つに結論づけられました。そしたら男子の傍聴人から、男にはうき、どうきんを持たせたり、御飯をたかせたりということはありませんよ、男に金という意見があり、それに対して皆さんからは男の人に全部

白旗 近代社会においては、家庭を構成する一人々々が直接社会に関連をもっているということを強く感じるのです。これが昔の社会における、家長を通じて支配されてきた家庭との違いであり、近代社会における大きな意味もここにあるのではないかと思います。家庭の果す役割も、家庭員一人々々が社会に影響を及ぼしていくのですから、その家庭の中心になる主婦の力如何によっては社会の改革——ということとちよつと大げさになりますが、そこまで進んでいかねばならないということを感じて居るのです。もちろん人間形成の場として、あるいは先ほどの教育の場としてそれから人間関係における平和とか中々されましたけれども、すべての生活の中心としての私たちの日常生活が社会生活につながっていくというのが近代社会における家庭の大きな意義ではないかと思うのです。非常に封建性の強い、男尊女卑の最も典型的な鹿児島県家庭生活を調べてみますと、あまり不幸が多いというのはやはり社会と家庭と閉つても明けない関係が存在している。たとえば情動的な台詞などにより、すべてあきらめてしまふということが私たちの家庭の日常生活にも関係しているということをしみじみと感じます。こうしたことは鹿児島だけではなくて日本全国に、都市にも農村にもやはり行われているんじゃないかと思うのです。そこで私は私

をさせるというのでなく少しでも家庭を明るく計画的にしたいために、足りないところを補ってもらうという程度を考えているので、結局は愛情の問題であると意見が出されました。

野村 私は家庭の主婦で主人が勤めに出ています。男子は仕事で頭を使うことが多く、隣音など職場の状況もよくない外で働いているわけです。ですから明日への働く意欲をもつためには、家庭がほんとうにいいの場であって、主婦は、夫が家庭は楽しいところで、ほんとうにここが休めるところだという気持ちをもたせてやりたい。夫に順従する意味じゃないに、この生存の面を受け持っておる男の明日への労働力を増してやるという意味において、一所懸命サービスしてやるがいいと思ひます。

鶴岡 それは奥さんが家庭にいられる場合で、私の申し上げたのは職場と家庭を両立させるための……。

野村 でもそうしてやりますと、主人のほうでも疲れをなおしてくれなからというので、自分からほうきを使つてはいたり、どうきんをかけたなり手伝つてくれる。こちらがこういふふに出来れば、男の人必ず主婦を助けてやるうという気持ちになるんじゃないかと思ひます。

司会 それでは一応御意見が出ましたので、アドヴァイザーの大浜先生に締めくくりをしていただきたいと思ひま

す。

大浜 大抵近代社会の家庭の意義というものについて、
いこいの場所であるとか、明日の生活力を養うところであ
るとか、家族が安定してくらす場所であるとか、などのお
話が出たと思うのです。ところで、さきほどここに二つの
対照的な意見が出ていたようです。渡辺さんと君島さんの
御意見がそれですが、それを取り上げて皆さんで考えてみ
たらどうかと思うのです。第一の意見は、家庭と社会に密
接なつながりをもっている。つまり家庭は、独立している
ものではない。一つの家庭が、その家庭だけの心がけや、
努力だけでは明くることは出来ない。ことに、今日家
庭を明るくする大きな要素として経済問題が重大で、その
ためにも主婦は外で働くこととなる。そこで職業をもつ立
場からいうと、経済面はよいとしても「いこい」の場とし
て、十分に家庭に奉仕できるが、つまり十分に家庭を明る
くするという任務が果せるかどうかという疑問、あるいは
問題が出たわけです。第二の意見は、現に家庭は非常に明
るい、お互いに權威に服従するという形でなくて、ほとん
どに協力して、助け合って暮らして、それで十分満足だ、子供
たちもよく育っている。主婦は社会との連絡があまりない
が、家庭が明るいという点では、それで十分だ。けれども
主婦が全然社会とつながりがなく、ただわが家庭というも

のをよくするだけで、それではたしていいのか、というこ
とが、問題とされました。これからこのことについてお互
いに話しを進めたらどうかと思うのですが、いかがでしょ
うか。

◎家庭における二つの立場

司会 それでは大浜先生がおまとめくださいましたよう
に、皆さんの御意見には二つのお立場があるようですから
その辺から討論に入っていきたいと思ひます。

芝田 私も君島さんとおんなじ立場なのです。今度この
会議に出て参りましたけれども、こんなことははじめで
P.T.A.の会合もなるべくなら出ないでかこうという消極的
な立場をとって、結婚以来過ごしてきました。だから渡辺
さんができるならば女の人はみんな職業につけとかいうよ
うにおっしゃいましたが、私はそういうふうに通じて来
た家庭の一家の主婦として、私も主人と一緒に社会に出て
働いているとおんなじだと思っております。それは主人
が外に出て、家庭に後顧の憂いなく働けるというのは、私
たち家族が仲よく暮らしているからだと思います。その半分
は私がなっているのではないかと思います。俸給袋の上
にも主人と私の名前を書いてほしいなと話しておりますが

司会 御主人も、二人の名前が書かれたらいいとおっし
やっているのですか。

芝田 「どうだな」とは言ってますが、本心はわかりま
せん。

渡辺 ただいまの君島さん、大阪の芝田さんのお話に、
私もいろいろ考えさせられたのですが、私は家庭の経済と
いうことは、家庭を構成する家族の教という点にも影響す
ると思ひます。芝田さんも君島さんも、子供さんが二人か
三人で、四人か五人の家族でいらっしゃると思うのです。
私の家の場合は、父、母と妹が二人、主人と私と子供二人
合計八人です。私の主人はサラリーマンですが、収入は二
万円前後が普通だと思ひます。二万円前後の収入ではどう
しても義が勤く立場におかれるのではないかと考えます。
社会保障などがある援助をうけることもできますが、そ
ういうことばかりに頼っている、女は家庭の仕事をし、
子供の教育をしていけばいいという觀念ではだめだと思ひ
ます。戦争によって、女性もいろいろなことを勉強し、考
えさせられたのではないかと思います。私の家も東京にい
たときは借家に暮らして、お金などは不足なく育てられ
結婚して当分はそういう環境におかれたのですが、夫が出
征し、戦災にあつて丸裸になつた。そのときにつくづく感
じたことは女は男性に頼って、大きくなつたらいい旦那さ

んを見つけて結婚すればいい、幸福に暮せばいい、できる
だけ良妻賢母でいればいいという觀念ではだめではないか
ということ、結婚もいつどういふことで一人になるかわ
からない、そういう場合にも何とかして世の中をわたって
いきたい、生きていきたい、それだけの力は持ちたい、持っ
べきであるということを感じたのです。私も実は学歴もな
く平凡な封建的な家庭に育てられお茶とかお花とか、旦那
さんに気に入られるようなたしなみをもてばいいという教
育をされて参りました。けれど働かなければならない立場
にもおかれるわけです。家にいて職を持つことになると、
内職ということになります。家にいて職を持つとき女には三
度三度の食事の仕度、掃除、洗濯など、その觀念がまづわ
りついて離れない、ですから内職などにしても、思う十分
の一もできないんです。ですから内職などに見ても、思う十
分の一もできないんです。また子供を見てもらえるところに
守番をしてもらえる、また子供を見てもらえるところに
には、社会に出て働いた方がいいのではないかと考えま
す。そうすれば、家庭の者は女性に対する要求というもの
をもちません。私もできるだけその気持で外に出て働いて
おります。一応の収入を持って帰ることが出来ます。そ
ういうことから女性も家庭の事情もありましようが、ど
ういうことになつても、一人で、子供を育てていくくらいは
できなければいけないという考えをもつことが大事じゃな

いかと思います。

君島 私、この方の家が人数が多いのを聞いてうらやましかったり、うらやましくなかったり感じたんですが、谷川先生もおっしゃいましたように、小家族というのは非常に新しい家庭であるけれども、弱さもあるというのを一言おっしゃいましたが、それを痛感しているのです。私の家は小家族ですから、私が欠けたならば、大きい穴があくんです。それが大家族では一人の人が欠けても、それほど困らないのではないかと思うのです。小家族ではほんとうに個人の独立ということを認めた家庭こそ、むしろ維持するのに非常な忍耐がいるのだということを言いたいのです。

須山 君島さんのお考えですね、非常に自分の家庭に満足していらっしゃる、それはそれでいいと思うのですが、私はその考え方は近代社会というものを無視していると思うのです。原水爆をどこかの國が保有している現状というものも忘れてはいけないかと思うのです。そういうときに自分が幸福であるからいいというて済むでしょうか。私は今までの家庭は、縦の関係を重く見ていたけれど、小家族になったということは、縦の関係よりも横の関係を重く見ていることだと思ふのです。みんなが手をつながなければ立ち上れない、広島の方がおっしゃったように、原爆のことについて世界会議がもたれたり、母親と婦人の会が世界的

にもたれたり、世界的な会議をするということが身近なことになったのは近代社会のあり方だと思ふのです。そういうときに自分が幸福だからといって、家庭に閉じこもるというのは間違ひではないかと思うのです。

君島 私は一番先にそのことを申し上げたんです。個人の自由がどうしたら社会と結びつくかということに痛感したという前置きのもとに私は話したのです。

斎藤 いま職業をもっていらっしゃる方と、全然家庭にばかりいらっしゃる方のお話がありました。私は何も生活技術をもたない家庭にばかりいる主婦です。主人が戦後失職しまして子供三人の小家族なのですけれども、子供が大病したりして、生活に困ったことがあったのです。洋服の内職をしたりしたけれども子供のおやつ代にならなかつたほどで、技術があればいいなということを感じました。それで上の娘には何か専門的なことを身につけてやりたくて、むりだったのですが、東京まで出して、専門学校に入れておきます。やはり将来主婦になっても、主人の失職という場合も考えられますので、渡辺さんや須山さんがおっしゃるように社会に出て働いてもらいたいと思ひます。

須山 今のお話ですと、経済的に独立をしたい、あるいはなくてはならないことがくるかもしれないということ

のために主婦が社会と関連をもつ……。あなたが職業だけでなくていいと思うのですが、関連をもたなければならぬとお思ひになるのですか。そこら辺もう少し掘り下げたらどうでしょうか。

斎藤 いざというとき生活に余裕があればいいと思うんですけれども。

大浜 生活に余裕があれば、今君島さんと芝田さんのおっしゃったように、御主人もいい方で一家全体非常に明るく仕合せにくらしていらっしゃる。しかしいざというとき心配のないようにちゃんと用意もできている。そうした場合は主婦が社会との関連をもたなくてもわが家のことだけをやっていればいいのですか。その辺のところを……。

栗本 私どもの県でも主婦が経済力をもつということについては議論されたのですが、生活に困るということ前提に、主婦が経済力をもつということは、家庭における主婦の立場を向上させることになる。そういう意味で主婦が経済力をもつということは非常に重要なんじゃないか、というようなことをお話し合ったのです。

大浜 向上するために……ね。

小平 私も今の方と同じです。私の家の父と母の立場を事例にしますと父は肉体的には恵まれないのですが戦後うちに入って少し田畑を作るようになったのですが、実際は

母がおもになつて作る結果になりました。すると母は今まで父に意見を言うことを控えきみだつたのですが、自分も働いている。田圃や畑は自分が責任をもってやっていると意識があるせいか、今では父と一緒に相談したり意見をのべるようになったのです。自分の位置を高めるのに都合のいいことになり、また結局家庭が明るくなったのです。主婦の立場をよくするということは、経済力をもつ、そういうところから生まれてくるんじゃないかと思うんです。

藤林 私のところでは、私はほとんど一銭もかせいだことがありませんで、家にばかりおりましたが、私としては家の中で私の地位が悪いなんてことは考えたこともございませぬ、大層みんなが尊敬してくれます。それは自分でもよくわからないんですけれども、やはり主人の理解があつて最初からすべて二人でよく相談してやってきたのとそれから家事はみんな私がして、主人はサラリーマンですから表に出て働く、交際には二人で分担する、というようにやってまして、申しわけないですけれども暗いところがちつともなく明るいばかりなのです。

藤田 私は結婚してから、経済には困らないのですが、持っていた資格を利用して、小学校の教員をしました。ところが私のところは非常に封建的で、女が勤めに出るとい

うのは、その日その日の暮しに困る人のすることだ。何も生活に困らない女かわざわざ勤めをもたなくてもいいじゃないかというふうに陰口をたたきました。でも私は女であるから家の中にいななければならない。というのではなく、もしゆとりがあるならば、社会奉仕でもしようという考えをもった方がいいのではないかと思うのです。不幸にしてからだをこわしまして引いておられますけれども、考え方は変りません。

君島 私は経済的にどんなゆとりがあるうとなかろうと女性はやはり独立人格という問題からいっても、一人で食べていけるようなものをもつべきだと思ふのです。そしてそれは経済的な面だけでなく、自分のものをもつということでもなければ、やはり人間的にも墮落してしまふのではないかと思ふんです。ですから女性であるとか経済にゆとりがあるということを別問題にしても、その人の人格を蔑視する意味で一つのものに打ち込むということは大切で、またそれは結果的に経済的独立ができるというふうになつていくのじゃないかと思ひます。

平川 私は主婦が、単に経済の安定のために働くというそれだけでいい間違ったと思ふのです。特に若い方は家庭の仕事をするよりも、お勤めに出た方が、働いているようにみえ、また張り合いがあるとして、家事労働を軽視なさる

傾向があるのではないかと思うのです。私は家の仕事——家事労働を一種の職業として見ています。若い者が家事労働を軽視しているということは考えなければいけないと思ひます。

◎家族関係はうまくいつているか

司会 先ほどからこの問題にだいぶ時間をかけておりますが、それぞれのお立場——地方により家庭の状況とか、職業により違ふと思ひますが、主婦の経済力を論議されたのは、家庭の中において女の人がどうあったらいいか。また女の人の地位を高める上からどう考えたらいいかという観点からと思ひます。この辺でテーマを転換いたしました。先ほどの意見発表の中にも、愛情の場、いこいの場としての家庭の役割りがあげられておりましたので、家族関係——夫と妻親子、姉と妹などの問題に話を移していきたいと思ひます。家庭の役割りというものはこういうものだといふことについては前に入られていらつしやると思ふので、現在の日本の家庭は、その役割りを十分に果たしているのだろうか、或はどの程度までそういう役割りを果せるようになったらうか、そういう観点からお話を進めていただきたいと思ひます。

野村 諸君さんがあげられた例についてですが、大学教授しやいましたか、実際に別居生活するということになるとやはり経済問題が先立ち、別居の許されない家庭が多いのではないでしようか。私の場合を申しますと、現在母と同居しております。同居はしておりますけれども、母が離れ座敷を自分の座敷にして、私は母の座敷にはあまりいかないことにしております。そして母も私どもの生活にあまり干渉しないことにしています。それと、もう一つ経済面で、主人はサラリーマンなのですが、母が主体となつて私と二人で農業をしているので、主食の方は買わずに済み、ほかの生活費は主人の給料でまかなつています。母からは主食を提供してもらいますが、あとの供出代金その他の農業収入は母の自由に使っています。母はそういうことに生活の張りを感じて、非常に張り切つて生活しているわけです。サラリーマンですから、家屋を修理する場合に一べんに二万円、三万円という金が出ませんけれども、そういうときに母が、たとえばおふろをなおすのに四万円をボカッとしてくださるというように、円満にいつております。

白浜 私は共かせぎをしまして六年になるんですけれども、主人の母というのが、若いときに非常に嫉いじめをされたので、自分の嫁にはこういう思いをさせたくないと言ぐせのように申しております。それで勤めに對しても非常に理解をもつてくれます。義母は婦人会の会長をしてお

夫婦と御両親との間がうまくいつているということをおつ

りますが、社会教育委員の話がありましたときに、それは嫁にといつて、私に譲ったこともありました。しかし一緒に生活しますと、やはり時代感覚の違いなのか、生活の仕方にもズレを感じます。現在は、勤めの関係もあって別居しておりますが、思い出しては尋ね、また多少仕送りをしたりして喜ばれています。そばにいて、一部始終見てあげるのだけが幸福な生活じゃないというふうな気持ちもしているのです。これは年にもよると思いますが、現在義母は五十過ぎですので働けるうちはその方がいいのではないかと思います。

鶴岡 私のところは滋賀県の妙高寺という檀家のお寺ですが、お年寄りの方の様子をみますと、このころはお姑さんの方が若い嫁さんに遠慮なさって、たった半日ぐらいお茶をのみにみえるのでも、お嫁さんに気がねして、孫を二人ぐらいつれておいでになる。せつかくひまをもらって出てきたのに、ほらおしっこだとか、転んだとかいって、付休みにならないんです。今は、だいぶ年寄りのお姑さんが連想してゐるような傾向が現われているのではないですか。これは檀家のうちの話ですが、若いお嫁さんが——お米入りの縄をもって畑にいったりという家があります。私は自分が嫁ですけども、かえって年寄りの人に同情しているようなわけです。お姑さんの立場にある方はこの都会

たそうです。ところがその翌日、お姑さんが近所について家の嫁はこいて、いしんだ、つまり怒けものだと言ひ、近所の方々も、そうだ近ごろの若い者は……というのです。

大浜 それはよくあることです。お姑さんの苦勞したとおりを、嫁にもしなくてはならないという考え方ですね。

平川 それが根強いんです。女でありながら女自身をしばっているのじゃないかというふうな男性の方に言われたのです。

渡辺 私はなんでも経済関係ばかりになってしまっていますけれども、やっぱり最後の問題は、経済になると思うのです。最低生活をしていくのに、まずどのくらいかかるかということを考える必要があると思うのです。現在家族一人に対して最低三千円ぐらいは頭におかなければ——最低生活といつても切りがありませんが、標準はそのくらいではないかと思ひます。ですから私共のように八人家族では二万四千円が最低ということになります。私どもではそれを上回ってはいませんが生活は一ぱい一ぱいです。そうした立場から考えて経済的な家庭の充実が先決問題だと思ひます。若い人と姑さんの問題ですが、私の母は——後妻で私のほんとうの母ではないのですが、経済が許したら別居したいとお互に考えています。経済が許せば父や母と別居します、その方がお互に幸福なんです。お姑さんがいばる

には一人もいらっしやらないんです。

藤林 ほんとうに年寄りがだんだん若い者に追いつかれて、小さくなっていくのじゃないかという気がときどきいたします。けれどもやはり経済に関係のあることで、年をとると経済力がなくなってくるからではないでしょうか。私どもは月給取ですから、長い間にはずいぶん税金を納めているので、老後の保障年金のようなものを、作ってほしいと思ひます。そうすると老人も小さいにも困らず気持ちよくたかたかにくらせられると思うのです。

大浜 たしかにそうです。アメリカでは六十歳才になれば、今まで働いていた人は保険がかけられているので、生活費だけは一生消費せられる。また家事だけして、保険を付けていなかった人もたべてゆくだけの生活費は、政府が支給してくれる。これをそのまま日本で実施はできないでしょうが老人年金をもっと考えねばなりません。嫁姑の問題も、別居云々も、たしかに老人に経済的のうらつけがあることによつて大半は解決します。ところで経済の問題でなく、意識のちがいがらくる問題、それに個人の努力、個人の心がけでどうにもならない問題がありはしませんか。

平川 その例で私の地方のある農村のことですが、井戸とお風呂場が大へん遠いので家族会議を開き、近くの竹藪から桶で引くことになり、さつそく御主人が作っ

とか、お姑さんがいじめるとか、そんなものじゃなくて、年令的にいつて幸福とか楽しみ、自由というものに対する考え方に食い違いが出てくるのだから、できるならば別居がいいと考えます。それには社会保障が必要だと思ひます。

須山 私も経済が元だとは思ひますが、これはすぐには解決できないと思ひます。大体日本自体が貧乏なんですから、ですからまずそれを解決するということが大事なので、そういう日本の経済状態を直すために婦人も政治に関与して努力する。経済的に低いから今おっしゃった社会保障制度や労働を保護するような社会的施設がほしいと思ひます。

けれど経済も大事だけれども、一切がそれだといつてしまつては、おしまいだと思ひます。もし人間関係がうまくいってればみじめな経済状態も、或程度救えると思ひます。

芝田 私の友達にニコソンの方が三人おりますがその方たちの生活を見ますと、毎朝御主人が四時五時に起きて安室所の前に並び、三百円程度のお金を持ち帰つてその日のお米やおかずを買つて、家族三人、四人がそれで食べているのですが、もしアプレた場合のことを考えると何といつていいかわかりません。その御主人が出たあとは、小さ

な子供たちも学校へ行かずに母親と一語に内職をやつて、生活の足しにしている。そんなみにめな生活では夫の理解とか妻の場とか、そういうことは云つていられないと思うのです。

藤田 私の知恵に母一人子一人の家庭があるのですが、その娘さんは胸を白されて、長い病院生活をしています。六十に近い母さんが、少しばかりの田を作り、小さい店を開いて生活を立てて一所懸命働いて子供の面倒をみているが、もし娘の病気がなおっても、自分を養うことは難しい、自分がお金を蓄めたるなら養老院に入るつもりで、今は少しでもお金を蓄めることを心掛けています、というのです。老人の扶養の問題を個人の力で解決することは難しいと思う。

芝田 大阪の会議で出た話ですが、子供の無い御夫婦が年とつたら老人ホームを作らうと、作給の何分かを天引きして将来に備えているという話ができました。

眞鍋 家庭の生活がどんなに豊かであっても、社会に競輪、競艇、があつて男の人がそこに通うようでは、家庭は暗いものになり子供が不良化したりすることになります。大浜 環境があれば巻き込まれるというわけですね。

眞鍋 それは家庭内だけでは解決つかないと思うのです。

現存の中学校では男の学生に手芸や料理を教え、それで足りていると思つていいるんじゃないかと、ときどき心配になることがあるのです。

須山 私は学校に勤めています、家庭科は持つていません。今度小学校から中学までの社会科と家庭科の教材を調べてみたのですが、そうしたら、私たちが教育したいところがあるより少いので驚いたのです。もっと人間関係に関する内容を家庭科の教材にとり入れてほしいと思います。小学校では「助け合う」とか「明るい家庭」についての権利と自由」とか「お母さんと私の生活」「お母さんの仕事を少くするにはどうしたらいいか」という教材が出ているから、考慮されているのですが、私たちが大事に問題だと思ふことが少いのです。

鶴岡 それから今の家庭では男を先にする。子供でも男を大事にすると、いう気分がまだあると思うのですが、それを一掃していかないことにはと思うのです。

司会 学校も足りないけれども、家庭も足りないということなのね。

斎藤 校長選挙のとき、上級になりますと先生が、男の人を入れるようにしなさいといって選挙させるのだそうです。女の子が校長になるとうまくゆかないのだそうですが考え方を改めてほしいと思います。

白浜 いくら女の方が家庭をよいものにしようとする努力なされても社会に誘惑の場が多く、男の家庭に対する認識がなくては大めだと思ふのです。日本の最前教育を受けた男の方がおめかけさんをもったり、政治家という方々の中には家庭における節操を欠いている人があるようです。

司会 日本の作られていた社会関係から、個々の家庭がそういう圧迫を受けているという意味ですね。そうしたことを含めて、家庭の役割が認められているかという点についてはいかがでしょうか。

鶴岡 日本の今の男の方は、家庭というものを、粗末に仕過ぎていると思うのです。例えばPTA委員をしているような人でも、家に帰ると、自分の感情で子供をしゃりつたり、友達とお酒を飲んで、子供に聞かせたくないような放談をやる。またよその人に対しては派手にふるまうても、台所とか、子供のことは割に粗末にするといった傾向が見られます。一般に女に対する理解が足りないもので、私は御主人教育が必要だと思ふのです。

白浜 現在夫である人に、よくわかってもらうことも必要だと思ふのですが、将来、夫になるべき人に家庭を理解してもらうことが大事だと思ふます。

平川 これから夫になろうとする人たちの教育ですが、

大倉 学校の教育のことが言われましたが、人間の人格が出来るのは六つぐらいのときだといふことから、家庭で成長する期間がほんとうに大切な時期だと思ふます。夫婦関係その他家庭内の人間のあり方について、十分考えたいと思うのです。学校を上るまでに、基礎的なものができ上つていくのですから。

白浜 私は、今のことも大切だと思ふますが、また文部省あたりに、高等学校や大学においても、家庭の意味というものを教材の中に繰り込むようにしてほしいと思ふます。

渡辺 出島の大倉さんのおっしゃったことに関連して、私は保育園で子供を預けていますが、男女を差別的に扱わず、子供たちが同じような気持ちで成長していくことを主眼としていきます。扱いとして遊戯は女の子の特長で、男の子より上手なので、学芸会には女の子にさせ、劇や、リズム合奏は男の子にさせるということはあるが、保育時代から男女間の差別をなくすということは大事ではないかと思ふます。

斎藤 私は一番大事なことは愛情だと思ふのです。妻は夫の永遠の恋人ということであれば、百の議論よりもはやく解決されると思うのです。女は女らしく、男は男らしくしていったところから一つの道が見出せると思うのです。

が。

白浜 私は今ここで愛情論をやかく言おうとは思いませんが、今の不義理です。結婚当時の愛情が長年続けられれば理想的だと思いますが、愛情の形は変わっていくと思います。そういう意味において……

司会 時間ですので、この辺で終りたいと思いますが、先生に最後のまとめをお願いいたします。

大浜 沢山の問題が出て、どこをどうまとめていいかと思うのですが、一番中心になつた問題が、家庭というものが経済の基礎がなければならぬということと皆さん一致した考えあるいは御体験だと思えます。経済的な基礎というところが近代社会の明るい家庭の一番大きな要素です。しかも経済的な基礎というものは、近代社会の家庭の個人々々が独立、ことに夫と妻が平等であるための大きな役割をはたすものだということとをみなさんがおっしゃいました。それからもう一つ経済関係に続いて人間関係の問題が出ました。親子とか孝行の話もちょっと出ましたけれどもあまり深くいきませんでしたね。それから嫁姑の問題というよりなことが出ました。その中でも人間関係とか愛情の問題とか譲り合うとか、犠牲ということにもまして経済力というものが大きい役割をはたすということに重きがおかれたようです。なお経済問題ということは発展して社会保障の

線までいかなければ、家族間の人間関係の幸福はあり得ないということが、強く言われたことも特記してよいと思えます。それからもう一つ非常に大きく取り上げられたのがほんとうのいい家庭にするために主婦だけがどんなに努力してもだめだ。夫の協力、姑や子供たちの理解、それに社会の環境というものが大事なことだと言われました。この社会環境をどうするか。これは一人の主婦がどんなにがんばってもどうにもならないこと、やはりみんなが横のつながりでもって社会をよくしていくかなきゃならない。それからもう一つ、家庭というものをもうと尊重する気風を、ことに男の人、夫、子供、子供の中でも男の子たちに育ててゆきたい……ということにも、多くの発言がありました。考えてみると、日本の長い間の習慣、いわゆる家族制度的な習慣の中で、女の人たちが、ことに妻とか嫁たちががまんし、忍耐をしてきたということが今日こういう結果をもたらしたのでしよう。先ほど斎藤さんがおっしゃいましたように、婦人の意識も低く、また力が足りないというものがここに原因しているのです。結局家庭というものはだれかが、だれかをおさえたり、おさえられたりするのではなく、夫と妻と姑も子供も、それぞれの立場でのびのびし、協力し、たすけあつてゆくところだ。そのたすけあいが、よるこびである。いこいだという結論が、みなさまの発言から

しめくくれると思えます。もし足りないところがありましたら、おっしゃってください。

司会 どうもありがとうございました。

(休憩)

◎傍聴人との質疑

司会 只今から傍聴人の方から御質問をうけることにいたします。

傍聴人 一番最後のときになって、ちょっと愛情ということができました。それを愛情というものもだんだん変わるものだからと答えになったようですが、私は愛情ということには変えることがないと思います。家庭を明るくする上に愛情を忘れてはならないと思います。経済的な悩みも、その他の悩みも、愛情によって解決されることが多いのではないかと思うのです。私は末に人ですが十年前に夫に別れたとき子供は長男が十四、長女が十二、一番末の男の子が六つでした。家が貧しい寺で、樗牛家といっても三十軒です。貧しくとも父がいらない家庭を明るい、笑いのただやうものにししようと苦心しました。子供は学校へ入るとすぐアルバイトです。先生の家の水くみ、新聞配達までやりました。子供はちっとも暗いところのない、明るくものの言える、何事も気にしない子に育ってくれました。みんな母親の苦勞を知っているので、貧しさなど気にしないで一所懸

念に勉強しております。私は体験を通じて経済的な悩みはきつと愛情によって解決されるものであると考えています。渡辺 ただいまのお話大へんけっこうな事例だと思えます。愛情だけによって円満にいくということとは少数のまれな例だと思えます。私は一般的には、家族がもっと大勢いる家庭を對象に考えますが、愛情問題も大切ですが、私も实际的にずいぶん経験しましたが、いくら愛情をもつてやりましても、親と子だけでなく、夫や親や、義理の妹や、おばあさんがいるという家族構成などでは、愛情だけでは解決できないのです。収入、家計、によつて、大きく左右されると思うのです。

傍聴人 ただいま経済と愛情を離して考えるとおっしゃいましたが、渡辺さんが職業をお持ちになっていること自体が愛情の結果ではないでしょうか。愛情によつて変えられた職業であり、家庭のお仕事であると考えたらよろしいのではないでしようか。

大浜 今おっしゃるのはほんとうにごもっともで、結局愛情というものの解釈の仕方だと思うので、この方のおっしゃるのは非常に広い意味の愛情で、渡辺さんのは、あるところは愛情の限界をおいていらつしやるので、どちらもごもっともだということで、話をけりにして次に進めたいと思います。

須山 さきほど、愛情で経済力を克服して子供をすなおに育てたというお話がありました。そのお母さんの愛情がずつと外に広がらなければ社会は明るくならないと思うのです。自分の家は明るくなくても、日本の家庭を明るくするには、その愛情がもつと國に広がって世界中の者が手をつないでいくような、そういう愛情に高まってこそ意義があると思うのです。

(第一日閉会)

「いかにして日本の家庭を明るくするか」

司会 それでは昨日に続きまして、第二部会を開きたいと存じます。本日は「日本の家庭を明るくするのにはどうしたらいいか」というテーマでお話を進めていきたいと存じます。

昨日のように初めに第二テーマで応募なさった方に三十分ずつ御意見を申していただきまして、その御意見をまとめまして、それに従って討議を進めたいと存じます。それでは、長野の小平さんからお願ひいたします。

小平 私は現在農業をしておりますが、このようにして家庭を明るくしている——という実例を申し上げたいと思います。私の住んでいる農村において、一番問題になることは嫁と姑の問題ですが、私はまだ独身ですので、その問題は、私の家庭には当てはまらないのです。私が問題にし

たいと思いますのは、両親と子供の年代的なズレということで、いくら両親と子供の間がうまくいっていても、年代的なズレというものはどうしても何かの面で現われてきます。私が学校へ行っているころは、よく母親といろいろな面でも対立しまして、母親は古いとか、封建的であるなんてことを、いつも友達と話したものです。でも私は学校を卒業しますと、母が一人で農業をしておりました関係上、母の助手みたいに、農業をすることになりました。実際に家庭に入ってみますと、母親というものは、特に農村では、外に出る機会がとて少いことがわかりました。世の中の流れに接する機会が少いのです。母親が世の中の流れに接しないということから、よけい子供との間に年代的なズレを生ずるのだということを考えたのです。具体的な解決方法として、これは一つの例にしかならないと思いますが、私も、婦人会とか講演会というものに出席してもらいたいと思ひました。そういう機会が農村においては時代の流れに接する絶好の機会ですから、仕事が忙しいなんてことをいっておらずと、農村においてはなかなか出ることができないのです。ですから仕事を早く切り上げて、能率的に仕事をし、会に出席し、また次の日はいつもよりも仕事の能率を上げるといふようにすれば、仕事の面にも差し支えなく外に出ることができるといふことを考えて、それを

実行しました。そうすることによって家庭に束縛されていた母親というものが、僅かな時間でも家庭を離れることによって解放された気持ちになり、期かになります。また農村では自分の年令というものをとても気にしまして、五十にもなつてこんなことをしていると、ということが多いのですが、年というものを考えないようになつて参りました。世の中のことを知ると、今の時代はこうなんだ、と思うようになって、子供の立場も理解してくれるようになりしました。うちの末っ子は中学生ですが、その妹と一緒に唱歌を歌うというような朗かな思いやりのある、まるでお友達みたいな母親になつてくれました。これはどこの家庭でも当てはまるということではないと思いますが、母親が年令にこだわらなくなつて、もつと若々しくお友達になつてほしいということです。そして、こういうことによつて私の父は困窮しい方ですが、子供と母親が仲よくしてま

すと、父親としてもその雰囲気はだんだんなじんで、今ではお友達みたいに、親の悪いところを言ったりしますが、それをそのまゝ受け取ってくれるようになりました。

司会 ありがとうございます。では岐阜の野村さんにお願ひします。

野村 私が一番胸の中で言いたいと思うことは、どんなに私たちが家庭を明るくしようと思つても、家族制度の

復活とか、小選挙区制とか、憲法改正とか、教育法案とか、なつとくのいかん理屈の通らん大きい力が私たち日本の家庭から明るさを奪うような方向に向いつつあるということです。私はそういうことを言いたいのですけれども、今日のテーマは「私はどうして家庭を明るくしたか」というのですから、私はその一つだけを発表させていただきます。

私の家では、子供には子供なりに独立した人として共同生活をしなければならぬと思ひ、その方法として親子が予算生活をやつております。この予算生活を始めてからこれで四年になります。まず子供の年令に応じて金額をきめ、月に三回に分けて与えて、十日毎に決算します。収支表は壁などに貼つて記入しやすいように便宜をはかつております。食と衣類のほかのことは全部子供たちが計画を立て、予算を組んでやつてゐるのです。これはむだ使いをやめさせるというのじゃなくて、ほしいものはほしいと要求するたくましい心と、それを計画的に実現してゆく健やかさを望んでいるのです。そうして一人一人が自分のしたいことが干渉されずにできるといふことにしたいと思ひ、整理ダンスをむりして買ひまして、背の高い順番に引出しをきめて、今日は何を着ていくとかということも子供の判断にまかしております。衣料の数もカードに記入して購入月

日を書き入れまして、購入計画も、小さくなって下へ讀るのも、みんな家族会議できめております。予算生活は長い、たゆまぬ努力のいりますことで、親も子もともにやっていたいかなかなかできないことです。私たちが四年間これでやってきたのですけれども、子供たちがつづけたら、いろいろいたしませんので、これではいけないと何べんも反省してはそのやり方について工夫してきました。年令に応じて金額をきめてやるということに私のうちの予算生活の特徴があると思うのです。つづければ子供はいやにさせますから、夕飯食べた、今日は何を使いましたかみんなで記入しようと言いついて、親も子もみんなが買ったものをたのしんで記入する、そういう雰囲気をつくるように努力しております。

司会 次は三重県の栗本さんにお願いたします。

栗本 私もたまたま野村さんのおつしやつたように、家庭の中のいろいろの問題、特にどうして家庭を明るくするかというような問題は家の中だけのことで考えずに、社会的な問題、あるいは国家的な問題につながるものとして、もっと広く考えたいのですけれども、「私はこのようにして明るくしている」というテーマですので、私の場合を申し上げたいと思います。

私のところはやはり農村で、それも非常に恵まれない農

村です。主人は会社員、姑が主体となって農業をやっております。九年前に結婚しましたが、いわゆる農村の嫁と姑の問題、それを身をもって体験いたしました。結婚当初には、やはり夫の両親に封建的な考え方が残っておりまして、息子の結婚についても、息子の幸福というよりも、親の立場から、自分の老後を見てもうために結婚させたと考えているのではないかと思うくらい親を中心にものを考え、処理していこうとしました。そのようなとき私たちは自主性をそがれたような気がして、その点でいつも意見の衝突がおきておりました。それで、私はこんなみじめな、お互いに何か心配しているような生活を、何とかして打開したいと思い、主人と相談して、姑と共通のいい話題をもつために共通の読書をするのを始めました。幸い姑が年寄りで、夜眠れないといいますので、週刊雑誌を提供して、その中から最初はおくつまらない三面記事を取り上げお互いに話し合うようにいたしましたところが、幸い姑が非常にそれに興味をもちだし、だんだん話題がすんで政治問題まで話し合うようになりました。いまではそれが軌道に乗って農繁期でもちよつとしたひまをみて、読後感をたのしく話し合うというふうなゆとりをもつようになつております。その結果、老人らしいぐちを全然いなくなりまして、若い世代に対しても非常によく理解をもつてくれ

るようになりました。また私どもも姑に深い愛情をもつようになつて、今ではお互いの人格を認め合った対等の人間らしい生活ができるようになったと思っております。

私は、自分の家庭がこうして明るく、嫁と姑がお互いに人間同士として話し合えるようになりましたが、私はこの体験をほかの人にも知ってもらい私の幸福を分けて上げたい——おこがましいかも知れませんが、そういう意味でグループ活動に参加して、グループの人たちに、嫁、姑が共通の話題を見出すことがよいのではないかと自分の体験をおして話しております。

司会 続きまして滋賀の鶴岡さん。

鶴岡 私は「こうして家庭を明るくしている」という体験談ではなくて、進った方向から意見を述べさせていただきます。昨日の話し合いに、私たちは自分の家庭のことだけを考え過ぎるという意見ができましたが、私は、自分一個の家庭を明るくすることができないのにどうして社会全般を明るくすることができたらうか、到底これは不可能なことだと思っております。こういう意味合いから私は自分の足元をもつとみつめ、よく反省して、私たちが通るのに邪魔になる石を取り除いていこうと、いつも考えております。以前からこの点について努力しているつもりです。私の家庭の明るさに、あるかげを授けている邪魔物をよくみ

つめて分析しますと、おほずかしいことですが、次の三点になると思います。この三点は現在の私の悩みでありまた悲しみであり、言いかえすれば、今後の改善すべき努力点であり、わが家の目標でもあると思うのです。第一に家の人は互いにもつと家庭を大切にしたいということ、第二に家の人の個人の意思や個性をもつと尊重し合うということ、第三には経済的貧困をまず打開すること、以上三点です。第一の家庭をもつと大切にしようということについて補足いたしますと、社会を構成する基礎の単位であつて、民族的生活を生み出したり、社会の風俗、文化、政治、生産力の向上をはかる大きな、広大な意義をもっているものでありますから、家庭を単なるねぐらから止り木のようにしか考えないで、お互いがもつとわが家の生活を大切にしたい、子供にも小さいときからこういう心がけを植えつけていきたいと思っております。第二の個人の意思や個性を尊重し合う、理解し合うという点については、自分は家長だから、親だから、夫だからという、特権的な気分を捨て去つて、たとえ三才の童子であつても、働けない年寄りであつても、女であつても、諸々のもつ意思や個性を尊重し合つて、それを侵害せずに伸び伸びと明るく生きたいと思ひます。たとえば子供たちが自分の勉強部屋を思う通りにもよう替えしたり、いろいろ並べたり貼つたりしてお

りますと、つい私たち大人は、こんなふうじやお客様が見えたとき恰好わるいからとか、お掃除するの不便だからといって、つい手を入れてしまっていて、個人の自由や子供たちの努力を侵してしまっていることがあります。また主人が、妻は自分の隷属的な存在であるという意識から、私の就んでいる本を一々赤い本か白い本か、やわらかい本か、固い本か調べたり、詩を作った雑誌に発表しますと、どうしてこういう作品が生まれたかということをおひそかにせんざくしてみたり、文学と事実と混同して私を非難したりします。また選挙のときには主人は保守派を支持しており、そのため、私が革新派の方へ投票しますと、主人に協力しないと言つて、ちよつと非難したりもします。このようにあんまり干渉が過ぎると一家の中について個人の成長を阻んだり、一家の中に秘密を生む原因にもなると思います。第三に私の家庭の最難関としての経済的不如意について、いかに私たちが精神的肉体的に努力して明るい家庭を建設しようとしても、経済的の裏づけがなければ実際の明るさを保ち得られないということをしみじみと体験してきました。私は、子供の教育には家庭教育が最も重要であると思ひ、一家の中心をこれにおいているといつても過言ではないくらいで、二人の子供たちをりっぱな社会人として次の時代を送り込み、親としての責任を果たしたいと考えておりま

す。それで子供たちのもっている才能を伸ばし、個性にあった自由な勉強をさせてやりたいと考え、その教育費を得るために、私は家庭を受け持つ以外に職場をもちたいと考えております。

以上私の家庭を見つめて、打開すべき努力点を述べたので、皆さんのようにこうして明るくしているという話には私にはできませんでしたが、皆さんの御批判や御指導を得たいと存じております。

司会 どうもありがとうございます。続いて大蔵の芝田さんをお願いします。

芝田 私は現在中学三年の長男を頭に小学校六年、三年の女の子、公務員の夫と五人家族で、今までおのれのみで仕合せに生きてきた一家の主婦ですが、五年前から、私の家庭では、土曜日の夜を土曜会と名づけ、家内中が揃って過ごす時をもっております。最初はただ家内中が揃って食べるという単純な集いでしたが、子供の成長とともに土曜会も家庭を明るく、秘密のない、くつたくなひものにもまで成長して、他人とも腹み合い、個々し合い責任を感じ合うという大きな支えとなっております。例をとってみますと、水害の新聞記事やラジオのニュースにいろいろな費用を節約して、また被服を整理して災害地へ託したこともあります。決して多額ではありませんが、新潟市の大火の

ときもそうでした。また最近の親類し運動の記事を読んでもうらしい記事には自分のことのように躍り上つて喜び合いました。これは私たち夫婦が強制したわけではなく、またヒントを与えたわけでもありませんが、自然にそういう雰囲気ができあがりました。このようにいろいろ話し合い実行していく子供の様子を見るとき、私はまた、土曜会が社会とも結びついていることを感じております。そうして私の家庭が、自分たちだけ歩いているのではなくて、社会とともに歩いているのだということをほつきり悟りました。それから私たちを生み、はぐくんできた祖先への感謝のため二十四日を祖先の日ときめ、愛情と信頼を深くしております。

司会 それでは香川の真鍋さん。

真鍋 皆さんから明るい家庭の実態ができましたので、私は家庭内でなく、部落また村内を明るくしようと努力したことをちよつと語らせていただきます。

私たち婦人会では婦人学級というものを作りしました。動機は、戦後私たちに参政権が与えられましたが、女性性もつと、実質的に向上しなければならぬと考えたからです。討論などは一応上達しましたが、実行の面で、未だに改良されない点がたくさん残っています。たとえば会合をもつても出席者はいつも同じであり、また男尊女卑の風習

は未だに残っています。そして生活改善、明るい生活の建設など叫んでも婦人の負担が多いために、農村では修養を求める時間さえない。よい講演を聴きたい、政治の動き社会の歩みを知りたいと思つても、毎日の忙しさのためラジオを聴くことも新聞をよむひまさえないといった状態で、育児に農作業に、炊事に裁縫に毎日追いまわされ、おなじことを例年繰返しているというのが農家の婦人の現状です。これを打破してゆくためには、私たちは、形式だけの会合をもつことよりも、もつと婦人みずからが批判し、行動できるような会合をもつて自主性のある婦人会としようということになりました。まず婦人会員の学習活動が必要であることを痛感して婦人学級を取り上げました。そして技術面においては栄養料理をとりあげ、栄養の高い食品は体内においてどのような役割をするかという食品の要素を知り、その他農家の保存食を研究しています。また生花もやっておりますが、これはなごやかな家庭を作るといふことを目標としておりますが、また私たちのグループ全部が生花の芽であり、茎であるとして、いつまでたつてもしおれず、伸びてゆくことを誓ひあつております。それから肥料の設計、野菜栽培、養鶏、果樹の手入れ、畜産などあらゆる方面を取り入れ研究しております。そして経済面に余裕をつくり、家庭生活の合理化のために、食生活の改善、

かまどの改善をやっております。次に私たちは「子供をよくする会」というのをやっております。子供をよくするためには家庭、とくに婦人の力がいかに大切であるかということを考え、これをとりあげお互いに研究し合っております。

司会 では最後に大分の平川さん。

平川 家庭を明るくする一つの方法として、私は家族が話し合いをすることを募げてみたいと思います。私の家庭について申し上げますと、私は電話局と放送局に勤め、母も職業をもち、妹はアルバイトをして大学に通っております。このように成人した大人だけの集まりであり、その上私が職業柄普通の勤務状態ではないものですから、家族三人が顔を合せる機会が非常に少く、お互いに忙しく勉強できず、それぞれ不満をもっています。このように家族がお互いに不満をもっているような場合には、家族で話し合ってみることがお互いの生活に対して理解し合うことができ、親しみをもちお互いの生活を見合い、少しでも協力し合うことができるようになるのではないかと思います。それで私の家庭では話し合いをする機会が少いのですから、家族の間で手紙の交換をしております。ちょっとした伝言の場合もありまじし、読んだ木の感想とか、映画のこととか、自分の気持ちというものを紙片に書いて、家庭の中で手紙のやり

取りを行い、家庭内が少しでも明るくなるよう努力しております。

司会 では、今までの話の中に出なかった非常に変わったやり方で自分の家庭を明るくしているという例がありましたら、つけ加えていただき、討論に入りたいと思います。

須山 私の家庭は母と祖母と私の三人家族ですが、各自それぞれが部屋を持っております。夕飯のあと片づけが済んだあとサーッと自分の部屋へ引きあげ、それぞれ自由な時間すごします。そのことが家庭を明るくしている原因になっていると思います。また、なるべく母を婦人会など外に出すようにしています。私が婦人会に出れば、母はどこにも出る場所がなくなりいよいよ老い込み、だめになると思えるからです。それからもう一つは、自分が得ている収入についていばるというようなことはせず、私が安心して働けるのは家にいるもののおかげなんだという気持ちを持ってやっています。

司会 ありがとうございます。それでは今まで皆さんがお出しになった御意見を大浜先生にまとめていただいでそれに従ってお話を進めていきたいと存じます。

大浜 皆さんのお話を伺い、それぞれ非常に尊い体験をもっておられることに感心しました。御発表を大体とりま

ある、それではどうしたらいいかという方向にこれから話を向けていってらよいと思います。

◎個人の努力によつて

司会 それでは「日本の家庭を明るくするにはどうしたらいいか」ということについて、自分の家庭だけでなく、日本全体の家庭を明るくするにはどうしたらいいかということについて、まず身近なところから話を進めていきたいと思ひます。

芝田 いままでの話に祖先ということが一度も出なかったのですが、人間は自分一人で生きているのではなく、親から生まれてきたもので、祖先につながつており、一番根本のものを忘れていくのじやないかと感じました。

渡辺 私は今まで愛情問題によって家庭を明るくしようという努力しましたが、自分の体験からみて結局、家庭を明るくするには、日本の社会が明るくならなければだめで、社会を明るくするにはよい政治をしてもらわねばだめだと感じました。人間関係における問題にはお互いの人権を尊重する、お互いの立場を考えて、お互いの社会的な地位を認めてやる、こういうことによつて解決するのではないかと考えます。しかし村の家庭生活を明るくするにはやはり個人の力ではどうにもならないものがある。これに

とめますと、家族の中だけでの、たとえばお嫁さんとお姑さん、お母さんと娘さんの、世代のズレなど家族の人間関係をうまくやっていくために努力なさった問題、それから一応家の中がうまくいって仕合わせになったので、さらに今度はそれを外に及ぼしてグループ活動で、自分だけの仕合わせでなく、自分のよくいったことをお隣りにも、お向いにも、お友達にも、あるいは婦人学校のような一つのグループを作つて、そういうところまで及ぼそうとなすつた御経験をいろいろ伺ったと思ひます。ところで、家の中の家族関係から今度は自分のまわりの小さいグループに、明るくなるためのいろんな考え方なり方法を一応広げていっても、なお好ましくないものが社会にあつては人間関係の解決、また婦人たちやそのグループがどんなに努力してもゆきまづまづしてしまふことがあるというお話であつたように思ひます。家庭を明るくするということが、自分の家庭を明るくした、お嫁さんとお姑さんの解決がついたとか、あるいは親と子のなんとなく気まづいのがうまくいくようになったとか、それからお隣りなりグループなりがだんだんよくなつてきつたところ。そしてだんだん及ぼしていけば社会全体がよくなるのだというようにも考えられますけれども、社会には、もつと強力な、家庭を明るくし、隣り近所やグループがよくやつていこうというものを阻むものが

は団体の力を利用して、それによつていかなければならぬものではないか、それについて私が強く感じることは、女はもつともつと勉強する、そうして横の手をつないで出ていくということが大事ではないかと思ひます。なお今までの私の体験から、最後は家庭の経済問題になるのではないかと、消費生活者としてもつと収入があつたららもつと幸福になるんじゃないかと思ひます。

司会 昨日も大分愛情論と経済——根本は経済だという話があつたと思ひますが、経済だとか政治が悪いのだとすぐにいつてしまわないで、もつとほかに自分たちのやる面があるのではないかと御意見もあつたので、家庭内で自分たちがどこまでやつてゐるか、また、いけるかということをお先にやつて、それから日本の社会との関連というよりなことで進めたいと思ひます。

斎藤 私は、一家に目標を立てることが大切ではないかと思ひます。農家であつたならば何年間の計画を立てて多角経営の方法を考へるとか、商家は商家としての経営の方法を立てるとか、私たちの老後はどうするかなど、大体の目標を立てることが大切だと思ひます。それは國家や町や村で百年の大計を立てることとおなじと思ひます。

鶴岡 県の大会で明るい家庭をつくるには、どうしても婦人がもつと視野を広め高い能力を身につける必要があります。

持からいろいろなことが出発しなかつたらよくいかないと思ひます。

司会 ありがとうございます。反対側の意見を出していただくでしょうか。

白浜 私はもつとそれがいけないと否定はしませんが私は、過去においてはその考え方があつたが、今の近代社会にはそういうことにこだわらなければいけないと思ひます。

芝田 こだわるとかそういう気持ちがなく、底を流れてゐるのが、いいのです。抽象的になるかもしれませんが。

渡辺 私は戦災者という立場から、なぜ神仏があつてあるということがおこつたか、神風が吹くとかなんとかいってありました。そういうことは信じられませんが、精神的に祖先——父や母を敬うという気持は大分つてますが、家庭生活というものを取り入れることはできない。日本は神仏を信じていれば戦争に勝つという信念をもつていてもそれが実際的には破れたばかりです。

斎藤 心構えだけでもいいと思ひます。形式ばらないで御法事などできなかったら、ただ自分の心の中で感謝していればいいと思ひます。

白浜 それは一応みんなもつてゐると思ひます。

そのためにもつと勉強しなければならぬということが討論されました。そして農村では婦人が勉強する時間的余裕がないが、余裕を作るためにもつと計画的に家事を処理すること、夫や家の人がもつと家事を分担して時間的に余裕を作ることが大切だと話し合いました。

栗本 芝田さんのおっしゃったことが家庭を明るくするには祖先に感謝することからはじめなければならぬということであつたと思ひます。やつぱり家庭は夫婦が単位であつて、祖先に感謝しなければならぬとは思ひますが、そんなにこだわる必要はないのではないのでしょうか。たとへば生活に追われてゐる家庭では、自分のことを考へるのに精一ぱいで祖先どころではないわけですし、近代社会の中における家庭では祖先ということにそれほど拘泥する必要はないと思ひます。

柴田 心の中に拠りどころがほしいと思ひます。いくら近代社会とか、個人主義がどうかいつても底を流れるものはそれだと思ひますけれども。

司会 賛成側から意見。

鶴岡 私は宗教家の家族ですが、やはり人間は今こまで生きてきた、現在どうやつて生をうけているということは何かの因縁であり、何かの力によるものなんです。そしてやつぱり今芝田さんのおっしゃつたように、そういう心

大浜 この問題は、個人別々でしょう。祖先をあがめることを中心として家庭を明るくしようとする家庭、お互の愛情に重点をおいた方が家庭が明るくなると思ふ人、それぞれ各自にまかせたいと思ひます。ただ考へなければならぬことは、従来、わが国ではあまりに祖先崇拝に重きを置いて、むしろ強制したということによつて、大きな弊害もあつたと思ひます。先ほどどなたかが、最近家族制度が復活しような風潮があり、家庭が明るくならない一つの原因につながるといふようなことをおっしゃいましたが、家族制度が非常に祖先崇拝を強制した、つまり個人より「家」を大事にした弊害はみのがせないと思ひます。

芝田 一言だけ言わせていただきます。自分の親たちを愛することは祖先につながつてゐる気持ちだと思ひます。

渡辺 それは同意です。

須山 亡くなった人とおじいさんやおばあさんの問題は、離れてゐると思ひます。

司会 家庭内の問題で夫と妻の問題が論じられていないようですが。

白浜 ほんとうに明るい家庭というのは、家族の努力が反映できる家庭でなければならぬと思ひます。かりに妻が努力しても、それが家族全般に受け入れられなければ、何もならないし、夫が努力しても、ただ夫だけの努力に終

つてしまふよりであつてはならない。経済的に恵まれていれば、それ相應の生活ができればよいが、たとえ落ちぶれてもお互いが努力する。これは精神的にも物質的にも、いろいろな方面からいえると思ひますけれども、夫と妻の間題も、そこにやつぱり基因しているのではないと思ひます。

平川 中年の男性の方に申し上げたいことは、御夫婦の日常の生活のあいだで、ねぎらいの言葉がもう少しあつたら家庭に潤いがあるのではないのでしょうか。たとえば妻が家事で疲れている場合、言葉だけでも「ご苦労だったね」と言ってくれたら、それで苦勞が消しとんでしまうのではないと思ひます。男の方は氣持はもっているのだから、だまつても読み取つてほしいとおつしやいます。それから、これは、てれくさいとか、甘いとか考へずに、ある程度表現も大切ではないかと思ひます。

白浜 日本のお家庭には乏しいですね。

君島 悪いことやへまは二、三日たつてから怒るという主義で私のところは円満に解決しています。

藤田 白浜さんが、家族の努力が必要であり、その努力の反映できる家庭であることが重要なことだと申されしましたが、私のうちでもこの問題になやんでおります。些細なことでありますが、私の家にはラジオが一台あり、姉は浪花節以

ですけれども、若い方ももう一歩歩み寄ろうという努力が必要ではないかと思ひます。農家のお嬢さんは、お義理ができないとばかりにされますし、嫌われますから、お嬢さんが何を望んでいるか、そのポイントをつかんでうまく立ち廻る、というと思ひ込んですけれども、それを考へてやらなければいけないではないかと思ひます。

司会 うまく立ち廻るということは、昔からいわれている嫁は姑によく仕えなければいけないと、いうのとおなじなのかなの程度違うのですか。

白浜 今の御意見は私も賛成です。というのは、昔は彼我といひますかあまりに自分を無視した、人間としての自分がないお嬢さんというものがお姑さんに仕えていたと思ひます。ところが今の近代社会におけるお嬢さんはお年寄りの意見も一応聞くけれども、自分の個性なり、自分の意思なりをそのために没してしまわないお嬢さんでなければいけないと思ひます。そういう意味でうまく立ち廻るということとは、必要だと思ひます。これは間違つていないと思つても一応受けておいて、しかし何らかのときに自分の意思が反映できるように、それをもちかけていくことが必要だと思ひます。

須山 私も母と近所のつき合いについて意見が合いませんでした。母は近所を非常に重くみて、非常に心をつかい

外はききたがらず、ニュースなどかけていますと、うるさくといつて消してしまいます。そのためみんなの気分がまづくなり弟たちは反抗します。そのようなとき私は目で合図して、がまんさせておきます。それで、若いものたちが集まつて話あつた結果、姑のすきな浪花節のときにはみんながまんしてきくことにして、そのかわり姑さんも音楽のときにちよつと耳をかたむけてもらおうということになり、姑にやさしく話しかけたが、そのときは承知したのですが、実際に音楽がかかるとだめなのです。もつといろんなことがありますが、何とかして、何とかしてということが少しもむくいられず、どうしたらよいものか悩んでおります。皆さんによい考へがありましたらお伺いしたいと思ひます。

栗本 藤田さんのおつしやつたような悩みはグループが集まると必ずそういうところに話が落ちます。それでもものよくわかつてくださるお姑さんをお願いをしまして、おばあさんたちだけの集まりのときにそれとなく私たちも若いものに対して理解をもつてやろじやないか、ラジオでも一緒に聞いてやろじやないかというようにお姑さん同士で話し合つていただくようにと、もちかけましたところが、割合にスムーズにいっております。

平川 そのようにお姑さんに勉強してもらふことも大切

ですが、私はそんなみえは捨てたいのです。初めは大分意見が進つていましたが、だんだん両方が話し合つていくうちにこのごろは歩み寄つてきたようです。たとえば、よそえいくとお茶が出るから、家でも忙しいのをこらえてお茶を出すということは改めなければならぬということも母には改められないことでしたが、そういう場合そのことを改めさせるのに、直接その話をしては改まらないと思ひます。一応ほかのことで氣持を合わせておいてから、その話をもち出しますと案外うまくいくようです。ただそのことにこだわつて解決しようとしてはだめで、藤田さんのようにラジオで意見が合わないときはラジオのことだけで言い合わずに、一番の中心は人間関係なのですから調子のよいときにラジオのことや、つき合いのことを出したりする方法が賢明ではないでしょうか。

鶴岡 個人の意見とか個性というものをお互いに尊重したいという氣持から、私はそういう場合、お年寄りは先が短かいのですから、やはり年寄りの意思がある程度、尊重していれてやつている間に、こつちの氣持も通じるのではないかと思ひます。

司会 先ほどから出ております御意見は、世代のズレは年寄だからといって排斥しないで、そちらの立場もわかつてあげて、だんだんとこちらの思ふ方向に向けていくとい

うようなことであつたと思います。ではこんどは子供との関係についての御意見も伺いたいと思いますが、お若い方には子供の立場—娘の立場で、御年配の方には母親の立場で御発言願つたら両方の立場が出てくるんじゃないでしょうか。

白浜 子供たちは将来の社会人となるのですから、子供たちの相互関係においてもほんとうに民主的にお互いの立場を理解し、小さいときから個人を尊重する空気をお母さんが作り上げていかなければいけないと思います。小平さんからお話がありました友達になつてくれとおっしゃる、あのことは大事なことだと思ひました。地方部会でもこの問題について討議されましたが、小学生のグループ、高年生のグループから、お母さんとお父さんが自分の話相手になつてほしい。話しかけてもお父さん、お母さんがいいかげんにこじれてしまう、それが一番つらいという意見が出ました。また熊本県の先生が「よいお母さん、よいお父さん」というのはどうなのか」というアンケートを児童からとりましたが、それにも話相手になつてくれる両親がいいとはつきり出ておりました。

小平 私のお友達の中に、母が何も理解してくれないから何も話すがしないという人がいますが、これでは母親がぜんぜん子供のことを知ることができません。それで、

もなんとか無事にやっているのはその点にあるのではないかと考えております。

平川 家庭の中でだれが味方になるということは、お父さん、お母さんが教育のために子供さんをしかつても、おばあさんがかわいそうだ、よしよし、というように教育の仕方が違へば、子供の逃げ道ができて何にもならないんじゃないかと少し心配になります。

渡辺 もちろんその場合は家族のものが、子供の教育に一致して、計画的にやらなければだめです。

野村 親は、子供が言うことをきかないと小づかいをやらないうという権力で子供を抑えつけるということが多くありますが、また、甘やかすと依存するということが起きますが、そういうことのないように、また権力に服するということのないようにと思ひ、私の家では子供たちにも家庭の仕事を分担させております。お父さんは部屋の掃除、長女は雑巾がけ、その下の子は庭掃除、一番下の子は鶏を飼うことになっており、みんなでその仕事を認めあひ、いたわり合つて仕事をやっております。

岩島 權威という言葉が出たからつけ加えたいのですが押しつけはいいけないが、いつも子供からお母さんは何でも知っているという尊敬と信頼感をもたれることが大切だと思います。

お友達などにもよく私は「家の母はだめだ、古いからだめだ」と言わないで、お母さんをそこの会合に出しておあげなさい。会合へ出れば何かしら得るところがある。あなたがお母さんの立場になつて考えてもらいなさい。それには家事を分担してお母さんが外へ出られるようにしてあげる必要がある」といつも言つております。

渡辺 私は保母をしておりますので、幼児の教育についてよく考えてみる必要があります。日本のお母さんは、自分の子供がかわいいという気持ちが非常に強く、かわいいかわいという気持ちで育てることが多いようですが、もっとこの子が社会に出た場合に、どのような態度をとり、どのくらいに相対されるかということを考え、社会的なしつけに重点をおいて育てた方がいいのではないかと考えます。また子供の教育については家族が、一致してやる必要があります。たとえば子供が悪いことをしたとき、全部がしからず、家族のうちの一人は子供の味方になる、あとのものは徹底的にしかる。これはしかり過ぎることによつて、子供がひがんでしまうことを防ぐため、民主主義をとり違えて子供を自由にすることは違います。そういうやり方を家庭ではした方が幼児教育にはよいのではないかと。いつも保育園の母の会で主張しております。私はいつも遅く帰ることが多く、ほとんど子供には放任主義ですけれど

野村 お母さんは何でも知っていなければいけないとおつちやいますが、実際知らないことが多く出てきて、知るように努力はしますが、子供に追いつけずに困ることがあります。そのようなとき「お母さんに教えて」というと、子供たちは得意になつて話してくれます。お互いの個人を認め合つていけば、尊敬するとかしないという問題ではないと思ひます。

司金 子供が知っていることは自分も知るように努力しなければいけない。しかし努力しても知らないことはたくさんあるという話が出ましたが、そういうふうに一所懸命自分も努力しているけれども、子供の間に答えられない、そのようなときにはお母さんはどういう態度をとったらいいか。もう一言ほかの方からおつちやっていた方がいいと思ひます。

藤林 子供によくいろんなことをきかれますが、大いにおかれませんので、一緒に調べてやる方法をとっています。主人に聞くこともあり、一緒に調べて本を引っくり返して徹底的に調べます。このことは子供たちに母親がよい相談相手であるという感じをもたせ、大いに信頼してくれようです。

真鍋 学校の先生と父兄が手をつないで、両方が理解し合うということも大切だと思います。学校と家庭が離れな

いため、先生と家庭の主婦が話し合いをする機会を作ってそれによって子供を成長させていくようにしないと新しい子供の教育に学校と家庭のくいちがいがでて子、供が矛盾を感じるのではないかと思います。

渡辺 そのことについて、男女平等という観点から考えて、母親の中にはよく子供にものを聞かれたとき、「そんなことはお母さんわからないからお父さんに聞きなさい」といいますが、そのことは小さいときから、お父さんとお母さんではお父さんの方がえらいのだと思わせてしまうことになります。女の立場として、自分でできるだけ勉強して調べてから、どうしてもわからないときにはお父さんとも相談しようというようにしたいと思います。

鶴岡 子供を尊重し、家族の大事な一員として扱ってやるための一例ですが、私の家では毎月の最終日に翌月の一覽表を作って家族四人に区切り、それに各自が行事予定を書き入れていく。最後に、各自の行事とダブらないように家の行事をみなで話しあって書き入れます。そして毎日の出来事を最下段に記入できるように大へんおもしろくやっております。

○社会的な解決によつて

司会 今までは、家庭内や個人の力でやれることを中心

と思います。こういう問題を解決しない限り私たちの家庭は明るくならないし、また婦人の解放も望まれないと思います。

君島 そのような学論が大きくあがったならば解決されるだろうと思います。私たち自身の中に封建性をなくし、政治をよくするため各人が正しい判断力をもつことが必要と考えます。そのためには文化的な教養ということを経に心がけて、読書などによって目を開いていきたいと思っています。

白浜 私たちの一票の意義ということとは、参政権を獲得したところからすでに毎年々々繰り返されてきているのですが、どうしてこのような私たちの気持ちをほんとうに政治に反映できない、そういう社会になってしまったかということとを真剣に考えてみなければならぬと思います。今日の会議の意義もそこにあるのではないかと。この会議でこれをどうしようということはいえないかも知れませんが、ここで婦人が立ち上らなければすべての問題が女性にとっては不利なものとなります。私たち個人がもっている正義感を、もっと社会に反映させていかなければいけないということを感じております。

司会 日本の家庭を明るくするというに話を移しましたら、戦争反対と政治のことがずいぶん出て、世論の担い手にならなければならないという結論が出たようですが自

に話して参りましたが、家庭内の努力や個人の努力だけではどうにもならないものがあるという御意見が昨日出ておりましたので、その点について言い足りなかつたことを中心にして進めてゆきたいと思っています。

大倉 ここで原爆の話をしてもうだに思われるかもしれないが、私たちのように、原爆の悲惨の中に生きているものは、いつまた原爆戦争がおこるかわからない状態に不安でなりません。そのような不安がある間は家庭の明るさが考えられず、みんなが不安に取り巻かれており、私たちはそういう不安を除きたいと思っています。

野村 最近家族制度の復活ということがいわれていますが、これは法律を知らない多くの人々を適用したものであり、戦争とも大きくつながりをもっていると思います。私たちは選挙のとき、一人々々が責任ある一票をもつて、女性の参画のために戦争に反対の人を選ぶ必要があるということとをこの頃しみじみと考えさせられております。

渡辺 広島の方や野村さんの話もありましたが、私は家庭を明るくするための最後の問題は、やはり政治の問題ではないかと思っています。家族制度が復活しますと、封建的な、従属的な生活がまた戻ってきます。憲法が改正されれば新しい憲法によってせつかく得た私たちの自由は再び束縛され、結局最後には再軍備問題が起きてくるのではないか

分の家庭内の努力といそれから政治との間に、また隣近所などの働きかけの問題なども残っているという御意見もあつたと思いますので、それに触れていただきたいと思います。

須山 家庭を明るくするという問題が、政治とつながるということとはだれも認識していることですが、私たちは自分の家庭の問題が解決したら、近所と手を握ることが必要です。その方法としても私は子供をもった親、という立場からみんなが結びついてゆくことが早道だと思っています。PTAにどんな子どもを出て子供をよくするということについて話し合えば婦人問題も自然に解決できます。また生活技術の向上を目ざしたグループを作って、話し合う機会をもつてゆけばまた同じです。それをだん／＼推し及ぼして、広く結集し手をつなげばよいので、一番初めは母親として出ていくことが早道ではないでしょうか。そういうときに選挙のことも話し合えると思います。

司会 いまの御意見と異り自分の家が明るければいいではないか、という意見も昨日出ていたようです。

芝田 私は今まで、外に出ていきたくても出ていく機会がありませんでした。そういう活動をなさっていらつしやる方たちは、あたしらみたいなものを誘い出すような手を打ってください。たらいのでないかとお願ひしたいのです。

司会 原則的に反対じゃないんです。

芝田 大賛成なんです。じつとしていますとそういう機会が全然ないんです。

斎藤 私は婦人会の立場として反対の意見をもっております。どなたにでも集っていただきたいというつもりですが、見向きもなさらない方があり、非常に困ります。

君島 私は出る機会も時もありながら、出たことがありませんでした。私は、いわゆる平面的な結びつきというのは、何か一種の全体主義的な感じがいたします。むしろデモクラシーというものは個人を深く掘り下げていく必要があるのではないかと思います。全体のための維持ということと、各人の意思の尊重ということは民主主義には離れることのできない問題なのですが、それは一見相反した問題だと思えます。この問題をどういう点で結びつけるかという点に対して私は文化共同社会というものを思っており、まずから教育というものを社会に対しては送込んでいけないうものを感ずます。もう一つ、皆さんが手をつなごう、手をつなごうということは、フアッシュムの復活のような危険を私は感じます。個人主義というわけではありませんが、ほんとうのデモクラシーは人間性ということとを大事にするのだということを忘れないという意味で、私は

はそういう活動が食わずらいでした。

司会 組織について全体主義というか、同一主義というか、そういう意味での御批判もあるということだけにとどめ、打ち切りたいと思います。

渡辺 芝田さんが、家庭の事情で外に出たいと思っても出られない方がおられるとおっしゃいましたが、おそろどこかの家でラジオや新聞はあると思えますので、家事をしながらでもラジオはきけますし、忙しくて新聞見るひまがなかったら、床の中に入ってからでも、十分や二十分見れば社会情勢がわかり、社会的な婦人運動のこともわかってくると思えます。私自身もそのように努めて、少しわかってきました。家庭においても出られない方はそういう点をお気をつけになったらよいと思います。

須山 芝田さんにかわって弁解。芝田さんは自分が出られないから自分の夫の同僚や、子供や若い人をどんどん家へ寄せると言っているらしいやいます。私のように出ていくものはよいけれども、家にいるものは家を解放して、入ってくる人となつたり、社会と通ずればよい。それを通していろいろの問題について話し合ったり、子供について話し合ったりよいと思う。からだ外に出ることだけじゃないと思います。

芝田 私の家の土曜日は私たちだけでなく、いろいろの

人と一緒に話したりすることで、社会にもつながっていると思っております。

鶴岡 私たちの身のまわりの社会の状態を断面図に書いて横からみますと、水平面以下の、全く下の方に黒く沈んでいる面があると思えます。そして今の社会は水平面より上の部分ばかり相手にして流れているような感じがいたします。たとえば婦人会やPTAにしても、余裕のある家庭ばかりを相手にしている。それ以下にある部分をもっと掘り下げて、明るい地平線に引き上げていくようにしなければいけないと思えます。

司会 今日は大へん話がはずみまして、もっと話をつづけたいと思いますが、時間も過ぎましたので、大浜先生に最後のまとめをしていただきます。

大浜 家庭を明るくした御体験が一つ／＼生き生きしているお話を伺いました。近代社会という個々の目覚めた一人々々が集った社会の中の家庭は、やはり目覚めた平等の立場にある夫、妻という個々が協力して盛りあげてゆくべきものだ。ことに環境が大事だということが強調されました。よい環境をつくるには、家庭の中で家族たち——夫婦、親子、嫁姑——がお互いの調整をはかるだけでなく、それを社会に拡大することというので、それらについて、みな

さんの具体的な例がたくさんでたのが今日の特長でした。

ここにも、そこにもという身近かなそれ／＼の例はお互いに、強く印象づけられ、結論ではなく新しい問題が、ここからはじまってゆきます。新しい問題をめいめいが、つかんだことが、収獲だったと思うのです。

(休憩)

◎傍聴人との質疑

司会 それでは始めさせていただきます。斎藤からいらした方どうぞ。

傍聴人 各家庭を明るくしても、それと同時に隣り近所も明るくしなければ社会が明るくならないと思えます。

然し生活に追われグループにも入るひまもなく、一日中働かなければならないという家庭では、文化意識も、教育の程度も低く、子供は大方未就学の状態です。そのような家庭の子供のしつけの面で私たちが見かねるということがよくおこりますが、注意をしたいと思っても、親たちから自分の子は自分のものであり、他人の差し出がましい口はいらないというような反感をもたれてしまいます。そのようなときはどのようにして導いたらよろしいか、御意見を伺いたしたいと思います。

野村 私の町には子供会ができており、町会から選出さ

れた役員たちが子供と一緒に遊んだり、幻燈会を開催したりして、町会全体の力で子供の指導をやっています。そのため子供たちの問題で困るということはありません。

傍聴人 昨日共かせぎの問題が出て、婦人が職業を持つことは、家庭の経済面を豊かにするためと伺い、私もそれに同感しましたが、職場に進出することは、いわゆる女性文化を作るといって、婦人が職場から締め出されてゆくという話があります。婦人が職場から締め出されてゆくという話がありましたが、このような婦人の姿について、婦人自体がもう少し協力する必要があるだろうか、男の方たちの目を開くという必要はないだろうか、このことについて、皆さんの意見を拝聴したいと思います。

司会 どなたかただいまの問題について。

白浜 私は、婦人が職業において能力を生かすことが大切だということを最後の結論として申し上げたいと思います。何らかの自分の能力を十分に社会に生かす得る。そういう職業をもたなければならぬ。これは単なる経済生活の面だけでなく、婦人の立場というものを世間に広めていくことになり、それが生活の中で社会と密接に結びつながら、ゆくゆく大事な要素になると思います。

栗本 今の職業についてというお話でしたが、職業を持つという条件に恵まれない主婦でも、お互いの心がけに

り上げて、男が必ず扶養者で女は必ず被扶養者であるといったような一般社会通念から生み出した、そのような問題について、皆さんの心構えはどうなればならないかということをもっと考えてほしいと思います。このような問題について、いままでも周囲の女性たちが、そのような人たちを守ろうとしていないということが強く感じられました。婦人自身が、伸びようとする婦人を抑えているという点を、このような会議でしっかり考えなおしていただくことが大事ではないか。そうして婦人の力を集めて男子の考え方をなおさせていくことが必要だと思えます。婦人自身が高まっていくということは、一番必要なことですが、そうであっても、なおかつ切られていくという現実の問題を皆さんにもう一ぺん考えていただきたいということを私はお願いしたいのです。

司会 どうもありがとうございます。大へんいい御意見を部会につけ加えていただきましてありがとうございます。

特別傍聴人 政治問題が家庭の明るさということに密接に関係があるということとをさき程どなたがおっしゃいましたが、実際にここに出てくる方は皆さんよくおわかりになつておられるかもしれませんが、皆さんの御知り合いの婦人などの程度政治意識をもっているかということをお聞きした

よって、職業をもった婦人に劣らず、意識の向上や教養を高め、社会性をもつことはできると思いますが、

須山 私たち教員の職場も、首切りの対象になるのは私たち女子であり、非常に狭められてきており、これをどうしたらよいか、ということは女子教員にとって真鍮な問題です。四十、五十になって仕事している人たちは、いわば淘汰されて残った優秀な人たちで、私たちはこの問題を防ぐのにどうしたらよいか、ずい分たかいました。いくらいってもあまり効果がないので、それでは私たちは職場になくしてはならぬ必要な人間になることに努力しよう。それには自分を育て、決して男の人に引けをとらないよう自分を高めていくこと、その方法をとっています。そして個々がんばって、それでも防ぎえないところは、組合の力でたたかおうというております。まず研修班を作り、女性が高くなるということを一番にあげ、やっております。

傍聴人 あなたのおっしゃった、婦人が一所懸命勉強するということも、組織の力をもつということも、一応今までにやってきたことです。ところが共かせぎで、どちらを切るという場合、どんなにその女の先生が優秀ということが認められていても女が切られていくという様相を考えましたとき、こういふところでそのような問題を広くと

いのです。古い例ですが、昭和二十七年三月の朝日の世論調査によりますと、そのときに国会が開かれていたということを知らない人が三五%、国会のおもな議題は何であるかということがわからない人が一八%、五三%という過半数以上の人は自分たちの代表者である議員のもっている最高権力を握っている国会が何をやっているか全然知らない。僕の考えでは、女性を侮辱する意味でも何でもないですけれども客観的にいって、男性よりも女性の方が政治意識が低いと思うのです。今そういういた発表があつた場合に、はたしてそれほど政治意識があるかどうか、と考えました。

須山 ここに出てくる人は、それは発表でもしたいとか切実なものをもっています。しかし、ここに來ている人たちは、ほんとうは下のことがよくわからないものが出ていくという気がします。

あなたのおっしゃる通り一般の婦人はまだ意識というものは低いと思っております。

君島 質問者の方に国会を何をやっているかということを知っていなければ政治を知らない、というふうにお考えですが、政治というのは「これが政治です」というふうにいえるものではないのではありませんか。私たちは身近かなものを通じて政治というものを感じているのだということとを理解していただきたい。女性はそんなに低い政治意

議定というようにお思いにならないでください。

特別傍聴人 政治をどういうように解釈するかによつて政治意識がどういふものであるかは大変違ってくると思いますが、僕はそれだけが政治意識であるとは思っていません。

司会 今の問題は将来「政治意識について」という部会を聞いて十分議論を聞わすというようなことで打ち切りたと思います。

小平 農村の婦人は困る困ると言ってますが、結局自分の生活が政治につながっていることを考えていないのが残念だと思います。その悪い一票を夫の首の振り行使してはいますが、そこをもっと農村の婦人は自覚めなければいけないと私は思います。

須山 それは、残念というよりも恐しいという感上を私はもっております。

司会 農村の婦人に関連しまして、「農村の家庭の明るさを阻むものは、根強い伝統の風習だ」と思う。それを打開するにはどうしたらいいかそういう方法を教えてください」という質問が出ております。

藤田 十分なお答えはできないかもしれませんが、家の経済をよく知り、税金の使い方などをよく考えてみれば、それが自然政治につながっていくのではないかと思います。

す。自分が税金をどの位納めているか、それがどう使われているのかということ、少しも知らないでいるのが農村の婦人だと思います。

特別傍聴人 農村の封建性を破る一番早い方法は、部会の娘さんを農村の嫁さんに入ることです。そして農村では労働の手段として嫁を入れているという実情を考えなおしていただきたい。また婦人会の組織が封建性を破る革命をやっていたきたい。十人寄れば一つのものが必らず動かせると思っています。

司会 これから合同部会が始まりますので、質問をお出しになった方には答えられないで失礼しましたが、お許しくださいませ。

第三部会

出席者

岩手	野米京子	(地方公務員)
山形	屋島なつ	(主婦)
茨城	石堀みき	(主婦)
東京	菅原まさ子	(主婦)
石川	森初枝	(農業・主婦)
山梨	古屋利津子	(主婦)
静岡	土屋智恵子	(農業・主婦)
兵庫	曾我マリ	(主婦)
奈良	川辺みどり	(無職)
和歌山	裕つゆ子	(農協事務員)
鳥取	布袋洋子	(無職)
広島	沖野キミエ	(無職)
愛媛	二宮小百合	(主婦)
佐賀	塚本艶子	(教員)
富崎	石川より子	(農業・主婦)
アドヴァイザ!		
司会		

東京教育大教授
婦人少年局婦人課
神岡 田田 夏子 謙

「近代社会における家庭の意義について」

司会 第一議題の「近代社会における家庭の意義」について御討議を頂くわけですが、最初にこの問題について所感文をお寄せになった方々から御意見を伺います。家庭は私達の生活にどういう役割を持っているかについてお一人三分以内で重点的におっしゃって頂きます。編について第二議題で御意見を寄せ下さった方に補足を頂きます。では北のほうからはじめて岩手の堀米さんどうぞ。

堀米 私は農村で保健婦をしておりますが、その仕事を通じて感じましたことをお話ししたいと思います。農村では例えは長男にお嫁さんを貰う場合、本当に人間と人間との愛情の結びつきによってではなく、まだまだ家と家とのつながりがあります。余然本人同士が無関係な結婚をしておりません。若い人達は、そういうことに對して非常に疑問を持ったり、悩んだりしておりますが、それを打破して行かないというところに大きな悩みを持っております。それで将来、人格形成の場としての家庭の意義を強く皆さんに考えて頂けたらと思います。

司会 次に山形の屋島さん。

屋島 私も農村です。今堀米さんのおっしゃったような場合に度々言うわけですが、私の友達の日那さんに三年前に女ができています。そこでどうしてこんなふうになったかと、話をしてみたのですが、その家はお店を

している、遅くまで店の管理をしなければならぬし、旦那は社会的な面で活動している、夜は夜で、その様うのお客様が多いため、とても話をする暇もないのです。その上お嫁さんはどんなに忙しかくても人を雇わない主義で、その方のお産の時も、私がお手伝いに行つたことがあるのです。いろいろ話してみているうちにやはり自分の勉強が足りないという結論が出たわけですが、考えてみますと、その女が勉強できないような封建的なところにも問題があるのですけれども、そこを勇氣をもつて断ち切つて行くことをしなければ、いつまでたつても女の無自覚と、封建制というものは悪循環のようなクサリでつながつて行くのじゃないか。「誰かいて映画をみたり服を作つて温泉くらしに行きようにしなさい」という話で、まだ問題が解決したわけではありませんが、そんな話し合いをしたことがありません。

司会 次は東京の菅原さん。

菅原 古い時代の「家」はなくなつたのですが、家庭というものは、常に新しいものだということを感じております。家庭のない人間というのは考えられませんが、家庭というものは血族だけのものではなく、そこに迎え入れられた者、飛び込んで来るものを合せて構成されているものと考えたいと思います。そして横の関係は経済的につながり、

私達が創造して行くものだということに考えたいと思います。助け合い、いたわり合つて、相手を尊重して行くという結びつきの中に、その家庭の平和さ、明日への力が出て来るものだと考えます。家庭の役割は、夫婦が愛情を充たし合い、生活の安定を得て、できるだけ立派な子供を社会に送り出すことにあると思います。私達女性は子供のため、夫のため、自分の持つてゐるあらゆるものを捧げつくして年をとり、なんの悔もなく、非常に幸福感をあじわうことができるのです。それは先天的に女性にあるものじゃないかと思いますが、しかし私達は常に、その中に新しい喜びを求めてゆかなければならぬ。子供のため、夫のためあらゆるものを捧げつくして、さて自分が暇暇しようとした場合に、夫の心が妻以外のところにあつたという悲劇を体験している人も少なくないと思います。私達の子供は社会人として育てなければなりませんから、家庭の中で本当に社会に出て役立つように自立性、自主性のある子供に仕上げて行くことが家庭の役割であると思います。東京は日本の縮図で、一方に高層建築のあらゆる近代設備のよとのつたものがあると思うと、平面にはまだ防空壕の跡のようなところと多くの人が生活にあえいでいる。あるいは非常に健康的な環境もある平面、ゆがんだ人間性によってはびこっている環境もあります。日本の家庭では外に環境を求め

るのが当たり前のようになつておりますけれども、家庭の中において、みんなが楽しむ共通の娯楽をもつようになしたい。そして私達は自分の生活をとのえると同時に、それを社会に及ぼして行く責任を持つており、社会に生きる以上は、それが義務であると思います。社会があるから家庭があるという事も勿論ですが、社会よりも一歩先んずるような家庭を作り上げて行かなければならないと思います。家庭は主婦が中心ということ、昔も現在も言われておりますけれど、家庭のために犠牲になるということに主婦のつとめがあるのじゃなくて、主婦の考え方、動作というものが家庭を明るくするための原動力だということに、女の人が中心にならなければならぬものがあり、そこから道を切り拓いて家庭の緊張をほぐし、そこに本當の明るさを見出せるのじゃないかと思ひます。

曾我 家庭の近代化とか、合理化とか口では言われていても、経済の問題で、それがはばまれていきます。経済の問題ということになると、これは日本社会の改造という大きなところにもつて行かないと解決がつかないかも知れない。しかし女の人は自分が女であるということと限られた世界を自分でこしらえているのじゃないか、女の人間士が率領し合うようなことがあるのじゃないかと思うのです。そういう意味で自分の眼に抵抗しているということ、例

えは新聞を読んでもうのみにしないで考える、人の言う言葉も自分を中心にして一通り考えてみるなど、その抵抗は、悲劇からのがれられる一つの道じゃないかと思ひます。難い場としての家庭の役割について考えてみますと、多くの場合、愛情だけで温く家族を包むということだけが問題になつてゐるのではないか、しかもそれは理性的な愛情ではないのです。結局これは主婦が経済力をもたないということ、夫の収入に依存して生きてゐるということが問題の源ではないでしょうか。今では主婦が経済力を持つということとは不可能に近いような状態です。内職もほんの僅かのもので、外で働くということが、現在の状況ではほとんどできないようです。そういう意味で家庭と社会とのつながりには非常に経済的な問題が大きいということをし上げたいと思ひます。

布袋 私の一歩進みたいと思ふ点は、婦人一般の社会人としての成長ということです。例えば日本のお母さんは子供を非常に愛すると言われておりますけれども、その愛情が自分の家の子供だけに集中されて、なんの関心もない子供に対しての愛情が全くないと言へるのではないかと思うのです。そうして家庭を明るくする場合でも、自分の家だけが明るくなつたら、それでいいという、エゴイズムがあるのではないかと思ひます。ですからもっと社会性を身

につけなければならぬと思うのです。それから家庭にあつて御主人とか、子供によくつかへ、自分を犠牲にして捧げつくすと言ひますが、そのつかへる場合でも、それだけに満足せずに、もっと自分の一生というものを大切に、自分を中心にして生きるとよいと思うのです。あまり自分の主張を強くするのも、家庭を円満にするのに害になるかも知れませんが、正しいと思つたことはいくらでもできるのですから、あまり子供にだけ頼つて行くことは感心できないのです。

塚本 さつき曾我さんのおっしゃつた家庭と社会とのつながりの中で、経済的な面がかなり大きな面積を占めるといふことは、私も強く感じてゐます。佐賀県は炭坑が多いので、炭坑が不況になると、生徒が学校に来なくなる。なぜかという御飯も食べられない、給食費も払えない。そして家の中の品物は全部売り払つて、ふともなくお互いの体温でぬくめ合つて生活してゐるという状態です。それから就職にしても、一歩働かなければならない定時制の生徒が、全日制と区別されて就職ができないといふ非常に大きな矛盾があります。私は高校の教員をしていてこれらを眺めておりますと、私はこの大きな矛盾をどうしても解決するための努力をなさなければならぬと感ずるわけですから、家族制度によつて女性の地位が低められ経済面で非常

に不幸な状態にあります。その不幸をどういふところから解決して行つたらいいかを考えてみますと、やはりお互いにみんなが幸福になるということは経済的解決がなされることの一つの方法であると思ひます。その経済的解決のためには経済不況をなくすることであり、それは資本主義社会の矛盾というものに大きくつながつてゐるのではないかと思ひます。実際女性が経済的独立を得たいと思つても職場がない、私の職場でも女教師はたった一人しかいない現状で、しかも年々減つて行く現状です。そのほか低賃金とか、人口問題、その辺の関係を考へる必要がありますが、一方私達女性が自分達はどう向上しなければならぬとか、勉強するといふ内容的な考えばかりではなしに、社会における家庭が大きな意義を持つてゐるということ、そういうつながりの中で、やはり家庭の民主化が十分なされなければ、社会の民主化もできないということをし上げてゐます。

石川 私は選挙と家庭ということについて、お話ししてみたいと思ひます。私は選挙権を持つて、初めはなんの思慮もなく投票してゐたわけですが、結婚して自分で責任をもつて家庭生活をやるようになってから選挙に対する考え方が變つて來ました。これは二人の職場結婚が、夫の両親の猛烈な反対にあつて大分苦んだということに端を発して

るわけですから。そして別居してゐる親達には給料の三分の一くらいは送らなければどうしても親達も生活をして行けないような貧しさですが、そうすると今度は私達の生活が苦しくなるわけで、その解決のために共稼ぎをやりました。しかし私の職場の労働条件がよくないために長続きはしなかつた。家族間の従属関係をなくすようにつとめていても、なにかそれだけではどうにもならない壁におつちます。誰も明るい家庭生活を望んでゐるが、この近代社会に起つてくるいろいろな矛盾は、やはり政治と関係があるように思ひます。政府の予算をみて、社会保障制度や文教に關する予算は、防衛費なんかと比べて、比重が非常に小さいわけですから、いろいろ政府にも困難な問題があると思ひますが、どうにかして私達の生活が明るくなるような予算を組んでくれないうか。そういうことを考へた場合に私達は選挙には余程考へ方を改めて行かなければならないと考へております。そうして世の中に対する働きかけを私達が積極的にやつて行かなければいろいろな解決はしないのじゃないかと思ひます。

司会 これで「近代社会における家庭の意義」という題で所感文をお寄せ頂いた方の御意見を伺ひました。農村、都市それぞれ立場で御意見をおっしゃつて頂いたわけですが、只今の御意見を補足する意味で、ほかの方の御意見

をお伺いしたいと思います。

雇員 女の人が経済力を持つということは職場に出るとか、内職によって現金収入を得るようにしなければならぬというような感じをうけたのですが、私はそうは考えておりません。私のほうの農村では女の人の地位は低く経済的な力はないわけですが、私達婦人会では家計簿を1冊目録ではなく1年間に大体どれくらいいるかと大きな項目に分けて記入することを奨励しております。また青色申告をした場合と、しない場合でどれだけ違うかという勉強もし、そういう点からも経済力を持ち得ることを実証しています。もう一つは嫁の座が低いということは事実ですけれども、嫁の発言、地位も多少ずつ上って行くというような現象が最近の山形では見受けられます。

石堀 女が働きたくても職場がないというお話でしたけれども、学校や、官庁などのようにちゃんとしたところにも働めたいという場合には、そうもいえませんが、私の経験では、そうとばかりはいきれないのです。私は刺繍の内職をしております、大勢の人を集めて、雇主という立場になっておりますが、主婦ほど使にくい種族はないといつも感じております。刺繍ですから少し技術を要するわけで、主婦の方は「わるいから直してちょうだい」と、一つの仕事を三回も直してもらうと、来なくなりします。若い人は何

と言っても一所懸命やつてくれます。主婦は直されたりするときまりが悪いのか、素直な気持ちを持つていない、ときめつけては悪いかも知れませんが、素直でない割合が多いのじゃないかと思えます。そういうことで主婦の働き場所を縮めているということもあるのじゃないかと思えます。そしてまた無意識の内に「こんな仕事やめちゃつてもいいのだ」という考えがあるわけですね。

古谷 主婦のいろいろな悩みを解消するためにも、私は何か自分の特技を身につけておかなければならないといつも考えております。今の若い方々は、お嬢様をだんだん嫌って、タイプにしても、洋服にしても自分のものにして、これで生活できるというところまでやるうとする熱意が出て来たようで、私達からみると、何かとてもうらやましいような気がいたします。私達の時代をカバリーして頂くよう、また自分自身の向上のため、どうか特技を持つて頂きたいということを、若い方々に常に望んでおります。

布袋 私は今年学校を出て教師の資格を得てこれからどんどん働いて行こうと思つて居るのですが、千葉や京都のように女教師は採用しないというようなことは、自分の力ではどうすることもできないわけで、学校を出てもなんにもならないのです。これには男子の方の協力も必要ですが、もつと皆さんでなんとかして頂きたいと思うのです。

猪 家庭の意義ということからは少しはずれるかも知れませんが、私は家庭をうまくやつて行くために一番大事なのは、主婦の教養ということであると思ひます。主婦の教養と申ししても、単に学校の教育だけではなく、人格の陶冶ということにもあると思ひます。そうして常に夫にも、子供にも、姑にも尊敬されることによって、ほかのいろいろなこととも解決されたいと思ひます。それを常に心掛けたいと思ひます。

二番 家庭の意義と言ひますが、そうしたもののの中で、家庭が愛情の充足の場であるということをお願いしたいと思ひます。家庭に愛情が満ちていないと、どうしても暗くなります。夫が家庭において相互の人格を認めず尊敬を保たせておかないといけないという気持ちから、妻は人間性を圧迫され、そしてその満たされない愛情を子供にもつて行くことになります。こうした愛情の在り方が日本における亮春婦の制度を発達させていることになるのではないだろうか。亮春婦の約九割は生活困窮者であり、これは社会保障の問題とも関連して来るかと思ひます。また不良化している、少年少女は母子家庭に多いというようなことからしても家庭を明るくしようと思ひならば、母子制度もつと考へて行かなければいけないと思ひます。

森 さつきから愛情充足の場としてというお話がありま

したが、家庭内の人が総て平等であつたら、こういう問題は解決されると思ひます。田舎では戸主にもものすごく権利があり、「女なんか」という気持ちがとても強い。これをみんな平等にして、家庭内で秘密を持たないこと、そうして夫は夫、妻は妻なりに自分の責任を果たして家庭をみんなよくするようにして行くようにすればよいのではないだろうか。

沖野 私は第一義的なものに健康を取り上げております。皆さんこうしてお元氣なお姿で集つていらつしやるので健康ということに気がつかないのだと思ひますが、原爆を受けた私達にとつて、これは切実な問題であります。私も放射能を受けいつも健康ということは無意識の中に、何をするとともに感ずるのです。私の母も私と同じ程度の放射能を受け、まだ弱る年頃でもないのに、とても根氣が続かない、少し働けば直ぐつかれます。そこで家庭を明るくし、社会を明るくするには、やはり私達が健全な身体をもつておれば、健全な、健康的な明るい社会が生れてくるのではないかと思ひます。

司会 ここで岡田先生にまゝとめて頂き、それからまた次に進みたいと思ひます。

岡田 只今堀米さん初め皆さんの報告を伺つたわけですが、前に皆さんの論文も拝見しておりますし、私が特に感

することは、実は労働省が家庭の意義、家庭を明るくするにはということを取り上げたことについて、今日谷川さんもおられておられたが、このことは現在の日本で非常に意義があることだと私は思います。と言いますのは、古い家族主義に帰るのだという心配、批判の中にはあるようですが、実はそういう問題以上に大きな問題が日本にあるのじゃないか。というのは実は日本では家族国家とか、八紘一宇とか、東洋中を一軒の家にしようとか、家、家、家というものが非常に盛んに行われておりましたが、実は日本国家というものを粗末にしているのではない。家庭は国家の手段だと考えてきました、ある意味においては国家ばかりでなく社会生活全体の手段としてきました。ですから家庭の意義を考える場合に、私が広義された論文を拝見して直ぐ感じましたことは、家庭が社会に対してどんな意味を持っているかということを考えておられる。そうして社会が家庭のためにどんなことをして欲しいかということを書かれた方が非常に多い。それは今まで日本の家庭は国家のための手段であり、また立身出世のために親が子供の犠牲になり、夫のために妻が犠牲になるのだという面だけが強調されて来て、それが不思議に思われなかった。そうして近代社会において家庭ということを考える場合にもいつも社会のために家庭がどうあるべきかというふうに考えて来たの

のです。家庭というものは、前からあった家の連続というよりも、夫婦が造り上げて行くものだ、建設して行くものだということ、個人の個性、人格というもののより、むしろ具体的に幸福という形で押し出して行っているのじゃないでしょうか。個人の幸福を追求する、そのために二人の男女が、お互いに足りないところを、ベターハーフを見出して、造り上げて行くのが家庭じゃないでしょうか。そこに初めて愛情の芽が出て来るのです。結局自分の足りないところを補って行くという意味において愛情が出て来るわけです、家ができて、そこに個人が入るのだしたら、そこにはしきたりだけがなくて建設して行く必要がないので、愛情がなくても成り立つわけですが、個人の上に夫婦関係が出てくるとすれば、そこに愛情というものが生れて来るのだと思います。そこで私の一つの意見ですが、ただこういうことも論じてもらいたいと思うことは、今言ったようにむしろ家庭の側から社会に要求するものがあるのじゃないか、今までは、女性に犠牲というものを強調して来ましたが、今度はむしろ女性の幸福、個人の幸福ということ、当然の要求として押し出すにはどういうような家庭の在り方が大事だろうか、あるいは社会がどうあつて欲しいかというところを何かの機会に論じて頂きたいと思うわけです。それから夫婦の上に家庭が成り立つためには、当然家庭の

じゃないかと思うのです。この際むしろ家庭の幸福がどこにあるのか、家庭の幸福のために社会になにかしてもらわなければならないという面を取上げるところに、この全国会議の意味があるのではないかと思ったわけですが。今お伺いしていても、殊に農村における嫁の立場が非常にみじめである。またある方のお話のように、主婦が家庭にだけ閉じていても、利己主義というか、自分の家庭だけなければいいこともって、利己主義というか、自分の家庭だけなければいいという考え、これは日本の長い間の歴史で家庭に対して一度も責任を持たせたことがない、常に手段に使ってきた、そういうところにおかれた人達は、結局自分のことだけしか考えません。これは学校の場合でもそうで、クラスで生徒に責任をせよと必らず何等かのつとめを果します。ところが言いつけてばかりいると、子供は責任を持たず自分だけ上げればいいというふうになりがちです。そこでこれらの家庭は、積極的に家庭の幸福、個人の幸福というものを考えるべきじゃないでしょうか。今までは家があつての個人であつたのが、これからの生活においては、むしろ個人があつての家、あるいは家庭があつての社会ということも考えられるのじゃないでしょうか。これは勿論極端な言い方で、個々にはあてはまるといふいろいろな違いが出て来ると思いますが、そういう考えになって初めて、家庭は個人が創造して行くものだという東京の菅原さんの意見が成り立つ

経済ということが重要な問題になって来るわけです。この家庭経済は谷川さんがおっしゃったように、個人ではどうにもならない社会の面に関係して来ます。経済の不況ということになれば、個人の家庭ではどうにもならない社会との関係で大きく取り上げられて来ます。一方家庭の中でできる問題については、二三の方が触れておられました。この主婦の経済力という問題が当然家庭の経済の中に大きく取り上げられて来ます。これは農村においては、早くから夫と共に働き、経済力として主婦は、大きな家庭の大黒柱になっているわけです。ところがそれでいて主婦の地位が低い。働く程度は男性より多くて、主婦の地位が低いというのは、歴史的ないろいろな問題が含まれているわけですが、この解決はまた一つの大きな問題だと思いますが、今日家庭において主婦の地位が向上する一つの道は、なんといつても主婦の経済力と言いますが、主婦が職業なり、あるいはその他の形において経済的な自治力を持つこと、これは何もそうあるべきだということではなしに、歴史的に見ても、主婦の職業が拓けるに依じて、家庭の民主化というのはどの国でも完成して来たわけですが、アメリカでも、ヨーロッパでも、主婦の職業の開拓と、選挙権、財産権、相続権というものの解決は並行しているわけです。そういう意味で主婦の職業を持つというところは、近代家庭を

作る上に大きな基礎になっているわけです。しかし一方それに伴っていろいろな困難がこの国にもあります。有袋さんが触れたように、働きたくても職場を獲いでいるじゃないかという問題、これはどの国でもあったわけで、それを開拓し、大きな犠牲を払うことによってようやく得た女性の地位なんです。そこで職場を開拓することが女性にとって大きな問題ですが、それと同時に職場において女性が働きやすいためには、どういう要求を職場にしなければならぬか。それから次に職業を持たない主婦が家庭においては地位が低くていいのかということになります。これは社会的にすでに地位が高くなれば——そのためには女性運動家なり、職業婦人達の犠牲においてようやくこれだけ高くなったのですが——そうすると今度は職業を持たない主婦はどうなるかという、これはヨーロッパやアメリカで聞いた話では、「あなた方は職業を捨てて家庭に入つた場合、男子からいろいろ決議を受けているが、その場合に地位が低くならないか」というと、「そうじゃない」というのです。つまり自分達は自活能力があるのだ、職場で働けるのだ、その職場を捨てて来ているのだから、その犠牲に対して男子は支払う必要があるのだ、そうしてそれを男子も暗黙の中に了解しているのだ。だから主婦であるがために女性の地位が低くなるとは思わないということ

てお話しして行きたいと思います。役割を果している、果していないと、それぞれの御意見があると思いますが、なるべく具体的にお話くださいますように。はじめに経済的な面からはいっていきましょう。

◎家庭と経済

二宮 婦人が経済力を持つ意味において共稼ぎをする場合、子供をどうするかという問題に突き当ります。詳しいことは知りませんが、現在、生活に困つて保育園にいるのが三分の一、共稼ぎのためにあずけているのが三分の一、あと社会性を身につけるためにというのが残りの三分の一ということになっているようです。保育園の子算が沢山あって、施設が完備されていれば、利用者がずっと多くなるのではないかと思います。今のところは施設が貧弱で、先生が子供に対して深い愛情をもってみてやるということで、それをカバーしている有様です。もっとこの方面の予算を組んで欲しいということをお願いしたいと思います。

司会 共稼ぎの場合の子供の問題でしたが、子供の問題に関連させてはかに御意見はありませんか。

古屋 小学校では女の先生の雇休のために受持ちの子供達が犠牲になってしまふことがあります。受持ちの先生が休むと代る代るほかの先生方がみえるので、子供の勉強意

す。これは日本でも今後当然問題になって来る問題だと思えます。それから次に政治という問題、宮崎の石川さんが触れたように、とにかく家庭がよくなるためには、どうしたって政治というものが大きな影響力を持つています。あるいは二宮さんが触れたような、女性に対する社会保障ができていないから児童問題が起るのだという問題、これはつきり家庭と社会保障との非常に大きな関連を示しているものです。これもまた討論の中に十分論じて頂きたいと思えます。最後に広島の神野さんが触れたように、とにかく家庭を切り角作つても、戦争になればくすれてしまふ。そのためには国際理解それから平和のための政治が必要になって来るということ、これもつきり取り上げなければならぬ問題だと思えます。こういうふうに皆さんの触れられたことを、私なりにまとめてみたのですが、今まで皆さんの触れられたこと、またそれ以外のことについて、どうぞ司会者の指示に従つて御自由な論じて頂きたいと思つておるわけです。

司会 今岡田先生に皆さんの御意見を補足しながらまとめて頂いたわけで家庭の持つ本来的な役割というものの検討ができたと思えます。今日はどうすればいいかという話し合いではなくて、本来こういう役割を家庭は持っているけれども、さて日本の現状はどうであるか、それを見廻わし

故もなく、程度も劣ってくるわけです。女の立場からいえば雇休はなければならないのですが、親達の立場からみるとなにかいい解決方法はないものかといつも懸念をもっているわけです。この雇休ということに対して、皆さんがどんなふうなお考えを持っていられっしゃるかお聞きしたいと思えます。

屋島 女性が職場に進出し、結婚して、子供を育てる、これは必然のことです。その場合に調立するかどうかという壁にぶつかるといえます。勿論女性が職場に進出して行く必要があるし、能力のある女性はどんどん進出して行かなければならないのですが、一方、多くの家族を持ちながら、職につけない男性、また大学を出た若い人達が職につけないで悩んでいるということを考えますと、何か割り切れないものがあるわけですが、その点、どのようにお考えになつていらっしゃいますか。

司会 学校の先生として塚本さん、ご意見ありませんか。塚本 二つ問題が出て来られて、関連があるようでないように、大変むづかしい問題ですが、教員の立場で考えていることを述べたいと思えます。先ず雇休の助教員のことですが、小学校では半分以上が女教師なので雇休なさる先生が多いわけです。その期間の雇休補助教員というものが法制化され四月一日から発効していますので、その心配はな

なると思いますが、小さければ小さい程子供連は先生の人格にひかれてゐるから、やはりそういう点から学力が低下するということは当然考えられる問題ですが、そこで何故産休をとらなければならぬ先生をクラス担任にしなければならぬかというところが問題になって来ると思ひます。それは教員の定員が足りないということが大きな問題です。今年佐賀県は一番のどくて、給料の滞りが最初の指定県に属します。そうして今度の地財法適用の最初の指定県になり、県財政の大半を占めてゐる人件費を減らすことが問題になって来ます。しかし今の佐賀県の小学校教員の欠員は、クラスの数プラス一人か二人、しかもその大半を占める女教員の産休ということを見ると、やはり補助教員という問題が出て来るわけで、つまり定員を増してあげないことには、問題の解決はできないということです。だから人件費を増してくれということとは社会保険制度とも関連があるし教育予算とも関係があるわけです。それから人件費はとも足らない、教育予算ははずれるという大変な世の中だから、ちよつとくらい我慢すればいいのじやないかという意見、それから教員志望の大学を出た若い男の人が多い、そういう人が職を得られないでいるんだから、子供を育てなければならぬ女教師は一応考慮すべきであるという考え方も一つ出て来ます。だからといって女性教員

場を放棄しなければならぬという理由にはならないと思ふのです。やはりお互いが働かなければならぬだけの生活費しか得ていないという現状であることが一つと、働きたいという意欲を若い人達は持っているのに、子供を生むからといって職を犠牲にしなければならぬということには、やはりその人の人間性をゆがめてゐることにになりはしないか、また職がなくて困つてゐる人に職を与えなければならぬけれども、私達がゆづることと、そういう人達が職につくことは別のことだ、別々の問題として考えなければならぬということですね。

司会 家庭が子供を育成し送り出す、それを受入れる社会の問題になってきました。

二宮 予算が一兆三百億円で、その中東事関係予算が二二%あるわけです。それだけ膨大な予算をかけて、そうしたものを本當にしなければならぬのかどうか、そういう点も討論して行きたいと思ひます。

曾我 子供の教育ということでも私考えてゐるのですが、長女、長男と二人が今中学生で、高等学校の問題が起きているのです。私は兵庫といつても神戸市の中ですから、非常に学校差ということが問題になっております。普通の言葉で名門の学校などと言われてゐますが、そこに入学させるため小学校では五年生頃から特別クラスをこしらえて優

秀な私立の中学に入るためにやる。さて優秀な中学に入ると、あと三年間は高校に入るための準備、さらに高校に入つてからは、何を目的にしているかというところ、東大に行くための準備なんです。それで今「中学浪人」という言葉があるそうですが、そういういやな言葉を使つてまで、教育の場というのは非常にせまくなつてゐる。そして東大を出た人が一体どの程度社会に貢献しているか、それは少し問題があるのじやないかと思ふのです。立派な銀行に入ることができたとしても、人間形成という面では出来ていないことが多い。日本の總ての問題が、こんなことにつながらつていふと言つても言い過ぎではないと思ふのですが、果してこれは日本に人が多過ぎることだけなのか、それならどうにもしようがないけれども、そこにに——

立派なもの、サラリーマンとしてスマートな恰好で暮らすとすることに目標をおいて行くという行き方に問題があるのじやないかということ時々考へます。

布袋 若い人が働きたい意欲を持つてゐるのに……と言われまふけれども、私なんか働きたいというだけじやなしに、働かなければならぬ立場にあるのです。そういう場合にも、日本には階級意識が強過ぎるのじやないか、女工さんの求人募集にあるのですが、なまじ大学なんか出たばかりに受入れてくれないのです。こっちはなんでもす

るという気持はあるのに、大学出は給料を沢山払わなければならぬから損だといふ考えで受入れて頂けないという場合もずいぶんあるのじやないかと思ひます。

川辺 さつきから家庭の身近な問題以上のお話がいふ出ていますけれども、私は家庭の中の極く一般的なことを述べてみたいと思ひます。夫は外に出て月給をもらつて来るので、経済的に優位にあるという錯覚でいばるらしいのですが、私は主婦の労働というものの対して、もう少しみんなが認識をもつてもらいたいと思ふのです。そうして主婦自身もほこりを持って、主婦としてのつとめ、それだけでも十分価値のあるものだということを、周囲も、自分も認めて行きたいと思ひます。

土屋 私も農家の主婦ですけれども、外に出て働かなくても結構家でうまく経済をやつて行くことができと思つてゐます。農家ですから、家を使うものはなるべく自給自足で生活出来るように、ヤブやニワトリを飼つてゐます。また畑にはビタミンの豊富な色の濃い野菜を沢山作つて食生活を考えて行くことによって、家の人達が非常に健康になつて来るということで、経済的にも貢献できると思つております。

司会 今まで話された中には沢山の問題がありますが、どうしたらよいかは、明日お話しあうわけですが、ほかに

何かありましたら、

○農村に残る封建性

磯 農村では今でも嫁を労働力の補給と考えている。姑のいる家では、家庭のことはみんな姑がやり、お嫁さんは朝から晩まで田んぼで働きます。そして一方では夫との関係、子供の問題、家産経済等すべて封建的な昔のままの考えで行われている。それが階級となり、農村方面の発展が遅れているように思います。

堀米 さっきから御意見を伺っていると家庭内の問題から社会保障の問題、働く婦人の問題とずっと進んでうらやましく思ったのです。農村ではまだまだ家族関係というのが封建的で、憲法で決められているような個人の人格を尊重した民主的な家庭でなければならないことは十分承知しながら、家長制度が非常に根強い。これを考えてみると、女の人の自覚が足りないという面もあるけれども、発言の場所を与えてくれないという家族制度の欠陥というものを感じざるわけであります。小さい時から家中心に育てられ、長男であれば家の後を継ぐものだからと大事にされ、お嫁さんをもらつて、姑との間に問題が起きても、間に入って木当に問題を解決してくれる夫が非常に少ない。陰に廻っている人々をさめてくれない、お父さん、お母

さんの前に出ると何も言えないという現状です。このように毎日毎日従順に、まるく納めているということが、子供の教育の場所としての家庭を考えた時に、果して問題が起らないから、それでみんなが幸福になっているかというところを非常に疑問に感ずるわけです。

土屋 今の問題は、団体の中のサークル活動、グループ活動で、気の毒な人達を救つて行くということ、それと共に嫁というものがグダばかり言つたのでは発展性がないから、自分で教養を高めて、家がうまくやって行けるような努力と勇気を持つたら、そういう問題は解決できるんじゃないかと思っております。

石堀 そのことに関連して、茨城県の新島郡の青年団から婦人会に申し入れがありました。若い夫がお嫁さんと一緒に台所で手伝ったり、洗濯を手伝ったりして、嫁のために一生懸命つくす息子で、嫁にしかれていいるとかあまいとか言つてお母さん達は笑わないで欲しいという中入れです。

岡田 さっき土屋さんがちよつと触れたのですが、団体の力で解決して行くということ、何か実例がありますか。

土屋 三月まで婦人会長をしておりましたが、会員は千二百名ばかり十六支部ございます。これは百名、五十名と

いう支部ですが、それをまた三つか、四つに分けて、月一回、二回、多いところは四回くらい寄りまして、いろいろ研究をしたものを支部の総会にかけて語合っております。

姑会とか、嫁会とかを持ち嫁のほうでいろいろ研究されたことを姑のほうに持つて行き、こういうことを決めたからと知らせたりします。するとだんだん会であややつてくれるんだから、嫁をいじめたりするのは外聞の悪い話だということが姑の間から出て来ております。これは非常に良かったと思っております。それからグループ活動ではありますが、今までは職場の人でなければ健康管理ということがなさされておりましたので、昨年の四月に保健所にお願ひして、七百名ばかり、老人と農家の主婦の血圧の調査をいたしました。そういうことから婦人会が老人を大事にしてくれるようになったと喜ばれ健康管理の点からも大変良かったと思っております。それをやりました後グループ活動で血圧は食生活によって直すことができるということとを続けてやっておりますわけです。

磯 自分で感じたことですが、この作文を書いて入塾しましたら、側の六十くらいの人が「あそここの嫁は家におつて仕事だけして、いれはいいのに、作文なんか書いてえらそうなことをして、いまだに百姓がいやになって家に帰つてしまふ」と言つていたそうです。こんなことでは田舎の人達

はどういう場に行つても発言ができなくなるのじゃないかということをしみじみと感じました。

沖野 母親の健康を維持する上においても、特に受胎調剤、計画産児ということが言われており、現在都会の中流階級以上においては普及していますが、まだまだ農村ではうまくいかないようです。現在次男三男の問題が出てくる原因も、やはりそのほうの知識がないからです。気が付いた時はもう人工的に流産させなければいけないような状態、現に私の近所でも去年の内に三四人工流産をし、今は結婚のようになつて弱つていらつしやる方があります。日本の人口政策の上からいっても、もっとこういう知識が農村、漁村の隅々まで浸透するような方法でやつて下さつたらいいと思います。

磯 結婚について申し上げたいと思います。私の長男は満二十二才で、大学を卒業して勤めておりますが、その友達を見ておりますと、立派な教養もあり、生活能力があるような方は、結婚をしない、まだまだ嫁内をもてるような人格もないような人がほとんど結婚している。女の人も優秀な方はお勤めをし、独身で通しておられる。これは、日本の将来のために非常に大きな問題だと思ひます。

石川 裕さんのおつしやつたことに関連して、宮崎なんかでも新緑力があるのかと思ふような若い人がほとんど結

婚しております。富崎県のように農業県で、若い人達のたのしみというものがなく、たのしみというものが結婚することしかないのじゃないかとも考えられるわけです。やはり若い人達に意欲をもたせるという意味では、何等かの方策が講ぜられたほうが、男の人も、女の人も人格を形成する上に必要ではないかと思ひます。

菅原 私は女の人が必らず結婚することが終点であるかのごとく考えることに疑問を持つのです。これは先程から話に出ていて、婦人が職場に進出して行けば、男の人の職場がせめられるということと矛盾することは確かです。しかし立派な技術を持ち、結婚をせずに優秀な職業人として生きている方は、それなりに社会に貢献していらつしやるのですから、そういう人達を温い目で見て、お互いに協力し合つて行くということにも新しい行き方があるのじゃないかというふうに思ひます。

二宮 日本の家庭を明るくというスローガンを解決するために、やはり政治というものに婦人がもつともつと目覚めなければならぬと思うのです。参政権が与えられ婦人週刊を持つ意義というものは、政治にもつと目覚めて行くというところにあるのじゃないかと思ひます。

屋島 先程から世界平和、失業対策、青春問題、社会保障の問題が出て来ましたが、私達個人がそれに対し

て影響する力というのは、選挙しかない——これだけではありませんが、それが現在私達に与えられた大きな力です。そこでこれらの問題を解決するために、これをどんな大事にしなければならぬかということ、婦人が参政権を得てから十周年に当る今日、再認識する必要があるのじゃないかと思ひます。

菅原 今のお話はちよつと違いますけれども、私最後には皆と考へなければならぬと思ひます。さつきから社会保険制度の問題で出ましたけれども、その場合の解決策として、予算の比重の面が一つあると思ひます。それからその保障制度を備定する場合のお金はどこから出て来るかを考へた時、みんないやなことはいやですけれども、無理をしてでも払うべき税金は義務的にちゃんと払うようにしなければならぬと思ひます。

岡田 いろいろ大きな社会問題が出て来たのですが、身近かなものから解決して行く、それからだんだん大きなものに入つて行くということはどうでしょうか。

土屋 計画産児の問題も出ましたが、静岡県では、前から補助を出しまして、中絶ではなく手術をさせており、大要よかつたと思ひていましたが、手術をするのは中流くらいの人で、うんと低い人達は沢山生んでいるということがわかつたわけですね。ですからそういうものも限

り、国で補助を出してやられたら、この計画産児というものもよりよく行くのではないかと感じております。

森 私達の婦人会も十くらいのグループがあり、私は説書グループに入っております。初めは本を廻わしていたのですが、二年目くらいから文集を出しております。「わすれた草」というのですが、それにいろいろ家庭内に起つたおもしろくないこととか、口で言えないことを、みんな書きます。この間も福島屋さんのまねをして、「うちの宿六」という題で書いたら、なかなかみんないいのです。私は本当にグループに入つてよかつたと思つております。

石川 婦人団体のことですが、富崎で会議をやりました時に、ある人がこう言つたのです。「女の人だけで何回集つても解決しなかつた問題が、御主人も一緒に参加して話し合つたら、なんの苦もなくいろいろな難問題が解決してしまつた」ということでした。私はこれにできたら皆さん達も加えての話し合いができたなら、なおいのじゃないかと思ひます。とにかくみんなで話合つて、その中で解決して行くことが大切だと思います。腹ふくる思いでいることはよくないと思ひます。

司会 では最後に岡田先生に、おまとめをお願いしたいと思います。

岡田 皆さんからいろいろな問題を述べて頂きました。

政治の問題等大きな問題になるとほとんどふれる時間がありませんが、非常に沢山の問題が出ております。さつき谷川さんがおつしやつたように、明るくするために先ず暗い面の検討が必要だということでしたが、実際に今皆さが見えなかつたことから、すいぶん日本の家庭の持つどうにもならない面、それと通にまた個人が独創性を働かせれば解決出来る面が、沢山上つて来たわけですね。さつきお昼の時に皆さんにお話し、御賛成頂いたのですけれども、ここではいろいろ問題が出て来て、それを解決するのではなく、どういふ問題があるか、それについてどんなふうに解決しようとしているかをみんなでお話し合ふたら、それでいいのだということで、それについてはすいぶんいろいろな問題が出て成功したと思つております。ここで取り上げる問題は沢山残つていますが、しかし皆さんの目頭考へておられることははっきりしました。また明日、今の問題をもう一度論じてみたらどうかと思つております。

司会 では、いい残されたものは強調したいという家庭の果している役割で、特に社会と関連のあることについて、ごく簡単に御意見を伺わして頂きたいと思ひます。

◎強調したい家庭の役割

屋島 教育の面で、保育所にあずけるのも一つの方法で

すが、私達はやはり家庭で子供を教育し、次代の社会を担って行く子供達をどんなふうにして、自分の家庭で民主的に育て上げて行くかということが、明日の社会に貢献する大きな仕事の一つだと思ひます。

布袋 さつき独身で立派な活動をしていらっしゃる方があつてもいいことではしたが、家庭を持つ意義として種族保持ということがあるのですから、そういう優秀な方の子孫はどんどん残して行くべきだと思ひます。

鹽原 私が先程申したのは、そういう人を特別な人であるかのごとく見ることをやめたい、そういう人達の社会的活躍というものを考へてほしいという前も含めて申し上げたのです。

古屋 現在家庭に入っている主婦として、先程も問題が出たのですが、家事労働を高く評価してもらつて共に、自分もその家事労働に対してはこりをもち、合理化した家庭生活を営むことによって、外に出て働くものに明日への希望を持たせて行くということも、社会に対して女として貢献している面ではないかと思つております。

碓 先程兵庫の方から、学校はみんな東大に行く準備教育であるというお話でしたが、そういうこともありまして、また司法試験を受けるために学校の教養課程をやらないで、その準備ばかりやる、そういう方が裁判官や、ほか

の國家の重要な地位につくということになりますと、家庭の出世主義が國家の發展をもさまたげることになる大きな問題だと思ひます。

二宮 関連性があるのですが、婦人——主婦の労働過重を軽減する上において家事の分担という考へが大切だと思ひます。自分の能力に応じて、自分でできる仕事は自分でやる、自立自營の精神を養うということが非常に大切じゃないか、立身出世主義的な勉強ではなく、本當に社会の一員として、社会を明るくするために成長させて行くこと、それには家庭の一つ一つのお手伝いも、子供が自立自營の精神で、人に依存しないでやって行けるようになるのに大切なことだと思ひます。

塚本 私は家庭というものは、家族全員の愛憎の充足の場、労働力の再生産の場であるということから、さつきの石川さんの発言は大変大切なことを含んでいると思ひます。若い人達が結婚以外に幸せを求めてだてがなくなつて来ている、だから若い人達が生活力を持たないにもかかわらず結婚しているという問題、これについて私達ももう少し考へてみなければ、家庭というものは幸せにならないのではないかと、そこを考へるわけです。やはり近代社会のゆがみは、そこにも作用している、具体的にいえば、みんなが貧しいということだろうと思ひます。やはり貧し

の解決ということがなされなければ、家庭というものの、だんだん破壊されて行くし、家庭が破壊されて行くということは、ますますゆがみを大きくすることに。もうして貧しさを解決するには経済力を女性も持たなければならぬ。それには社会に出ないで、家庭内で解決できないという面もあると思ひますけれども、家庭内で解決できない面が多分にある。それはどうしたいかと思ひます。それから一つの問題になるのが、やらないかと思ひます。それから一つ、若い人達がほかにたのしみを求められない程追い詰められているということは、子供を家事労働に従事させた時に、正當な労働に対しての賃金が支払われないことが、やはり生きる喜び、生きる意欲というものを失わせているということに大きな意味を持っているのではないかと、いろいろに考へます。

司会 今日家庭の持つ役割について御意見を伺つたわけですが、これも大変多岐にわたり、一口にまとめられない程で、これが本當の家庭の姿だと思ひわけです。さういいます。確かに大事なことはいくつもあり、経済の問題、愛情の問題、子供の問題等、それがまた相互に関連し合えば経済の問題ですと、結婚の問題、計画産児の問題にも発展していきます。

明日、これらの問題をどうすればいいか——個々の家庭

のためにどうすればいいかということだけではなく、日本の家庭全体を明るくするためにどうすればいいかをお考へ頂きたいと思ひます。

◎傍聴人との質疑

(休憩)

司会 はじめに塚本さんへの御質問をどうぞ。

傍聴人 自分の家だけで解決できない社会とのつながりの問題として失業の問題とか、社会保障の問題とか、いろいろ具体的なものが出て参りましたがあなたが、一番切実に考へていらつしやることを伺いたいと思ひます。

塚本 私はやはり私達がまずしいということは資本主義の矛盾から出ていると思ひます。だからより多くの人々が幸せになるために運営されるような主義——はつきり言いますと、社会主義社会にならない限り女性も解放されないということです。

傍聴人 佐賀の炭鉱の事情を、何か例を挙げて二つ、三つ伺いたいと思ひます。

塚本 佐賀の炭鉱は、六十日ストを打つたあとの恐慌は大変で、坑内が荒廃して中小炭坑は閉鎖となりました。そうしてIという炭坑では千三百の従業員を全部解雇するという事態になり、第一組合と、第二組合との間で乱斗が起り、第一組合の人達が捕えられて警察にぶち込まれるとい

うことが起り、子供達の間に、教育的にもおもしろくない事象が起ったこともありました。争論が長引き、一度に千三百もの従業員を元に就業させるということは不可能なので逐次戻すという条件で復旧することになったのだけれども、それには順序があつて、組合で一所懸命争論をやつた人達が一番最後になる。そういう家庭は日雇いに出る、農業県ですから、農閑期にはかなり日雇いがあるのですが、これも季節的なもので、一時的な解決ではない。そういう時に大変生活が苦しくなつて、学校が成り立たないくらい学校に出てこないという事象も起つたわけです。しかもそういう家庭の子供が他県に働きに行くのは、資金を得るということよりも、先ず口減しです。そういう大変な状況で、また今度のストの場合も、どうなることかと思つて心配しました。

特別傍聴人 家庭というのは、夫婦を中心に愛情によつて結ばれた団体であり、その中に於いて、男女の平等、家事の分業ということがなされなければならないというふうなことをおっしゃいましたが、性質の違い、あるいは性の違いによつて調和を保つて行かなければならないことがあるのだらうと思いますが、その点。それから社会あるところに政治ありと言われますが、家庭にも必ず政治というものがあるが付随して来ると思いますが。そういうことについて

ないかということ、どうにか苦勞して私の小遣いを出して、それで自由に本を買つたり、映画を見たりお茶をのんだり、労働の報酬だという気持ちで使える——考えようによつては卑屈な考え方も知れないが、それも一つの自分のできる政治的解決だと思ふのですが。

司会 はかの方いかがでしょう。

菅原 戸主といいますが、今は世帯主ということ、登録などする場合にお父さんならお父さんの名前を署ますね。五人なら五人の家族を代表する。これは便宜上結構だと思ひますが、やはり内容は、夫婦の合意によつて家庭がいとまされて行くわけで、形式的にはそれで差支えないと思ひます。

司会 さつき魯我さんからヘンクリという言葉が出ました、が次はそれについてのご質問です。

傍聴人 ヘンクリの事情はいろいろな文獻で承知しておりますけれども、東北の農村に山形は大変おもしろいというのを伺つておりますが、その実情を……。

屋島 山形の場合、米作県です、稲作はほとんど主婦のヘンクリ、またタマゴなどもヘンクリということになっております。で、その使用が問題なんですそれが全部使えるのだとよいのですが、そうじゃなく子供の小遣い、学用品などにむけられる場合が多いのです。そこでたまには一

のお話し合いがなかったようですから……。

屋島 家庭の分業ということ、あまり形にこだわらず、例えば主人が家庭の仕事に手伝う家庭、あるいはそういうことに興味を持つてゐる若手もあるし、また会社でも人数不足なので、ずいぶん重労働をされ、家に帰るとなんにもしたくないという方もいるわけですから、そうした側々の家庭の事情に応じて、形にはこだわらないで処理して行つたほうが一番いいのじゃないかと考えております。

司会 前の御質問は、集団の中には必ず政治的なものがあるのではないかと……。

魯我 政治的と言ふかどうかわかりませんが、私は奥さんの仕事というものは、どう労働だとは思いません。ニコロンの肉體労働をしてもらつてやる方に比べれば、非常に融通もつくし、むしろ楽な仕事だと思つております。しかし男の人の仕事と比べて、家で寝てばかりいるというように言えるものでもないと思ひます。それで労働ということについて、少し具体的に考えようという話から、私はあなたからお月給を全部頂きますけれども、自分のお金というものを持たない、ヘンクリというものも作らないし、大変な場合もあるから、私のお小遣いが欲しいと申しました。それはいいことだから、そうしようじゃ

晩温泉くらいに行こうというので、タマゴ貯金といつて、タマゴの分だけは別に娯楽のために使うことに決めているような実情です。

堀米 岩手県では、ま、ち、という言葉で論議されたのですが、県南と県北に分けて、県北は比較的主婦の小遣いができるという面もありますけれども、県南では、生活がまずしいということが原因だと思ひますが、タマゴも、家族の養分には向けられないで、ほとんど農家の経営のために出さなければならぬという状態で、お嫁さんの小遣いも、四、五年の間は実家に行つてもらつて来ます。嫁家でもなすべきはずのおしめを洗うときのセッケンなどの日用品も実家に行つてもらつて来ます。それが当り前のような状態になつております。

傍聴人 老後の問題ですが、職業があつて働ける間はいいと思ひますが、年をとつて職から離れた場合、息子達の家におびやかすようなことはしたくない。そういう場合やはり老後の保障というものを考えて頂きたい。その点について皆さんの考えていらつしやることをお聞きしたいと思います。

石堀 私自身、主人の母の世話をしまして、正直なところ母親一人養うということは大変なことです。私も子供達の負担にはなりたくないのですが、今は子供を育てること

に精いっぱい、五十五で主人が停年になったら、あとどうしようもないのです。だからといって無料養老院を作って全国の老人を収容できたら、それで老人の問題は解決するかどうか、それだけでは解決にならないと思います。

私は自分で老後の見通しがつかないので、気になり養老院を見て歩いたことがあります。建物はずいぶん立派なものもありました。そこにおびしきというか、実にみじめなものを感しました。だから養老院では本当に解決しない。何か国家がお金を出して、家庭という一つの形式の中で解決して行けたらいいのじゃないかと思っております。例えば未亡人なり、母子家庭に困っている老人を連れて来たり、また孤児をつれて来たりして、一つの家庭という形の中で解決したら、とてもすばらしいのじゃないか。そうなるためには、その中心になる主婦の座にある人が、非常に賢明であるという必要もあります。また国家が経済的裏付けをしてくれなければできないのですが……。

司会 大変残念ですが時間が、参りましたので——御協力ありがとうございました。

(第一日閉会)

「いかにして日本の家庭を明るくするか」

司会 まず今日の議題に入ります前に、昨日話し合われたことについて簡単に申し上げます。新しい時代と共に目

本の家庭の持つ意義も次第に変わって来たけれども、まだまだ封建性が根深く残っていて、いろいろな問題がある。たとえば、若い人が他に希望も持たず、無計画な結婚に入っていくということ。出世主義の教育方法で学校に入れる。また学校においては先生の課目の問題も起っている、それから女子の職場がせまめられているという問題、児童の問題等挙げられました。また妻も経済力を持たなければならぬが、それについては共稼ぎということもあるが、

同時に家庭にあつて寄与することもできるのだという御意見も出たと思います。そして妻は教養をたかめ、経済的な知識も高めて行かなければならないということも言われました。また社会保障の充実が非常に望まれていたように昨日の討論の間で受け取られました。それからこれは婦人が切角得た選挙権を上手に使うことも解決の一つじゃないかという御意見もあったと思います。それから岡田先生のほうから、家庭が社会に寄与するばかりでなく、社会のほうこそ個人の幸福、個人の家庭の幸福を助けるべきではないかという御意見が出たと思います。

それでは今日の議題に入ります。はじめに私はこのようにして家庭を明るくする、またこのように努力しているけれど、とても困難な問題があるといったようなこと、皆さん方の家庭の具体的な例をおっしゃって頂きたい

と思います。では石堀さんから……。

石堀 先ずどういうことが暗い原因になっているかというところを考えてみますと、私の場合は、経済的ということが、一番大きな問題でした。私達は引揚者の上に弱弱な身体でお互いに仲よくなければならぬという気持ちだけは痛切に持って家庭生活を始めたのですけれど、その家庭にときどき暗いかげがさすのは、きょうの生活あすの生活をどうやったらいいだろうかという問題でした。最初は一所懸命働くという個人的な努力で、一応絶対的貧乏から抜け出すことはできたのですけれども、相対的貧乏と言いますか、それから先どうなるかということは、とても私達の個人的な努力だけではどうにもならないことです。これはやはり社会保障制度とか、老令年金とか、そういったもので解決するよりほかにないと思うのです。自分の選挙権をうまく使って、社会をよくすることに懸命に努力して行けば、明るくなってゆくのではないかと思っております。

森 私の家は、公務員である主人と二人切りの生活で私は農業をしております。私は結婚するまで百姓仕事を全然したことがなく、百姓そのものに對してさげすむような気持ちを持っていましたので、はじめは仕事がつらくて、勤めから帰って来る主人にやさしい顔もできず、不平ばかり言っていて、お互いに気まずい思いをしていました。しかし主人

は長男なので、どうしてもこれをつづけなければならぬということがわかって来たので、農業についても少し研究してみたら、そこにたのしみというものが持てるのじゃないかと思ひ、婦人会の農事講座や、いろいろな講習にも出てみました。そうしたらだんだん仕事にもおもしろみが湧き、百姓もそんなにバカにしたものでないということがわかってきました。それから主人は外との接触が多く、二人で話をしていても、話題がとぎれがちで気まずくなる。これをどうにかほぐして行きたいと思ひ、婦人会の説書グループに入りました。そこで新しい知識を得ることによつて、主人と対等に話すことができるようになりました。同時にだんだん空明気を作ることができました。子供のいない私達は、明るい家庭だと言われますが、しかしちょっとしたことでも、とんでもないみぞができることが多いのです。そこでお互いに自分の仕事に責任と誇りをもって協力して行けば、明るい家庭が保てるのではないかと努力しております。

古屋 私は姑との折合いがわるく半年目に夫と共に婚家先から出てしまつた暗い経歴を持っております。主人はその頃軍人でしたが、終戦になり、家へ戻ることもできず、主人と共に開拓地に入りました。電気もなく、飲料水にもこと欠くような苦しい生活、その中でみんなが協力して行

かなければ、一日の糧にも困るという生活の中で、私はどんな生活でも、みんなが理解し合って行けば、生きて行けるという自信をつけられました。そうして自分のわがままから、あんなふうにして家を困てしまったことが、今更ながら後悔されると同時に、どんなことでもみんなが理解して行けたならば、一家の中はうまく行くのじやないかというふうに感じました。開拓地であつた野郎、また心をこめた手紙を母の許に送り、なんの反響がなくても、自分の気が済むよう、母達へ好意をつくしておりましたところ、家に帰って一緒に生活してくれというありがたいよりが母から五年目に参りました。そうして私もまた母の許に帰り、兄、姉、小姑という大家族の生活が始まりました。

どうして別れるような結果になったかと申しますと、その頃まだ私は若くて多くの新婚のたのしい夢を持っておりました。しかし母は、長男の嫁は働き手として家に迎えたいという觀念をもち、姑という権限で、命令的に嫁の行動を監視するという立場にあり、私は夢と現実との違いにかなしみ、不安、不平だけを持っておりました。そうして二人の間にある夫や舅は、どちらの言分もただうるさいということだけで、都合することに全然協力してくれないということも、大きな原因だったと思います。

そこで一緒に居てからは、私はどうかして、この

間違つた原因を打解して行かなければならぬと思ひ、とにかく私が中心になつて、子供も大きくなつておりますし、子供の学校の諸題の中から、食事中にいろいろと取り上げますと、自然父親も口を出さうになり、話題がだんだん豊富になつて参りました。そんなことから、家の前の道路がデコボコで困るという話にもなり、父もこれはなんとかしなければというので、だんだん地域社会にも目が向けられ、いつも小言ばかり言つておつた父が奮起して、市や県のほうにまで働きかけ、道路を舗装するという結果にまでなつたことは、小さな家庭の調合いから、そういう明るい方面に向いて行つたということ、本当に喜びを感じている次第です。

土屋 私は七反ほどの農家の主婦で父が百姓仕事をし、私はいそがしい時にお手伝いするというくらいで、主人は学校に勤めております。私は封建的な家長制度の強く残つてゐる中に育ち、もつと明るい生活はできないものかと、涙をこぼしながら考えたのです。先ず嫁と姑が仲よくしなければ明るい生活はできないと考え、嫁に対する姑の態度、この人間関係を正しいものにしたいたいと思ひ、正しいことは意見をのべようとやつたのです。しかしそれには大変な勇気がいりました。また一方、そう言つてもなるべく争いたくないので、私は食へることからと思ひ、家族の証

生会をいたしました。先ず調理配膳に工夫し、あまりお金をかけないように、なごやかさをかもし出すよう努力しました。これで家族に榮養知識を啓蒙し、同時に話し合いの場ができ、今まで言えなかつたことでもみんなで話し合いお互いにいたわり合うことができるようになりました。また家庭を明るくするには、労働力の削減が必要と考え、水道を引いて井戸の改善をはかりました。これには主人は禁煙を断行して資金を作りました。それから家庭に笑いがはしいユーモアを取り入れようと主人と相談し、簡単な言葉の端におもしろみを入れました。このことも非常に役立っております。これと同時に私は知識をひろめ、主人や父と話ができるように努めました。また子供の少いことも、家庭に明るさを作つております。経済の面で家庭の不和をかもし出すことが多いので、祖帳生活を次第に台所のまかないも、私にまかせてもらえるようにしました。家庭菜園を工夫し、空南などを入れ、健康と経済に役立てております。農村で片手間に思われている台所の仕事の重要さをみんなが理解し、私は自分の仕事に誇りとたのしみを持つことができるようになっております。

川辺 私の家庭は、普通一般に夫があつて、主婦があつて子供があつてという家庭ではないのです。私が一家の主人であつたり、主婦であつたり、母であつたり……と申し

ますのは、父が六年前に死亡し、母は五年前から養老所に居ております。私の下に弟一人、妹二人がおります。一家の経済は弟の収入によつてまかなわれております。上の妹は看護婦学校にあり、下の妹は六年生です。私はまだ独身ですが、すべての責任を負われ、今から年寄りくさい家庭の経済とかお料理に明け暮れております。しかし私の家庭は皆さんに誇れるような明るい家庭だと自負しております。その明るさを作るために、みんながセンサメンタルにメンツメンツしないということ、私が中心になつて外から明るい話題を取り入れて来るように努めました。具体的な例としては、私達の所は山村で、娯楽にとほしいのですが、私の家にはラジオもなかったのです。そこで貧しい家計の中から苦勞して、月賦でラジオを買つたことが、一家の大きな喜びになっております。今はラジオを囲んで兄弟四人、とてもたのしく暮らしています。

そこで少し問題が大きくなるのですが、私がいくら家庭のために努力し、明るくしようとしても、限界があるということと申します。私達には健康の大切なことは身にしみて感じておりますが、不意に襲つて来た病氣に對する明日への不安をなくするためいつでも倒れた場合には、社会保障というものが、自分の後についていて、いつも安心してその日その日の生活にゆとりが出て来る。こ

れこそ本当に生活を明るく、たのしくするもではないかと考えますので、社会保険をもつとみんなのものとして、もう少し改善して頂きたいと思っております。

沖野 私は原爆と同時に家を焼かれ、着のみ着のまま主人の生家に帰り、主人の鍛冶職の兄の家族と同居しておりました。何しろ都会生活ばかりして来た私達にとって、農業の手伝いも下手で、従つて兄弟姉妹との摩擦も多く、主人との話題はグダグダばかりでしたので、主人はだんだん家がおもしろくなくなり、外に泊つて来るようなこともありました。私はその頃からこれではいけない、どうにかして家を持いたいという念願の下に、五ヶ年計画で家を建てていく福芝生活を始めました。健康を維持するだけの食生活、新制は一切見合わせたところの衣生活を実行して、現在二十五坪ばかりのささやかな家を持っております。いくら健康で、愛情もあり、個々の人格を尊重し合つて一家を営んでいるても物質的に行き詰つては到底明るい、たのしい生活を送ることは不可能なことです。主人は鍛冶職ですが、少い収入の補いのため内職をし、初めはそれを子供の教育費、小遣い等と、漠然と使つておりましたが、昨年から計画的に衣生活の計画を立て実行いたしております。なんと申しましても、家庭内の雰囲気がおもしろくなる原因は、食べることから起る場合が多いと思ひましたの

で、私は近所や、よそから頂いたものはもちろん、なんでも主人から末子に至るまで、一切同じように分け合つて感謝して頂いております。また子供の気持を明るくすることが、一家にとつては家庭を明るくすることではないかと考えましたので、できるだけ夕食の時には、子供の学校の話、遊びの話聞いてやることにしており、また子供が休んだ後には、主人と話し合つたりしております。私自身としてはラジオの婦人の時間をできるだけ聞くようにし、それからできるだけ無駄使いをなくしてそれを貯へ、バス、電車、汽車と乗物をたくさん利用できる所へお花見に行くことをたのしみにいたしております。

爾 私はとても暗い生活をしておりましたもので、それから、第一に自分を明るくするという努力をしました。二番目には、家庭を暗くする原因を除くということに重点をおきました。三番目には社会性を養うということをお考えました。

第一の自分を明るくするためには、なるべく自分の短處、苦しいことを努めて忘れるようにし、そのため取組む苦勞をせず、その日その日全力を尽くすことにし、常に明るい話題を求め、言つてもどうにもならないくらいのことなどは言わないよう心掛けております。子供達とは、最も苦しかった時と比較して、たとえ小さなことでも、その進

歩を見出して喜び合つております。どんなに腹が立つても他人と争わない、そういうことによりたとえ苦しいことがあつても、子供達を眺め、自分の心をなぐさめております。それから近所の人たちから、孤立しないよう、常に笑顔をもつて親しみ、他人様にも親切にして気持を明るくするように努力しております。次に家庭を暗くする原因を取り除くためには、どんなもおしやるように、諸局経済的なことが重点になりますから、お金は節約し、上手にやりくりするようにします。どんなに苦しくても、私は生活費のために借金をしないように努力しております。借金をしますと、一層重荷になり、生活が向上しないし、子供達に誇りを失わせるからです。子供には希望に従つて、なるべく教育の機会を与えるようにしております。とにかくわるいことでなかったら、どんなことでもいとわず私は働くように心掛けており、そうすることによって少しでも経済を豊かにしたいと思つてます。それから自分が社会性を養うと同時に、子供にも社会性を養うよう心掛けております。

司会 いろいろお話が出ましたが、今、御発表にならないうことで、特別いいことをなすつた、ぜひ皆さんにお話したいということがありましたら、お話しやつて頂きたいと思ひます。

屋島 私は、P.T.Aや婦人会の会合に出掛けて、歸えりが遅くなる人が多いのですが、黒板を備へつけて「今日のおやつはどこにあるか探してごらん」とか「夜のおかずは、何々をお願いします」と一人一人名前を書いておきます。すると子供たちは私の帰つてくるのを待ちかまえるようにして「今日のおやつを採すのにととても大変だったんだよ」といって、とても明るい気分になっております。

菅原 暮らし方についての考え方が變つてきて、昔のようになんでも自分でやれるというのが必ずしもよくない方ではないというような考えになつて参りました。例えば洗濯にしても、ワイシャツ一枚を十回でやる洗濯屋さんもあるのです。そこへ頼み、その分の労働力をほかに使う方が経済的であり、又、それによつてういた時間を修養の方面にむけることが、より有効であるという気持ちになりました。都会だからできるんだとおしやるかも知れませんが、あながちそうではないと思ひます。これはよそに頼んだほうがいいのか自分でやったほうがいいのかを決め、なるべく家庭の仕事を単純なものにして、主婦が疲れないようにして、笑顔で子供と遊ぶ時間を作るようにしたいものです。それから日曜のある生活をするように、決して日曜だから、どこかに行つて費用をかけるということではなく、

本当に目曜らしく、家族みんなの休息の日にするよう努力しております。

司会 まだまだございましょうが、この辺で岡田先生にまとめていただきます。

岡田 皆さんのお話を伺い、またお出しになった論文を拝見してみますと、戦前と違うことは、非常に個性的な解決方法を考えておられる。それぞれ違いますが、とにかく個性を働かせて何か作り上げて行こうという点では、非常に皆さん成功しておると思います。それはやはり戦争の結果、いろいろな条件が変って来た、その中で、今まで通りの生活では駄目だ、新しいものを作つて行かなければならない。そういう時にやはり主婦の持つ独創性が大きな役割を果たしているのだと思います。それが今後の家の在り方を決定して行くのじやないかと思ひます。今後の家というものが、昨日もお話に出たように、要するに個人が作り上げて行くもの、今までの家というものがあって、それにあてはめて行くというのではなく、みんなが作つて行くのだとすると、どうしても独創性というものが必要になって来ます。そういう意味で、あらゆる面で婦人の独創性というものが要求されて来ると思ひます。それから皆さんの間で、ある意味で共通したことは、いくら個人個人で努力しても限界があるということです。その限界を果た

をお互いにどういうふうに果たして行くか、その果し方は、実はみんなの個々の家庭にまかされているので、手本はないということです。ここにこれからの家庭のむずかしさがある。そういう意味で、これからどうしても独創性を發揮しないことには家庭はよくならない。今までは何か手本があったのです。それに準拠しておれば、誰かが我慢すれば——日本では嫁と、次三男が我慢すれば、それでうまく行くようになっていたわけです。これが今はありません。——残っているけれども、それではかえって家庭を暗くする。むしろこわして行くわけです。

◎家庭と社会のつながり

司会 今日のお話をうかがっておりますと、とにかく皆さんは家庭を明るくしていられよう。そうして現在暗くて困っていることは無いように、私は思いました。ですけれど個々の家庭が幸福ならば、それでいいというわけにはいきません。家庭社会から孤立して存在して行くことができないということは、昨日の討議の中にも出たと思ひます。それで皆さんの中でも、自分の家は確かにうまく行っているけれども、しかし周囲を見廻してみても、自分の家庭にも必らずはね返つて来るような問題があると思ひます。たとえば子供が学校に行けば、友達と相互にいろいろ

してどのように解決してもらうか、社会保障の問題やそれに関連する政治の在り方、そういう問題について、個々の具体的な家庭からどういうものが要求されるかという点は、次の討論の中で具体的に論じられて来ると思ひます。それから経済問題が非常に重要だということも皆さんのお話に出ておりましたが、最低生活はどうしても維持しなければならぬことは事実ですが、それ以上になりますと、一体経済的にどういうふうになったら、家庭が幸福かということ、いろいろのサンプリングをきいて質問してみた結果が、ほうほうの国で出されておりますが、これでおもしろいのは、決して家庭が豊かになるに従つて、幸福になつていないということです。実際どういう家庭が経済的に幸福かという点、家族員、殊に夫、子供が経済的に協力していると言いますが、収入においても、支出においても、分配においても意見が一致していないという結果が出ておる。経済ということは大事ですけれども上のほうになれば、なるほどいいかというところではない。こういうことも一つの参考になると思ひます。

それから前にも申し上げたように、今後の家庭は何かある一定の生活があるのではなく、これからの自分達の役割と言ひますか、夫の役割、妻の役割、子供の役割、これら影響し合っている。それが成長の過程においてはわるいこともありましようし、またプラスになることもありましよう。そういう問題であるとか、また所感文を拝見しますと、農村では、夫婦で新しい生活設計をして、農村に残っている封建性を打破して行くといくら努力しても、周囲が冷い目で見るといふことをお寄せになつた方もありましたが——

古屋 先程も言ったように、嫁と姑の問題についても、ある一軒の家のお嫁さんとお姑さんが、仲よくやつて行こうとしても、近所の人達の無理解が、それをこわしてしまふという例がたくさんあります。姑に向つて「お宅のお嫁さんは、お若いからお母さんの言うことを聞かず、どんどんおやりになつて結構ですけれども、お母さんとしては大変ですね。」とおっしゃる。お嫁さんには「いろいろやりにくいでしょう」と、よその家のことにまで干渉しようとする。この気持は本当に除いて行きたいと思つております。

土屋 そういうことについて、子守りの例があります。私達の農家では、孫ができると、姑さんが子守をして歩くのが多いのです。その人達が子守をしなから暇なので、嫁の悪口を言う、それで足らんでよその悪口まで言う。それでほうほうの家庭があらわれていることが多いのです。

ですから私は、姑になったら子守りをするものだという觀念をなくして行ったらどうかと考えます。それよりも自分の子供は自分で世話し、いそがしい時は、一軒の家にいるのですから、姑さんが手伝うということにしたらいと思っています。

婦 姑さんが、子供を背負って歩くのは、一種のリクリエーションだと思います。あゝして同じような老人が寄って、話をしたのしむという節もあって、私はいいように思いますけれども。

司会 リクリエーションとして、腹にたまったことを言つて歩けば、家に帰ってもお嫁さんに対して、あたりがやわらかくなるといふ効果もあるというわけですか。

婦 それは、本当の解決じゃないと思います。私は保婦をしてるので、家庭をつぶさに廻るのですが、私が本当にお話ししたいと思う若いお母さんが出て来てくれないで、先ずお姑さんが出て来るのです。若い母親たちは新しい育児法を取入れて、子供を育てたいと思つていても、お姑さんに子供を占領されてしまつて、たとえば厚着の問題、離乳食の問題などで、非常に悩んでおります。そういう点で、もう少し根本的な解決がないものかと悩んでいるわけです。

石橋 私も姑の問題では、とても悩まされたのでけれど

なつてから、家へ引取りました。それが私は自分の生んだ子ですから、ちつともわけへだてのないつもりでいても、どうもうまく行かないのです。小さいうちはよかったのですが中学に行き出す頃になつて非常にひがんで来ました。他の子達は、私達の生活の方法を身につけているから、疑いもたないで、それにとけ込んで来るが、どうも長女だけがとけ込まない。これをいろいろ考へてみますと、年寄りの介入ということもありますが、近所の方が、いろいろ陰でおしやるらしい。それを家に帰つて言へばいいのに言わない、その言わないところにこだわりがあるのです。母親に言わないで、おばあちゃんのところに行つて言うんです。そこで私は断にさわりまして、近所の方々に思い切つて言つたのです。「私達はこういう事情で、女の子が少しひがんでいますから、お願いですからいろいろなことを言わないで下さい」と、いつもそういうことが解決の方法だとは思わないですけれども、なんでも私は言いたいことは言ふという主義にしています。さつき農家の話にもありましたが、他人の生活に興味をもつて、口を差しはさむというのは、女性の共通性かも知れませんが、とてもいやだと思ひます。

司会 女同士で女の苦勞を増大して行っているということですね。

よく考へてみますと、姑さんに言われて、腹の中は別として、一応はいはいと言つておれればいいのだ、結局お姑さんと意見が対立しても、そのままソツとしておいてやればいいのだ——どうせ眼目なんだからといふあきらめの気持ちで、なんでもはいはいとやつて来た。そうしているうちに、本当に心からお姑さんの言うことに従っているのじゃないのだということが、お姑さんにもわかつて来て、表面は何事もなく、おとなしくしているけれど、その何事もないうことでもだんだんみぞが太きくなつてしまふ。それで喧嘩しながらでも、人間と人間の触れ合いでなければいけないと考へはじめ、そのためにずいぶん喧嘩もし主人の兄弟からいろいろ言われもしましたが、今おばあちゃんか死んでみて、やはり私達は喧嘩しながらでも、本当にぶつかつてよかったと思つております。

司会 只今のは、特に姑さんとの関係でしたが、御夫婦の間柄とか、子供さんのことで、一家の中の問題もあるでしょうし、社会とのつながりで、社会がこんなだから、家庭が困るという例もあるのじゃないでしょうか。

婦 我 私、長女が生れてすぐあとに長男ができたものですから、おばあさんがとても長女を可愛がりました。そうして終戦後は「こんなお母さんのところにおいておけないから……」と一時故郷へ連れて行き、学校に行くようにした。

屋島 農村では、PTAの会合に集つてくる半分以上がおぢいさん、おばあさんです。こと教育に関しては、これではいけないと考へまして、父母以外の人は、止むを得ない事情のない限り、出ないことにしてしまつたのです。おじいさん、おばあさんは大変御不満だった。それをいやす方法として「経験の深いおじいさま、おばあさまへ」というプリントを出して、給食の献立の御協力を願ひました。もう一つは、子供達の学芸会に御招待すると、喜んでいらつしやる。そういう場所でも、新しい教育はこんなものですとお話しますと、お母さん達との教育方法に関する衝突などもなくなり、かえつておばあさんから教えられるようなことも出て来ました。そういう面も、多少社会から、家庭の周りをなおして行く方法と思つて申し上げてみました。

◎家庭の機械化と妻の座

塚本 解決の方法についての考へ方で、昨日のお話の中に、家事労働は一つの労働だから、区別すべきではないということがありました。また第一都会からは、豊作であつても嫁は喜ばない、それは、より一層労働が要求されるからであるということもあり、いろいろ矛盾がたくさん出ておりました。これは農家はかりでなく、都会の主婦で

もそういうことは言えると思います。清物を縫ったり、夫

へのサーヴィス等、夫の愛情にすがって生きて来た人達の家庭の中に、最近では電気洗濯機とか、いろいろ家庭内の生活を合理化する機械が入って来たために、夫への隷属がますます強くなる傾向にあるのではないか。家庭内の近代化は主婦にとつてのぞましいことなんだけれど、逆に身のおきどころがなくなるという大変矛盾したところがある。その矛盾をどのように私達は解決して行ったらいいかということをもう少しお話しして置きたいと思います。

布袋 解決法とは言えませんが、田舎に行きますと、見栄があつて、私の知っている人もただ電気洗濯機があるというだけで自慢で、それによって生活を合理化しようというのではなく、使つるのは電気代がおいしいから使わない。ただ近所の人に見せるためという見栄、これは絶対になくさなければならぬと思います。

森 私は、田舎の主婦ばかりでなく、都会においても、女というものの愛情の考え方が間違つてゐるのじやないかと思うのです。世帯女房型の愛情、盲目的な愛情、そういうもので満足している。そこに隘路があるのじやないかと思うのです。もっと新しい愛情を見出して行きたいと思つておきます。

司会 今、夫婦の愛情の質というか、型というか、そう

いう問題が出ましたが、これについて何かございませんか。

二宮 私達の結婚は、長男と一人娘の結婚で、どちらの家を継ぐかということでも非常にむずかしい問題がありました。當時は民法が改正されて日が浅く、農村ではまだ家と家との結婚という考えが強く残つていたからです。そこで二人で話し合い、嫁に行くとか養子になるとかじやなしに、人格と人格、愛情の結びつきで結婚するのだからと家の觀念にとらわれずに結婚しました。

岡田 ちよつとお尋ねしますが、今、問題になつた機械が入つても、主婦の地位がもっともよくなるらない。その場合、一番の隘路というのはどこですか。自分達の兄弟、また親類、隣り近所、どこですか。農家と都会は違いますが、今の二宮さんの場合は、一番問題になつたのはどこですか。

二宮 親類もありましたし、近所もあります。

岡田 どこでそれを解決したのですか。

二宮 私達の気持の上で、私は嫁に行ったような気持で主人の親につかえるし主人のほうは、私の家に養子に來たような気持でつかえるという気持でやつたわけですが。

司会 二宮さんの場合は、そういうふうにして解決なすつたわけですが、まだまだ家と家との結婚という考えが残

つていて、嫁に行った、嫁にもらつたという気持では、いつまでも男女の平等な人格による結び付きということとは言えませぬ。それではいつまでも妻というものは借りものの座についているような気がします。そこでさつき塚本さんが、皆さんに考へて頂きたいとおつしやつたことに戻つて、とにかく家庭の中に機械が持ち込まれ、家事が簡素化されて行くと、妻はどういう位置に立つのでしょうか。自分の家のことだけじやなく、日本全体の妻というのは、だんだんどういふことになるのでしょうか。

沖野 農家の母親は労働が過重で子供の教育にあまりついておられないのです。子供が宿題を「お母ちゃん、みてちょうだい」と持つて来ても「はいはいあとでみますからね」といいますが、夜は夜で子供は先に寝てしまうので、宿題が二日も三日もたまつてしまうようなこともありま

官原 家庭が機械化され、妻に時間ができて、もっとも向上しないということは、機械に人間が使われる結果になるからだと思います。機械というものは、あくまでも人間が使つべきもので、機械に支配される人間であれば、暇になつて自分の時間をもてあますという結果になりますが、只今の方のように、子供の教育面に向けるとか、商売の方々は、そちらのほうに向けるとか、自分が今まで最もほしいと思つていた点に向けるとか、私の場合は、自分の家から一歩出て、近所のため、社会のためというほうに目を向けておりますし、あるいは主人の仕事を手助けしております。そのようにその人、その人により自分の家庭にあてはめて、その時間を使つて行くことがいいと思います。

古厩 私の家では、家族の話し合いで、仕事の分担を決めましたので、女の手がだいぶはぶけて参りました。それで母のほうは、未亡人で多勢の子供を抱えて困つてゐるお友達のために力を貸してあげようということで、グループを作り、毎月一度会を持つようになりまし

す。

二宮 機械化されることによって妻の位置がなくなるというのですが、ここにいらつしやる皆さんは、みんな裕福な方ばかりじゃないかと思うのです。私の場合は非常に経済的に苦しいものですから、共稼ぎをしているのですが、そうすることによって、女も経済的な力を持ち、男女同權と言いますか、地位の向上がはかれるのじゃないかと思えます。経済力を婦人が持つということは、非常に大事なことじゃないかと思えますけれど。

司会 妻が職業をもつて、経済力を持ったたり、また家庭にあつて、家事や育児に専心することだけで妻の役割が終るのではなく、次第に家事の機械化などのために、妻の時間にも余裕が出来て別のほうに目を向けて行く、例えば社会に関心を持つなど主婦としての役割というのが他にあるということですか。

布袋 主婦というものがハウスキーパーというのではなく、ホームメーカーということです。

司会 妻、または母というのは、身の廻りのことをみてるから、その存在価値を認めているということではなく、家庭を築いて行く、その中心、よりどころになつていくというのが本当の妻の座であるということなのではないでしょうか。一方、世間はどうかでしょうか。たとえば、なかなか夫

が家に帰って来ない、帰って来る気があつても、友達、または世間にそうさせないような習慣があるといったようなこともありますね。

二宮 私の近所にも、夫が外に愛人を持つということがあります。それには宛春婦の制度をなくして行くというよりなこと、やはり家庭を明るくして行く一つの解決方法ではないかと思うのです。

司会 宛春防止については、関係方面で一所懸命やっております。世間には、男のための娯楽というのには確かに認めてゐる。しかし、こうしたことに對する批判もきびしくなり、今度の国会では宛春禁止法案が通らうとしております。この法案が成立したならば、女として強い力をもつて、それが守られて行くようにみんなで努力していくという仕事があります。

石川 今の宛春婦のことですが、もし宛春制度というものをなくしたとしても、今までそれをやっていた人達は、どこでどういうふうに処分されるのかということが問題じゃないかと思うのです。

福岡 皆さん大変裕福な家庭の方ばかりで、貧しい家庭の問題について全然話し合はずとても残念です。考えま

い、つまり社会に頼らなければならぬ面と、個人で解決しなければならぬ面と二つある。私の周囲に、生活保護法に頼っている人が四人おり毎月の扶助料を月給と呼んでおります。これをいかにすべきかということが大事だと思えます。そうした家庭の中には何も働かないでお酒をのみながら扶助料をもらっているという家庭があるのです。このような人達を何とか生活出来るようにしてやりたいと思つて区の方にお願ひし区有地を借りて、畑を作り、労働のたのしみをわからせようとするのですが、全然意欲がなくて絶望してしまうことが多いのです。

裕 社会保障のあり方について、もう少し考えてみたらいいと思います。立ち上ろうという意欲のある人々にどうどん廻わして、働く機会があるのに働こうとしないというような人達には、少くするようにしたらよいと思います。

◎今後の方向

塚本 家庭が貧しさから解放されるということが、日本の家庭が幸せになる道じゃないかと思うのです。それにはいろいろなことが考えられるわけですが、個人的に解決できる面として、家族全員が自立できるような力を持つこと——子供には要求できないわけですが、一応教育を終つて働ける人は、自分で生活できるようなことを身につける。

そうして働くということをはずかしいとか、また昔からあつたブラブラしておったほうがえらいという考え方をなくするということ。また自分の家庭が社会的な制約の中にあるということ、いつも考えて行かなければならない。デフレ・インフレと、経済の不況がおこると、家庭も苦しくなるわけですね。自分の家庭の苦しさを通じてよその家庭の苦しさを理解して、やらなければならぬのではないかと。労働組合でストライキをやる。その時にあの人達は自分の賃金が上がるからいいが、われわれの家庭は電気が止つたり、被害をこうむるといって、ストライキに対して反対の感情をおこす主婦が多いのじゃないかと思ひます。少しでも生活費を豊かなものにしようと思ひしていることには、自分達も関心を持つと同時に、精神的にも援助してやりたいという意識を主婦がもたなければいけないと思ひます。それから私達が積極的に社会に働きかける方法として、選挙権を正しく行使するということが言われていました。一たん選挙してしまつたら、あとは野放しでお手挙げだということ、でなく、婦人会で働きかけるのも結構です。だんだんもっと大きな組織を利用することを促進は考えていいのじゃないかというふうに考えます。

川辺 女の人というのは、なんにも努力しないで、最初にあきらめてしまふという悪い傾向があると思ひます。

この際私は、女の方は、よく働く以外に、よく食べ、よく笑ひ、よく話し、よく寝るということをお願いしたいと思います。その上に時間があれば、読んだり、聞いたり、書いたりする生活をもってこそ、明るい、そしてたのしい家庭が確立されて行くのじゃないかと思うのです。

司会 ではこの辺でまとめたいと思います。家庭内の問題として姑が知らず知らずの中に家庭を明るくして行くことの邪魔をしている。これを解決して行くために、自ずから努力して話し合いの場を作って行く、ということ。次に社会を明るくし、社会によって家庭を明るくするため、組織の力を利用し、また婦人が、その根本原因というものを知るよう努力しその解決方法を考へて行く。それには婦人が得ている選挙権を通して政治の場で解決して行く方法もあるということが出たと思いますが、何かこれにつけ加えることがありでしたら……。

布袋 家庭を明るくする根本は主婦が健康であるということだと思います。

菅原 何を論ずる場合にも、男女は自ずから本質的に違うものだとすることを先ず考えたい。そうした上で、いろいろなるもの考へて行かなければならない。足許をもう一遍見たいと思います。

沖野 子女の教育をしっかりやって行かないと、これが

いたのですが、私は貧乏人の立場で、一応そういうこともわかるのですが、どっちが家庭を明るくするのに大事なのか、あるいはどういう関係があるのかということをお伺いしたいと思います。

屋島 宗教の問題は特に農村に多いのです。宗教は自由です。それから、はたからこれをとめるということはできませんから、自分で理性をもって解決して行くよりほかになのですが、しかしその人がこっている場合は、なんともしかたのないような状態ですから、そばにおる第三者が批判をして、それによって被害をこうむつた例をあげたりして、友情でおしえる——という大変失礼ですが、話し合い批判し合うということが、必要なんじゃないかと思ひます。

石堀 どうして宗教にこらなければならぬかということ、私は君に忠告、親に孝とかいって人世の目的といふものを上から与えられ、それに従って生きていけばいいといふふうに育てられて来たのが、その目的といふものを今は誰も与えてくれる人がないから、何を求めていいのか、何をしたいのかわからない、そこでつとり早い宗教にこつてしまふのだと思います。

司会 次は、貧乏だから不幸だ、金持だから幸福とは限らないと言われるが、家庭を明るくするには、経済と愛情

の社会を背負う土合ができないのではないか。この際私は不色化防止ということを強く叫びたい。農村においては、特にそういう関心が持たれていないので、性道徳の教育をしつかりやって頂きたいと思ひます。

塚本 私は主婦の一番大きな勤めというのは、いい子供を育てることだと思います。

司会 二日にわたりまして、日本の家庭をいかにして明るくするかということについて御討議を頂いたわけですが、誠に含む問題はたくさんありまして、言いつくせなかつたことはたくさんあつたと思ひます。これから一般の傍聴の方から、御質問をお受けしたいと思ひます。

◎傍聴人との質疑

司会 初めに特別傍聴人の方からどうぞ。

特別傍聴人 日本の九千万の人口のうち、百八十万以上も要保護人員があり、そういう人達は特に中年の女の人に多いという厚生省の発表ですが、この中年の人達は宗教にこつて、そこに解決策を求め、求められない場合は死を選ぶということにもなる。そういう問題について、皆さんどうお考へになるか、聞かして頂きたい。それから先般貧乏だからなんでもかんでも不幸といふことに限らない。お金があるから、必らず幸せだとは限らないといふお話を聞

とどちらが大事かという御質問です。

二宮 それは経済の問題に集中されるのじゃないかと思うのです。苦しさを、どのように打開して明るくして行くかということですが、個人の場合は、婦人の労働によって収入をふやし、それで婦人の力を役立たせ、そうして家庭生活の安定を得る方法というのは、非常に大切だろふと思ひます。これと同時に、個人の方で解決できない社会の問題、社会保障ということが挙げられます。

司会 経済が大事だということでしたが、ほかの方で、反対に愛情が大事だという御意見の方がありましたら……。

塚本 とにかくどっちか一方をとれと言われたら……と思ひます。やはり同方向揃つてないと幸せにならないわけですから、そこで貧しいところから、お互いに夫婦で築き上げ、生活がゆたかになるように努力すること、そうしてゆたかになつた時も、やはり同じように二人で、もつと愛情を充足させるように住みこちのいい、明るい家庭にするよう努力することです。そこで一つ注意しなければならぬのは、自分の家庭だけが幸せになつたら、それでいいということじゃなくて、全体の家庭、どこの家庭も幸せになるということが、どうしても大事だということを考えます。

特別傍聴人 家庭を暗くしている要因はいろいろあるわ

けです。そういった問題を解決する一つの重要なことは、家庭という社会が、その他の社会等から、必ずどこか本質的に違うところにあるのではないか——そういったことを考えることが、解決への一つの方法になると思う。特に今のうちに、封建社会から、近代社会に移って行く途中において、なおさら必要じゃないか。たとえば嫁姑の問題もやはりそういった過渡期における問題だと思ふのです。その点をどなたからでも、簡単に一つお願いしたいと思ふます。

菅原 家庭という社会は、横には経済的につながっている。言い換えると、同じ財布で家族のものが暮らしているという関係もありますし、それから職場のような社会は使うものと、使われるものというのなかり、もっと大きな社会になりますと、政治的なつながりということになると思いますが、家庭はやはり血縁が集団している社会であるというところに違いがあると思います。

傍聴人 前合いをしたらどうかというお願が申しましたが、職場でも、家庭でも、特に女の人ははじめの中コチの自分のカラの中に入っているのじゃないかと思ふのです。そのカラを破つてどうして前合いのきつかけを作るか、その点について、もし御経験でもありましたらお聞かせ願いたいと思います。

あるようです。

傍聴人 家庭が近代化され、合理的になると、だんだん時間がでる。その時間を外に出て働くとおっしゃったが、多分職場に進出することだと思ひますが、働く婦人の職場もだんだんとせまられて来つつあります。働くということをして、いとも簡単にお考えのようですが、家庭の主婦が、その点どのようにお考えでしょうか。

森 私には女の人が外に出て働くことばかりに気を使うのはどうかと思ふのです。

司会 菅原さんは、余剰時間を何にお使いになるのですか。

菅原 私は簡単にいえば、勉強になるようなことをやっております。職業といつても家をあけて出て行くのではなくて、家の中でやれる仕事を考えています。職業という言葉ではないのです。

傍聴人 今回の同じようなことですが、要するに経済的な自立ということば、女の方が職場に進出されることだと思ふのです。そこで皆さん御承知かどうか、東京では〇〇で二十五才停年、九州の△△は結婚と同時に退職ということば労働協約ではつきりしている。造船関係では、神戸の××造船で、三十才で女子はやめるといふようなことがあり、女性が職場に進出されるといつても限度があると思ふ

古屋 それを打ち破る機会と申しますと、昔は食事などは、だまつて食事がすることが礼儀のように言われておりましたが、この食事のときが、家庭の場合は、一番いいと思ひます。

屋島 家庭内では私も同感です。それを社会というふうを考えますと、特に農村では、何かお節合いをしますから、というふうに行きますと、金集めて下さいません。やはりリクリエーション的なものを主として、そこへ入って行くのがいいと思ひます。非戸端会議の延長のようなものであつてもいいから、そういうところから打開して行つた経験を持っております。

塚本 私の職場では、女は私一人ですけれども、たくさんいるところでは、こういうことをやっています。みんなが共通の話題にする——たとえば女ですから、服装に大変興味を持っていますので、ファッションショーをやろうじゃないかというので、みんな自分の一服箱を齎て来て、みんなで批判をやる。そういうところから始めています。

傍聴人 昨日「中学浪人」ということを神戸の方から伺いましたが、昨にもまだ、そういう事例がありますか。

屋島 神戸にあるかどうか知らないのですが、新聞で読んだのと、そのほか知つたのでは、中学浪人を、正式には入れられないので浪人生ということにしているという例も

のですが、その経済的自立というものの本質的なものを一体どのようにお考えになつてゐるか。その点をお伺いしたいと思ひます。

塚本 たくさん職場があつて、働きたい人をみんな収容してくれるような世の中であれば問題がないと思ひますけれども、今はそれどころか、しめ出されまいと必死になつてゐるという状態にあると思ふのです。そういう現状の中で、どのようにして経済的自立をもちとるかということが問題になるわけです。もう一つ考えなければならぬことは、私たちは今まで自分が独立するために働いていたのか、それとも家計を助けるために働いていたのか、ということが問題になつて来ると思ひます。私達の生活が貧しいために、家計を助けなければやつて行けないという状態だから独立するためというより、家計の補助のために働かなければならぬ現状にあるということ、そのような実状でありながら職がない、どうしてないのか、どのように解決して行けばいいのかということを考えなければならぬと思ふのです。それから停年割の問題ですが私達教師は男性は五十才、女性も四十五才、共稼ぎは四十才で働かなくなつて、こういうものに対して、私達は四五十才にすぎないか。また結婚してしまえば家庭の中に入らうという安易な気持ちで職についてゐる女性が、まだ相当のじやな

いか。このためには女は結婚したら家庭に入るのが理想であるという男性の考え方をなくしてほしい。これらは個人個人で解決して行かなければならないし、また男性も、一緒になって、自分達の属する組織に訴えて、全体が幸せになる問題だというふうに取り上げてほしいと思います。そういうような解決の方法しか残されていないのじゃないかと思うのです。

司会 大変残念ですが時間ありませんので、これで打ち切らせて頂きます。どうもありがとうございました。

第四部会

出席者

岩手	及川千鶴子	(農業・主婦)
福島	立谷麗子	(主婦)
埼玉	瀧藤重子	(主婦)
東京	孫田ユリ子	(主婦)
富山	大間知八重子	(保育園園長・主婦)
山梨	石原洋子	(無職)
愛知	夏目満子	(主婦)
京都	植村かずあ	(主婦)
兵庫	西川郁子	(主婦)
島根	栗崎綾子	(主婦)
岡山	山下宏子	(地方公務員)
山口	宮原美妙	(僧侶)
高知	小笠原八重	(教員・主婦)
長崎	平室きみ子	(主婦)
熊本	辺春なるえ	(教員・主婦)
アドヴァイザー		
司会		

全国地域婦人団体
連絡協議会理事長
婦人少年局婦人課

山高しげり
森山真弓

「近代社会における家庭の意義について」

司会 只今から第四部会をはじめます。まず第一日は「近代社会における家庭の意義について」という議題で、家庭は私たちの生活にどういう役割を持っているか、というようなことにつき、特に強く感じていらっしゃることを具体的に例を挙げてお話し下さるようお願い致します。それでは便宜上八人の方から感想を三分間ずつ述べて頂くことに致します。北から参りまして、まず立谷さんをお願い致します。

立谷 近代の大部分の人々の生産的外部活動は、単純で無味乾燥になるから、仕事からくる心身の疲労が非常に大きい。ここで心の全部をさらけ出してくつろげる場所、労働力再生産の場としての家庭が考えられる。それから寝食の反復の場としてばかりでなく、家庭というものは精神の明るさというものがなければならぬ。それは婦人が、特にお母さんが原動力となつて作り出されるものだと思います。そのためには話題が豊富でなければならぬから私は新聞、ラジオを友達として利用しているのです。

一方世論、慣習、法律など、今まで外部の強制力によって維持されていた家は、夫婦相互間の愛情、理解、向上などによって支えなければならぬとなり、その心理的な調整

には許してくれるということから、自然に慰められるし、固くなりがちな心も柔らかくと思う。これだけあればこれで済むということではなくて、家庭というものはいつもそういう父親の愛情、母親の愛情というものが、無駄も許してくれるというところに、私たちは家庭の魅力を感じて思うのです。

私昨晚から大変鄭重に欲待されているのですけれども、なにか淋しいのです。考えてみると、お食事のときに一切れの漬物がないのです。漬物というものは、べつに栄養があるものでなしに、それだけ食べていたら栄養失調になつてしまふけれども、きちんと立てられた献立の上に、一切れの漬物というものが、家庭生活にも、人間としての成長といいますが、人間の生活の中に必要なのではないかという気がしたのです。それで無駄というものをいつも強調しては困りますけれども、やっぱりたまにはお父さんがお酒を飲みたいというときに、外で飲むとお金がかかるから、家の中で飲んでいなさいといっているのではなくて、たまにはみんなで少し贅沢だけでも行ってみましょうといつて、その雰囲気も家族も理解するように、そういう合理的でないようなことでも、ときには必要ではないかと思うのです。家庭はそういうものを与えてくれて、そこからのいろいろなもつと生産的なもの、それから向上的なものが出

という面がとても大切なものとして浮び上つて参りました。また生活が科学化され、婦人は家庭内の雑用から解放されると、それを教養のために使わないで、子供の教育、子供の愛情というものにばかり集中し、誤った保護、過度の心配をして自尊心をなくするということがあつて、そういう子供が大きくなった場合、現代の複雑な社会へ入って、いろいろな問題に対して正しい判断が下せなくなり、また住宅不足による密住などによって、青少年の不良化など、解決しなければならぬ問題がたくさんあると思います。近代家族の重要問題というのは、幸福な夫と妻を作ることに、それからまた子供たちに幸福な、健全な児童期を与えること、それが重要だと思っております。

石原 私はある収容所の子供たちと一緒に暮らしたことがあります。その子供たちは食事、衣服も与えられているし、むしろ家庭にある子供よりも、毎日の生活できまったものはちゃんと与えられているのです。それでいてなにか子供の表情に淋しそうなものがあるのです。その影はなにかと考えたら、生活に無駄がないことに気がつきました。こういうと、いかにもわれわれの家庭が無駄だらけというふうに聞えますけれども、そうではなくて、人間にはやはり無駄が必要であつて、ときには馬鹿々々しいと思うようなことでも、家庭であれば許される。母親であればそのとき

てくるのじゃないかと思ひます。

孫田 私たち主婦は、家庭を明るくする、幸福でありたいということとは、一希望である当然のこととして、家計のやりくりとか、人と人との問題とかで非常に努力しているのです。しかし、家庭内だけのことを考えていて、果して全体の問題が解決するだろうかと思ひますと、それは到底難しいと思ひます。どうしても家庭は社会のあり方というものに非常に左右されているのではないかと。たとえば労働問題、失業問題、又は児童福祉の問題などは家庭にとつて非常に大切なものであり、社会的に考慮されなければ解決できないということが非常に多いと思ひます。私たち主婦は家事に追われて時間がないのですが、そこは家庭の合理化とか、家庭内の人々の協力によって、社会に眼を向け自分の生涯を通じてのみでなく、次の時代を荷負う人々を通じて、家庭を明るくする努力と同時に、明るい社会環境を作るといふことに努力されなければならぬ。そうすることによって、家庭というものがほんとうの意味で明るく幸福になるのではないかと考えます。

夏目 私は結婚生活まだ半年にもなりませんし、いままで住んでおりましたところがアパートという極めて特殊な環境です。私の見方も極端なものかもしれませんが、その間に見たこと、感じたことを綴ってみます。アパート

というのは、家を持つことのできないサラリーンが多くを占めているのですけれども、その生活を見てみると、朝起きて御飯を食べて、会社に行つて、帰って食事をして新聞を読んで寝るという毎日の繰り返しなのです。それを見てみると、だんだん家庭というものが大切な機能を失っているような気がします。いろいろな個人的な悩みを話し合うことも避けられてしまふし、社会に対する疑問も話し合うことがなく、ラジオを聞くとか、新聞を読むというところになりがちで、人格的な無視さへも起つてくると思う。奥さんは家庭の合理化、将来の計画に対しては非常に熱心です。しかしその計画が非常に狭い視野に立っている。たとえば停年の問題にしても、あと主人は何年経つと停年だから、子供をいつごろ生んで、いつごろまでに大学にやつてということは非常に真剣に考えていらつしやるけれども、その停年はなくならないだらうかということ、社会的な問題に掘けて行くことは非常に少い。自分たちの息子の幸福、息子がいい大学に入ることは非常に熱心だけれども、一たび自分自身の家庭に直接関係のない問題には関心が薄い。狭い立場から明るものを求めているから明るさもないでいる。これは地方会議で強く訴えが出たのですけれども、お母さんが家庭を外にして共稼ぎをしているとき、その子供を地域社会で非常に冷たい眼で見られているとい

うこと、これは私も見ていてほんとうの声だと思つたのです。そういうことに對して家庭内の母親というものが広い眼で地域社会全体が幸福にならうという気持ちに燃えなければならぬのだと思います。家庭というものは、精神的な意味でのエネルギーを保つて行く場所であると同時に、社会に対する責任のある単位ということを感じます。

植村 私は結婚して二年経ちますが、私たちは若い夫婦のみで家庭を作り出したのではなく、夫の両親と弟などたくさんの方々の家族の中に飛び込んで、新しく家庭を築いて来たものでございます。家庭とは一口に言いましたら人間が生きて行くために必要な健康の果のような役割を持っています。健康は肉体的健康と精神的健康です。家庭の中で健康に美しく成長した人間が社会に送り出されたとき、社会においても健康な社会が築けて行くのではないかと思います。ここにほんとうに美しい人間を作り出さなければならぬ理由があると強く感じております。そのためには主婦たちは自分の暮らし方の工夫から始めて、大きな一歩かりした眼を開き、夫ととも話し合つて、夫婦が正しく一体となつて、家族全体のあり方を、正しい人間関係に作り上げることをしなければならぬと思うのです。

具体的に言えば、日常の細かい習慣や考え方や、お客さんに対しての接待、家族には粗食にして、お客には御馳走

を出すということ、家族本位のものにして行かなければならない。また老夫婦の習慣に對して根深く言うことによつて、老夫婦の考え方も、周囲の者の考え方も次第に変わってくるのではないかと思います。私は私の子供の時代には、次の世代にばかりすべてを期待しないで、今いる周囲の人々に對して、健康的な正しい人間に作り変えるということをお願いしたいと思ひます。で、家の中だけに止まらず、みんな手を手を繋いで問題を考へて、新しい社会の構成単位としてその家庭というものの意義というものがあると思うのです。

日下 私はこの会議から帰つて、十日ほど経ちますと、初めて自分の家庭を持つことになりましたが、家庭を持ちますにはどうしたらいいのかわからないという疑問をもつております。私のその疑問を皆さんの御意見によつて幾らかでも解決し、ほかの人たちのためのテスト・ケースとしても役に立ちたいと思ひます。まず私たちが家庭を持つまでの経過として、明るい交際が必要だと思ひます。私自身は多勢の友だちに囲まれて、いつも個人的に二人だけでどこかへ遊びに行くとか、そういうことよりも、どういふふうにしたら新しい家庭が作り上げられるかということ、いろいろな友達と一緒に話しをし合つて来たのです。いままでは内緒に交際された方が多くて、私たちの身の廻りでも、職

場結婚ですと、特に結婚の間際まで内緒にして、たまに人に会つと、黙つていてねという人が多いのです。そんなことでは絶対にいけないと思つて、私たちは友達同士でいつも新しい知り合いができる、機会を作つては紹介をし合ひ、お互に理解を強めて、その中から新しい家庭を生み出せたらと思つて努力しています。

それから家庭を作り出す場合に、夫婦の間の理解については、夫と妻とがお互に共通の悩みを話し合うことができて、お互に相手の向上を助け合うことで、初めて家庭を作る意義というものが考えられると思ひます。それで私たちはなんにも内緒にすることはなく、社会のことも、また身の廻りの小さいことも、友人のことも、とにかく話し合うということを一番大切にしています。ですから家族にもお互のつき合いというものは全然隠しませんし、それから友達もそれを当然としています。それでたとえ結婚することになるとしても、それまでに二人で話し合つて、新しい家庭を作るのには、二人だけの最少限度必要なものを話し合つてきめ、お互に貯金をしたりして、新しい家庭を持つために努力しています。私のはずいぶん思ひまわっていると思いますけれども、お互の理解と愛情と、それからプラスになる結婚をしたいと、それを一番に言いたいと思つています。

宮原 私は僧侶でございます。主人が二十年に戦死し、いろ／＼考えた挙句決心して仏道に入り、たゞいま龍藏寺の住職とともに五十人の孤児とか家庭不幸児を取養する施設を経営しております。どういふ形かで家庭が破壊され、施設に入ってきたるのですが、そういう子供たちの不幸をどうにかしてやるためには不遇になった原因を探さなければならぬと考えて、結婚ということに非常に関心を持っております。いままで封建社会では、家も上から下への命令、家長が家の中をすべて運営して、その代表者の家長を通して社会を見るといふ形だった。しかしこれからの結婚はまず若い男の方と女の方が結婚する前に、ほんとうに独立した社会人としての人格を持っているかどうか。愛情によって結ばれた結婚かどうかということです。昔は家と家の結びつきで、結婚が考えられていたのですけれども、これから夫婦というものが中心になれば、愛情という以外に、結ばれようがない。その愛情の中には本能的な愛情もあるけれども、疑生学的な面から見て、次代の子供ということまで考えられた結婚でなければいけないのじやないか。特に私どもの子供たちを見てそのことを強く感じます。

小笠原 私は結婚後十三年になります。現在高等学校の教員をしておりますけれども、この仕事を初めてから十年

親に育てられた子供が、やはり同じような無自覚な母親になるのです。
司会 ここで一通り八人の方々の御意見の開陳は終ったのですが、山崎先生にここで補足と御意をお願いしたいと思います。

山崎 補足も時間も時間がないので八人のお話を伺った感想みたいなものから初めます。立谷さんは別居家庭の難用が多くて、主婦の教養の問題などもなか／＼うまくいってないけれども、ただ起きたり寝たり、食べたり住んだりという家庭であつてはならない。そのためには主婦が話題を豊富にしていかなければいけないとか、いろいろ方法論も出ました。孫田さんは家事をもっと合理化するとか、また家族の人に協力して貰うというようなことによつて、自分の家庭だけでなく、外へもつと社会に眼を向けないといふことを強調なさいました。山梨の石原さんはまだ未婚ですけれども、養護施設などにいる子供の淋しい表情についてだん／＼取り下げて、無駄があるようなところに家庭の意味があるという、なか／＼深い気持をお話しになりました。愛知の夏目さんは、結婚後半年のアルバイト生活を通して、主として勤め人のまだ子供のいない、あるいは子供の少い若夫婦の家庭生活の現状をみつめると、なにか家庭の正しい機能というものが失われつつあるように思う。非常

余りになります。結婚して弟坊が生れてから勤め出してずっと共稼ぎでやっています。この自分の生活を考えてみますと、娘のころに教えられたお料理やお裁縫が上手な家庭の主婦というものと大分違つていふと思います。また共稼ぎのお友達を見ましても、ずいぶん終戦後の家庭は變つております。この変化はどこに原因があるか考えますと、女の人が社会的な意識を持つようになつてきたために、いままでの生活とは違つて、御主人に対してもただサービス本位の奥様でなく、話相手となり、子供たちにも教育の責任者といふことにもなつていふわけです。これは共稼ぎでなくふつうの家庭の奥様の場合でも同じことが言えると思います。ここまですべて切角の女の人が歩いて来ているのに、ここで家庭を持っている職場婦人が、家庭のことと追われて、職場で無責任になつたら、やはり職場を退かざるを得ない。また家庭の主婦でも、社会に関心を持たない妻は、夫から見捨てられる。そうなつたら非常に惨めですから、一層自分の社会的意識を高めなければいけないと痛感します。そういう気持で自分の周囲を見廻してみますと、そこまで考えを持たないというか、自覚、意思を持たない方がずいぶんたくさんいると感ずる。こういう方たちにもせむ向上心を持つて頂きたい。私たち個人々々の家庭がよくなつても、私どもの子供が作る社会では、無自覚な母

に視野が狭いからなか／＼明るくならない。明るくなつたといつても、それが金でいふように思うと、やはり社会に眼を開けようという意味のお話だつたと思ひます。京都の植村さんも同じく二年くらいは結婚生活ですが、この方は多勢の家族ですけれども、家庭といふものは心身共に健康の泉であつて、そこでは正しい人間関係が打ち立てられなければならない。とかく次の世代にわれ／＼は望みをかけ易いが、現在の年寄たちも仲間に入れて考え改めさせて行くような根強い努力をしたい。みんな手を繋いで解決して行きたいと説かれました。岡山の山下さんは近く結婚をなさるので大いに将来のために仕入れにいらつしやつたらしいのですが、この方の結婚は大変しつかりした土台の上に築かれるようで、これからの結婚といふものが明るい交際に根ざさなければいけないといふ、やはり一つの社会的な問題に繋がる問題を投げ下さしました。七番目の山口の宮原さんは、戦争未亡人として仏道に入られ、かわら現在には社会事業に従事していらつしやる、すなわち社会の母の立場で、施設の子供は破壊された家庭の子供だ。廻つて行けば結婚に問題がある、習慣的な偏見の生活の中、結婚でなく、近代的な結婚を通して、近代的な家庭が結ばれなければならないと子供の立場から代弁をなさつたように伺いました。最後の高知の方は、結婚生活も、共稼ぎ

生活も共に十年以上で、広く自分を合せて世の中の夫婦の生活を見ていらつしやるようですけれども、女が大部分變つて来た。その原因は幾つもあるが、女が社会的な意識を持つたという点が大きく變つた一つの点で、それをもっと育てたい。無自覚な婦人大衆をこの自覚に導くのはどうしたらよからうかというような問題をお投げになつたように思います。

結局谷川先生が指摘されたように、皆さん見るところを見、掴んでいられるように思います。会議の経験は少いから、上手には喋れなくて、きつとあれも言いたかつた、これも言いたかつたと思つてはいらつしやるのでしようけれども、あとになるほど短い時間に上手にまとめて話されたように承りました。

これから討論に入りますので、いまの八人の方のお話の中から、幾つかの問題点、共通の話題を取り上げてみたいと思います。まず正しい家庭を作るためには正しい結婚が必要なので、それにはほんとうによい結婚生活を建設するには、という一つの問題が出たと思います。実際の問題とか、又具体的に結婚の用意、これはいまだ新生活運動が声高く叫ばれていて、婦人会などで結婚改善運動をやっているところも多いのですが、振袖を貸すとか、結婚を全廃するとかいう生活改善運動は、なかなかほんとうの改善にならない

ないような点があります。目下さんのように二人で相談をしてなにもかも用意をする。ブラスになる結婚という言葉をお使いになつたのですが、こういう挙式、披露、仕度などいろいろ問題になると思います。それから次に家庭に入つてからの問題も、夫婦だけの場合と、家族がいる場合とは多少違ふかと思うのですが、夫も初めほどでなくなる。妻は視野が狭いと言われますが、主婦が、もつと社会性を持った自分の家庭を建設するには、家事なんかもどんなふうにしていったらいいか、それから自分だけの問題でなく、みんなを引っ張つて行かなければならないという問題も出たと思います。そういう問題点について、日本の家庭の現状はどうかということ、もう少し皆さんで考え合つて頂いた方がいいんじゃないか、衣食住の充足の場としての家庭の意義ということに重点をおいて皆さんに考えて頂くということにしてみたいと思います。それから今までの御発言には、農村の方が一人もなかつたと存じますが、その点もどうぞこれから皆さんが御意見をおっしゃる上でお考え下さい。

◎農村の家庭について

兼崎 私ども平素いろ／＼農村の方と会合を持っておりますが、感じていますことをちよつと語らせて頂きたいと

思います。さつき小笠原さんから出ました、無自覚な人たちにもつと向上心を養つて貰いたいということですが、私もそういうことを感ずる者の一人です。近代的な家庭生活、合理的な家庭を営む上に、どうしても人の問題が一番先にくるのじゃないかと思うのです。この間、非常に一人困つた家庭のお嫁さんといつてももう結婚してから十年経つていて、その方からある婦人会長に、こんな手紙がきたのですが、これをちよつと読んでみます。

(以下手紙を朗読する)「私は会長様を父の母親のように懐いて思ひますので、こんな恥しいことをお話しして、私の気持ちをみんなわかつて頂きたいと思ひます。そうして私はどうしたらよいか、教えて下さいませ。私は嫁いで来て十年になります。子供も三人いますが、まだ御飯もおかずも姑さんのお給仕で、自分で盛つて食べられません。台所へ出て家事のことは何一つ自分の考えではできません。かまどへ寄ることさえできません。どんなに寒い日でも、朝から晩まで一度もこたつにあたらなないので。晩の十時過ぎになつて入る風呂のありがたさ、ぬるい湯でも涙が流れます。また婦人会から通知は何回来て、一度も出させて下さいませ。この年になつてもまだ作業衣が破れると、実家から仕送りして貰わねばなりません。下駄箱もたらいも結婚のときに持つて来なかつたので、実家に頼んで

、とうとうこの間新調して送つて貰つたようなわけですが、しかし実家には両親もいないので、私への仕送りまで頼むことは、身を切るほど辛いことです。私はどうしたらよいでしょうか。どうか教えて下さい。』これは非常に極端な例ですけれども、こういうようなことは、島根県の農村では、今でも非常にたくさんあると思つております。とにかくこれを改革して行くのに、私は家庭における家族関係をうまくして行かなければ、どんな合理的な生活をしようとしてもできないと考えさせられているのですが、ほかの県の農村の状況はどうでございましょうか。

及川 この部会では百姓をしておりますのは私一人のようですが、特別な問題になると思つて必配していただのですが、いまのお話伺つて、これは特別な問題じゃないということを強く感じました。ただいまおっしゃいました結婚についてとか、それから結婚生活に入つてからの家庭関係などの問題、農村においてはとも生産の場ということが強調されまして、ほかの面があまりにも無視されているというような現状なのです。ですから結婚と申しますのも生産の能率を高めるために嫁を貰うといったような状態がいぶん長く続いておりました。ですから私の近所の六十近いおばあさんの話で、私はどこの家に貰われてくるんだかわからないので、ここの家に来る時にいっしうけんめい

に道順を覚えようとしたんだけれども、結局わからなかった。それでお帰りにして、ちよつと途中で買物したら、旦那さんにはぐれてわからなくなってしまうそれから自分の家を見つめるのに非常に苦勞したということなんです。またその頃は、お姑さんに対しての嫁の立場はこんなだった。私たちが嫁に来たときは、朝起きてから寝るまで三十七回頭を下げたものだ。起きて「おはようございます」というのはどこでもしますが、朝は仕事なにしませう。お味噌汁の実は何にしよう。大根なら大根と誓いますね。どんな形に切りませう。そういうふうにして三十何回頭を下げた生活をして来た。嫁の座に耐えなければならぬという忍従の生活を続ける。今度やつと昔のお姑さんの樂な座に坐ろうとしたときに、お嫁さんを大事にしない。嫁の人權はこういうものである、平等である。自由である。そういうことを非常に強調されておる。さて私たちの立場はどういうものになるかということ、結婚お年寄の方からは聞かされております。また嫁の方からは、ほんとうに惨めな、ただ労働力として見られている嫁、朝から晩まではい／＼と頭を下げて、文句ひとつと言わずに生活する嫁が最上等のものとして見られる、私たちの立場というものは、非常に惨めな立場だということをお姑さんたちは、人生の半分以上を狭い固い殻の中に生きて来たお姑さんたち

てもなんの役にも立たないという現状です。またよその土地から富山市にお嫁に来て、姑と一緒に住った場合、姑があなただけであるけれども、ここの土地と家風には絶対従わなければならないということに大変若い人たちが不満を持って哀情も訴えられておりました。

夏田 名古屋市内のお年寄の方が先祖からの家を継げるために、お嫁さんを貰うという觀念をいまだに持っている。つしやるのなきましました。伊勢神宮は日本の先祖だ。それを参拝するのが当り前、そういう家の觀念を持っていられしやる。ところが私たちが先祖がなんでも、現在の私たちが大切だと思ふのですから、私たちにばびんと来ない。そういう私たちが古い人が一緒に家に住んでいるということが、問題を作っているところじゃないか。家庭生活を立派なものにしよう。嫁と姑との対立をどうしたらいいだろう。かということをお考えさせられるが、名古屋市内でさえ、そういう古い考えの人たちが多いのです。

別居するというのが問題の解決にはなると思いますが、都立ではいくばく別居しようと思つても、住宅がないということ、経済的にも若い夫婦はやって行けない、ですから死ぬまで待つという消極的な態度になりがちです。

遠藤 農家の場合は割合広い家を持っているし、物置や納屋もありますし、使わなくなった下男部屋もあります。

ちに、どうして新しい時代の息を吹きかけ、新しい時代というものを理解して貰うか、非常にその点苦勞しているのでございます。

司会 ただいま岩手の及川さんのお話では、農村においては家庭の意義というものが生産の場としてのみ強調されているというお話でしたが、同じ農村の問題について、御意見がありましたら。

石原 私のところは農家ではありませんが、ある方のお話を伺いましたとき、子供を生むのさえも一つの機械力として考えられ現在も人工妊娠中絶といいますが、そういうことは全然してないというお話を聞きました。「うちじや九人家族があつて、いまじやとてもデッカクなつたからうんと楽下ウ、育てるときには苦しいんけん、いまにそれが稼げば戻ってくるから、ちつとゴツチャロでもいいだ」という調子なのです。子供は機械力じゃないんですが、百姓には人手が必要だというのでまだ盛んに生んでいる人がいるんです。もちろんお嫁さんを貰うときには、大きな完成された機械として期待して貰うのです。

大間知 農村の多くの人は生産の面にのみ労働力を集中されて、家計というものが、計画を立てるということとは全然無理解という現状なんです。男、姑、夫、そういう人間関係の中にあつては、絶対計画が立たない。婦人学級に出

たとえ物置でも改造して若い夫婦が別に住み、できれば新聞も別にとつたらどうでしょう。農村では姑が新聞を抱えちゃつて、お嫁さんはお昼ごろまで又夜まで新聞が読めない。ラジオもニース以外はもつたないから消しちゃえという風ですから、綺麗なお座敷に住んで苦勞するより、馬小屋を改造した所に住んでもその方が幸せじゃないかと思ひます。そうしようと思えば、農村では割合お金をかけないでも、裏山から材木も伐つて来られるし、しようと思えば案外できるんじゃないかと思うのですが。

葉崎 次、三男がそのお嫁さんと一緒に長男夫婦の世帯と暮して、経済が一つというところでは、どんなに働いても次、三男はお小遣いもなんにも収入は貰えないし、お嫁さんも何一つ貰えないのです。大体その働いたことについて報酬というか、分配というか、そういうことを考えて、みんなが喜んで働くようにならしたら、将来の生活への備えも、だんだんできて行き非常にいいと思うのですけれども。

大間知 農家は、生産に伴う収支は全部家族に知らせるという態勢に持つて行かなくては、結局嫁がいまだに実家へ行って入学期の子供の服までも新調して来なければならぬという現状を打破することはできないと思う。

遺囑 實際に働いている若い夫婦には経済を知らせないで大底お姑さん夫婦が家計簿つけているのが普通だと思ひます。

山高 大分お話が農村に備ってしまいましたが、日本の家庭の近代化には、一番邪魔になつてゐるのはやはり農村の前近代的な家庭でしようから、農村の問題の方が大きく取り上げられてくるのは当然だと思ひ、都会でも、経済的な問題が常に積たわつてゐるということは、当然のことです。そこでこの都会には特に「衣食住を充足する場として」ということがございますので、経済的な問題に関連して住宅問題が出ましたが、食事の問題などもどうなんでしょう。

◎食生活について

富原 私がその点で要保護者の食事を調べたのですが、いま、カロリーが平均一六四〇カロリーしかとつていない。生活費が低いところは月千五百円以下です。栄養学からみても二〇〇〇三カロリーは絶対に必要だと言われているのに農村、漁村は要保護者と変らないような食事の状況だと思ひます。お腹が空いたから食べる。特に農村は四回も五回も食べる。どれだけのエネルギーがあるか、どれだけのカロリーがあるということは年令によつて違ひ、肉体的労働

や頭脳労働でまた違ひ。こういうことも加味して、研究しなければ、いつまで経つてもいい子供が生まれないと思ひます。妊婦の栄養や子供の三歳までの栄養が子供の頭脳にとっても影響するのですから。私どもに養育する子供は非常に知能が低いのですがその原因には遺伝的なものがありましようけれども、栄養が悪かったということも一つあると思ひます。

及川 栄養に対する知識が根本的に欠けてゐるからですね。

山高 いま話してゐる問題について、さつき政治との関係をおつしやつたのですが、たとえば農林省が生活改良普及員を配置しておりますが、いま皆さんが、指摘の問題の打開に、相当役に立っているようにお感じですか。

大間知 一つの郡に一人くらいの数じゃあ。

立谷 生活改良普及員は純農家の出身の方が少ない。ですからほんとうに理解してやるということがない。

及川 上滑りしてますね。

立谷 白米過食からビタミンB₂をとらなければよく消化しないといふですね。そうするとビタミンB₂をとるには何を食べたらいいかとくくと食べるものはいろいろありましようといふだけなんです。具体的にこうして食べなければいけないといふことを、言つてもわからないから言わ

ないのかどうか知りませんが。

日下 七日の岡山の婦人会に農村の方も多勢来ていらしたのですが、その中でお姑さんの立場の方から「私は薬隠居で、あまり農業の仕事はやっていけないけれども、食事の改善に興味を持って、カロリーの計算もやつてゐる」という発言があつた。そうしてそれを周りの人たちに及ぼさうと思つて、いろいろ努力してみたが受けつけられない。それでこんどは、面倒だらうけれども、何日間か食べたものだけ数えて下さいといつて、それを書いて貰ひ、朝はお味噌汁におこうとか、そういう統計をとつて、一週間くらいの村中の献立の統計を作つたら、農村にある蛋白質が利用されてゐない。いまごろは農村でも特に牛乳などが出廻り、動物性の蛋白質の方は比較的とつてゐるけれども、植物性蛋白質は全然忘れられてゐる。そこで初めて表にして、足りないものを数で示したのでさうです。たとえば大豆などは特に栄養価があるのに、食べてゐない。お豆腐などもめつたに食べない。一週間の献立に全然食べてゐないことがずいぶんあつたので、カロリーは幾らというふうな難しいことを言わないで、もっと大豆を食べなさい。青い野菜がいくらでもあるのだからそれを食べなさいといつて絵で示したら、みんながその図を一枚下さいといふことで、ずいぶん取りに来たさうです。

山高 長崎の平家さんは健康法の生活の中にいらつしやるようですがいかがでしょうか。

平家 康敏生活者といつたら、重労働が多いのですが、それだからといって栄養を幾らとらねばといふことについては、農村と同じく関心がうすいのです。お腹の空いたときに五、六せんか返むといふありさまで、いまごろになつてようようカロリーなどを多少考へるようになって、大分肉食もするようになったようですが、一体に関心は飲む力へ行つてしまふやうなわけで、食事の改善の方はまだやつてないのでございます。結局飲んだ勢いで仕事に行けるのだといふふうなことで、その考へ方を改良して行きたいと思つております。

辺春 私熊本県の田舎ですけれども、日頃見聞きするところによりますと、日常生活の食は非常に粗食になつてゐるらしいのです。家に鶏がいて玉子を生んでも、それはただお金を換へるのが目的でして、乳牛を飼つてゐても、牛乳を献立などに使つたり、食生活改善の方に廻してゐるところが割に少ないです。いつも働け働け、辛抱しろ、辛抱しろ、お祭や入学祝いやら結婚の披露のときには非常な飲めや食えやの贅沢になつてゐるらしい。一人一人はさういふふうにしにやならんといふことは知つてゐるらしいけれどもいざ結婚式をしなければならんといふことになる、こ

の前はどこでお招べしたから、自分の家も招ばないかん
だろうというふうになつて、やっぱり実行というとなかな
か難しいらしいのです。

司会 いままでのお話、農村あるいは農家で、食生活の
改善が非常に難しいということをお話されたわけですが、それ
には主婦である女の人の役割が非常に重要じゃないかと思
います。食生活に拘らず、衣食住ということについて、主
婦はどういう役割があるだろう。その役割は重要なものか
あるいはそうでないか。重要だとすればどんなふうに関
かということをお話したいのです。昔は、農村に今でも残っ
ているように、生産的な場として家庭が非常に重要な意義
を持っていたけれども、いまは少くとも都会のある部分に
おいては、生産的な意義はなくなつて来た。それでも家庭
の主婦は最少限の料理とかお掃除をしなければならぬ。
やはり主婦のある程度の生産的意義というものがあるの
ではないか、そういうことについて御意見ございませんでし
ょうか。

◎主婦の働きと意義について

小笠原 衣食住について主婦がそれだけの仕事をする意
義があるかというお話でしたが、私は大いにあると思いま
す。アメリカなどではずいぶん生活が機械化して、毎日の

ようにできた物を買つてくるのですし、日本でも都会の
生活はずいぶんそういう点があると思います。しかしそれ
とは別に、お母さんがいろいろの手掛けてくれること、そ
ういうことが子供の心を育てる——石原さんのお話のお話
じやありませんが、心持を育てることは必要だと思いま
す。私どもの家庭のように、共稼ぎでは、私一人でして
ては間に合いません。個人的なことになりますけれども、
食事は朝はパンにしております。子供はお昼は給食があり
ますし、私どもも職場でパンを買つております。夜は一番
御馳走で、お味噌汁を必ず作り、そのほか簡単に栄養的
なものとお掛けしておりますが、普段の生活を切り詰めて、お
客さんや外に見せるところにお金をかけるということとは
しないで、お客さんがみえましたら、どうぞ御一緒にとい
つて、なんでもあり合せのものにし、もし御飯が足りな
ければ、御飯が足りないからパンを食べましょうというふう
にお客様がみえたからといって固くなって綺麗なお皿を出す
ということがなくとも、こちらの気持ちで十分でなせると
思う。むしろ普段家庭で使うものについていい食器を使いた
いと思います。

平室 ある男の方が言つたのですけれども、男に浮気を
させないためには、奥さんが料理上手じゃなければならん
というのですが、私はほんとうにもっともだと思ふので

す。結局人間食べることが一番大切であり、子供でも年寄
でも一番楽しみだと思ひます。切角割れて帰つて来て、ま
ずいものを出されたらがっかりしてしまいますから、贅沢
なものでなくても器一つでもいいものを出したらいいと思
ひます。

山崎 お料理はわが家の魅力で、殊に夫に対する牽引力
の源泉になるみたいなお話でしたけれども、子供にとつて
も非常な魅力でしょう。そういう家庭の魅力の問題、さ
き石原さんはお話で表現なさつたのですけれども、なに
が家庭に家族を惹きつけるか、「楽しいわが家」の内容が
たいなものについてもう少し伺えるかと思ふのですが、
けれども、いかがでしょうか。つまり農村の婦人なんかわが
家を楽しむことができてゐるか、そんなことは必要でな
いと思つてゐるのか、気がついてゐるけれども、ほかの理由
でできないのか……

大間知 私どももところもみんな勤めてゐるのですが、
わが家の楽しい雰囲気というのは、子供が学校で習つた
お料理を日曜のお昼に自分たちが揃えて合つて食べ合ふとい
う。そういう場を作つております。

立谷 福岡県の消費組合に家庭科というものがあつた
て、主婦の比較的時間である九時から十二時までの
間、会員が全部グループごとに集つて、天ぷらやサラダな

どを作つてゐます。栄養知識のない人たちは作るというこ
ととできないのです。だからこれをその市価より一割
くらい安く売つて、その利益を働いた人々の日当に、五十
円くらい出してゐますが、結構両方共楽しい。そういうの
もいいんじゃないですか。

孫田 私の家は土曜日の午後だけが主人の勤めの関係で
空いてゐるわけですが、その時間をみんなで囲碁をやります。
これはみんなの共通のリクリエーションなのです。子
供も私も主人も、それで非常になごやかになつてゐるんじ
やないかと思ひます。

山崎 御自分の経験談も結構ですが、一般の家庭がこの
問題をどういうふうにして処理してゐるか。

宮原 いままで主婦の方の多くは義務感で仕事をしてい
らつたので、これが伸びていかない原因じゃないか。
ただ自分は妻だから、ここにお嫁に来たから、しなければ
やまじいからしてゐるのだということでは、伸びない。
その点もう少し自分の楽しみから出たもの、希望、目標と
いうものを持つたら、その人はもっと力が出てくるのじや
ないかと思ふ。悪い嫁、妻と言われたくないからという義
務観に押えつけられすぎていると思ふ。

◎子供の教育について

西川 私は二歳半の子供がおります。普通でしたら、子供を置いてこちらにくるということはできないのですが、初めからなるべく一人というふうにして育てたおかげで、行つて来ますよと、というところ、行つていらつしやい、といつてさつぱりしているのです。子供は自分のものじやないという考え方が、その子供の将来にかける希望や何かに繋がって来て、またそこに家庭生活の人間関係というようなものにも発展していくんじゃないかと思うのです。愛情といふものは大変いいものだとは思ふのですけれども、それが過多になつた場合には、反つて逆の効果をすると思ふので、そういう意味で私のところなどは却つてよかつたと思ひます。

孫田 昨夜稲島の立谷さんと話し合つたことですが、子供の独立心、人格の尊重ということを考えて育てなければならぬので、転んでも起してやりませんし、幼稚園なども一人で行く。そういうことに子供自身も喜びを感じてゐる。しかし非常に困ることは、隣り近所の方々がああいうことをしていいかというようなことを言つて干渉するのです。都会はいいのですが、田舎ですと子供に愛情がない、虐待するといふようなことをいわれるので、子供との関係よりも周囲の眼に気兼ねをしたり、障害があるといふことを話し合つたのです。

なんもいらつしやるのですが、気をつけて下さいます。私たち二人共勤めておりますが、子供は皆さんのお陰で大きくなつてゐると感謝しております。

及川 子供は託児所などに預けるのが一番いいのですが、託児所は規則に非常に制限があり、二里以内に要保護世帯が何軒とか、難しいものですから、私達の施設は幼稚園にしました。そしてできるだけ小さい子供から預かつて預けるようにし、幼稚園のPTAで、自分の子供ばかりでなく、隣近所の子供も見て預けるようになりました。又お母さん達は小学校のPTAの集りだからといつてもなかなか学校に行かないので婦人会の集会として先生をお呼びして話して貰ひたら、非常にいい効果をあげています。

小笠原 高知では、働いてゐるすべてのお母さんが託児所を作らうという非常に強い意欲があつた。そういうことから始め、お母さんが集まる会をし、託児所のグループを作つてゐる。非常に頼もしい形になつたけれども、ただ問題は出て来られないお母さんが多いということで、それはどういふふうにしたらいいかと思つたのですが。

山高 出て来られないお母さんは、さつきから話して来た家庭の意識が弱んでゐるのでしょうか。

夏目 二通りあると思ふのです。全然無関心の、なにかそういうことに反撥してゐる人と、それから全然時間がな

夏目 母親が外に出て働いてゐる家に対しては非常に冷たいくせに、それでいて変な干渉をするというのが日本人の悪い性格でもあると思ひます。もう少し広い自分たち金体の、共同地域の子供といふ眼で見て、一緒にゐる子供を育てなければいけないのに、干渉したり、遠くから白い眼で見るといふ傾向に陥りがちです。お互にお母さんたちが手を繋いで、なにかの方法で協力する方向に前向きに進んで行くことができないか。

小笠原 自分じや子供をちゃんと育てようと思つても、周囲がいろいろ言う。女の人の夢を阻むのはまた別の女であるといふことは高知でも問題になつたことですが、そういうことのないように啓蒙していかなければいけない。共産党でお母さんたちが勤めに出たあとで、子供が白眼視されるというのは、出て行く母親にも責任がある。「私は合理的な生活をするのだから、私の家は私の家でやります」といふのでは、近所の人々もよくは思われない。又小さい子供には、いざの場合の判断も処置もできないわけですから、周囲への心遣ひも必要だと思ひます。私の場合には春休みや夏休みには月当番を私がやり「いつもなにかとお世話になつております。御挨拶にも参りませんが、」といつて、普段から子供たちを見て預けるように、お礼の気持ちで挨拶する。それで御年輩の方もいらつしやるし、口喧しいお婆さ

くて、その日の生活に追われてゐるというんですね。

山高 経済的な問題と意識の問題ですね。

夏目 私たちのこつという会でも自限的な眼で見ると、

山高 白眼的な眼で見るといふことは、小笠原さんの言う阻む面になりますね。

夏目 そういう人は自分の家のことは一所懸命やつてゐるんですね。

山高 それはやつぱり社会意識がないといふことになり

夏目 それは農村より都会の方が多いかもしいないと思ふのです。

栗崎 いまのことに関連して、自分の家の子供を親国主義にして、閉じ込められてゐることは弊害があると思ひます。いつか私どもの方で会合をしたときに、子供を連れて出て発表をした方があります。子供はお母さんにくつついていて他の人が見てあげましようといつてもどうしても私たちの手に委ねて預けない。講演会に子供を連れて来るといふことは怪しからんといつて攻撃されたのですが、そういうことも子供にしつけて、よく外部の方と接点できる子供に育てるようになつていかなければいけないと思ひます。

孫田 その点で私もよく見掛けるのですけれども、よ

その子供と自分の子供といろんな誤ちをしたとき、自分の子供だけ、あるいはよその子供だけを叱る方がある。ちゃんとたたきたいです。そういうのじゃなくて、自分の子供の母親ということだけでなく、みんなの子供の母親だという考えが、子供に社会性をつける一つの例じゃないかと思うのです。

田舎 小学校に勤めておりますが、学校のPTAを開きますときに、私たちが話し合いたいと思うお母さんに限って、何回言っても出て来られません。こちらが家庭訪問で巡回しても、留守がちなときが多く、子供に相談して、今日はお母さんいますかときいてから行きますが、特に極端なのは私たちが出掛けて行く姿を見て、こそこそとよそに出掛けてしまふ。難しいなあと思っておりますが、なかなか思うようにいきません。

富原 やはりそれは一つの劣等感というのか、そんなものだと思います。

真目 こういうことでいろいろな経験を聞かして下さったYWCAの会長さんがあります。その話に、一軒一軒の家庭の利害の問題から入って、給料が少いのはどうしていい生活ができるか、まず税金を少くするのが一つ、それから内職する。その税金ということからだんだんと政治の問題へ結びつけていくようにすると、そのような主婦たちが

とてもよく発言するようになって、だんだん目覚めて来たという、成功談を聞きました。

石原 これは会合というものを通じて、一つの地域が纏って成功した農村のお話です。農村の家計簿は一年間収入支出が普通のお勤め人のようにきまっています。そのときどきの天候の具合とか作物のでき不出来でわからないので、暖昧でいい加減で行き当たりばったりです。それをとにかく一年間つけてみようというのでつけまして、大体の線を出しました。それから野菜の収入が幾らとか、お米は大体不作でもこれだけはとれるから幾らにしようというので、先に当ってみて、それから計画を立てる。みんなが協力して五日会というのを作り、月の五日に会合を開いてこの家計簿を見せ合ったらある若いお嬢さんは、自分がつけられなかったところを姉さんにつけて貰ったとか、旦那さんにつけて貰うとか、忘れたところはおじいちゃんに思い出して貰うということ、みんなで話し合うので、家計も明るくなり、それぞれの家庭の内容もわかって助言もし合ってとても良かったというのです。やっぱりやってみることにゃないかと思うのですが。

◎古いものと新しいもの

山高 こういうことはどうでしょうか。日本ではいまま

での封建的な家というものを壊したわけですが、それはただ法律で壊しただけで、実際にはまだその古いものがいろいろの慣習とか道徳になつて残っている。主婦たちもそれを壊しつつあるというような意識を持っている方もありましようけれども、その次のものの建設はいかがでしょうか。過渡期的な問題、たとえば子供のことなどについてもきつという点にあるのじゃないかと思うのですけれど、なにかそういう点にお気づきのところがございせんか。むしろ伝統とかなんとかいって、古いものを狙いでいこうとする力の方が強く加わるというような、現状の分析がもう少しあっていいのじゃないでしょうか。

小笠原 私が当地に出てくるといふことを知ったある年輩の男の方が、その方も非常に民主的な家庭を営んでいる方なのですが、あんなたち出ていって、なんでもかんでも壊してしまふつもりかもしれないけれども、壊したあとになにか残るかといわれたのです。いま非常に女の人が活発になって、離婚だとか、親を見ないで、年とつた親が困っている状態が到るところにある。そういうことを思った場合に、もとの方がいいのじゃないかという質問をされました。もういうような一部の極端な、ただ壊しさえすればいいという人があるからといって、今一度絆を束めることには不賛成です。今日の傍聴人の中にはたくさん男性が

いらつしやるけれども、女共が集ってあんなことを喋るのか家の女房はこんな会に出さない。これで吊上げられたら敵わん、そういうふうな男の人に敬遠されることのないような会に持って行きたい。お互に歩み寄って、女が伸びて行きたいと思っているのですから、男の人に引張って貰いたいと思うのです。

大間知 男は伸びる女を阻んでいる。そういう女を敬遠する傾向がどこでも見られる。ですから自分だけ我慢していればいいといって、まだ親の生活を送っている女性が非常に多い。私どもの地域には断然そういうことが多いのです。

立谷 私の地方では、婦人会の婦人学級というので婦人を啓蒙しているのです。それに三年間続けて出ている方の意見ですが、出ることにして夫や子供が喜んでくれないというのです。それをどうして理解して貰うかということがとても大変で、出るためにはお故事もお掃除もある種犠牲に出なければいけない。その問題をどう解決したらいいか。又一方娘の立場の人にいわせると、お母さんにもっと勉強して貰いたいけれども、女なんかお母さんなんかといつてちっとも勉強する意思がないというのです。女というのは勉強すると邪魔にされるし、してくれと頼んでもしないし、どっちなんだらうという意見が出たの

ですけれども。

夏目 それは男性の年齢によつて違ふのじゃないかと思うのです。私の主人は勉強するのをとても喜んで、家事に手がかかると手伝つてくれますし、一概には言えないと思うのです。

宮原 歴史の流れとしていろいろな結婚の形があつて、それで新しい近代社会の家庭が築かれていくのです。そういう意味でお年寄の方を尊敬するということは、前の時代を作つてくれたということ。良くても悪くても前の時代がなければいまの時代がないというような意味で、大事にしなければいけないと思います。

孫田 祖先を大事にするという場合、家庭というものが固定したものじゃなくて、伸びてゆく、成長してゆくものだということを忘れられて、私たちは困ると思うのです。祖先が私たちの祖先として供養しますし、大事にしたいと思いますが、家庭というものを常に進歩するものだ、成長するものだということを忘れないでいきたいと思っています。

司会 新しい家庭と古い家庭の矛盾とか、年代的な相違についていかがですか。

平室 一般的にいって若い方は男でも女でも自分の生きる道をしっかりわきまえていると思います。それが四十代

五十代になるとふらつとしてくるのじゃないかと思うのですが、男の方でもただいまお話が出ましたが、若い方なら行つてらっしゃいといつてその奥さんを出してくれるのですけれども、年がいくと、行つてもいいけれども、お酒の好きな方ならお酒、パチンコの好きな方ならパチンコのお金を懸いて行けというのです。年がいった方が甘やかされて育っているという感じが致します。

葉崎 男の方のお話が出ましたが、たしかに年代の差が争われないことを痛感しております。この間松江市で集まりがありまして、家庭婦人の地位の向上ということが話の中心になりました。その席には松江市でのいわゆるインテリ層の男の方がたくさん出ておきまして、女は私一人でした。ある一人の方がとても頭の下るような理想論をおっしゃいました。しかし私はその奥様も知っていて、いつも奥様から旦那さんの理解がなくて困る困ると聞いておりました。それに旦那様はとうとう理想論を述べているのです。私はあはく氣持はないけれども、小さい声で、奥様がおっしゃつてましたよ、これから今のお話のようにして下さいと申しましたら、今、僕の言ったことは理想論で、僕の案内をこんなところに出すのはまだだとおっしゃる。一つの理想を言つてもほんものになつていない。それはお年の関係がずいぶんあると私は痛感しております。

夏目 さっき孫田さんのおっしゃつたような意見なんですけれども、古い世代と新しい世代との調子の仕方が非常に難しいと思うのです。私の場合結婚式が済んだらすぐ新婚旅行に行きたかったのですが、まずお墓参りを済まして近所廻りをし、披露宴をしてからにしてくださいというのです。私としてはいやだったのですが、つまらないことで争つても仕方がないから妥協したのです。私たちの理想を堅持されるという面では、古い世代に毅然として反対しなければいけないけれども、細かいところでは年をとった者を立ててと、その調整の仕方が難しいと思うのです。

◎家族の理解について

山高 京都の植村さんは多数の家族でいらつしやるけれども、その調整について。

植村 まず夫婦で話し合つてと申しますけれども、さつさとおつしやつたように、男の方は理論的で、「なにになにでしょ」といふと、「うん、そんなことはわかつてるよ」といふながら、日常では一向本心に協力しないことが多い。けれども皆さんの知識を持っているということではなく、小さなことを実行してくれる夫というものを作ることが大切で、実行力も味方する方もどちらも一体となってから家族を愛していこうとしたときに、私一人が嫁に來たんだ

からと思つて、いくら新しい家を改築しようと思つてもできなかつたことが、二人で動き出すと、いままでの小姑とか小舅というものが、兄貴がああやるのだからやろうという事で動き出して、老夫婦もそういうものに並んでいうか、自然と動いて來たという小さな経験をしたことがあるのです。ですから先走つたことばかり言わないでやるということに重点を置きたいと思っています。

山高 現在の日本の家庭の現状はどうかということになり入りましたが、若い方たちでも観念的にはずいぶん新しくなつていらつしやるけれども、実際はなかなか新しくならない。家族の間にそういう人がいて困るというようなことはないのでしょうか。

山下 私は勤め先が県庁ですから大体同じくらいの若い男の方がたくさんいらつしやいます。その方達とお話ししますと、皆さんが「あなたのような人と話をすると、非常に楽しいけれども、あなたなんかをお嫁さんにおつたら、僕なんか悪妻になるからいやだな」とはつきりおっしゃるのです。又、私の未来の主人は「向原から、あんなの貰つてどうする、いまだに悪妻になつてゐる」といわれるのだそうですが、私ずいぶんおかしいと思います。観念的にはいいと認めてくれても、自分の奥さんに貰うということになると、同じように話ではできなくていいから、自分

に対して優しく仕えてくれるような真さんを欲している方が若い人の中にも多いと思うのです。

孫田 私の主人も大變進んだ男性でして、この会議にもお屏を叩かれて出て来たのです。けれども、ちよいちよい——たとえば子供の守りをしてくれたら、そのあとで、自分みたくにしてくれる人はいないだろう、というようなことを言うのです。そんなことはどうでもいいのですけれども、潜在的にいまの三十以上の人はそういう気持を持っている。その恐しさを感じます。それは小さいときに男女の区別をして、女が髪に巻簪させられていたということから来るので、子供の教育に重点を置かなければならないというのは、そういう意味からあると思います。

西川 私のところは年寄の方が進歩的で、若い方が封建的だと言われるのです。私はこういう会合に一度も出たことがないのでありますが、ここに集まっている方々はいつも啓蒙する側にいらつしやる方で、その方のお話が今日は多かったと思うのですけれども、生活を改善するとか、明るい家庭を作るとか、社会に繋がるとかというところのために、婦人会に出るということは一つの手段であって、その前にあるものを考えるということが中々大事なのではないか、婦人会に出なくても通ずる道はあるという考え方もあると思うのです。そういう点を啓蒙される側の一人として、皆陳

のお話を伺いたいと思う私の立場です。

山高 どうでしょう、大變いい問題が出て来たのですけれど。

夏目 啓蒙される側という言葉ですけれども、私どもの中で啓蒙される側、する側という考え方を持つことに疑問を持ちます。

山高 非常に大事なところにお話が入って来ました。結局西川さんは非常に現実的にそれをおっしゃったのですし、夏目さんのそういうように分けることは問題だとおっしゃることは正しいけれども、そういう意識を持っている現実をどうして打開するかが大切でしょうね。

(休憩)

◎傍聴人との質疑

司会 それでは質疑応答の時間に入りたいと思います。それでは特別傍聴人の方からどうぞ。

特別傍聴人 家庭を明るくするのに一番の障害になっているものは経済のことであると思う。一家の経済の主たる担い手である御主人に、その点でどういう協力をしていらいらつしやるか、それが一つ。

もう一つは御主人の所属されている労働組合、御自分の属されている労働組合、そのことと妻の座との関係、この

二点についてお尋ねしたい。

私は日本銀行に勤務し、組合の役員をやっております。本日は銀行従業員の代表として傍聴させて頂いてます。

司会 組合に、割合関係深いと思われる平塚さん、いかがでしょうか。

平塚 私の主人は炭鉱の労働組合に入っております。それに足並を揃えて、私たちは、炭鉱の婦人だけの団体「炭婦協」に入り、又そこにある地域婦人会にも加入致しております。これについて意見が二派に分れていて、私たちは炭鉱の主婦であるとともに社会の一人としての婦人であるから、社会との繋がりをなくしてはいけないという論と、夫が労働者であり、労働組合員であるならば、妻も同じ炭婦協の中に溶け込んでいくのがほんとうじゃないかという二つの論で論争しているのです。果してそれが一本になりますか、それともまた二つに分れて、希望者は婦人会の方に入るようになるか、ただいま難め中で、五月の組合の改選をもってそれはきまることになっております。私の考えとしては、この炭婦協にばかり加入していると「諸君なになにせい」というような女になり易いので、やはり地方との繋がりををもって、こういう機会をもって、皆さんの地方の声を聞きたいと思えます。

夏目 もう一つ経済の担い手としてのということに、私

の意見なんです、サラリーマンとても安いので、主人のだけだと最低程度です。それで私も必要に迫られて、週に二日ほど英語の講師をしたりしております。こうすることによって経済的に主人に協力するということと同時に、主婦が伸びるというチャンスにもなります。そういう必要がなくとも、できる範囲で主人が社会の構成員であると同時に又家庭人であると同じように、主婦も家庭人であると同時に社会人として伸びる機会を得るために、私は働きたいと思っています。

大関知 私も経済の点ですけれども、やはり夫のサラリーが低く、子供がそれぞれ成長して大学進学過程におりますので、私が働かなければ教育費を積み出せない。また老後の社会保障もない現在においては、子供を成長させて社会に送り出すということが一つの念願なんです。そういう意味で私も働いておる次第です。

司会 次に同じく特別傍聴人の方……

特別傍聴人 近代社会における家庭の意義、という問題で、パンフレットに「国民性の形成の場としての家庭の意義」ということがありますが、このことはいままでのお話には、殆ど出てないように思うのです。この意味についてどううように御理解になり、お考えになっているかを承りたい。

石原 国民性というのを大きくて大げさになりますが、結

局私たちがいまだどうしたら家庭を明るくすることができ
か、国民性から来ている弊害や長い間の痛に對して、近代
社会でどう対処していったらいいかということ、決して
難しいことじゃないと思います。家庭生活に關する父親と
母親の考え方、それがまた子供に及ぼす影響というよう
なもの、新しい日本のほんとうの理想的な人間像というもの
を作るための場としての家庭の意義というものじゃないか
と思うのですが。

富原 ほんとうに民主的な家庭が作れない限り、国家と
して民主的な国家にならない。國を一番小さくした分子は
家庭だと思ふ。家庭に民主的な夫婦があり、その中に子供
が育つときに、初めて民主的な國家、國民性ができ上ると
思ふ。そういう意味で常に大切なことだと思ふ。

傍聴人 近代社会の家庭というものはこういうものであ
るといつ一つの指針を出して頂きたいと思ふ。

孫田 私がいさゝかときに体験したこと、でございます。父
親が大変怖かったので、家庭は父親のためにあり、ほかの
人には悪いの場であつた。恐しくて御飯も下をうつむい
て黙って食べて、早く外へ出ていこうと思つていました。
ですから家庭というのはみんなが楽しむところであるとい
う方向に向つていったらどうだろうと思ふ。

宮原 古い世代の人には古い世代の人のものの考え方と

まれない者はどうしたらいいの、どうしたら男の人の耳
や眼にも入るのかということをお聞きしたい。

山崎 私からお答えします。この御質問は、殊に前半は
婦人會議の性格に於いてと思ふのです。小学校もよく
／＼出ないようなお母さんの意見も私たちが聞きたいので
すけれども、この第四回まで続いて来た婦人會議には一つの
約束事がありまして、出席者をきめるのになか書いて願
くことを条件としています。學歷などは考慮せず、とにかく
ある一つの問題を出して、それに答えて書いたものをお
募りするのです。そうすると書けるお母さんは必ずから出
る機会があるけれども、書けないお母さんについてどうし
たらいいかという事になります。婦人會議の場はここだ
けというのではないのです。私たちはお互いにもつといろ
いろな集りを生み出していったらいいと思ふのです。たと
えば去年開かれた日本の母親大会には、書けないお母さん
も参加しています。

平賀 私も決してこういうところの場所に出てくるよう
な人間ではございません。ほんとうに炭坑の一炭夫のかか
あてでございます。ここに参りますのにも、実はパーマもか
けておりませんでしたけれども、それじゃ礼儀に欠けるこ
うなので、炭坑協の人々に勧められてパーマをかけて来まし
た。時計でもなんでも実は借物なんです。それはやはり一

いものがあり、好みも違ふ、中間の人もあるし、いまの
時代に生れて大きくなった人もある。その人たちのものの
考え方はそれぞれ違いますけれども、やはり中心になるの
は現在中堅になる主婦じゃないかと思ふのです。そうして
少しづつそれぞれの好みに応じて生活を一人一人ができる
ような状態を作り出して、それに家族會議とかいろ
／＼な方法があると思ふが、一人一人が考えながらサ
ームワークのとれた家庭、誰も遠慮なくものを言える家庭
でなければいけないと思ふ。

司会 次に明日出席できないから今是非という方から：

傍聴人 皆さんは私ども一般家庭の人たちより少しレベ
ルが上なんじゃないかと思ふのです。私は小学校しか行き
ませんから、そういう人たちはこういう會議に出られない。
それに比べて皆さんは恵まれていると思ふのです。私たち
のような無学な者は家庭でよく主人と話したくても私が言
つたんじや主人が馬鹿にして聞いてくれないのです。夫は
労働組合に入っていますし、理解があるようなのですが、
家に一つの問題が起きたときに私が意見をいうと女のくせ
に生意氣だというんです。子供が三人に、夫婦で一万五千
円ですから、そういう階級の方々はこういう會議に来てい
らっしゃらないのではないのでしょうか。私どものような恵

つもの會議に出てくる以上は、礼儀ということも必要です。
炭坑だからといってあまり汚い恰好したらエチケットに欠
けるという意味でこういうふうにして来ました。私の家も
一万四、五千円しか貰っていません。海底三百メートルの
抗底に下つて働いて、せんべい蒲団にくるまって、あなた
と同じ境遇なのです。こういうところに応募してたまたま
入選したということだけです。機会があれば出られるので
すから、あなたもそういう機会をお持ちになつてお出にな
つて下さい。

(第一日閉會)

「いかにして日本の家庭を明るくするか」

司会 初めに昨日の部會の報告をいたします。昨日は家
庭の意義ということについてお話し合いをしたわけですが、
簡単に皆さんのおつしやいましたことを纏めますと、
家庭というものは、衣食住の場である。それについては明
日への英気を養う労働力再生産の場であり、家族の衣食住
を満たし、さらに發展させ、いつかは社会全体を良くして
いくというような意義がある。そのような明るい家庭には
まず魅力という、うるおいがなければならぬ。そのうる
おいはなにか、それは常に家族のために心を使ひ主婦と
他の家族員の協力によつてもたらされる心身の健康であ

る。たとえば安くて栄養のあるおいしい食事、くつろげるあたたかい雰囲気、社会的意識を持った母親の賢い教育というものが重要であり、そのような明るい家庭を作るには、結婚前から深い理解と愛情に基く結婚が必要である。結婚後は社会的関心を持ち続け、自分の家庭が社会の一単位であることを忘れず、社会全体の進歩のために一歩づつ協力して進んでいくことが必要である。しかし現状は結婚は生産力の増加、子供を生むということも生産力を殖やすということにしか考えないし、家を継ぐためというように考えている者もある。社会進歩のためにも、新時代の教育をしたいのだが、女同志の妨害、男性の無協力、婦人団体等の啓蒙のやり方の欠点のため、現状では大いに進歩がはばまれていく。このような現状を打開して、さらに明るい家庭にするためにはどうしたらいいかということをお話ししたわけでございます。今日の議題である「明るい家庭を作るにはどうしたらいいか」という点について、先ず七人の方に、三分間づつ意見をおっしゃって頂くことに致します。岩手の及川さん……。

及川 私は百姓ですが、仕事やお金の出し入れについて家族みんなのいる席でいろいろ話し合っていてやっておりますが、大人は大人、子供は子供なりに家庭というものがわかるらしくて、割に順調にいらっております。また家計簿は

ままですつと親けてつけておりましたが、青色申告用の農業簿記をつけ始めてから、家の実態がよくわかり、ただ小遣のやりくりなどでなく、ほんとうの一家の実態というものを知ってやりくりするという方向に行き、大変いいと思っております。それからまた車作地帯ですので、米の供出代金に頼っているのは喜ばしき楽になりません。それで、主人が終戦のときに退職手当を使って飼養を購入したり、供出代金全部で乳牛を買って乳絞りをしましたが、現在は役牛一頭、山羊が一頭、豚一頭、鶏十羽ほどをもった農業経営になっております。子供たちもそれぞれ自分の仕事を分担してやっておりますが、大変これもよくいっているような気がしまして、喜んでおります。

司会 次に埼玉の遠藤さんをお願いします。

遠藤 経済的の裏づけもあり、夫婦円満なら家庭は勞せずして明るいにきまっておりますが、どん底の生活をしているときに家庭の中心になっている主婦がへこたれては、皆も参つてしまいます。もちろん国や政治に要求することも大切で、気兼ねなしに種々の社会保障を受けられるようにすることが一帯大きな問題ですけれども、それと同時に家庭内の賢い工夫も必要で、困っているその箇所で最善の生活を致すよう、いつも主婦はラジオ・新聞・友達の言葉・子供からも新しい勉強を絶えず怠らず、大いに科学す

る心をたなければと思います。そうして国際情勢や社会や政治の動きにも目と耳を働かせねばなりません。

私の家では衣類は全然新調しないことと決めて、ボロや親類や知人のお古を活用することに喜びを感じて参りました。最近子供も大きくなり、あんまり手製のものを上に着ないようになりまして、専らアメリカ衣料を利用しております。お古が気持ち悪い方は、消毒してもよいと思います。それをちよつと作り変えなどして、友達から子供の服装が可愛らしいと褒められたこともあります。ときには各家庭で不用の品を持ち寄ったりして友愛セールをするのもよいと思います。また近代家庭が前と違つて来なければならぬ一つのことで、一つの家庭単位で生活することだと思ひます。アメリカのような個人主義の国でさえも、「マードイ」という映画の中では、嫁、姑の同居によるいざこざがあげられているようですが、この場合悪くなつたら他人よりひどくなると思ひます。農家でしただけ古い物置や下男部屋を改造しても、別に住む方が、綺麗な母屋でいやいや一緒に住むより幸せなものではないかと思ひます。アパートや間借りるとき薄い壁を通して隣の音なども聞えるとお互に家庭において緊張を解くことができませんから手軽にできる防音装置ということが、科学者によつて近き研究して頂きたいと思ひます。また他人に干渉し、噂

し合つたりすることは教養ある人間同士として恥しいことであると思ひたいものです。家庭の雑事も、お父さんが市場に行つたりすると、奥様方や、ときにはお店の人からもふしぎそうに見られたり、あすこの奥さんは威張つているときめたり、日曜日の夕方、御主人がお風呂を焚くと、もの珍しさに見ているということも、夫の家事を分担する気持ちを妨げると思ひます。また共稼ぎの場合、殊に乳幼児を持つお母様の訴えとして、しばしば言われることは、有料でもいいからちゃんとした児童や市営の託児所が必要だということです。これからの日本の家庭がもし明るくならうとするならば、長い間の悪いところは改良してゆくという頭の切り替えが必要だと思ひます。

大間知 私は二十年前に戦災に遇い、焼夷弾の直撃を受け歩けない二年間を送つたのです。この間、社会の動きと自分との間にハンディキャップがついたということは、私に一層夫婦は努力しなければならぬということを感じて感ぜさせました。それから主人が封建社会のそのまゝに育てられた夫であつたために、私が倒れたことによつて家事の方向を全部失つたというような家庭の暗さがあつたということです。一番痛切に感じたことは貧しさから立ち上らなければならぬ、食ひさが全部私たちの理性をも麻痺させるということ、又、主婦の健康は、いかに明るい家庭、

幸福な家庭に必要なものであるかということを感じたわけなのであります。そこで自分の健康回復すると同時に、自分の周りに少しでも、和を醸して榮養三色の線を確保したいということによって、家族が幾分でも収入を得、一家の明るさを取り戻しました。

それから更に社会的にいろ／＼なことを世話さして頂いたことによって、家庭の暗さや、行き詰り打解のデクニツクが自然に身についたので家族が明るくなりました。主婦が多方面に互つての教養を身につける必要性をこれほど痛切に感じたことはありませんでした。

西川 私の家は私も夫婦と子供が一人と主人の母が一緒にあります。不完全ではございますが、解決を社会に求めなければならぬような問題は、一応卒業できる程度には解決されておりますし、姑はいま六十五才ですが、年の割には非常に進歩的な、頭のいい人でして、私は恵まれた環境にあるのです。小さな家ですけれども、母は自分の部屋というのを構っており、そこへ自分の身の廻りのもの全部を置いて、生活しております。私どもも、入ってはいけないというのではございませんが、母の部屋へ用もないのにみだりに入るようなことはいけません。互に個人的な精神生活に、あまり干渉し合わないという生活の仕方をしております。

しているつもりであります。

栗崎 私は、最年長者のようですが、私の家庭の状況は家族が三代にまたがっており、姑、私も夫婦と長男夫婦でございます。いろいろな時代のものの寄り合いのようですけれども、誰からも楽しい家庭と言われているのを非常に喜んでいるのです。一番私が気をつけておりますことを一つ申し上げますならば、誰もの立場を重んじ合つて、真心から話し合うということです。主人と長男がサラリーマンで、出掛けますと、あとに残る姑と私と嫁との三人が揃いも揃って出ることの好きな者の寄り合いで、姑は自分の修養のためもありますが、ほんとうにお寺参りが好きなので、松江のお寺の説教は欠かしなしに行きます。私は婦人会に関係しておりますし、しょっちゅう出ています。それから嫁にも身軽の間にしつかりお勉強なさいということを出ておりますので、いろいろなお稽古ごとや遊びにも出るのです。こうして三人が三線によく出るの、お互いの立場を重んじ、できるだけ都合をつけるようにして、三人がどうかしても出なければならぬという極端な場合は、近所のおばさんを頼んで、皆がしたいことをしておられます。又、複雑な家庭ですから、誰もの血縁関係やお友だちなどをお互いに大事にし合うという雰囲気を作っております。お互に朝起きるときから快い言葉を交し合い、家庭の

私のところは主人が出てしましますと、子供と母と三人だけで、べつにそう一日中忙しく動き廻らなければならぬというほどではありません。ですから二人でした方が便利だということを、一つの狭い家の中にいても、一日中口をきかないという日もありますが、半日顔を会わなかったというような日もあります。それがべつに不自然でなくてごく当り前のことなのです。そうして私の家は大人ばかりですから、あまり人の世話もしない代りに、お互いあまり迷惑をかけないということをモットーにしています。よそから見ると冷たい、おかしいというような感じを受ける方もあると思うのですけれど、近所の方はとてもいいですねとおっしゃいますし、私の友達もお姑さんのあるところなんかいいやだと思つたけれども、このお姑さんのようなものはあつた方が便利でいいね。そういう勝手なことを言うくらいで、いわゆるお嬢さんとお姑さんという感じは持つたことがありません。よくほんとうの親子のようになっていることが言われますけれども、私どもは血縁関係のない一人一人の人間が、ほんとうの親子、そういうふうな意識になろうと努めたことではないのです。それよりも前にそれぞれ一応完成された人間が、お互に干渉し合わないで、小さな社会を作っていくことに重点を置いて、明るく生活

いろいろな仕事の分担をきめて、どんどん能率をあげてやつてしまひ、あとは各自の部屋に帰り、自分のしたいことをするというようにしております。

もう一つ家庭経済については、いま私が中心になつてやっております。長男夫婦の食費だけは一緒にし、あとは自分たちが貯蓄や衣料の方面を考えてさせるようにしておりますのが効果的だと思います。

つぎに家庭をどんなことにも提供する、たとえばかるた会、読書会、婦人会などいろんな催しに手間を惜しまず提供することにしております。そのことで社会との繋がりができて、みんなが勉強もでき、非常にいいことのように思っております。

平室 私は炭鉱坑夫の妻です。いま住んでいるところは炭鉱従業員とその家族と、少しばかりの商人によつて構成された、全く特殊な小さな島でございます。そうして住宅はハリーモニカ長屋といわれています。マッチ箱のような小さな家ばかり並んでおりまして、隣のいびきや寝言が聞えたり、四、五軒先のおかずまでわかるという環境ですから、自分たちの生活を明るくし、また楽しいものにしようと思つても、その地域の協力がなくて楽しい生活ができないというわけでございます。たとえていいますと、三番方で、夫が夜働いて朝帰つて来て、昼間寝るというような場合は

御近所のごたごたやときならぬお隣りの夫婦喧嘩などによって眼を妨げられます。そうしてそのために晩の勤務に出られなくなり、休むと、次の給料日には差し引かれるというわけで、他人のために自分の家の経済も脅されるというような具合なのです。それからまた「あすこの家は今日も肉を食べた、昨日も食べた。ようお金がある。そんなにお金があるならいつちよ借りに行こうか」というようなこととなる場合もあるので、地域全体がもう少し考えを改めて、朗らかな明るい家庭にならなければ、一人一人の生活も明るくならない状態です。ですけれども二千五百もあるような各家庭が、一ぺんにそうなるということは到底難しいことですので、私たち主婦が十人ばかりで「すぎな会」という小さなグループをこしらえて、その人たちがもたになつて、親戚の好きな人は親戚会、踊りの好きな人は踊りの会、民謡の好きな人は民謡の会、映画の好きな人は映画の会というように、みんなが集まってすべての力によっていろいろなたたごとや近所のことを管わないような工夫をして、いま努力中です。

辺春 私は勤めておりますので今、住居の方に毎月五百円づつため、一年で六千円にして、それを家の改造や改築の方に廻しております。不便な炊事場の流しとか、風呂場とか、居間に簡単な窓をつけ、風通しや採光をよくした

に、栄養問題についていろいろ工夫をされた。又主婦が外に出たために、社会的な意識を磨くことができて、そのために家庭にもいろいろな技術が入つてよくなつたとおっしゃいました。西川さんはお姑さんと一緒に暮らしていられるが、お姑さんの発意でめいめいの部屋をもち、お互独立の暮らしをしているが、決して冷たくない。独立同士の暮らしから、干渉し合わないという生活の新しい工夫をして人にも羨まれているというお話でした。茨崎さんからは、三夫婦が真心を尽し合つて仕事も分担しているし、自分の部屋を持つということもやっている。家庭、又特に家庭を社会に解放していることも、一つのわが家が明るくなる理由であるということでした。平室さんは炭鉱のハーモニカ長屋の生活では、わが家の独立がなかなか難しい、当然地域の影響を受けるので、地域社会と一緒に考えてそれらの家庭が新しく作られるように、グループを作つて工夫するにはお互の暗い原因をつき止め、それが適確にできれば打開の方法は生まれ易いと説かれ、御自分は住について毎月五百円づつ俸給から天引貯金をして、家の改築に当てるといふ計画生活の話が出たと思います。そこでこれから話して頂くのでございますが、昨日、今日を通じていろいろな問題が出て来ております。昨日は明るい家庭を営むのにはまず

り、又家は潤にだだっびるだけで、非常に便利が悪いので、中廊下などをつけるなど、順次計画的に急がずに工夫研究して自分の思っていることを実行してみたいという考えを持ってまいります。

司会 では山高先生に一ことお話し頂きたいと思いま

山高 今日はどうしたら私たちの家庭が明るくできるかという具体的な方法論をお互に話すわけですが、最初にお百姓をやつていらつしやる及川さんはなんととても貧乏だが、そこから抜け出すために副業もやつていらつしやる。家庭は子供にとつても幼いときの親の教育が一生を支配するような大事な人格形成の場所だから、子供ぐるみで家計なども公開しているという新しい暮らしの工夫ができました。遠藤さんはやはり苦しい生活について、社会保険というより社会的な解決も求められるけれども、それと平行して主婦が中心になつて賢い工夫をしていかなければならぬ。たとえば衣生活は新調をしないで中古衣服を利用するとか、友愛セイルというようみなさんの協力方法もあるというような示唆が出ました。大間知さんは戦災で負傷をされ、主婦が二年間も活動できなかったたので家庭が暗くなつたけれども、そこから立ち直つてくるためには、その負しい生活を切り開くために、また主婦の健康を取り戻すため

結婚から吟味してかからなければならぬというお話も出ましたが、その新しい家庭へのスタートにはやはり新しい結婚式とか、披露の仕方とか仕度の持ち方とか、いままでの非常に金のかかる家の結婚を人間本位のものにして行くにはどうしたらいいかという御意見も今日は出なければならぬと思います。又都会はだんだん小人数の生活になつておりますけれども、農村ではまた大家族の名残も残っているようですが、別居には経済的な問題も伴うので、どういうふうにして新夫婦の生活を確立できるかというふうな住居の問題もあると思います。また昨日も共稼ぎの家庭で、子供を御近所に頼んでいくという話も出ましたが、近隣の地域社会との関係も新しい暮らし方として当然触れなければなりません。また共通して暮しが苦しいという経済問題が出てきて、その打開には社会的、政治的な解決を求めることと平行して、お互の暮らしの工夫の必要性が大いにのべられ、たとえば富山の方が主婦の健康は非常に大事だ、栄養生活で自分は打開したとおっしゃいましたけれども、一人一人で打開するのと、あるいは主婦の健康診断といったような社会的な方法等が皆と一緒に高まつていく方法もあるのではないかと通つて参れば、今日は時間が惜しいくらいいろいろな示唆に富んだ御発言が得られるだろうと期待し

ておるわけでございます。どうぞよろしくお願い致します。
司会 それではいま先生からおっしゃって頂きましたのをもとにしまして、御意見を簡単に申し上げます。

◎結婚のあり方について

―家庭の出発点として―

まず明るい家庭を作るための大前提となる個人同士の尊重された結婚はどうしたらできるかというようなことについて、昨日出ました御話のこととお思い出しになりながら御意見を聞きたいと思いますが。

山高 目下さんは御自分の結婚について、親の経済力で派手にやって来た結婚式、披露宴について改めるお考えがあると思うのですが、お聞かせ下さったら……。

目下 近々結婚をするわけですが、私はいままでも家には食べさせて貰うだけでした。それで着るものは今日まで全部自分でやって通勤着だけは揃いましたが、両方共あまり裕福でないから、結婚式と申しましても両方の親からは一銭も貰えません。二人で相談して毎月二人の収入の約半分くらいを貯金し、そのあとの範囲内で適当に、あまりみみづちくならない程度にリクリエーションもやって来ましたが今月末の結婚式も自分で考えて、岡山の公民館で致しま

す。披露宴の場所も貸して貰き、館長さんが司会をやって下さって、五百七十円で式を済ませることが出来るのです。式服も簡単にとはいえず、やはり一生に一度のことだと思ひ洋服だあとで使えますから安い布を買ひ自分で縫いました。式によぶのは私たちの友人を中心に、親戚とか父の友人というものは全然呼ばないことに致します。披露もお茶とお菓子程度にします。友だちも、サラーマンが多いので、お祝い物もたとえば「私は五百円しか出せないけれども、あなたの一番いいものを言って頂戴」という風です。それから実用品を頼みます。こういつたらずいぶん簡単なのですが、それまでに親たちをずいぶん説得しました。たとえば一生一度の結婚式だ、近所の人に荷物を見せるのに空っぽでもいいから箆笥を持って来てくれと習われるのを、空の箆笥なんて全然意味ない、そういうことは一切省いて、現在持っているものを持って行くことにしたわけですね。だから結婚式だからといって、私は服一枚新調していません。農家の方なんかはよく平生服だけしか着ないのに、新物を何枚も何枚も箆笥に入れておやりになる。学校の校長先生が三人の娘さんの中、上の一人をかたづけろのに退職金を全部お使いになったという。お金があれば貯金通帳にして贈った方が本人のためになるでしょう。私は特異のケースかもしれないけれども、両方が経済的に恵

まれないので、そういうふうにできたいと思います。お互にみんなのテスト・ケースとして、なるべくみんなの意見を聞いて、いい方へ進みたいと思っております。

山高 ほんとうに頼るしいお話しです。テスト・ケースが成功なさって、お友だちが続いていかれることを祈りたいと思います。

◎同居と別居について

次の問題に参りましょう。別居の問題とか、計画離児の問題、共稼ぎの問題、そんなことからお入り頂きましょうか……。

司会 それでは新しい結婚生活をいよいよ実行して行く場合の問題、特に昨日から盛んに出ております別居について、経済的にむづかしいけれども、やればやりようがあるのじゃないかという点について、遠藤さん、いかがでしょうか。

遠藤 別居の方は賛成なんです、いろいろの方のお話で、別居しなくても努力次第で人間関係をよくしたり、また実際にうまくいってらっしゃる方も多いというので、思ひ直しているのですが、年寄りの方に頭の切り替えをして頂くことは、なかなか難しいと思うのです。だからいざこざを作っているうちに別居してしまつた方がいような気

も致します。

西川 私の家の例なのですが、私のところは主人が一人っ子で、ほんとうに親子二人きりなのです。姑自身は若いときから、十何人という田舎の大家族の中で非常に苦勞して生活して来て、たまたま主人の仕事のことで東京へ出て別居できたときには、ほんとうに嬉しかったから、将来は必ず別居しようと思つて、そのつもりで計画を立てて、貧しい中から貯金もしていた。ところが終戦でそれが全部引っくり返つてしまい、大当て外れだったというのです。それで私が結婚して参りましたときに、姑は家族関係について「あなたは両親と子供だけの家庭に育ち、年寄りとか、ややこしいことは全然知らないから、簡単に考えているかもしれないけれども、なかなかそれは難しいものなんだから、お互に難しいということをよく自覚していなければならぬ」と言われたのです。そうして「一緒の家の中に住んでいても、一つの型に嵌まるというのでなくて、別々にしましよね」という型を宣言し合つて来たのです。ここでも口に出して申しますと、なんだか四角張つて角が立つのですけれども、細かいことを疎かにしないという生活の技術というのか、生活の一つの演出だと心得て、ときには妥協することもございますし、それにテクニクを使い合うというのか、いやな言葉で言えば妥協してお互に我慢す

るというか、極言すればそういうことで案外うまくいくのです。

夏目 別居するのが一番理想的だと思うのですけれども別居しなければ理想的な家庭は作れないというような考え方には間違っているのじゃないかと思えます。いま西川さんがおっしゃった、冷淡なんじゃなくって、お互を尊重する意味で、干渉し合わないということは、難しいけれども一番大切だと思うのです。又廣敏の長屋のお話を伺いまして、アパートの生活もよく似ていると思えます。ちゃんと防音装置のできたアパートならいいですけども、一部屋づつ壁だけで仕切られているアパートは、お隣りのおかすがなで、どんなことをしているかということはおよくわかり、お姑さんと住んでいなくても、お姑さん以上のうるさ方もたくさんいるから、アパートにもお姑さんとの生活のような人間関係がある。そういう意味から、アパートだから明るい生活ができないとあきらめてはいけません。干渉し合わないでお互に個人を尊重するという。主婦の間の理解をどうしたら得られるかということが一番大切じゃないかと思っています。

宮原 干渉しないということは大変なこと、理想的だと思えますけれども、これはお互いのレベルが同じくらいなときに言える言葉であって、封建的な生活を長くして

来たお姑さんやお舅さんに対しては、この嫁でなければいけないというように信頼させ、年寄の親切心をうまく活用するということが大事だと、私は思うのです。

山崎 別居は経済的な条件もあるので、必ずすぐにもできない。一つ屋根の下でもお互の暮らしの工夫によって別居に近い程度までも緩和することができるところまでお話しがいったのですが、計画産児とか家族計画とか、そういう一つの新しい暮らし方についても、また新旧思想のくいちがいがあるわけですが、この問題について……。

◎家族計画について

孫田 家族計画ということについて、東京の方は皆さんよくお考えになって、むやみやたらと子供を生むということとはあまりないのですけれども、田舎ではそれが特に貧困な家庭に子供が多いようございしますが、貧乏人の子沢山では経済的に救いようがありませんし、社会問題としても日本の国として考えたときも、非常に問題になると思います。最近田舎でもずいぶんそれが問題にされ、子供がたふさんだと世話がやけるからということ、経済的に困るからということ、産児制限が普及しておりますけれども、問題はその方法で、お母さんの犠牲によってなされていることが非常に多いのです。人工中絶も産卵をやっております

ずとお母さんの身体は非常に消耗しますから、そういうことでなくて、男性の協力とか、生まない方法とかいうことが考えられなければならないのです。これは社会的な問題なのですが、政府の協力の仕方というものが予算がないということでは不十分だと思います。これは正しい認識に基づいてぜひ解決されなければならない問題だと思います。

栗崎 私も家族計画はよく樹ててしなければならぬと思います。それから殊に結婚して、二、三人子供ができてから考えるというのはいさかいあります。私の周囲に経済的に準備が整わない内に結婚して赤ちゃんができたから中絶した。このため母体を大変いためた例や中絶したあとで今度はどんなにほしくても赤ちゃんができないという例もあり、私はこういう知識も結婚前から持っていることがよい家庭をつくるために大切じゃないかと考えています。

宮原 産児制限は大変いいことですが、私の方は農村です、非常にレベルが違いますが、上の人はきちんとなさう、結局十人近くも生んでいるのは貧困家庭で、進歩的に言いましても割に劣性です。これをこのままにしましたら劣性の子供がたくさん残って相当いい遺伝の人は減っていく傾向になるのじゃないか。私は地域の人々を見て非常に心配しているのですが……。

及川 私の方もいまある組織をもって指導しております

が、貧困者を重点的にして、いろんな補助を与えてやっております。それから会合などもお嫁さんだけ集めないで、お父さんと一緒に集って貰ったり、お姑さんに集って貰ったりしてお話し、いろいろな方面から啓蒙していくと顧問にいくようです。部屋の問題などもやはり大事なことであります。

◎共稼ぎの家庭について

司金 この問題については、このくらいにして、次に共稼ぎの家庭について、子供を持ったお父さんもお母さんも外で働かなければならないという家庭がだんだんふえて来ておりますが、そういう場合の子供の教育、あるいは家庭的な雰囲気はどうして作つたらいいか、又どうやって地域の協力を求め、かつ、こちらからも協力したらいいかという点について……。

遠藤 御近所に共稼ぎの婦人の方たちが多勢いらつしやるのですが、その方たちは子供の世話も家事もお勤めもするということになると、どうしてもお母さんがいららして、そのとばかりが子供に来ていじめてみたり、子供にし寄せがくるのが、とても可哀そうです。いい託児所もありますが、それには三才以下の子供は入れないし、乳児院をどうやって作るのかといつて会うたびにお話しあい、

この間市役所に頭金を集めて持って行き、そこからみんなに話をもちかけて、お役所にお金を作って頂いて、乳児院を作りたいというところまでいってあります。またお留守番の人を雇っていらつしやる方もありますけれども、こうして雇われる方はどうしても学問や教養が乏しいので、お子さんも病気になるがちで、栄養の点も思わしくない。しつけ方もよくないということもあります。いろんなことを考えてみると、保母さんが綿密に到れり尽せりに面倒みて下さることが一番いいことなのだから、公営の乳児院が必要だと思っています。

司会 昨日もちよとお話したようですが、実際に共稼ぎで子供をお持ちになつていらつしやる方の御意見はいかがでしょう。

小笠原 ほんとうに乳児院のようなものがあるといいと思いますが、それが各地区にたくさんできるといことは今の日本では望めないと思うのです。一番簡単な方法はお守りさんならば私は近所に来て頂く方があるものですか。一日幾らとしてお願いしました。地方によつていろいろあると思いますが、家から職場まで歩いて十五分か二十分で行ける場所ですか。お乳を飲ませに帰り、離乳も早くして、ミルクの調台をお守りさんに教えてやって貰いました。子供がだん／＼成長し、母も亡くなりましたので、お

留守番兼子守りのちょうどいい方に来て頂いてあります。その人だけでは責任を負いきれません。子供たちが近所へ遊んだり、お魚取りに行ったり、ときには近所の子供たちと喧嘩することもありますが、地域から浮き上がることはできないから、地域のおばあさん、お母さんたちに、子供も一緒にお願いするというように、気分的になごやかに繋がっていかねばいけないとつく／＼思っております。

辺春 私共共稼ぎですけれども、幸い姑がおり、現在はもう長男が学校へ行っておりますし、下の娘が六つになりますので、そう手はいりませんけれども、やはり小さいときにはなにか社会的な施設がほしいと感じたことはございます。職をやめようかと実際考えたこともありましたが、たとえば姑が病気をして難儀しましたときなどに、そんなことを痛切に感じておりました。結局今まで十余年も勤めに通っておりますけれども、家路で一番困りますのは姑になにかもお願いしておりますので、姑があまり孫に對して甘やかして過ぎて小さいことに、私が帰ればすぐ／＼干渉し過ぎて小さいことに、私が帰ればすぐ／＼したよ、親がしつづぬからだめだというものですから、おばあさん、そんなことには知らん顔して構わずにいて下さいといつておりました。或時姑が歌が好きだったので、結婚自身になにか抜け道を作つてやろうと思つて、レコード

を買つて、おばあさん、おもしろかけんこれを習いなさいといったら、初めはこんないらんものにお金を使つてといつておりましたが、一年生の長男から電番の使用法を習つて、姑が楽しむようになってから、子供も積極的にお友だち同士と仲良く遊ぶようになってきましたので、あまり親が心配するようなものではない、案外簡単にいくものだと感じました。

大間知 いまのお二人のお話は、お姑さんのおられる場合のケースでしたけれども、いま共稼ぎの夫婦が断然多くなつてくる傾向において、子供はほんとうに問題になると思います。保育所に乳児の施設を置くことが一番好ましい。乳児施設をうんと殖やして貰いたいと思います。

立谷 乳児院の問題がいろいろ出ましたけれども、ここに家庭乳児院というものを作つたらいいじゃないかとふつと思つたのですが、私は子供が一人いますけれども、外部へ出ている／＼な有名な方のお話を聞きたいと思つた別ですが、隣り近所十軒くらいでグループを作つて、家庭乳児院といったような形式のものができたとしても楽しく近所とお話し合ひもできるし、よく進むのではないかと思います。

宮原 昼間里親というのが全国的にあるのですよ。しか

しな／＼うま／＼いていない。さつきおつしやつた、乳児院というのは昼間だけ預けるところじやなくて、はつきりと親代りになつて育てるものなんです。乳児院と保育所とは全然別です。

山崎 社会的な施設の問題になると専門的になるので、皆さんが常識的に子供を、特に乳幼児を預ける場所ということでお話を進めていったらいいと思います。現在の法令に基く乳児院ということではなく、大体私たちがどういう方向に向いていくかという程度で、このお話し合ひは結構だと思つたのです。働くお母さんのために子供を守る施設がほしいそれを建設しながら足元の問題として隣り近所を助け合つていくというくらいのものでよろしいのじゃないでしょうか。

日下 私たちの職場などでもずいぶん共稼ぎが多いのですが、そういう育児施設をほしいという話が出ると、私たちの仲間でさえも、二、三人子供ができたからお勤めしないで家庭にいればいいという意見が出る。そういう考えが職場での施設というものをずいぶん阻んでいると思うのです。もっともっと私たちの仲間から話し合つて、意識を高めていかなきゃだめだと思います。

山崎 共稼ぎの家庭の問題には、まだ御主人の理解とか協力、いろいろあると思うのですが、そこから繋がつて、

今度は共稼ぎの家庭でも問題があり、また奥さん業専門の家庭でも問題のある食生活とか、そんな方向へだん／＼入って頂きましょう。

◎食生活について

栄養改善の問題も出しましたが、食生活には食事の慣習などの問題も家庭婦人の労働量につながるわけですが、平室さんどうですか。

平室 炭鉱においては重労働が多いものですから、お腹が空いたとき食べるといふ傾向が多い。けれどもだんだん目覚めて、重労働する者はこれだけのカロリーが必要だといふことも言われはじめ、県から栄養改善の方を二週間に一度乃至三週間に一度呼んで、いろいろ研究を致しております。

山崎 それはさっきおっしゃったグループでやっているのですか。

平室 婦人団体とか労働組合の方でさういう方向に持っていくております。炭鉱の生活は食事がとても不規則です。一番方は朝五時ごろ出て、四時頃帰って来てからお昼、そうして寝るときに晩の御飯を食べる。二番方のお昼は晩の十二時ごろになる。このようにとても不規則ですから、不規則からくる病気が多い。そこをなんとか解決したいと思

うのですが、仕事の関係上で解決できないのは悲しいことだと思います。それで一たいに炭鉱の方は早死が多いのです。

及川 私のところでは単作地帯なものですから、どうしてもお米の食べ過ぎが問題になります。それから副食物の粗末さ、学校で弁当の調査をしたら、十四、五年前よりもずっとよくなっているのですが、お香のものだけの人が四分の一なんです。おばあさんの話によると、おばあさんの時代は全部がお香のものあるいは糠干だけのおかずだといふことです。このごろは婦人会活動で栄養の問題をり上げて、実際料理をやっておりますので、いくらこれでも効果が見えたかと喜んでおられます。お米の問題ですが、水沢保健所管内で一番多いのは米の過食のための脳溢血で、単作地帯と脳溢血の問題は大きく取り上げられました。私が工夫した献立板を御紹介したいと思ひます。前には蛋白質カロリーを計算して献立をしておりましたが、忙しくてそんなものはやっておれませんので、小黒板を利用し、下に食品の名前を書いて名札を下げておきます。その名札を大きくしたのがこれなんです。〔献立板を示す〕ビタミンを多く含むものは銀紙、蛋白質は金紙、緑の食品、赤い食品と色紙で分けてひらがなで食品名を書いてありますが、私が田畑で働いているうちに、子供たちが自分のほしい食品を

あげるのです。それを私が田畑から帰って整理して、明日の献立を立てるといふようにしておりますが、みんなの気持ちも表われ、合理的な食事がとれるようになりました。

司会 いま食事の栄養というよりなことから、さらに簡単な食生活ということがで来、それによって主婦の労働が軽減され、生活が簡単になって、ほかの方面に伸びることもできるということまで考えられていると思ひますが、

栗崎 島根県の農村では、このごろ保存食のグループ研究が進んでいます。主婦の知識がありませんので、いろいろ栄養が偏るのを指導しながら足りないものを保存食にする、たとえばお魚の季節にフリカケを拵えておき、忙しい時に使うという風にだん／＼進んでおるようです。

孫田 私のおりました田舎では、お客本位の御馳走が非常に珍やかで、毎日の食事は非常にお粗末、なにか家族本位でなく、お客の養育のための食事というものが非常に大切にされるという面があるようでした。都会においても、お客が不意に来たり、また大変要際の広い方で、得手勝手の方々に行くといふような訪問の仕方、そういうことが家外主婦の労働力を増すことになっているのじゃないか、その点特に男子の方に自覚して頂きたいと思ひます。

山崎 お客本位の食事は封建的な家族制度の生活が、人間本位の毎日の生活に重点を置いてない一つの証拠ですが

同じ原因から交際の問題、つき合いから虚礼廃止という言葉で言われておるような問題を一括してお願いしたいと思ひます。

◎交際について

石原 つき合ひは、私の家では主に父のつき合ひが中心で、この間もお休みのときに父の友だちが参りました。そのときは家族全部が一緒に出掛けようといふことになっておりましたので、いつもそんなことを言ったことのない母が「今日は家族全部の外出ですから、お父さんも我慢してつき合って下さい」と言ったので、お客様は大変気分を悪くしたみたいでお帰りになつたのですが、父が母を怒り、顔が潰れたといふようなことを言いました。私たち社会生活をするのに、自分は相手を訪問すれば歓迎されるものといふように頭からきめているのは困ります。自分も輪性になるから、相手の犠牲もなんとも思われないのじゃないかと、訪問するときのお茶の飲み方おじぎの仕方という儀礼よりも訪問した先での雰囲気、今部台が悪いのじゃないかといふことを見極めて、自分の進退をきめるということからエチケットを守っていきたいと思ひます。

夏目 お客さんが来ますと、そのお客さんを中心に、家族のみんながその方に全部中心を持っていて、いっしょ

うけんめいその人を接待するために努力を使い過ぎていてという気がするんです。むしろでき上った家庭の客招きの中にお客さんを引っ張り込んでくるように、ありのままの中に入ってくるように努力することが必要である。同時にお客さんも自分が中心になってちやほやされることもあつたと思わないようにすることが大切だと思うのです。

植村 私の家でもお客さんは、その迎える側の主なもの担当として、家族の者みんながその一人の人の訪問のために時間を割かないようにということをしてあります。御近所なんか見ておられますと、一人のお客さんに家全体の家族の者が時間をとられていて無駄だなと思うのですが、そのようなことも近所の方たちとお話しをしながら、みんなが昔の古い慣習慣というものをなくするように、除々にしていきような状態です。

辺 暮 私どもも今一番困りますのは、土曜ごとに主人の友だちが来て御非難に向つて、二人で一時、二時までやって帰らないことです。折角来ていらつしやるからやつぱり宛に寝るわけにいかず、三時までも四時までもおきていなけねばなりません。もう少し家族員の気持をお客さんも察して下さればいいのにと考えて、ときどき主人に申しますけれども「そりゃしょうないか」と言っておりますが、

山高 皆さんがいい主婦になるために非常に努力していらっしゃるようですが、いまの御主人の協力の問題どうでしょう、いろいろな面です。

孫田 九州から突然こちらに来ました私の兄が、ある家を訪ねて行ったときのこと、その家ではお酒や御馳走を一応出して、あとはどうぞよろしくといってみんなを待たせて、これはいいといって兄は感心しているのです。みんなが寄つてたかつてもなしてくれるよりも、一応御馳走を出して、あとは放つたらかして貰った方がいい。女の立場を考えても、また男同士のさつくばらん話をしたいといふときもあるのだから、女の方は寝て頂いた方がいいといふことを言われたのですが。

●最後に

司会 非常に残念ですが、時間が参りましたので、あと四、五分のところで一ことづつなんでも結構ですから、おつしやつて頂きたいと思ひます。

立寄 私の場合恵まれていますが、私の部屋と主人の部屋と別々にあるので、自分自身に来たお友だちはお茶とお菓子をに入れて放つたらかしておくのです。

邊 暮 主婦同士のおつき合いのことですが、ただおつき合いといふよりも、自分が得意なこと、たとえば縫ぎもの

が上手なら縫ぎものというように、下手な者が長いこと苦勞してやるよりも、時間的にも経済的にもなるのでグループ同士でお互い引き受け合つてやるというおつき合いをやりたいと思ひます。

大関知 富山の風習として物を持って訪問することが習慣なんです。私たちが十人ほどのグループで家計簿をつけては、金銭がどのくらいあるかということと語り合ひ、金銭に廃止するような訪問の仕方をしてあります。

石原 おつき合いのことと同じような問題ですが、お友達が集まるときにちやうどお洗濯しているときだったら、一緒に洗濯して貰うのです。お掃除しているときだったら待っていて洗濯をして貰うよりも、一緒にやらせるのです。意外それでとても楽しいものです。待たせるということもすいぶん辛いものですから。

孫田 やはり婦人問題というのは社会問題として取り上げなければいけないと思ひます。自分だけの努力も必要ですが、社会というものと結びつけて考えるときに、強力に婦人の力を高めることの推進力になると私は思ひます。

夏目 女自身弱過ぎる、どうかみんな強く思ひます。活を守つていきたいと思つても、やはり主人のお客さんの気を悪くしないように、あるいは家庭同士のつき合いの

問題でも、相手が悪く思わないかという気が原因で、こうしたいという勇気さえも持たれる場合が非常に多いといふことを自分自身の反省として、皆さんと一緒に取り除きたいといふことを、いまのお話し合いから感じました。

植村 私たちは相当皆成功している者が多いと思ひますが、今後いつでも成功していない人が多いといふことを考えて、私たち自身が力にならなければならぬということとを皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

西川 いろんなことを阻むというのは、意外自分自身の中にあるんじゃないかと思ひます。だめになったときには反省するとしても、一応自信を持って、いいと思つたら一応なにもかも、世の思惑とかそういうことは考えに入れないで実行してみようという勇気を持つことが大切だと思ひます。

白下 古い人との話し合いがなか／＼うまくいかないといふことが話に出たのですが、私の経験からいって、長い時間をかけて、社会問題——新聞などに出てくることは誰でも共感を呼ぶのです。そういう話から始めてみんなにわかつて貰いたいと思ひます。

小笠原 「明るい家庭を作るにはどうしたらいいか」といふことは、いままですいぶん話し合われました。新しい憲法ができて、家族制度が一応枠を外され、そのために不

幸になった御老人の例もたくさん聞きます。子供からそんなに扱われているということも言われておりますが、そういう御老人の問題は私たちが人間的な温かい気持ちで接すれば解決できる問題だと思ふのです。一度外された枠を私たちが十分使わないということでもまた厳められることは非常に残念ですから、家族制度の復活されないように努力したいと思います。

養育 明るい理想的な家庭は一朝一夕に生まれるものではない。皆さんの家庭のそれ／＼のケースは千差万別ですから、自分の家庭というものをよく見詰めて、自分の家庭ではこういう家族構成でこんな形だったらこんなにしようかということ、家の中心の主婦がよく考えて、一步一步と建設することが大切じゃないかと思ふのです。

平室 健康な身体と健康な精神を持っている者は努力次第で明るい家庭生活もできると思ふます。原爆の洗礼を受けた、顔に恐いほどのケロイドを持ち、十年間寝たきりでありながら、食事も進まないという方が、食べるために細物の内職をしているので、そういう人にどうぞなにか明るい生活を与えるような方法を、皆さんで協力して頂きたいと思ひます。

辺春 私もこのごろの女性、それから主婦は、自信を持って男性と同じように社会的にどん／＼進出して、社会的

になにか役に立つような女になりたいと思ひます。

及川 農村の場合ですと、明るい家庭は、どうしても地域が明るくならないとできない問題で、そのためにはグループ活動というものが非常に必要となっております。お話を聞いたり、施設を見学したり、あるいは生活の工夫の発表会をやっておりますが、集まりに出ない人はいかにして啓蒙していくかというのが問題なのです。これは今後の問題として／＼考えていきたいと思ひます。

司会 それでは最後に山高先生に一寸とお話しして頂きたいと思ひます。

山高 グループにも出て来ない主婦の問題、原爆の家庭の問題にも触れました。職場を持っているためになか／＼出て来られない主婦もありましょう。そのほか父親のない家庭というような問題も取り上げなければならなかったと思ひますが、皆さんのお気持ちの中では少し触れていたように思ひます。結局、日本の家庭はまだ非常に貧しい。しかしその貧しさもある／＼な意味があるもので、そこまで下げて自分たちの家庭についてもやっていると、同時にみんなが一緒によくなるようにというお話し合いもたくさん出たのですが、そういうお話し合いになると、お互いの持っている知識が浅くて、ちょっと話しかけてもくい違ってくるというような場合もありますので、私たちはや

りこういう会議をなるとけ細かに下の方でたくさん持つと同時に、またそのグループの繋がりをさらにい／＼な段階に持ち合せて、上まで続いて、私たち女の要求が社会的な問題を解決するためには、政治的な行動がとれるところまでいかなければならないものじゃないかということ、皆さんのお話を通して感じるわけでございます。

司会 皆さんのお協力によって無事に済みましたことを厚く御礼申し上げます。

(休憩)

●傍聴人との質疑

司会 では質疑応答の方に入りたいと思ひます。まず昨日の質疑応答のときに質問等をお出し下さった中で、今日の方に入れた方が適當だと思われる問題がございますので、それから先にさして頂きたいと思ひます。

特別傍聴人の方から、これらのいい御意見を他に拡める方法についてということで質問がございましたが。

特別傍聴人 今日伺ったことは大分具体的で、非常に結構だと思つておるのですが、拡める方法について具体的にどのような形をお望みになるか、婦人会の代表の方はグループという面があると思ひますが、そうでなく個人の立場でやっておられる方、組織のない場合はどういう形でこれを

皆さんに知らせることができたらどうか、家庭の奥さんの中で皆さんの御意見と同じようなことを十分に考えておられる方もあるかと思ひますが、ただそれが具体的に知識を拡め、それを社会的に拡める積極性がないのが実態だと思ひますが、そういうことについて伺ひたい。

司会 先ほどそれが最後に出かけておりました、時間がないために無理に切つてしまつたのですが。

孫田 それは東京の会議でも問題になったことで、ある方はグループに入らなうでしようか、ある方はいやというくらいにやだめだ、もっと自分の家で花を作つてそれを子供にわけてやつて、子供を通じてその母親に話しかけたらどうか。またある方は自分の家を開放して図書館を作っている。そういうことで啓蒙していくということをお伺ひたのですが、私は一つの方法で解決するのは難しいと思ふ。出ていらいしやいといつても出て来ない人が多い。主婦が自覚して、手を差し延べる、近隣の方が自覚して下さるとか、子供が新しい教育を受けてお母さんに影響を与えるとか合理化した時間を使って新聞、ラジオを説くとか、日本の国がもう少し経済的に恵まれるとか、いろいろな要素が相俟つて、主婦の向上がなされるのではないかという結論を得たのですが。

夏目 私はこういう機会がなかったならば、家庭の中に

閉じ籠った女で終つたろうと思います。いまここで話されているいろいろな理想的問題と、自分の周りの家庭の人たちとの開きをとても身に感じますので、果してここで話されたことを、隔つてどれだけできるかということを感じておられるのです。私がこの会で目覚めさせて頂いたということ、まずお隣りの人々に話しかけて、みんなで押し進めていきたいと思ひます。いろいろな問題にぶつかると適量するけれども、少しづつ話し合いのグループを作つていきたい。呼びかけの手掛りもありますので、そういうところから奥さんたちに話しかけていきたいと思うのです。

司会 この問題はこれくらいにして、次に夫との関係について三人の方から同じような問題が出ておられます。男子との協力ということについておっしゃって頂きたい。

傍聴人 家庭を明るくするためには婦人の力の重大であることは申すまでもありませんが、一方に男子の協力を得るということは絶対必要だと思ひます。家庭というものは御承知のように御主人と主婦が車の両輪の如きもので、片方だけ動くというのは片輪の家庭であると思ひます。男子を協力させるという点で割方具体的な案がなかったと思ひますが、その点いかがですか。

石原 親たちの例をとりましますけれども、私の母はいままで父からの経済力というか、そういうもので父に頼つてい

よけんめいになりますと、主人も実は方々に出掛けまして祝辞などを述べる場合に、ちょっと見てくれないかと尋うのです。それを見て、これは無駄だとか、表現がまずいというのです。その代り私が出られない会合の講演はメモして来てくれまして、いろいろ教えてくれます。夜の話し合いでそんなことをやりますが、自分の実力を示すことと、熱意を示すことが大事だと思ひます。

立谷 私も実力を作ることが大事だと思ひます。家庭の中に閉じ籠つていると視野が狭くなるので、外出するときにはハンカチと紙幣を持つと同様に鉛筆を持つていって、月給の見たこと考へたいことを書いてくるのです。家に帰つて夕食後その問題に対していろいろ議論し合ひ、また自分自身も一所懸命社会問題、英語、数学、そういうものも勉強して、なんだお前もこんな知識を持っていたのか、そういう驚きの目を聞かせることが大切だと思ひます。

小笠原 なにか女の人が勉強してくると、家の女房はこれのどろどろたいとおっしゃる男の方があるのですが、煙たがられたら奥さんは大変だと思ひます。奥さんの持つていき方ですが、下手に出るといふと変ですが、僕も一緒にいふこと、やういふこと、こちらから可愛いく持つていくことも大切だと思ひます。御主人の方でも自分の奥さんを外へ出したら大変だからというので、恐妻家といういやな言

まして、自分自身は何にもしなかったのです。それに父は儲物の職人ですので、非常に経済観念というものが少いので、母の方はどちらかといひますと、精進というかそういうことを考へる方なのです。終戦後母が帳簿をつけるようになりましてから、今まで父は大丈夫だ、大丈夫だ、なんとかなるよとか、心配するとか言つていましたが、ずいぶん労が多くて報酬が少い商売だということが身についてみわかり、母もいろいろ考へ、具体的に今度は今までのやり方を考え直していくようになったのです。父もやはり母がつけた帳簿で、母と夜なんか話し合ひますと、経理士に赤字ですと言われるよりもむしろピンとくるのです。二人でもって税務署にはどんなふうに出したらいのかとかどんなふうにも異議を立てたらいのかということ話し合つて、家計の面からもだん／＼に是正していったようなわけなんです。母が帳簿をつけたということ、父もずいぶん自分自身も家庭の中の経済に関心を持つて来ましたが、母も計画性が立ちまして、割当成功したのじやないかと思つております。

平賀 いまの男の方の考え方は、古いと思ひます。女から協力を求められるというよりも、自分で協力をするという気持ちになって頂きたいと思ひます。

及川 私の場合、やはり自分が実力を作ることにいっし

葉があります。元祿にでも外へ出すとこわくなるというようなことを言わないで、女の方が勉強するということば旦那さんへのサビスとなつて戻つてくるのですから、そんなふうに考へて頂きたいと思ひます。

立谷 私も自分の体験から、生活技術のデクニクだと思ひます。

兼崎 駒根大学の先生によくお話を伺う機会を作つておりましたがあなたの方だけで聞いてもだめだから、夫婦連れでくるようにしなさいというので、このごろは一緒に出てお話を聞いたり、楽しい時を持ったりと、夫婦一緒にの時を持つております。帰るとそのことを話題として話し合ふととてもいいことのような気がしております。

植村 皆さんのおっしゃったようなことで、私たちもよく話し合つて、夫がそれをマージャンやなにかの友達に働きかけています。友達を捕えて家庭的なことをお話ししその家庭的な話題が、男の人の頭の切り換えのきっかけになり、非常に効果があると思ひます。

司会 次に基地の問題が家庭に及ぼす影響について、御二人の方から質問がありますので特別傍聴人の方にお聞ひします。

特別傍聴人 二日間傍聴して見ますと、社会性を持たなければいけない、社会意識を持たなければいかにいうこ

とおっしゃっている。ところが日本の家庭を考える場合に、日本が戦争に負けて、基地があるということが、日本の家庭の問題に繋がっているということを考えるのです。そういう意味を持った発言がないということに非常に残念に考える。この点、お子様方の教育の問題について具体的に御意見を伺いたいと考えます。

夏目 自分の家庭に直接響かない問題についてはとても無関心だ、エゴイスティックだということを言ったのは、基地問題にしても自分の家がそういう環境にないということから、目を外らして冷淡だということを書いたかったのです。現在の家庭が非常にエゴイスティックだ、そういう問題をどうしたらいいかということは、結局そういうことに繋がっていくというよりは希望のもとに、皆さんが話していらっしゃるのじゃないかと私は思うのです。

司会 特別傍聴人の方の御質問が二つ残っております。家庭再編成のことについてと因習打破について——ということですが、どなたか代表してお話しします。

特別傍聴人 家庭構成員のすべてがうまく結び合っているということが明るい家庭の基となる大事な要素だと思います。終戦により、家族制度といふものがなくなりましていままでの結びつき——即ち親権とか、その他それに附属するいろいろなものが結び合っていた家庭が、意味が変っ

てきて、個人的な面が非常に強調され、家庭というものが弱くなり、強い親まわりが見られなくなった。最近新聞などを見ますと、親を殺す事件とか、兄弟同士が殺し合う事件が多く見られます。そういうのはどういうところに欠点があるのだろうかと思えるわけです。それがそういう社会的な不安ですが、社会問題と言えれば言えるかとも思いますが一方各家庭でもそういうことが解決されて円満になっていったらば、逆に社会が明るくなるように考えられます。最近、家族制度復活の動きがありますが、そういう問題に関連して、新しい家庭作りが行われなければならないのじゃないか。新しい一つの理念によつて、新しい家庭は結び合っていくかなければならないのじゃないか。こういうことについて、主婦の方が女性の立場としてどういうふうに考えていられるか、御意見伺いたいと思います。

孫田 戦争後の渦とんとした世の中で、青少年の側にも責任はありましようが、やはり私たち自身がまどつていてちゃんとした方針を持たないということではないでしょうか。家族がはつきりと人間というものをしんから見据めるということ、それからその半面、ただ可愛がるだけでなく自分自身で考えするという判断力を持たせるような教育の仕方が必要じゃないか。ただ押えつけるだけではなくて、自分自身で考える力をつけることが必要ではないかと思いま

す。

司会 まだ残された問題もありますが、二日間にわたった部会の討議をこのへんで打ち切らせていただきます。どうもありがとうございました。

総 会

司 会

N・H・K 小林アナウンサー

◇ 印 ― 発 言 者

司会 全国婦人会議は、昨日、一昨日と二日間に亘り四つの部会に分れて「日本の家庭を明るくするにはどうすればよいか」という議題で会議を進めて来ましたが、今日は助言者として御出席下さいました四人の先生方に、それぞれ部会で行われた話し合いの模様を御報告願ひ、また東京にお集まりの皆さんとの質疑応答を進め、さらにこの問題を深く掘り下げ、結論らしいものを見出していきたくと思

いますが、それにさきだちこの二日間の会議を傍聴された特別傍聴人の方から、男性側を代表して御感想を伺つてみたいと思います。

保坂特別傍聴人 特別傍聴人とし致しまして二日間の婦人会議の感想を申し上げます。まず初めに会議員の構成の問題ですが出席された会議員の方は、すでに相当の経験をお持ち、あるいは相当の知識をお持ちの方が多いという印象を受けました。この点、この会議が持たれた趣旨から考えれば、会議の一部にあるいは傍聴人にこのような問題を知らない多くの婦人の出席を必要とするのではないかと考えました。それから議題の取り上げ方についてですが、第一日目の「近代社会における家庭の意義」という議題そのものに抽象性があり会議員の方々が発言をためらわれたような感じを受けました。しかし一方第二日目の「家庭を明るくする」ということは、身近に痛切に感じておる問題でも

あったせいか、相当具体的な実例をもって話され、非常に有意義であつたのではないかと思います。

次に会議の運営について時間が非常に足りないということを感じ、切角の問題の討議に入つて、時間がなくて打ち切られたというようなことについては、出席された会議員の方々も相当残念に思つてゐるのではないかと思います。私たちは男性という立場からの傍聴ですが、たとえば会議員の皆さんが男性の理解協力が必要である。と発言されているときに、私たちが、ただ単に彼で黙つていなければならぬということについて、男性の発言も受けて頂いて、会議のための御参考に資して頂けたらなおい結論が得られたのではないかと思つております。

それから会議員の皆さんにであります、向上心を持つて非常に熱心に討議されておられるということについて、敬意を表します。ただ苦言といいますが、我儘を言わせて頂きますと会議でもしばしば発言がありました、家庭といふものは社会の中の一つの単位であるが、やはり大きく社会といふものから家庭が成るわけで一つの家庭の明るさを求めると同じく社会全体の明るさを作ることが大切だと思ひます。社会の暗さが家庭を暗くしていることがたくさんあるのが現在の社会であつて、一つの家庭の暗さには限界があるということです。たとえば北海道の方から、にわ

とり、を飼つて小遣いにしていくというお話がありました。が、そのように独立採算性ができたといっても、婦人の地位の向上というものはあり得ないのではないか、こういうふうな考えでしたので、大きく社会に眼を向けて貰いて、婦人の方たちのよりよい向上、発展というものを強く希望したいと思います。最後に会議を傍聴させて頂き私たちも非常に勉強になりました。今後は機会を通じて、婦人の方々の地位向上のためにできる限り努力し、また自分自身の家庭を明るくするために協力していきたいということをお誓い申し上げます。

司会 では第一部会を担当された朝日新聞論議委員の伊藤先生にお願い致します。

伊藤 時間の関係で特に印象的なことだけしかお話しできないのは大変残念なのですが、私の受けた印象から申しますと、第一には日本の母親あるいは家庭の主婦、職場の婦人、若い女性が、物事を本気で考え始めたということです。それは人の話を聞いてとか、あるいは本を読んだとかまたよく言われる意識過剰の女性であるということではなくて、ほんとうに生活の中から物事を考えて来たことと云うことなのです。ですからその意見が非常に具体的に成ったというのは当然のことと非常に力強いことだとも思います。

もう一つは、こういう会で従来しきりに、男性の無理解というものが、なにか男性は女性の敵であるかの如くにいつも言われて来たのですが、今度は男性をのけ者にすることよりも、むしろ理解していこう、夫の立場、夫の職業といったようなものを大きく包んで、家庭を暖めていこうという考えがはつきり見えたので、これも非常に力強かったことだと思います。

いま申しました二つの点について、少し具体的に部会のことと申しますと、二日間の会議を通じて、中心となつた問題は、第一には家庭における愛情の問題、これは親子の関係、あるいは妻と夫の関係、あるいは嫁と姑の関係といろいろの角度から問題にされておりましたけれども、その中で私が強く打れたのは、妻と夫が性格的にもまた職業への理解においても、いろいろの点でなかなか一致できないという点がはつきりと皆さんの生活の中から出されていった。たとえば夫が治安警察に当っている場合に、その妻が原本爆弾に反対しようとしても、なかなか理解して貰えないというふうな矛盾、苦しみ、それから非常に性格の固い、律義な、まじめな夫を持つているために、婦人会活動などに夫の理解が得られないという問題、それからもう一つの場合には満州で終戦になって、生まれたばかりの赤子を持ちながら乞食のような生活をして引揚げて来た妻と

内地にいて迎えた夫との間に、生活経験の違いから非常にちぐはぐな開きができてしまったといったような問題、そういう夫と妻との関係の中から、家庭で夫を理解するために、どんなに妻が苦しんでいるか、というふうな問題が出て来たことはもつとも具体的にあり、しかも深刻な問題であると思います。そのほかに経済の問題、これは当然出てくる問題でその経済を考える場合に、農家の女性からどうしても自分たちだけの力では限度がある。もつと広い社会とか政治とか、あるいは国際的な農業というふうなことにまで考え及ばなければならぬという、非常に強い意見があり、それから母親として当然出てくる教育の問題に関連して、貧しい子供、あるいは精神薄弱児、身体不自由児というものを救うために、社会の力、ひいては社会保障から政治の力というものにまで考え及んだということとは先ほど私が申しましたように女性に物事を考え始めたという点においてこの二日の部会を印象深く受けたのです。

司会 それでは、第二部会を担当された家事調停委員の大浜英子先生にお願い致します。

大浜 第二部会では、家庭は社会と繋がっていかなくてはならないというのが、一番大きな近代社会における家庭の意義だったように感じました。この社会と繋がっている家庭というのは、昔のように一つの親まった家庭というも

のではなくて、たとえば子供は学校で社会と繋がりが、それから妻は婦人会とかPTAとか、その他仕事を携えている人は職場というように、家庭の一人一人が社会の一人のメンバーであるのだ、従って家庭というものは社会に繋がっている者たちの明日の働きのための休息場でもあり、力を養うところでもある。そういう家庭の中で子供たちは成長し、また人格も作り上げられて行く。大人たちは、それぞれ自分を主張すると同時に、あるときには譲り合いも協力もする。こうして家庭というものは纏まって社会における一つの共同生活の場所になっている。それは妻だけのものでもないし、夫だけのものでもない。あるいは嫁、子供というふうな一人の人のものでもなく、みんなのためのものであつて、みんなが盛り上げていくところだ。これが近代社会の家庭の意義だ。こういうようなことが話し合われたのです。

次に「日本の家庭を明るくするには」という話題ですがこれを題めると、家庭の中で家族の一人一人がどんなに一所懸命になつても結局限度がある。それで明るくするためには非常に大きな要素として経済上の問題を取り上げなければならぬ。ただいま第一部会から報告がありましたように、経済上の問題というものは、結局社会保障にも繋がります。たとえばお嬢さんとお姑さんとの問題、あるいは若い

世代と年寄の世代というときに、ここにも少し小説といふものを年寄に上げられたら、あるいはその年寄が養老年金というようなものを持つていたら非常に幸せにいく、これが社会保険制度に繋がりが政治に繋がるのだということが取り上げられました。

もう一つは社会の環境に眼を向けなければならぬということ。たとえば一歩外へ出ると飲屋、温泉マーク、競馬、競馬、その他いろいろのものがあつた。入学難や就職難等があり、こう云うものを目を向けながら家庭の環境を整えなければ、どんなにお互が譲り合つてもうまくいかない場合がある。これと同時に原本爆の問題、憲法改正というような問題に繋がつて、家族制度復活の問題がある。こういうことに私も、つまり家庭の誰かが眼を向けなければ決して家庭は明るくならないのだという結論でした。

司会 第三部会を担当された教育大学教授岡田謙先生にお願い致します。

岡田 第三部会も第一部会と同じように、非常に皆さんが一人一人物を考えているという態度がはつきりしております。ただ特に感じたことは、皆さんが非常に積極性を持つてゐる。夫との間も大抵うまくいっている方が多かつた。そのため積極的にいろいろ発言できるのか、あるいは非常に積極的な方が集まられたので、夫の方も協力す

問題が残つてゐるようです。ただ二、三出た議論の中にはむしろこれは小さなグループを通じて、身近なところから個人の積極性を出していこう。それによつて社会の改善といふことに当然進んで行くべきではないかといううような議論が出ておりました。

司会 最後に第四部会を担当された地域婦人団体連合会理事長山崎しげり先生にお願い致します。

山崎 私は第四部会を受け持ちましたが、最初にみなさんの応募原稿を拝見したとき、ある水準に達している方が多く、私が描つたという印象を受けた。そして書くことの上手な人たちのではないだろうかといううような、ちょっと不安のようなものも感じたのでした。しかし十五人の方々がお揃になつてみられると、年も境道もさまざまではあります。ほんものの方ばかりで、感しかつたと思ひます。ただ第一目目の抽象的な議題のときに、そこをよく掘り下げておくと、翌日の方法論のときに助かつたと思うのですけれども、ちよつと話しながらすぐ翌日の議題に足を突っ込むという傾きがありましたので、最初の日はいくらか固くなつたように思ひます。とにかく十五人の中には戦争で引揚げられた方、戦災の方、農村の方、都会の方、同じに都会でも大家族で暮らしていらつしやる方も、アパートで御夫婦だけという方もあり、また炭坑のハーモニカ長屋か

るような態勢になつたのか、それははつきりわかりませんが、夫もあるいは子どもも、すべて協力してやつてゐるといふ点が非常にはつきり見られました。たとえば十倍ものに拘つて姑との間の関係を改善したといつた方にしても、あるいは消極的な服従をやめ、むしろ積極的にどんどん発言してゐて、姑との溝をなくしていったといふような例にしても、すべて積極的な態度が非常にはつきり見られたように思われます。そのことは家庭の合理化によつて生じた時間を単に家のことだけに使うのではなくて、むしろほかの近隣社会に及ぼしていこうといううような発言が非常に多くありました。なお極端になりませんが、社会保険といひますか、そういうものも自分が改善していこうといううような積極的な意欲のない人には、社会保険なんか必要にやないんだという発言をされた方もあつたように思ひます。とにかくそういう意味で積極的な、そして個性が非常に

はつきりと出されてゐたように思われます。

こういふ方にも共通なことは、第一部会、第二部会と同様に、経済の安定、健康といううようなものが非常に大事でしかも経済問題というのは、個人の力では限度がある。従つて社会保険とか、そういうものにつながつてくるのだといふことですが、ただ問題になるのは、個人の活動と社会との間にどういふことをしていけばいいかという点に相当

らいらつしやつた方、失業者の方もあれば其後ぎの家庭もあつたといふように、非常にバラエティに富んだ構成でした。もう十日も経つたら結婚するのですという未婚の方もあつた。その方などは結婚式にしても披露にしても仕度にしても、古いものを打ち破つていこうという、自分の生活に対する非常に建設的な具体案を持つておられ、新しい結婚生活に入ろうとしていらつしやる。ところが一方には親が捨てたような五十人の子供を抱えて社会事業に従事してゐて、どうか子供を捨てようという親がなくなるように会議でお話をして来て下さいと言われて出て来たとおっしゃる方もおりました。

第四部会は特に衣食住の充足の場としての家庭という問題に絞つて話し合いました。必要量さえ食べられないような農村の食事の問題も出て、そういう問題の改善に熱心に取り組んでいる方から、初めは母親として自分が合理的に整つた栄養的な食事を子供に授けようと努力して来たけれども、いまだに子供にも献立を作らせ、献立板という大きな板のところに子供が好きな、食べたいおかずを、札ですつと掛けていくようにしている。そして人參は何色、大根は何色と、大体栄養の組み合わせもわかるような工夫もしているといふ発表がありました。また衣食生活については三十年もの間着物は新調してゐないという家路家のお話もあり

ましたし、住の問題では、農村の若い人たちは、納屋でもいいから親と別れて住みたい、古い世代と別の生活をしたいたいと要望していることや、夫婦だけのアパートの生活の中で、地域社会の中へどう融がっていくかと努力をしているらっしゃる話、また京都の西陣問屋街という古い地域の中で、子供に望みをかけるといういき方ではなしに、親ぐるみ新しくなっていくと努力しているというお話もあって、非常に順やかでした。

司会 これで四人の助言者の方の御報告を兼ねての御意見発表を終わります。これから御質問をお受けするわけですが、物質的な面、精神的な面での家庭を明るくする問題、個人的な問題にもなるし、社会的な問題にもなる、いろいろ問題があるようです。それでは御質問を預けます。

◇ わたしたちの生活状態はなかなか人間的な生活でないような現状であります。経済的な問題の解決されないかぎり、家庭を明るくすることは困難だと思いますが、今度の会議でこのような点をどのように話しあわれたのですか。

伊藤 ただいまの御質問の方の御意見、まことにごもっともで、今日問題になつております「口木の虫」が明るく」というその根本問題だと思ふのですけれども一、二、三、四の部会で話しあつた点は、そこまでは今度は進んで

ですが、今年の予算では防衛費が全予算の二二パーセントを占めているのに、社会保障費がその半分の一一パーセントで売春婦の保護厚生という問題があるのに、非常に矛盾を感じるので。そこになんらかの解決の方法があるのでしようか。

伊藤 この問題はもちろん私たちの立場としても責任がありますし、ここには専門にやっておられる大浜先生と山高先生がおられます。大浜先生は売春問題審議会の委員をしていらっしゃいますから、のちほど大浜先生からお話があると思いますが、ただいま御質問の方の御指摘の通り、こういったものが法律その他によってなら禁止されない。文化国家と仮にも口にする以上は、非常に恥しいと思います。従つてなんらかの対策で禁止するという法律は当然考えられなければならないのに、それが事実どこ何年かの過去を考えてみれば、国会において容易に通らない。通る寸前にだめになったというところに、家庭の主婦としても、女性としても考えなければならぬ今日の政治の問題があるのじゃないか。その政治はただいま御指摘の通りに防衛費の問題、再軍備の問題等いろいろ関係すると思ひますけれども、ちょっとこれは少し外れますが、今年は皆さんが参政権を得て十年という一つの記念すべきときに當つて、この会議を開かれたという意味もそこに加味してお考

いなかつたのじゃないかと思うのです。それで私は一つの例としてお答えしたいのですが、私どもの生活を明るくするという場合には、どうしても最低の生活の保障がなければならない。その最低の生活の保障というのは、私は動物ではない生活、つまり人間の生活としての最低が保障されなければならない。そのためには先ほどから各部会でも問題になつておりましたところの政治の力とか社会保障とかということに当然繋がるのですが、現実の私たちの生活は御指摘のようになかなか人間的な生活のできていない現状であります。いろいろな施設にいる子供たちがどの程度のもを受け持っているかというと、一日五十円ちよつと出た程度であります。東京で犬を野犬狩りでとられまして、それを一日か二日して貰いに行くと、一日の犬の食費五十円とられます。こういうところに私たちのほんとうに考えなければならぬ問題があつて、その施設の子供に栄養が与えられずにある姿、そういうことを子供も親もそれが女性の立場から考えていかなければならない。そういうところに今度の会議の結論が来たんじゃないか、そういうことをお答えしたいと思います。

◇ 伊藤先生にお願いしたいのですが、家庭を明るくする問題と関連して売春婦の問題があると思うのです。売春を禁止するということは、前々から叫ばれていたと思うの

えになることが大切なのではないかと思ひます。
司会 では大浜先生に審議会の動きなどをお願いいたします。

大浜 一ことだけ申し上げます。ただいま伊藤先生のお話にもありましたように、売春問題審議会で売春そのものを禁止しなければならぬ。そうでなければ売春はなくなりないということが非常に議論になり、答申案にも売春そのものを出して頂きたいという意見も出たのです。それがどんなふうに法律化されますかはまだわかりませんが、しかしそういう傾向になつていくことはお答えできるのではないかと思います。と同時に、現在の売春をやっている非常に弱い立場にある人々たちを保護することが大事なのです。もちろんこれから売春をやらなければ生きていけないという人たちに、売春することを防止する、やめて貰う、こういうよりないろ／＼な保護あるいは更生施設というものももちろんですが、現在やっている人々たちをどういうふうにして保護、更生させるか、ここに根本の問題を集中して、問題がなくなるように努力したい、必ずやっていくという意気込みでもって、ただいま審議会が継続されております。これだけお答えしておきたいと思ひます。

◇ 山高先生にお願いします。健康で明るい家庭を作るには、その要素の一つとして食生活の問題が上つてくると

思います。最近私どもの食生活を脅すものの一つに原水爆の実験とすることがあります。日本人のほとんどの人が蛋白質の給源を魚に求めている状態で、その魚が原水爆実験の実施により脅されるということになると、私たちの健康を保つ上に、大変大きな問題だと思います。魚だけではなく、私たちの生活になくてはならない水まで汚されるわけです。そういうことを考えましたときに、私たちにこの原水爆実験に対し、なんとかいままでもより以上に、もっと強い手を打たなければならぬと思います。私ども婦人として、それに対してどういうふうな方法で、いままでもより以上に強い手を打つたらよろしいのでしょうか。おろかがいします。

山崎 原水爆の禁止を希わない人はいまの日本に一人もいないと思うのです。現在国民の一つの大きな集団のような形で、全国原水爆禁止の協議会が持たれており、私どもの地域婦人団体も六百七十八万人の会員が、あけてこの会に加わっております。それで昨年の広島における大会にも、ほんとうに家庭の中からお母さんが、世界の平和は一つだと、立場のちがういろ／＼な人達と大会に臨み話し合っております。一ぺん大会に行つて来ただけで、原水爆がなくなるものではないかもしれませんが、この国民運動としての原水協を、私どもは支持し、できるだけ効果的に仕事ができるよ

うに協力しております。この組織には皆さん方がいつでもどもお加わりになることができるのでございますから是非お力を添えて頂きたいと思ひます。

司会 先ほど特別傍聴人の保坂さんが、都会では男が発言できなくて非常に困つた。ということでしたが、この総会では男子の発言を歓迎致します。

◇私はこのたびの会議を非常に期待して、広島からわざわざやつて来ました。この三日間の会議を傍聴させて頂いて、家庭を明るくするという点について、いろ／＼な問題が出ましたけれども、そのうちで現在新聞にもいろいろに言われている青少年の不良化の問題、子供のしつけとか、社会の子供をいかにするかということについて、あまり話し合われていなかったように思ひました。会議員の方には、大抵母さんが多かったように思ひますが、社会の子供をいかにするかということについて、ちよつとお願ひしたいと思ひます。

岡田 実はその問題につきましては、ここにいらつしやる大浜さんと私が、戦後不良少年がどういう家庭から出てくるかということ、家庭裁判所の記録により、あるいは全国を通じて調査したことがありました。ただいまその資料を持ち合せておりませんから、数字によつて申し上げられませんが、私どもが非常に感じましたことは、不良少年

は必ずしも地位の上下によらない。むしろ金持のところ、地位のいい家庭といつたようなところから出ている。これを調べてみるとほとんど歩調を合せたように、端的に申し

ますと夫婦の間がうまくいっていないところ、それから夫婦の間が表面はうまくいっているように見えても、へたたりのあるところ、あるいは離婚をされた家庭に非常に多いように見受けました。これはまだもう少し大仕掛けに調査してみないと、全国的なことは申されませんが、私の印象では少くとも非行少年に関する限り、家庭と非常に密接な関係があると思ひます。私どもの部会としては時間の関係で触れなかつたのですが、自分自分の家庭の外に非行少年を問題にする前に、まずわれわれは家庭においてどうしたら非行少年が生まれないような環境になるかということ、ここで話し合つてみたかったのですが、そこまで触れることはできませんでした。

大浜 岡田さんがおつしやつたように、両親も揃つて、経済的にも困らない、外からみると非常にやさそうな家庭なのによくない子供が出るという場合、やさそうだというそのやささうなのは外面的であつて、内面的には親たちが非常に冷たく対立しているような場合がほとんど八、九割なのです。そういう意味で、表面だけ、世間ていだけがい

つていなければだめだということだけははっきり申し上げられます。

司会 第一部会でこの問題が出ておりましたから、伊藤先生からもお話しいただきたいと思ひます。

伊藤 私の印象では、第一部会に来ておられるお母さん方は、非常に自分の子供を大切に育てておられます。しかしそれらの家庭でどんなに温く育てていても、一歩外にその子供が出たときに、大人が構成しているその社会は、不良化の原因をたくさん与えているということです。賭博がある、あるいはふしだらな飲食店がある、そういうた規則の乱れた社会を大人が作り、その子供だけ真っ直ぐびてくれていることは、大人の我儘ではないかと思ひます。その点を直接に社会の問題として、考えなければならぬと思ひます。さらにまた年ごろの子供たちがいつ戦争があるかも知れないという不安を持っている。今日の大人が作っている世界、これは日本だけでなく、アメリカが一番少年の不良化に困つており、それはどこから来ているかということをもう一過考えることにおいて、日本の青少年の不良化の問題は日本だけの問題でなく、皆さんの家庭だけの問題でなく、日本の社会の問題であり政治の問題である。世界共通した一つの怖れ、恐怖というものの前に、精神が傷つけられているということを私は考へてやりたいと思つて

おります。

◇岡田先生に不良少年の問題についておたずねします。私どもの地域では、いろいろ難しい問題も生まれまじが、いま六十四方所にグループを作っております。子供グループ、母親グループ、老人グループを作り、自分の家庭だけで問題の解決がつかないことは、隣近所の子供に話し合うということをしたり、お母さんのグループにはお年寄の方に来て頂いて気持を伺う。それを自分のうちに持つて帰ってなにかの手段にする。また老人グループに持つて行って、若いお母さんはこんな不満を持つていてということをお話しして、一つの解決手段としておりますが、このような方法はいかがでしょうか。

岡田 私もそういう面では賛成です。伊藤さんのおっしゃいましたように、たしかに家庭だけではどうにもならない、社会との繋がり、それがいま問題に出ました地域社会とかいろいろなグループだと思えますけれども、青少年の犯罪に困っている。アメリカなどではどういふ解決のしかたをしているかという、いろいろな方法があります。アメリカはキリスト教の国ですから、宗教団体が中心となつて地域のグループを拵えて、映画で御覧になつた「少年の町」とか、ああいうようなものも一つの施設ですが、そういう宗教的なものに基礎を置いておりますけれども、

も、日本ではそれが今度どういふふうになつていくか、その具体的な問題はなんとも申し上げられませんが、グループで問題を取り上げていく、橋渡しをしていくということには私賛成です。

司会 実態を明るくするためにということを考えるには、逆の暗くするものを除けばいいので、その解決策の一つとして不良化防止の問題がいろいろ述べられたわけですが、ほかにその暗い面を除くという問題でありませんか。

◇不良化というふうな非行少年の場合、内面的の問題が非常に原因している。というふうなことを岡田さんはおっしゃいましたが、住宅難に悩んで、一間きりに生活している人たちの、教育の場としての家庭、そういう面からも解決をはからなければならぬと思えます。現在住宅解決策として、アパートとかいろいろ建てられているようですが、いろいろな弊があつてこれからはみえる人も多く、今の段階ではまだ入れない人が非常に多いのですが、私ども婦人の立場としてどうしたらよいかお伺いします。

伊藤 ただいまの御質問の方が御指摘の通りに、子供たちが不良化する原因の一つに、住宅問題が非常に大きいということとは十分に認識しなければならぬと思います。最近東京で二十才近い女の子が、一家を皆殺しにしたという

事件がありました。六人家族が六畳の間に住んでいるといつたところの家庭の娘でしたが結婚したいばかりにそういうことをやつた。もちろん個人の性格の問題が一番大きなことですが、そういう場合にいま御指摘のように、家庭、住んでいる場所という問題があることは事実です。そうしてそれがいくらかでも緩和されなければならぬといふのが今日の社会状態だと思えます。従つてそれに対しては個人の努力によってある程度なし遂げた人たちは、私たちの都会でも何人かおりました。引揚げたまま山に入り野に入つて、夫婦と子供と一緒に壁土を塗つて、小屋でもいいから自分たちの家を作つた。私たちは個人の努力、苦しみを突き抜けての努力というものは、なんといつても認めなければならぬ、また尊重されなければならぬ、それが根本であることは事実ですけれども、先ほども申しましたように、個人の力には限界がある。さらに健康という問題が起つてくるときに、どうしてもそのときは社会の協力、そうしてそれが社会保障なり、あるいは国の住宅建設政策となつて現われなければならないことは当然だと思ふわけです。従つて御承知のように歴代内閣が住宅を建ててやるということ、選挙のときには必ず国民に公約しております。事実部会を中心としては、人の眼につくようなところには幾らかずつ建っているけれども、そこに入

る人はまだ、幸福な人であるというのが現実です。従つてそこにも入れない人たちのために、どういふ政治がなされなければならないか、どういふ社会政策がなされなければならないか、それには個人の努力と、皆さんがグループを作つて助け合うという力も極度に発揮されなければならぬ。そしてそれを一歩越えるものに対して、横の力、横に繋がる力というものが、社会政策の上に、あるいは政治の上に有効に反映することができるといふ信念のもとに、私たちは皆さんと一緒に物事を考えていきたい、このように考えるものです。

司会 それではこの辺で皆さんは大部分地方へお帰りになる方が多いと思うので、地方に帰つたらこういうことをしようといった決意をお伺いしたいのですが。

◇私は高知県の高等学校の教員をしております。地方で一番問題になるのは、家族制度を復活するための憲法改正には反対、原水爆には反対というふうなことを正面切つて言つた場合に、あの人は赤だというようにみられるわけですが、こういったことも中央の大会でもっと、みんながまじめに考えなければいけない問題なのですから、こういうふうなことを言い出した人が赤だとか共産党だとか言われることのないように、諸先生方にラジオを通して地方に呼び掛けて頂きたいと思ひます。

◇ 私は教員の立場から、もっと教育を通して、子供のと看からほんとうに民主主義に徹した家庭のあり方を教えたい、私こちらに参りますときに、小学校から中学までの社会科の教材を翻べたのですが、あまりにもこのことについて教材に載っていない。そういうことも第二部会においてお話ししましたが、とにかく教育を通して、子供たちの頭に正しいものを植えつけなければということをつくづく感じましたので、私はそういうことを努力したいと思っています。

◇ 私は生活改良普及員をしておりますが、全国会議の中でいろいろと研究された事項、私どもの生活の中にほんとうに取り入れられなければならないこと、そういうことを農村のまだ／＼こういった空気に触れてない方たちのために、すべてを皆さんにお話して、ここに御出席の皆さん方のレベルまで恵まれない地域の方々に向上して頂くように、努力していきたいと思っています。

◇ 私は鹿児島県から出てきましたが、鹿児島は皆さん御承知のように非常に封建性の強い男尊女卑の色彩の強い土地ですので、女の人にはあきらめが多いのです。私はこの会議に出て、私たちのあきらめというものを切って捨てなければならぬということを感じましたのです。これは私の力の及ぶ周辺に、ほんとうに私たちの家庭を暗くして

いる原因を深く掘り下げて追求して、あきらめを今度は希望に向ける方向に努力しなければならないことを痛感しました。

司会 まだ多勢御意見を述べになる方がおいでになると思いますが、時間もありませんので、ここで先生方にいままでの御質問と、最後に述べて下さいました決意をこの辺で纏めて頂き、さらにお感じになったことも述べて頂きたいと思っています。

伊藤 こういう集まりと会議の持ち方から、必然的に皆さんがいろいろ御不満があるのではないかと思います。私も今日皆さんからの非常に積極的な御質問や御意見を拝聴して、部会では出なかった問題もまだ／＼たくさんあるのだ。ですからあの会議がすべての問題をカバーしたのではなくて、まだまだ問題がいくらでもあるのだということとをひとつみんなで考えてみたいわけです。そうして私が特に今度の会議で残念に思ったことは、先ほど特別傍聴人の方からも厳しく御批判のあったように、男性の声が出せなかったということ。それからもう一つ、これは論文の審査のときにも感じたのですけれども、お姉さんの立場の声が一つもなかったことです。これは一方的に切り捨て御免みたいな会議になりましたのです。いまのお姉さんとかお年寄は、必ずしも嫁の敵であるわけではないのです。

むしろなんとかして理解し合おうという人の方が数から言えは多いと思うのです。いじめる方がちょっと感情に訴えるので多過ぎるようには聞えるのですが、そのところはまだまだ考える余地があったのではないかと思います。また外のグループに出られないような貧しい人たちをどうするかと言う問題を、第一部会の会議員で学校の先生をやっておられる方は、貧しい子供の母親と手を繋ぐことによって一つの道が開けると言われたのでありますが、母親も先生と一緒に手を繋いでいこうというよう新しい動きがあることを私は感じたのであります。

大浜 この会議を通じて、特に日本の家族というところに絞っての感想を述べたいと思います。目立って私が感じたのは、この十年間に日本の家族の中でも妻あるいは女性というものが非常に目覚めて来た。来つつあるということ。これにはいろいろあって、社会と協力、あるいは家族の中で言えば夫、姑、そういう人々と協力をして、家庭を明るくしつつある人、あるいはまたそこまではいかないが、自分の考えたこと、主張をあきらめないで抵抗中だという人、それからまだなんだか変だけれどもどうにもならない、わからない、こういう段階と、そういうふうに分かれるような気が致しました。これは日本全体の女性たちの段階でもあるのではないかと思つたのです。ところで世

の中を見渡しますと、このごろは親孝行しなくなったから憲法改正しようなんというようなことを言っていますけれども、これは結局みんなが家庭を大切にしていけば改正しなくてもよいのであつてここにおいでになった皆さん方はきつとそういう方向にお進みになるだろう。また明るい家庭を作ることから、明るい社会にそれが及ぼされるのだ、このような感想を私はこの会議を通じて持ったわけです。

岡田 私第三部会を持ちます前に皆さんと話し合つたのですが、こういう種類の会議はなにも決議をするとか、あるいは結論を出すということではなくて、みんなが自分の持っている考え、それから自分の周囲の事実を語り合つて、ここにも問題がある、あるいはすぐ隣りには全然自分の気づかなかつたこういうこともある、あるいは共通の問題もここにあるということを一人一人がお互いの会議員の話を通じて反省してみるといいですか、あるいはお互に不満を話し合い、あるいは喜びを語り合うというときに、そこになにも結論がなくても、あるいは決議がなくてもいいのだ。それだけで目的は十分果せるのじゃないか、こういうことをお話ししたのですが、それには皆さんも異論なく進めて頂けたと思います。それでその方たちの話を伺って、やはり大浜さんのおっしゃったように、いろいろの段階の方が、地域的にも南から北に亘つて、いろいろありましたけ

れども、しかしめいめいがお互の隣り人の事実からなにか進歩を得らざるのじゃないか、そうしてそれを持ち帰って周囲の人と分か合っていく、それも具体的な事実を通じて話し合っていく、あるいはお互に改善に努めていくところに、この会議が意味があるのじゃないか。先ほどもお話が出ましたように、なにか抽象的に平和とかそういうものを出すよりも、むしろ具体的な事実から周囲の人と話し合っていく。そうすればおそらく赤だとか青だとかそういうことは問題にならないと思います。その人の人格を通じて、実際のお互の考えていることを話し合うことによって、そういうものが解決されていくのじゃないか。この会議はそういう意味において、第三部会においても総会においても、みんな具体的な事実を通じて成功であつというふうに感じております。

山崎 全体的には全国会議ということで、主として外部が非常にこの会議を大げさに考えて、決議がないのは物足りないとか、非常に期待をかけられるけれども、これは岡田先生がお説きになった通りの性格だと思っておりますから、これはこれでいいのだ。こういうところにも来られない婦人大衆が、しばしば特別傍聴人からも問題になりましてけれども、私たちがこの人たちのことも忘れていないという発言はいくつもありました。お帰りになられてからの

問題はいろいろありましたが、一つの問題にもう少し専門的な知識を研ぎ、掘下げていくというやり方で、ただの話し合いに終らないように、なんらかの実行運動を生み出して頂きたいと切望しております。

日本の家庭を明るくするために

——第4回全国婦人会議記録——

昭和31年9月5日 印刷

昭和31年9月10日 発行

発行者 東京都千代田区大平町1ノ7番地
労働省婦人少年局

印刷者 東京都千代田区神田佐久間町3ノ37
株式会社 文唱堂印刷所

